

令和6（2024）年度
中部環境パートナーシップオフィス運営業務
年間報告書

2025年3月

中部環境パートナーシップオフィス
（運営受託：一般社団法人環境創造研究センター）

令和6(2024)年度 中部環境パートナーシップオフィス運営業務年間報告書

目次

業務概要	1
1 業務実施計画の作成	7
2 EPO 中部・中部 ESD 支援センター運営委員会の設置・開催	23
3 EPO 中部・中部地方 ESD 活動支援センターの基本業務	27
(1) 情報の収集・蓄積・発信に関する業務	27
(2) 相談対応・対話の場づくり	30
(3) 施設の維持・管理	44
4 協働取組の促進のための業務	47
(1) 自治体・協働コーディネーターのネットワークを活用した環境教育の推進	47
(2) 自治体・協働コーディネーターとの連携による実践的な取組（地域循環共生圏フォーラムの開催）	50
(3) 自治体・協働コーディネーター間の情報・意見交換の促進、地域循環共生圏への貢献についてのフィードバック	56
5 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務	67
(1) 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業	67
(2) 身近な自然資本活用に関する意見交換会等の開催	77
(3) グリーン社会実現に向けたステークホルダー連携促進事業	80
(4) 地域循環共生圏創造事業の担い手の把握（地域循環共生圏づくり支援体制構築事業の選定団体について）	86
6 中部地方 ESD 活動支援センター業務	89
(1) 自然資本等の活用による ESD 促進（ESD ダイアログの開催）	89
(2) 多様な主体の連携促進、交流機会の提供（学び合いプロジェクト）	93
(3) ESD に関するネットワークの構築、地域 ESD 拠点への支援	108
(4) SDGs 学生サミットの開催	112
(5) 全国センターとの連携協力推進等	114
(6) ESD 推進のための教育現場等の実態把握と連携強化	115
(7) ESD/EPO の行事等を通じた意識や行動の変容の把握	122
7 関係主体との連携及び協働に関する業務	125
(1) 中部地方環境事務所との情報共有及び意見交換	125
(2) 全国ネットワークの活用及び連携の確保・強化	134
8 外部資金を活用した事業	137
(1) 環境再生保全機構への協力	137
(2) 環境研究総合推進費委託事業への協力	139
(3) 愛知県環境学習コーディネート業務	139
9 今後に向けて	141

本報告書の集計データ等について

- ※ 本報告書は2025年3月17日までの業務を3月18日時点でとりまとめ、作成した。
- ※ 掲載した令和6（2024）年度の年間合計の集計データ等はすべて、2024年4月1日から2025年3月17日までのデータの集計結果となっている。

業務概要

(ア) 業務の目的

持続可能な社会を構築する上で、国民、民間団体等が行う環境保全活動並びにその促進のための環境保全の意欲の増進及び環境教育が重要であることに加え、これらの取組を効果的に進める上で協働取組が重要となる。

「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律」(以下「環境教育等促進法」という。)第19条において、「国は、国民、民間団体等が行う環境保全等を効果的に推進するため、情報提供や助言、交流機会の提供等を行う拠点としての機能を担う体制の整備に努めること」とされており、同法第7条で定める国の方針(以下「促進法基本方針」という。)により、環境省においては、協働取組を構築・促進するための中核的な担い手として「環境パートナーシップオフィス(以下「EPO」という。))」を全国8ブロックに設置(以下「地方EPO」という。)し、中部地方では中部環境パートナーシップオフィス(以下「EPO中部」という。)を開設し事業を実施しているところである。

あわせて、持続可能な社会の創り手を育成するESDの推進のため、文部科学省と環境省が共同で全国ESD活動支援センター(以下「全国センター」という。)と全国8ブロックに地方ESD活動支援センター(以下「地方センター」という。)を設置し、第2期ESD国内実施計画に基づくESDの全国的な展開、支援体制の充実等を図るとともに、気候変動を切り口としたESDの取組も進めているところである。

本業務は、EPO中部が環境教育等促進法の規定する国の役割を果たすため、また中部地方ESD活動支援センター(以下「中部ESDセンター」という。)が国内実施計画等を踏まえた役割を果たすため、地方EPOと地球環境パートナーシッププラザ(以下「GEOC」という。)のネットワーク(以下「EPOネットワーク」という。)を活用するとともに、中部地方の事情を踏まえて各種事業等を企画し、それを実施することにより、市民、NPO/NGO、行政、企業等、社会を構成する様々な主体による協働・連携の取組を広げ、効果的・効率的に環境保全活動、多種多様な環境施策への協力及びESD活動等を活性化させること、また、「第5次環境基本計画」(平成30年4月閣議決定)において提唱された、環境・経済・社会の統合的向上を図る「地域循環共生圏」の考え方及び「地域課題を解決し、地域の魅力と質を向上させる地方創生に資する脱炭素」をキーメッセージとして発信している「地域脱炭素ロードマップ」(令和3年6月国・地方脱炭素実現会議決定)のほか循環基本計画、生物多様性国家戦略等の考えに基づき、各地域が自立・分散型の社会を形成しつつ、地域の特性に応じて資源を補完し支え合う取組を推進し、持続可能な地域づくりを通じて、環境で地域を元気にしていくとともに、持続可能な社会を構築するための創造に取り組むことを目的とした。

(イ) 期待される役割

第7期(令和6年4月1日から令和9年3月31日まで)EPO中部においては、環境問題の解決、持続可能性に関する様々な課題を統合的に捉える観点から、環境政策の統合、環境政策と他の政策分野とを統合した、統合的アプローチの実践のため以下の考え方にに基づき、市民活動などの、より地域に近い活動での案件づくりを進める。

- ① 脱炭素(CN)、資源循環(CE)、自然再興(NP)の統合的アプローチを実践に移し、地域関係者と対話の機会を創出し、2030年に向けた案件づくり、現場づくりを行う。
- ② 脱炭素先行地域・重点加速化事業、自然共生サイトなど全国的な政策と連動し、助成先や認定申請等を発掘し、優良・先進事例の創生を促進する。
- ③ 自治体、企業等に対しては、CN、CE、NPあるいは、環境調査研究、環境教育、環境管理など様々な角度から働きかけ、多面的な関係の強化・安定化を図る。
- ④ 地域の他の関係者などとの連携、さらに県域、流域等といった広域の協力といった面的拡大の機会創出を図る。

以上を踏まえて、EPO 中部には、主に以下の役割が期待されている。

- i 地域における中間支援機能の強化に資する地域ネットワークの強化
- ii 持続可能な社会の構築に向けた地域活動事業の創出と支援
- iii 地域における活動の普及・促進に資する環境教育（ESD）の促進
- iv 地方環境事務所との連携による施策の推進
- v 地域への情報の発信と連携による情報収集

（ウ） 実施業務

環境教育等促進法の基本方針を踏まえ、様々な主体による協働・連携の取組を通じた環境保全活動等を活性化するため、市民、NPO/NGO、行政、企業、金融機関等との連携を確保しながら、①環境教育等促進法の拠点としての推進、②環境教育・SDGs/ESD の推進、③地域循環共生圏の創造の推進について、各種業務を行った。また、これらの活動状況等について、Web 等を通じて広く発信した。

具体的な事業内容については、（２）の EPO 中部・中部地方 ESD 支援センター運営委員会等において業務実施計画の検討を行った上で、中部地方環境事務所と協議して決定した。また、当該業務実施報告は、EPO 中部のホームページにおいて公表した。

（１） 業務実施計画（案）の作成

- ・第7期の EPO 中部及び中部 ESD センターの業務事業計画（案）の作成
- ・業務実施計画（案）の作成（下記（３）以降の各項目を柱として構成し、項目ごとに定量的な達成目標（インプット・アウトプット）を設定）

（２） EPO 中部・中部地方 ESD 支援センター運営委員会の設置・開催

- ・EPO 中部・中部地方 ESD 支援センター運営委員会の設置・開催、運営（2回、各半日程度）
- ・運営委員の選定、委員の委嘱手続、連絡調整、会場及び機器の手配・設営、当日の進行、議事録の作成、旅費及び謝金の支払等、関連の事務手続

（３） EPO 中部・中部 ESD センターの基本業務

ア 情報の収集・蓄積・発信に関する業務

- ① ホームページの更新及び維持管理（月2回以上）
 - ・EPO 中部 (<https://www.epo-chubu.jp/>)、中部ESDセンター (<https://chubu.esdcenter.jp/>)
- ② 収集した情報の整理・蓄積・発信（月1回以上）
- ③ リーフレットの配布

イ 相談対応・対話の場づくり

- ・各種情報の照会及び相談への対応、各種会合等への積極的な参加、市民、NPO/NGO、行政、企業等多様な主体の交流やマッチングを推進するための場づくり 等

ウ 施設の維持・管理

- ① オフィスの防火・防災管理及び解錠・施錠管理
- ② オフィス内の清掃作業、施設・設備の維持管理
- ③ 必要な機材等の確保、その使用料の支払等の維持管理に必要な事務

（４） 協働取組の促進のための業務

ア 自治体や協働コーディネーターが持つネットワークを活用した環境教育の推進

- ① 中間支援をテーマにしたセミナーの開催（1回、3時間程度、30名程度）
- ② 協働コーディネーターによる意見交換会の開催（1回、半日程度、30名程度）

- イ 自治体や協働コーディネーターとの連携による実践的な取組の地域主体との共催によるフォーラムの開催（2回、それぞれ半日程度、30名程度）
- ウ 自治体や協働コーディネーター間の情報・意見交換の促進、活動の地域循環共生圏への貢献についてのフィードバック

- ・有識者（大学教授級、3名程度）ワーキングによる地域循環共生圏づくりの活動評価手法の検討（3回、半日程度）
- ・検討結果のフィードバック、成果冊子の作成

(5) 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務（地域循環共生圏の形成支援）

ア 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業

① 中間支援機能の担い手育成業務

- ・地域循環共生圏づくりに取り組む地方公共団体、民間団体又は協議会に対する支援
- ・年度当初における打合せ、活動団体へのヒアリング等
- ・フォローシート等の作成・提出（年度当初及び四半期に一度、GEOCへ提出）
- ・ステークホルダーミーティングへの参加

② キックオフミーティング（1回程度、1日）と中間共有会（1回程度、2日程度）の開催

③ GEOC が主催する会議等への参加

- ・中間支援主体対象のキックオフミーティング（オンライン、1回、2日程度）
- ・作業部会（都内、2回程度、各3時間程度）
- ・地方EPO等共有会（オンライン、1回、3時間程度）
- ・地域循環共生圏づくり支援体制構築事業検討会議（オンライン、1回、3時間程度）
- ・成果共有会（都内、1回、2日程度）

④ 卒業団体のフォローアップ調査（卒業団体に対するオンラインヒアリング1件）

イ 地域循環共生圏構築に向けた身近な自然資本の活用に関する意見交換会・ワークショップ等の開催（2回、各半日程度、各30名程度）

ウ 地域からのグリーン社会実現に向けたステークホルダー連携促進業務（4回、各半日程度、各30名程度）

エ 地域循環共生圏創造の担い手（活動団体及び中間支援主体等）や背景情報の把握、地域循環共生圏に関する情報提供

(6) 地方 ESD 活動支援センター業務

ア 自然資本等の活用による ESD 促進（「自然資産を活かした地域・人づくり ESD ダイアログ」の開催、1回、2日、30名程度）

イ 域内外の多様な主体の連携促進、交流の機会の提供

- ① 活動計画の作成（テーマ設定、有識者選定、年間活動計画の作成）
- ② ノウハウの共有と推進に関する方策の検討（全国センター開催「作業部会」に参加）
- ③ 学び合いの実施（「学び合いの場」（2回）、「有識者による検討会」（3回））
- ④ 実践活動（1回、半日程度、30名程度）
- ⑤ 報告（ESD推進ネットワーク全国フォーラムでの活動結果報告）

ウ ESD に関するネットワークの構築・地域 ESD 拠点への支援

① ESD 推進ネットワーク地域フォーラムの開催

- ・ポスター（電子媒体及び紙媒体）の制作、主たるステークホルダーへの送付、参加募集
- ・意見交換、ワークショップ等（1回、半日程度、30名程度）

② 地域 ESD 拠点等の ESD 活動の支援（地域 ESD 拠点等との間で情報共有やイベント協力等の支援、地域 ESD 拠点の登録手続における全国センターへの情報提供等）

エ SDGs 学生サミットの開催（1回、半日程度、オンライン100名程度、会場10名程度）

オ 全国センターとの連携協力推進等

- ・上記イ②の作業部会（2回、各2時間程度）に出席
- ・上記イ⑤ESD 全国フォーラム（1回、1日）に出席
- ・ESD 活動支援センター（全国・地方）連絡会（2回、各1日）に出席
- ・全国協力団体意見交換会（2回、半日程度）に出席
- ・企画運営委員会（2回、2時間程度）に出席
- ・全国センターの求めに応じて情報提供や資料作成・提供等について協力、ESD 推進ネットワークの活動状況調査等への協力・対応

カ ESD 推進のための教育現場等の実態把握と連携強化

- ① 専門家への包括的ヒアリング（オンライン、2時間程度、1回以上、大学教授級1名以上）
- ② 教育部局、教育委員会、現場の教員等を対象としたヒアリング（オンライン、2時間程度、2回程度、2名程度）
- ③ 中小企業等を対象としたヒアリング（オンライン、2時間程度、2回程度、2名程度）

キ ESD/EPO の行事を通じた意識や行動の変容の把握（上記（4）～（6）の代表的行事に参加したコアメンバーへの簡易的ヒアリング、6事例程度）

（7）関係主体との連携及び協働に関する業務

ア 中部地方環境事務所との情報共有及び意見交換

- ① 事務所担当官と定期的な打合せ（月1回以上）
 - ・事業進捗の報告、方向性の協議及び出席した会議等に関する報告、アンケートに基づく行事出席者の反応等の説明
 - ・日々の業務の月次報告の提出
- ② 中部地方環境事務所が開催する会議（外部評価委員会）への対応（1回程度、半日程度）
- ③ 白書を読む会の運営支援（1回、3時間程度、会場50名程度、オンライン100名程度）
- ④ 全国ユース環境活動発表大会（名古屋市内を想定、1回程度、半日程度、1名以上）への参加と情報収集、審査委員選定の協力、大会参加活動団体のホームページ等での情報発信

イ 全国の地方EPO・GEOC・ESD活動支援センター（全国・地方）のネットワークの活用及び連携の確保・強化

- ① 各地方EPOの協働取組に関する検討会議（1回、半日程度）に出席
 - ・全国EPO連絡会への出席（都内2回、各1日/地方1回、2日）、全国EPO連絡会の中部地区開催におけるGEOCへの協力
- ② EPOネットワーク強化等に関するミーティングへの参加（オンライン、1回、2時間程度）

（8）外部資金を活用した事業

（9）成果物の提出

- ・四半期報告書
- ・年間報告書
- ・年間報告書の概要版

(エ) 業務の実施概要 (2025年3月18日時点)

仕様書業務項目		業務内容	実施・開催等の進行状況			
1	業務実施計画の作成	第7期業務実施計画案、達成目標の作成	作成済み	→第1回運営委員会に諮問 →ウェブサイト掲載		
2	運営会議	EPO/ESD運営委員会の設置・開催【オンライン、2回】	第1回:5/29開催→議事録公開	第2回:2/12開催→議事録公開		
3	基本業務	3-1 ホームページ(EPO/ESD)の更新・維持管理	月2回以上更新	アクセス数(PV数):EPO:27,216件/ESD:7,793件		
		3-2 収集・整理・蓄積した情報の発信(月1回)	毎月1回以上メルマガ発行			
		3-3 リーフレットの配布	約300部在庫→イベント等ですべて配布	9月に第7期版として改訂のうえ、300部印刷	→2月末までに160部配布(年度内に計・約460部を配布)	
		3-4 照会・相談対応、対話の場づくり	適宜実施	相談対応44事例/照会・相談対応等の延べ件数215件/電話・メール対応150件/講師招聘18件/業務打合せ:136件		
		3-5 施設の維持管理	月次報告書の提出等適宜実施	来館利用件数:66件/来館者数:113人 業務実施日数:計245日		
4	協働取組の促進のための業務	4-1 中間支援をテーマにしたセミナー【1回(3時間)】	1/27に地域循環共生圏づくり支援セミナーを開催 ⇒継続してアーカイブ配信 (4-4-2:冊子化)			
		4-2 地域主体との共催によるフォーラム【2回(半日)】	協働コーディネーター、ハッピー上市会との打合せ等	12/7に地域循環共生圏フォーラムin上市(第1回)を開催	2/22に地域循環共生圏フォーラムin上市(第2回)を開催	
		4-3 協働コーディネーターによる意見交換会【1回(半日)】	8/28に協働コーディネーター意見交換会を愛知県名古屋市内で実施			
		4-4-1 有識者ワーキングによる活動評価手法の検討【3回(半日)】	第1回ワーキング:6/5実施	第2回ワーキング:9/18実施	第3回ワーキング:11/12実施	
		4-4-2 検討結果のフィードバック、成果まとめ冊子の作成	フィードバック:4-2関係主体へ実施	成果まとめ冊子を4-1セミナー(4-4-1有識者登壇)をもとに作成・公開		
5	地域循環共生圏の創造推進業務	5-1 中間支援機能の担い手育成業務(対象:環境省事業採択団体)	年度当初打合せ:丹南4/26、長野4/23、半田4/25実施	ヒアリングシート:3地域作成、全国事務局提出済み	フォローシート作成・提出:7月、10月、1月、3月に実施	
		5-2 キックオフミーティング【1回】、中間報告会【1回(2日)】	キックオフミーティング:6/26実施	中間報告会:長野県芋井地区で10/23-24実施		
		5-3 GEOC主催会合への参加:キックオフM、作業部会【2回】、共有会、事業検討会議、成果共有会	中間支援ギャザリング(第1回):5/30-31、共有会:5/15に出席	作業部会:①9/4、②1/30、事業検討会議:12/18に出席	中間支援ギャザリング(第2回):2/27-28に出席	
		5-4 卒業団体のフォローアップ調査;ヒアリング【1件】	PF尾鷲を対象に12/24オンラインヒアリングを実施	⇒ヒアリングシートを作成、GEOCへ提出		
		5-5 身近な自然資本の活用に関する意見交換会【2回(半日)】	①10/10-12SDGs愛知expoのステージイベント協力、中部事務所出展ブースの運営、②2/9白山シンポジウムを開催運営			
		5-6 グリーン社会実現に向けたSH連携促進業務【4回(半日)】	①11/2Let's エコアクション in AICHIの中部事務所ブースの運営、②1/15鳥羽エリア創発ミーティングを開催運営、③1/29地域脱炭素セミナーin北陸を開催運営、④3/7中部共進化座談会を実施			
		5-7 地域循環共生圏創造の担い手の情報の把握、関係性構築、関係者情報のまとめ	年間報告書上に情報整理			

仕様書業務項目	業務内容		実施・開催等の進行状況		
6 中部地方ESD活動支援センター運営業務	6-1-1	学び合いP:①活動計画の作成、②ノウハウ共有(作業部会出席【2回】)	①活動計画を作成→有識者検討会で協議して確定	②作業部会:第1回7/25、第2回2/25に出席	
	6-1-2	学び合いP:③-1学び合いの場【2回】、④実践活動、⑤全国フォーラムで報告【1回】	③-1学び合い:第1回8/23、第2回11/7実施	④実践活動:11/11実施	⑤全国フォーラム報告:12/1実施
	6-1-3	学び合いP:③-2有識者検討会【3回】、ワークブック活用普及冊子・動画の作成・公表・配布	有識者検討会:6/5第1回、9/18第2回、11/12第3回を実施	冊子・動画の作成・ウェブサイトで公開	
	6-2	自然資本を活用した地域・人づくりESDダイアログ【1回(2日)】	11/22-23に岐阜県高山市で飛騨エリアの教育関係者が事例・取組発表等を行う会合を実施		
	6-3	ESD推進ネットワーク地域フォーラムの開催【1回(半日)】、ポスター作成	9/19にハイブリッド方式(会場:愛知県名古屋市)で地域ESD拠点登録団体の会合として実施/ポスター・開催案内チラシを作成して地域ESD拠点登録団体へ提供		
	6-4	地域ESD拠点等の活動支援	適宜実施		
	6-5	SDGs学生サミット【1回(半日)】	SDGs活動に取り組む4大学・1高校の学生チーム、自治体・企業・NPOの計3団体が登壇する会合を2/1開催		
	6-6	全国センター会議への出席・連携協力:連絡会【2回】、協力団体意見交換会【2回】、企画運営委員会【2回】、活動状況調査等への協力	連絡会:6/27第1回、1/17第2回に出席	意見交換会:7/24第1回、12/1第2回(兼全国フォーラム)に出席	企画運営委員会:6/27第1回、2/28第2回に出席
	6-7	教育現場の実態把握と連携強化:専門家【1回(2時間)】/教育関係者【2回(各2時間)】/中小企業経営者【2回(各2時間)】	専門家:白梅学園大学・朝岡先生に1/25ヒアリング実施	教育関係者:①小学校1/30、②高校2/22ヒアリング実施	中小企業:2事業者へ2/20ヒアリング実施
6-8	行動変容の把握:行事参加者へのヒアリング(3月中旬までに)【6事例】	①②地域循環共生圏フォーラムin上市、③ESDダイアログ、④学び合い、⑤実践活動、⑥鳥羽創発ミーティングの関係者にヒアリング実施⇒ヒアリング結果を年間報告書へ整理			
7 関係主体との連携及び協働に関する業務	7-1	事務所担当官との定期的な打合せ、日々の業務を毎月報告	月1回以上の定例打合せ実施 計25回の打合せを実施		
	7-2	事務所開催会議の資料作成・説明:外部評価委員会含む【1回(半日)】	外部評価委員会3/4出席	自己評価シート、業務報告書の作成	
	7-3	白書を読む会の企画、会場運営支援【1回(3時間)】	9/25開催・白書を読む会を企画・広報展開・運営を実施		
	7-4	全国ユース中部大会に参加【1回(半日)】、審査委員の選定、活動団体情報のWEB掲載	中部大会参加:12/22	審査委員の選定:長野県NPOセンター阿部氏を推薦	全国大会、中部大会の結果のシェア記事をwebに掲載
	7-5-1	GEOC主催会議に出席:検討会議【1回】、全国EPO連絡会【3回、うち1回中部開催】、ネットワーク強化ミーティング【1回】	9/20検討会議に出席	全国連絡会:6/12-13第1回、10/1-3第2回、1/16-17第3回に出席	12/20EPOネットワーク勉強会に出席
	7-5-2	全国EPO連絡会の中開催【1回(2日)】	エクスカーション:地域協力者と調整打合せ6/7、7/4、7/26に実施	全国事務局との打合せ:7/19、8/27に実施	全国EPO連絡会(第2回)のうち10/2-3エクスカーションを運営
8	業務実施における旅費及び謝金等の支払い業務	適宜実施			
10	外部資金を活用した事業:地球環境基金/愛知県環境学習コーディネイト業務	地球環境基金説明会:10/18実施	環境研究総合推進費委託への協力:小布施7/30-31、尾鷲8/8-9実施	相談6件、コーディネート10件実施	
	成果物の提出:第1~3四半期報告書、第6期概要報告書、年間報告書(及び概要版)	四半期報告書:①7/19、②10/18、③1/24にそれぞれ納品 年間報告書:3/31納品			

1 業務実施計画の作成

(ア) 作成した第7期業務の事業計画

1. 第7期達成目標

2030年を見据え中部地方のローカルSDGs達成に向け
地域循環共生圏に資する地域環境活動の面的拡大を加速化させます。

2. 方針

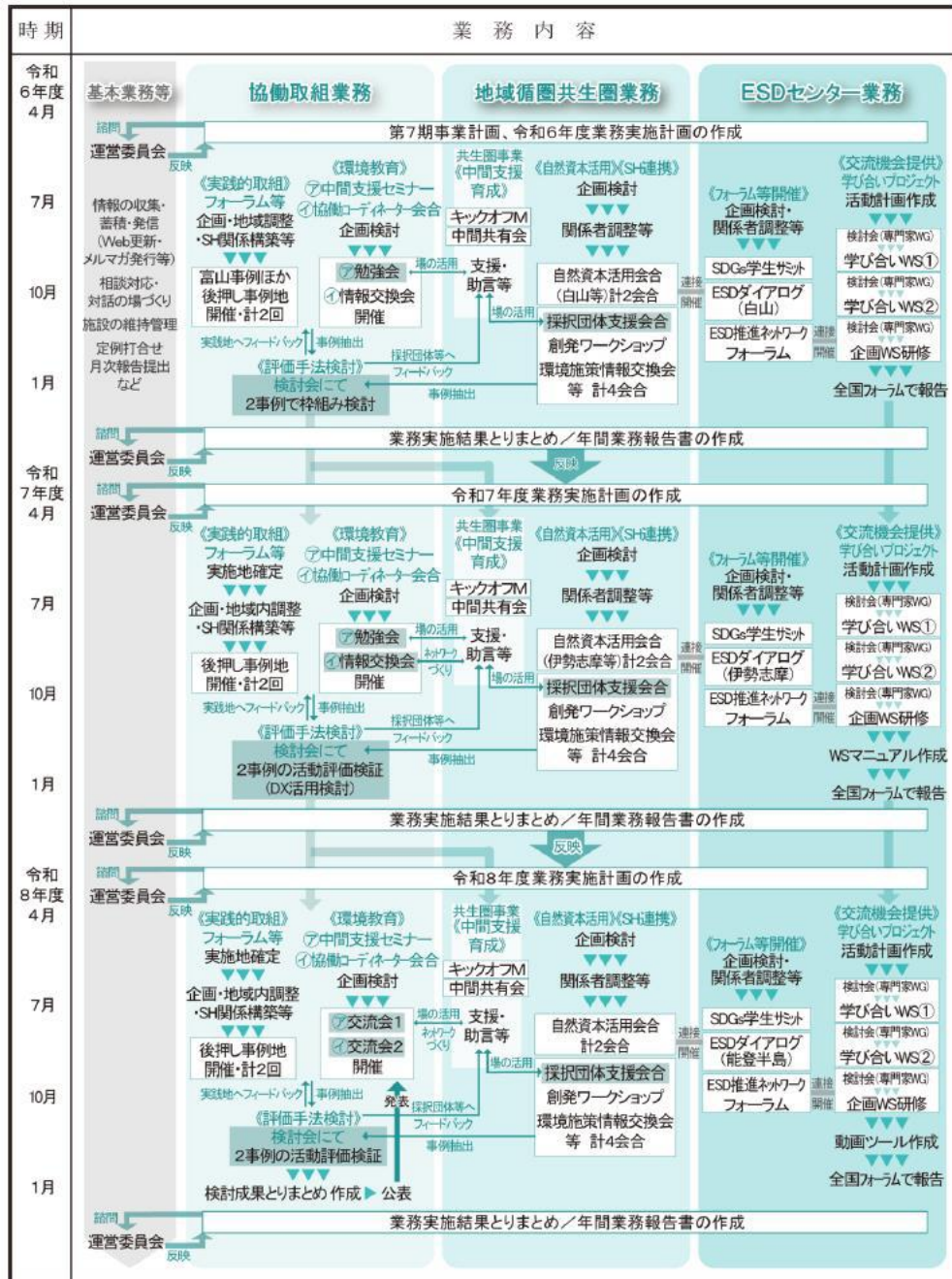
- 「地域ネットワークに対する EPO 中部/中部 ESD センターのメタネットワーク化による重層化、効率化、強靱化」により地域の取組の協働の相互作用を促進します。
- 「活動見える化プログラムや SDGs 指標物語などを活用した地域の取組の定量的、定性的評価と適切なフィードバック」によりローカルSDGsの進捗を可視化します。
- 「Web や SNS 発信、オンライン会合、GIS (地理情報システム)、AI (チャット GPT など) 等の DX の積極的活用」により業務の時間的、空間的、社会的効率化を図ります。

3. 各年度(2024年度~2026年度)の目標、方針、関連事業

令和6年度	目標	既存のネットワークを活かし地域のニーズに対応した事例モデルを作成するとともに取組の組織や事例などの優良資産を発掘、把握、整理します。
	方針	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域活動、ESD ニーズの掘り起こしと既存ツールを活用したモデル事例の運営(関連事業:①) ● 評価ツールの整理統合と活用(関連事業:②) ● 取組の掘り起こしと整理(関連事業:③) ● EPO 中部/中部 ESDC メタネットワークの計画(関連事業:④)
令和7年度	主な関連事業	<ul style="list-style-type: none"> ① 全事業、特に協働取組の促進のための業務、地域循環共生圏の創造に資するための推進業務(地域循環共生圏の形成支援)、中部 ESD センター運営業務 ② 自治体や協働コーディネーター間の情報・意見交換の促進、活動の地域循環共生圏への貢献についてのフィードバック ③ 自治体や協働コーディネーターが持つネットワークを活用した環境教育の推進、自治体や協働コーディネーターとの連携による実践的な取組み、地域循環共生圏の創造に資するための推進業務(地域循環共生圏の形成支援)、中部 ESD センター運営業務 ④ 全事業、特に協働取組の促進のための業務、地域循環共生圏の創造に資するための推進業務(地域循環共生圏の形成支援)、中部 ESD センター運営業務
	目標	地域ニーズを踏まえ統合アプローチ(CN・CE・NP)による3分野(環境・社会・経済)貢献取組に向けた地方ネットワークの強化を行います。
令和7年度	方針	<ul style="list-style-type: none"> ● モデル事例の強化と評価ツールの活用(関連事業:⑤) ● GIS等DXによるネットワーク可視化ツールの検討(関連事業:⑥) ● EPO 中部/中部 ESDC メタネットワークの構築検討(関連事業:⑦)
	主な関連事業	<ul style="list-style-type: none"> ⑤ 全事業、特に協働取組の促進のための業務、地域循環共生圏の創造に資するための推進業務(地域循環共生圏の形成支援)、中部 ESD センター運営業務 ⑥ 自治体や協働コーディネーター間の情報・意見交換の促進、活動の地域循環共生圏への貢献についてのフィードバック ⑦ 全事業、特に協働取組の促進のための業務、地域循環共生圏の創造に資するための推進業務(地域循環共生圏の形成支援)、中部 ESD センター運営業務

令和8年度	目標	各地方の地域活動ネットワークを重層的につなぐメタネットワークを強化し、取組の面的拡大を図ります。
	方針	<ul style="list-style-type: none"> ● モデル事例の強化と評価ツールの活用(関連事業：⑧) ● GIS等DXによるネットワーク可視化ツールの活用(関連事業：⑨) ● EPO 中部/中部 ESDC メタネットワークの活用(関連事業：⑩)
	主な関連事業	<p>⑧ 全事業、特に協働取組の促進のための業務、地域循環共生圏の創造に資するための推進業務（地域循環共生圏の形成支援）、中部 ESD センター運営業務</p> <p>⑨ 自治体や協働コーディネーター間の情報・意見交換の促進、活動の地域循環共生圏への貢献についてのフィードバック</p> <p>⑩ 全事業、特に協働取組の促進のための業務、地域循環共生圏の創造に資するための推進業務（地域循環共生圏の形成支援）、中部 ESD センター運営業務</p>

4. 業務フロー



5. 主な業務の3か年実施展開案

5.1. 協働取組の促進のための業務

自治体や協働コーディネーターによるネットワークを活用した環境教育の推進

■ 地域循環共生圏づくりの中間支援をテーマにしたセミナーの開催

【基本方針】

- 地域循環共生圏づくりの支援を担う中間支援主体／機能の育成とネットワーク構築の支援
- 地域循環共生圏づくり／ローカル SDGs の中間支援事例の掘り起し（ウ：評価手法を用いたフィードバックの対象事例とする）

【実施内容】

- 地域循環共生圏づくりにおける中間支援機能に焦点をあてた勉強会等を実施します。
- 主な参加者として、地域循環共生圏や中間支援機能に関心のある自治体をはじめとする産官学の多様な主体が想定されます。加えて、協働コーディネーターや地域循環共生圏事業の採択団体（及び卒業団体等）にも登壇・参加してもらい、中部の中間支援主体の交流の場を創出します。
- 第7期最終年度の令和8年度は、企業・金融機関等も交えた交流会を開催し、共生圏事業採択団体や協働コーディネーターにローカル SDGs 事業をプレゼンいただく企画を盛り込みます。

■ 協働コーディネーター等による情報交換会の開催

【基本方針】

- 地域の協働取組における協働コーディネーターによる事例の相互参照と、EPO による活動現場の課題・ニーズの把握
- 地域循環共生圏づくり（またはその中間支援）への協働コーディネーターの実践意欲の喚起

【実施内容】

- EPO が地域活動の実現場の情報を収集し、また、地域の現場へ環境省施策を届けるアンテナ役として位置づけられている協働コーディネーターの会合を実施し、環境省施策や地域活動の事例や課題を相互参照し合う情報交換会を実施します。
- 令和7年度は地域循環共生圏事業の採択中間支援主体も交えた意見交換を実施し、活動者同士で率直な悩みの共有と、相互に刺激し合う場づくりを行います。

自治体や協働コーディネーターとの連携による実践的な取組

（特定地域の事例を題材にしたフォーラム等の開催と取組の可視化・成果の整理）

【基本方針】

- 自治体や協働コーディネーター等が取り組むローカル SDGs の実践事例で、地域循環共生圏づくりの事例として打ち出されていないが今後を期待できる取組／地域／主体への後押しを目的に、EPO 中部と地域主体が共催するフォーラム等（特定の地域・活動を題材にしたフォーラム等）を実施します。
- フォーラム等の開催により、改めて地域へ取組をPRする機会をつくと共に、事例・取組の地域への貢献性を見える化し、ステークホルダーとの関係の再構築や、主体自身の課題や成果に対する認識整理の機会をつくります（次項ウ：評価手法を用いたフィードバックの対象事例とする）。

【実施内容】

- フォーラム等の開催にあたっては、開催に至るまでのプロセスで必要となる「地域内への働きかけ」を重視し、企画段階では共催主体となる自治体や協働コーディネーター等が EPO 中部と協働で、地域内調整やプログラム立案を行います。

- 具体的には、関係する行政・事業者等との事前調整、地域状況（ニーズや課題等）の関係者間での把握・共有と、地域状況に適したプログラム検討などを、地域主体（共催主体）が中心になって EPO と協働で実施します。また、共催主体からステークホルダーへ、フォーラム参加を呼びかけるプロセスを通して、フォーラムのテーマを多様な主体と共有しつつ関係構築を行う支援を EPO 中部が行います。

自治体や協働コーディネーター間の情報・意見交換の促進、活動の地域循環共生圏への貢献についてのフィードバック

【基本方針】

- 統合的アプローチによる環境活動の面的拡大のためには、地域の協働取組の促進とそれによる地域循環共生圏への貢献について推進力を維持することが必要で、取組の進捗を把握するとともに当事者が立ち位置を認識してモチベーションを維持することが重要です。そのためには地域づくり・人づくりの取組に対して地域循環共生圏への貢献の評価手法を構築し、自治体や協働コーディネーター間の情報・意見交換の場でフィードバックし取組を促進することが有用と考えられます。
- EPO 中部では第 6 期までの成果として、協働取組と環境・社会・経済への貢献の状況をその時点で表す「活動見える化プログラム」と、選択した指標が SDGs の達成においてどのような貢献を表しているのかを言語化、可視化する「SDGs 指標物語」を実用化してきました。これらも活用し以下の方針のもとに事業を進めます。

【実施内容】

○取組と協働の評価手法を整理検討し情報 意見交換の場へのフィードバックの枠組みを構築します

- SDGs 指標物語によって意義付けられた成果指標による定量的評価の検討
- 活動見える化プログラムによって可視化された協働と貢献の定性的評価の検討
- 地域環境活動の重層的ネットワークの可視化による中部地方の俯瞰的協働連携状況の評価の検討
- 自治体や協働コーディネーター間の情報、意見交換の場への検討結果のフィードバック

○ODX を活用した評価と可視化により情報交流とフィードバックの効率化を図ります

- 生成 AI（チャット GPT）を活用した「SDGs 指標物語」の作成支援方法の構築検討
- 活動見える化プログラムチャートの作成支援デジタルツールの検討
- 活動主体の情報プラットフォームの形成と GIS 協働ネットワークの可視化ツールの検討

○専門家ワーキンググループによる評価手法の検討を行い学術的知見を導入します

- 専門家ワーキンググループを組織し検討会（年 3 回程度）で議論しながら検討を重ねることにより科学的根拠を担保しつつ評価手法の構築と活用を行います。基幹メンバーは地域づくり・人づくりに造詣の深い以下を想定し、必要に応じて「評価」、及び「GIS」、「AI」の専門家を加えることとします。成果として冊子「(仮称)協働取組を評価し、見える化！」の作成を想定します。

5.2. 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務

地域循環共生圏構築に向けた身近な自然資本の活用に関する意見交換会の開催

- 自然資本のワイズユースをテーマとした意見交換会を開催し、自然再興（NP）、生物多様性保全の取組に関心のある企業やNPO等活動団体で情報交換を行います。

【基本方針】

- 自然資源を活用した地域循環共生圏の事例づくりと、自然共生サイトにおける企業とNPO等との連携創出を目指します。

【実施内容】

■ 国立公園エリアにおける自然資本のワイズユースによる地域循環共生圏づくり会合

- 過去の本業務による会合実施地域を含め、中部の国立公園関連地域でステークホルダーが集まり、自然資本を活用したローカルSDGs事業の創発や具体化を目的とした会合を実施します。

■ 自然共生サイトなど具体の活動地等でのステークホルダー連携会合

- 自然共生サイトや、地域循環共生圏事業採択団体が自然資本活用に取り組む活動地域など、具体の活動地で企業や自治体、NPO等のステークホルダーの連携を目的とした会合を実施します。

地域からのグリーン社会の実現に向けたステークホルダー連携促進業務

- 地域循環共生圏づくりを目指す地域で、多様な主体が交流する対話の場として、意見交換会等を実施します。
- 企画にあたっては、環境省をはじめ関係省庁や経済団体、自治体、金融機関など、できるだけ多様な関係主体の巻き込みを図り、分野を超えた関係構築も重視します。

【基本方針】

- 地域内の多様なステークホルダーによる地域要素（ヒト、モノ、カネ、情報）の共有からはじまる地域循環共生圏づくりの事例づくりと支援事例の蓄積を目指します。
- 実施地域の中で地域課題を解決するローカルSDGs事業の創発（地域循環共生圏ドミノ）の素地づくりを目指します。

【実施内容】

※①②③で各年度計4回の会合実施を想定。

■ 地域循環共生圏事業の採択団体の支援につながる会合の実施

- ステークホルダーの巻き込みが進んでいない採択団体の活動エリアで会合を実施し、本業務の会合をきっかけにした関係構築を目指します。また、地域課題やステークホルダーの捉え方に偏りがみられる採択団体が参加する会合を実施し、気付きを得ていただく企画を盛り込みます。

■ 地域の中に「創発」を生むことを目的としたワークショップの実施

- これから地域循環共生圏づくりに取り組む地域や、相談対応等を通じて協働やローカルSDGs実践に悩みをもつ地域でワークショップを実施し、地域課題・地域資源をはじめとする地域要素の抽出や、それらをつないで新たな取組や協働の創出を目指します。

■ 環境施策をテーマにした関係機関・企業・金融機関による情報交換の実施

- 環境施策をテーマとして、特に脱炭素（CN）、資源循環（CE）に関わる最新動向等を関係機関・企業・金融機関等で情報共有／情報提供する場を設営します。（※自然再興（NP）は前項イでの取り扱い分野として整理。）

5.3. 中部 ESD センター業務

自然資本の活用による ESD 促進

【基本方針】

- ユネスコジオパーク、ユネスコエコパーク、世界遺産、世界農業遺産等に象徴される自然資本は ESD のフィールドとして重要な役割を果たすことができます。第 5 期、第 6 期を通じて中部 ESD センターではユネスコエコパーク、ユネスコジオパークをフィールドとして国立公園など自然公園と連携しつつ現地体験を含む ESD ダイアログでの対話を続けており、自然を基盤とした地域の資産の役割について関係者の認識を深め理解を共有してきました。第 7 期ではそれを基盤とし、世界遺産、世界農業遺産、さらには 30by30 達成のために取組が加速している「自然共生サイト」などとも連携した自然資本 ESD フィールドネットワークの形成を目指します。
- 一方、自然資本フィールドにおける ESD の実践主体は各地域のボランティアガイドや地域のユネスコスクールなどの学習活動が担っていますが、「自然体験」が情操教育で重要な役割を果たす時期にある子どもからユースの世代に自然資本を活かすには一般の学校教育機関が連携することが必要です。また自然資本と関わる農業、林業、水産業、観光業など、実社会での取組を担う人材養成を担う商工農林高校など職業教育機関との連携は、現地での ESD の展開とともに、将来的な自然環境保全取組の人材を確保していく上でも重要です。そこで第 7 期では ESD ダイアログの企画運営において、これらの専門教育機関との連携を進めます。

域内外の多様な主体の連携促進、交流の機会の提供

■基本方針

- 「学びあいプロジェクト」について中部 ESD センターでは第 5 期から社会人に対する ESD をテーマとし、第 6 期は加えて気候変動を切り口として実践と検討を続けており、その成果として「現場から学ぶ！ESD 学び合いの場づくりワークブック」（ESD ワークブック）が上梓され、環境学習の研修会での試用では好評を博しています。気候変動問題を軸とした学び合いの機会を拡大し、社会への ESD の実装を促進するには、これらの成果を活用することが有用と考えられます。そこで ESD ワークブックを活用し、学び合いの場づくりを担う、様々な主体の学習、講座、研修会等の企画担当者に、学び合いの場を企画するワークショップを実施します。また地域 ESD 拠点に対しては中間支援強化のため、担当者にはこのようなワークショップを開催できるように研修会を実施するとともに地域 ESD 拠点が実施するワークショップの開催を支援します。

SDGs 学生サミットの開催

【基本方針】

- 第 2 期 ESD 国内実施計画の 5 つの優先分野で「ユースのエンパワーメントと参加の奨励」があげられているように高校生、大学生、若者のユース世代のコミュニティづくり、交流・実践活動の促進、等により ESD を推進することとしています。中部 ESD センターでは第 5 期から第 6 期においてオンラインの「学生サミット」の開催により、大学生が SDGs の取組を発表し SDGs 未来都市の担当者と交流議論する ESD の学び合いの場を設営してきました。
- こうした実績を踏襲するとともにこれを強化拡大するために、大学生のみならず高校生や大学卒業生、社会人なども含めて多世代にわたる交流の場に発展させます。また多数のグループが発表できるように発表数分のブレイクアウトルームによるポスターセッションの場など短時間で多数の発表ができる場を検討します。さらに高校生の取組の発表枠を設けるとともに、学びと実践を社会と接することにより SDGs の取組が地域社会と連携するよう、ユース・学生と社会人の組み合わせによる発表団体の募集枠を新設します。

【実施内容】

○学生サミットの開催

- 移動のハードルを下げるため開催は完全オンラインとします。
- 社会側の SDGs の取組事例を共有するために、SDGs 未来都市担当者に加え、企業の SDGs 取組の話題提供を行うこととします。
- 募集枠は高校生、大学生、学生・社会人協働の3つとし、中部地方を主な対象としますが、域外からの参加も可とします。
- SDGs 取組の発表方法は口頭発表とポスター発表の2つから選んでもらいます。ポスター発表はブレイクアウトルームの活用を検討します。
- 発表団体に対しては事前会合を開催し発表方法について理解してもらうとともに SDGs 取組の可視化に協力を依頼します。
- 関係者や副指導教官など、発表には参加しないものの個人で議論に参加できる枠を設けます。
- ディスカッションでは3つのグループに分け、専門のファシリテーターを配置します。
- 参加のモチベーションを確保することも視野に発表方法別のコンテストを行います。審査は参加者、事務局の他 SDGs 未来都市担当者、企業担当者にも講評に参加してもらい、社会の SDGs ニーズを反映させます。

○SDGs 取組の可視化

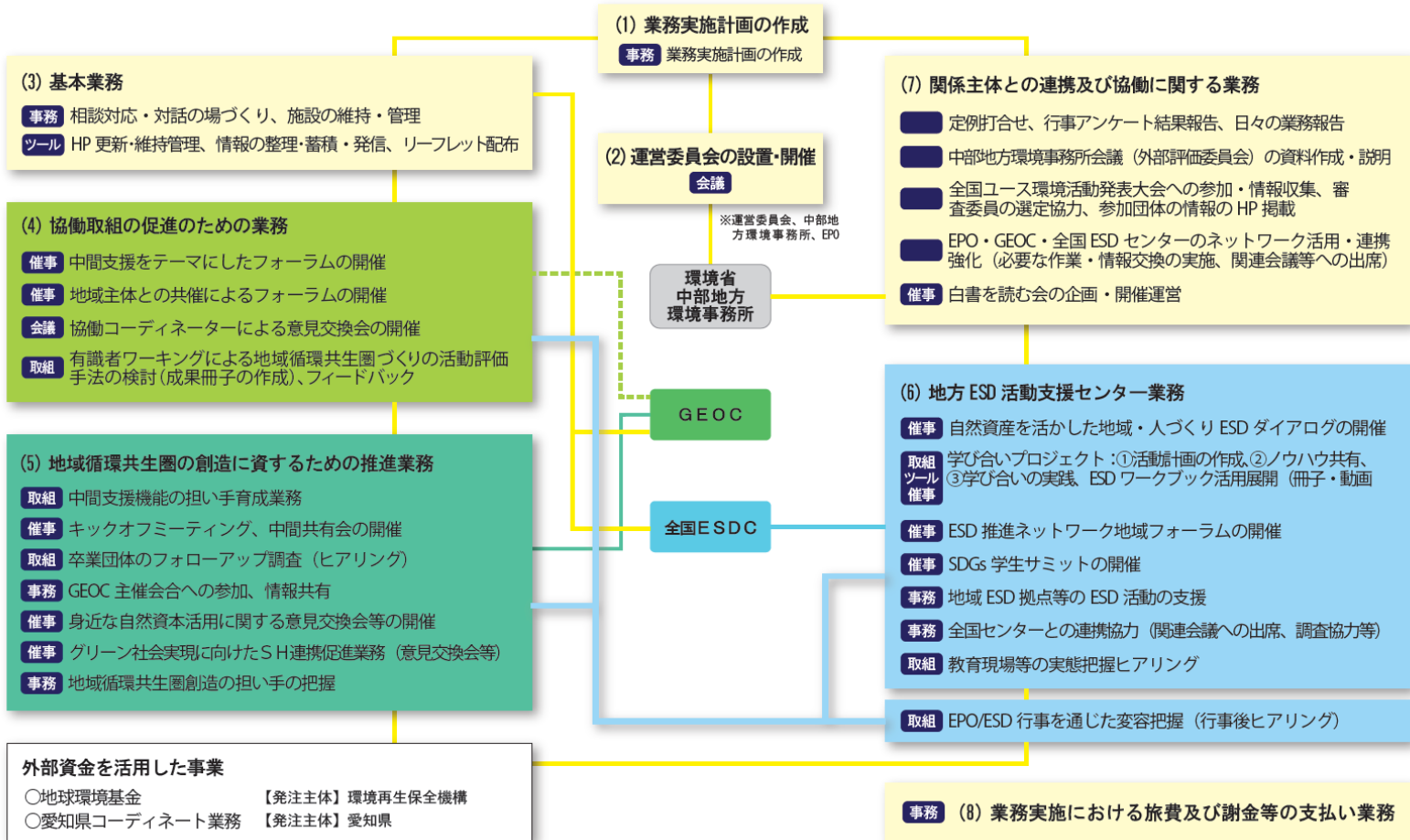
- 話題提供の SDGs の取組についてはその内容を「活動見える化プログラム」で可視化します。
- 発表の取組実績はその位置関係を GIS で表現し、可視化を検討することで理解の共有化を促進を図ります。

(イ) 作成した令和6年度業務実施計画

①業務概要

中部環境パートナーシップオフィス運営業務 令和6年度(2024年度)業務一覧

第7期3カ年度の目標 2030年を見据え中部地方のローカルSDGs達成に向け地域循環共生圏に資する地域環境活動の面的拡大を加速化させます。
今年度目標 既存のネットワークを活かし地域のニーズに対応した事例モデルを作成するとともに取組の組織や事例などの優良資産を発掘、把握、整理します。



2024年度業務スケジュール案

仕務業務項目	業務内容	担当	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
6 中部地方ESD活動支援センター運営業務	6-1-1	学び合いP:①活動計画の作成、②ノウハウ共有(作業部会出席【2回】)	原	活動計画の企画案作成		ノウハウ共有・適宜実施					作業部会出席				
	6-1-2	学び合いP:③-1学び合いの場【2回】、④実践活動、⑤全国フォーラムで報告【1回】	清本、原	関係者との調整		準備・広報		③学び合い1・2	④実践活動		⑤全国フォーラムで報告				
	6-1-3	学び合いP:③-2有識者検討会【3回】、ワークブック活用普及冊子・動画の作成・公表・配布	清本、原、小松	関係者との調整		有識者検討会1	冊子・動画のコンテンツ検討	有識者検討会2	冊子・動画のコンテンツ制作		有識者検討会3	冊子・動画の公表・配布			
	6-2	自然資源を活用した地域・人づくりESDダイアログ【1回(2日)】	清本、原、小松	企画案作成		関係者との調整・準備・広報			ESDダイアログ開催						
	6-3	ESD推進ネットワーク地域フォーラムの開催【1回(半日)】、ポスター作成	清本、原、小松	企画案作成		関係者との調整・準備・広報		フォーラム開催							
	6-4	地域ESD拠点等の活動支援	原、小松	適宜対応											
	6-5	SDGs学生サミット【1回(半日)】	清本、原、小松	企画案作成		関係機関との調整		登壇学生チームの募集		準備・広報	学生サミット開催				
	6-6	全国センター会議への出席・連携協力;連絡会【2回】、協力団体意見交換会【2回】、企画運営委員会【2回】、活動状況調査等への協力	清本、原	適宜出席・協力											
	6-7	教育現場の実態把握と連携強化:専門家【1回(2時間)】/教育関係者【2回(各2時間)】/中小企業経営者【2回(各2時間)】	清本、原	業務関係者の専門家・教育関係者・中小企業等へのヒアリング実施										とりまとめ	
6-8	行動変容の把握;行事参加者へのヒアリング(3月中旬までに)【6事例】	清本、原、富田											業務の連携・協力者6団体へのヒアリング、結果とりまとめ		
7 関係主体との連携及び協働に関する業務	7-1	事務所担当官との定期的な打合せ、日々の業務を毎月報告	清本、原、富田、小松	適宜実施(月1回以上の打合せ、月次報告)											
	7-2	事務所開催会議の資料作成・説明:外部評価委員会含む【1回(半日)】	清本、原、富田											資料作成等の対応	外部評価委員会
	7-3	白書を読む会の企画、会場運営支援【1回(3時間)】	富田	関係者との調整、協力事項確認	会場運営準備等			白書を読む会開催							
	7-4	全国ユース中部大会に参加【1回(半日)】、審査委員の選定、活動団体情報のWEB掲載	清本、小松							審査委員の推薦		中部大会に参加		参加団体のWEB掲載	
	7-5-1	GECC主催会議に出席;検討会議【1回】、全国EPO連絡会【3回、うち1回中部開催】、NW強化ミーティング【1回】	清本、富田	適宜出席											
	7-5-2	全国EPO連絡会の中部開催【1回(2日)】	清本、富田	関係者との調整、必要事項確認	開催日・会場、視察地の検討・確定	事務手配(会場、バス等確保)、関係者への案内、参加者確認等		視察先との調整		全国EPO連絡会の中部開催・視察の実施					
8	業務実施における旅費及び謝金等の支払い業務	小松、小栗	適宜実施												
	外部資金を活用した事業:地球環境基金/愛知県環境学習コーディネート業務	清本、小栗、小松、服部	環境再生保全機構、愛知県環境学習プラザと連携して適宜実施												
	成果物の提出:第1~3四半期報告書、年間報告書(及び概要版)	原、富田、小松					第1四半期報告書提出		第2四半期報告書提出		第3四半期報告書提出		年間報告書提出		

全業務の実施結果のとりまとめ/年間報告書の提出

EPO中部令和6年度事業アウトプット目標等一覧

仕業業務項目	業務内容(イベント:オンライン活用・併用)	担当	外部関係者との役割	インプット(仕業書、計画書)		アウトプット(指標)		アウトカム		備考	
				催事、情報発信	調査、研究、作成、支援	コンテンツ等、情報の発信、記録	取組・システム・知見など	アウトカム指標(アウトプット評価に加え)	アウトカム(予想される成果)		
中部地方ESD活動支援センター運営業務	6-1-1 学び合いP①活動計画の作成、②ノウハウ共有(作業部会出席【2回】)	原	・全国ESD活動支援センター、地域ESD活動支援センター、地域ESD拠点	・全国センターが開催作業部会出席【2回】	・活動計画の作成	・活動計画書			・ESDネットワークにおける中部ESDC活動の情報共有と理解の促進		
	6-1-2 学び合いP③④-1学び合いの場【2回】、④実践活動、⑤全国フォーラムで報告【1回】	清木、原	・全国ESD活動支援センター、地域ESD拠点、地域ESD拠点、地域地球温暖化防止活動推進センター等、有識者	・学び合いの場【2回】 ・実践活動【1回】 ・全国フォーラム結果報告【1回】		・学び合いの場【2回】開催記録 ・実践活動【1回】開催記録 ・全国フォーラム参加記録	・参加者の場【2回(各1.5時間)】のべ20名 ・SDGs社会教育WG【3回(各2.5時間)】有識者と実務者計4人 ・実践活動【1回(2時間)】20名	・参加者の意識(アンケート)、ご意見や感想(ヒヤリング、アンケート)	・ワークブックの活用による「ローカルSDGsのためのESDの社会実装」への貢献		
	6-1-3 学び合いP③④-2有識者検討会【3回】、ワークブック活用普及冊子・動画の作成、公表、配布	清木、原、小松		・有識者による検討	・有識者による検討会【3回】	・ワークブック活用のための調査、情報収集 ・ワークブック活用方法の検討	・有識者による検討会開催記録 ・ワークブック活用方法の取りまとめプロトタイプと動画プロトタイプ	・関連する事例、知見 ・各会有識者3名の参加	・検討内容についての運営委員など関係者のご意見	・ワークブックの活用による社会ESDの促進	
	6-2 自然資源を活用した地域・人づくりESDダイアログ【1回(2日)】	清木、原、小松	・シオパーク等、環境省地域資源(自然公園等)、関係する教育機関 ・受講者による講演、施設提供、講師、デスカンファレンス	・「自然資源を活かした地域・人づくりESDダイアログ」の開催【1回、2日、30人程度】		・ダイアログ開催記録		・参加者30名程度 ・有識者5名程度	・参加者の意識(アンケート)、ご意見や感想(ヒヤリング、アンケート)	・参加した関係者の意識向上、認知の拡大、知見の増加	
	6-3 ESD推進ネットワーク地域フォーラムの開催【1回(半日)】、ポスター作成	清木、原、小松	・地域ESD拠点、ESD関係者	・ESD推進ネットワーク地域フォーラム開催【1回、半日程度、30名程度】		・地域フォーラム開催記録		・ESD拠点、関係者等(30人程度)	・ESD拠点関係者の意見や感想(アンケート等)	・地域におけるESD活動の課題やニーズ、普及・啓発の効果的な手法等について参加者同士の共有	
	6-4 地域ESD拠点等の活動支援	原、小松	・地域ESD拠点関係者		・地域ESD拠点情報交流、ESD拠点登録支援			・ESD拠点登録数 ・3基本業務を含む	・ESD拠点関係者の意見や感想(ヒヤリング)	・中部地方のESDネットワークの拡充	
	6-5 SDGs学生サミット【1回(半日)】	清木、原、小松	・中部地方の大学 ・研究、高校、地方自治体、NPO等 ・有識者によるファシリテーター、講師	・ESD/SDGs推進ネットワーク地域フォーラム中学生サミット【1回(半日)】/オンライン		・開催記録		・ESD拠点登録数 ・3基本業務を含む ・サミット参加、オンライン視聴100名程度	・参加者の意識等(アンケート)、ご意見や感想(ヒヤリング、アンケート)	・参加した関係者の意識向上、認知の拡大、知見の増加	
	6-6 全国センター会議への出席・連携協力・連絡会【2回】、協力団体意見交換会【2回】、企画運営委員会【2回】、活動状況調査等への協力	清木、原	・全国ESD活動支援センター、地域ESD活動支援センター	・ESD活動支援センター(全国・地方)連絡会(部内予定、2回、各1日、各2名程度)参加 ・全国協力団体意見交換会(2回、半日程度、各2名程度)及び企画運営委員会(2回、2時間程度、2名程度)オンライン等参加。	・ESDの考え方をベースに、「地域循環共生圏」のづくりのための域資源を発掘し活用 ・活動状況調査等に対する情報・資料の提供等の協力・対応		・関係する情報、資料 ・議論の結果としての知見		・中部ESDC担当者の知見	・ESD全国センター等ネットワークとの連携	
	6-7 教育現場の実践把握と連携強化-専門家【1回(2時間)】/教育関係者【2回(各2時間)】/中小企業経営者【2回(各2時間)】	清木、原	・SDGsに詳しい専門家 ・SDGs意思のある教育関係者、教育委員会、現場の教員		・専門家への包括的ヒヤリング(オンライン、2時間程度、1回、大学教授級1名想定オンライン) ・教育関係者へのヒヤリング(オンライン、2時間程度、2回程度) ・経営者等へのヒヤリング(オンライン、2時間程度、2回程度)	・ヒヤリング結果			・ヒヤリング対象の感想 ・運営委員等の外部評価	・有意義な知見の入手 ・ESD/SDGs専門領域との連携強化	
	6-8 行動変容の把握・行事参加者へのヒヤリング(3月中旬までに【8事例】)	清木、原、富田	・4から6の関係者		・行動変容のためのコメンタリーに対する簡易的ヒヤリング(電話、メール等)	・行動変容のためのコメンタリーに対する簡易的ヒヤリング結果	・月次報告書		・ヒヤリング結果の分析と解釈	・地域循環共生圏構築行動など持続可能な社会に貢献する行動変容	
関係主体との連携及び協働に関する業務	7-1 事務局担当等との定期的な打合せ、日々の業務を毎月報告	清木、原、富田、小松		・定期的打合せ(月1回以上)	・月次報告書の作成			・関係者の意見	・中部地方環境事務所との協働による円滑な運営		
	7-2 事務局開催会議の資料作成、説明・外部評価委員会含む【1回(半日)】	清木、原、富田	・外部評価委員	・外部評価委員会等での資料に関する説明(名古屋市内、1回程度、半日程度、3名程度)	・中部地方環境事務所開催会議への出席、資料作成対応 ・令和7年度の達成状況の自己評価			・関係者の意見、評価	・中部地方環境事務所との協働による円滑な運営 ・EPO中部ESDCに対する適正な評価		
	7-3 白書を読む会の企画、会場運営支援【1回(3時間)】	富田			・白書を読む会の企画運営支援		・企画運営サポート記録	・関係者の意見	・中部地方環境事務所との協働による円滑な運営		
	7-4 全国ユース中部大会に参加【1回(半日)】、審査委員の選定、活動団体情報のWEB掲載	清木、小松		・活動団体情報のWEB掲載				・選定審査委員	・関係者の意見	・中部地方環境事務所との協働による円滑な運営	
	7-5-1 GEOC主催会議に出席・検討会議【1回】、全国EPO連絡会【2回】、うち1回中部開催、NW強化ミーティング【1回】に参加	清木、富田		・GEOC主催会議・検討会議【1回】、全国EPO連絡会【2回】、NW強化ミーティング【1回】に参加				・EPOネットワーク、全国情勢の情報	・各会合への職員参加	・EPO中部に反映させるべき知見	・GEOC、EPOネットワークや施策動向の把握
7-5-2 全国EPO連絡会の中部開催【1回(2日)】	清木、富田	・GEOC・全国EPO連絡会開催	・全国EPO連絡会の中部開催【1回(2日)】会場の確保、授受場所との調整、当日の運営等、GEOCに対し必要な協力の実施				・EPOネットワーク、全国情勢の情報	・各会合への職員の協力、参加	・EPO中部に反映させるべき知見	・GEOC、EPOネットワークや施策動向の把握	
8 業務実施における旅費及び謝金等の支払い業務	小松、小栗			・適正な支払い		・支払い記録		・会計部署の承認	・適正支出の明確化		
9 外部資金を活用した事業:地球環境基金/愛知県環境学習コーディネート業務	小松、小栗					・成果報告書		・ネットワーク形成	・EPO中部活動への貢献		
10 成果物の提出:第1~3回中期報告書、年間報告書(及び最終版)	清木、富田、小松			・報告書の作成		① 前半期報告書 ② 第1(A4版)最終版 ボツキス止め 電子媒体(DVD-R)一式 ③ 最終版(最終報告書)一式					

(ウ) 業務実施計画の公表

- 作成した第7期業務の事業計画と、令和6年度業務実施計画は、EPO中部・中部地方ESD活動支援センター運営委員会（第1回会議）に諮ったうえで、EPO中部ウェブサイトに掲載、公開した。
- 中部地方ESD活動支援センターウェブサイトについても、EPO中部ウェブサイトへの直リンク見出し記事を掲載した。

【EPO中部ウェブサイト】

第7期のEPO中部及び中部地方ESD活動支援センターの目標と方針

EPO中部及び中部地方ESD活動支援センターの第7期3年間（2024年度～2026年度）の達成目標と実施方針をご紹介します。

第7期の達成目標

2030年を見据え中部地方のローカルSDGs達成に向け、地域循環共生圏に資する地域環境活動の面的拡大を加速化させます。

第7期の方針

- 「地域ネットワークに対するEPO中部/中部ESDセンターのメタネットワーク化による重層化、効率化、強靱化」により地域の取組の協働の相互作用を促進します。
- 「活動見える化プログラムやSDGs指標物語などを活用した地域の取組の定量的、定性的評価と適切なフィードバック」によりローカルSDGsの進捗を可視化します。
- 「WebやSNS発信、オンライン会合、GIS（地理情報システム）、AI（チャットGPTなど）等のDXの積極的活用」により業務の時間的、空間的、社会的効率化を図ります。

各期事業計画と各年度の業務実施計画

今期・第7期（2024～2026年度）の計画

2024年度（令和6年度）業務実施計画

▶PDFファイルで閲覧

第7期3カ年度の事業計画

▶PDFファイルで閲覧

【中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイト】

センター概要



2024.06.30 ESD/EPO運営委員会

2024年度第1回EPO中部・中部地方ESD活動支援センター運営委員会を開催

2024年度第1回目の中部・中部地方ESD活動支援センターを5月29日に開催し、その議事概要を公開しています。



2024.06.16 お知らせ

中部地方ESD活動支援センターの2024年度業務実施計画

2024年度（令和6年度）の当センター及びEPO中部の業務実施計画を掲載しました。

（※EPO中部ウェブサイトへリンク）

2 EPO 中部・中部 ESD 支援センター運営委員会の設置・開催

(ア) 運営委員について

- 令和6年度の「EPO 中部・中部地方 ESD 活動支援センター運営委員会」を設置・開催するにあたり、次表の8名の委員に就任を依頼し、委嘱手続き等を行った。

【委員名簿】委員：計8名

No.	分野等	地域	氏名	所属先・役職等
1	学識者／ESD	東海	伊藤 恭彦	名古屋市立大学 副学長
2	学識者／学校教育	北陸	加藤 隆弘	金沢大学人間社会研究域学校教育系 准教授
3	学識者／地域整備計画	東海	加藤 義人	岐阜大学 客員教授、名古屋都市センター 特任アドバイザー
4	協働コーディネーター	北陸	堺 勇人	一般社団法人環境市民プラットフォームとやま 常務理事／事務局長
5	NPO／地域づくり	東海	田辺 友也	認定NPO法人まちづくりスポット 専務理事／事務局長
6	自治体	東海	濱田 一多朗	尾鷲市商工観光課 課長
7	企業／環境学習	北陸	水上 聡子	アルマス・バイオコスモス研究所 代表
8	学識者／自然生態系	信州	水谷 瑞希	信州大学教育学部附属志賀自然教育研究施設 准教授

(イ) 第1回会議

①日時

- 2024年5月29日（水）13：00～16：00

②開催方法

- オンライン会議（Webex ミーティング）

③出席者

- 運営委員：6名

伊藤 恭彦	名古屋市立大学 副学長
堺 勇人	一般社団法人環境市民プラットフォームとやま 常務理事／事務局長
田辺 友也	認定NPO法人まちづくりスポット 専務理事／事務局長
濱田 一多朗	尾鷲市商工観光課 課長
水上 聡子	アルマス・バイオコスモス研究所 代表
水谷 瑞希	信州大学教育学部附属志賀自然教育研究施設 准教授

※ 加藤隆弘委員（金沢大学大学院教職実践研究科准教授）、加藤義人委員（岐阜大学客員教授、名古屋都市センター特任アドバイザー）が所用によりご欠席

- 環境省中部地方環境事務所環境対策課：縄野課長補佐
- 事務局（EPO 中部）：福井理事長、清本、原、富田、小松

④議事次第

1. ご挨拶 環境省中部地方環境事務所
2. 本委員会の設置要領について

3. 第7期事業計画、令和6(2024)年度の業務実施計画について
4. EPO 業務について
 - (1) EPO 業務事務局案の説明
 - (2) 意見交換
5. ESD 業務について
 - (1) ESD 業務事務局案の説明
 - (2) 意見交換
6. その他/第2回委員会の日程調整等
7. 閉会

⑤会議資料

- 資料1：EPO 中部・中部 ESD 支援センター運営委員会 設置要領
 資料2-1：EPO 中部運營業務 第7期事業計画
 資料2-2：EPO 中部運營業務 令和6(2024)年度の業務実施計画
 資料3：EPO 業務事務局案説明資料
 資料4：ESD 業務事務局説明資料



(ウ) 第2回会議

①日時

- 2025年2月12日(水) 13:00~16:00

②開催方法

- オンライン会議 (Webex ミーティング)

③出席者

- 運営委員：8名

伊藤 恭彦	名古屋市立大学 副学長
加藤 隆弘	金沢大学人間社会研究域学校教育系 准教授
加藤 義人	岐阜大学 客員教授 / 名古屋都市センター 特任アドバイザー
堺 勇人	一般社団法人環境市民プラットフォームとやま 常務理事/事務局長
田辺 友也	認定NPO法人まちづくりスポット 専務理事/事務局長
濱田一多朗	尾鷲市商工観光課 課長

水上 聡子	アルマス・バイオコスモス研究所 代表
水谷 瑞希	信州大学教育学部附属志賀自然教育研究施設 准教授

- 環境省中部地方環境事務所環境対策課：縄野課長補佐
- 事務局（EPO 中部）：福井理事長、清本、原、富田、小松

④議事次第

<ol style="list-style-type: none"> 1. ご挨拶 環境省中部地方環境事務所 2. EPO 業務について <ol style="list-style-type: none"> (1) EPO 業務の実施状況の説明 (2) 意見交換 3. ESD 業務について <ol style="list-style-type: none"> (1) ESD 業務の実施状況の説明 (2) 意見交換 4. その他 5. 閉会
--

⑤会議資料

<p>資料 1：令和 6（2024）年度の EPO 業務実施報告資料</p> <p>資料 2：令和 6（2024）年度の ESD 業務実施報告資料</p> <p>参考資料：地域脱炭素に資する ESD 推進事業の拡充について</p>



(エ) 会議実施結果（議事概要）の公開

- 第 1 回、第 2 回運営委員会の終了後に、会議の議事概要を作成し、各委員に確認した上で、「第 7 期 EPO 中部・中部 ESD 支援センター運営委員会 設置要領」とともに、EPO 中部ウェブサイト上で公開した。
- 中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイトにも EPO 中部ウェブサイトの該当ページへの直リンク見出しを掲載した。

EPO中部・中部地方ESD活動支援センター運営委員会

運営委員会の設置

EPO中部は、多様なステークホルダー及び有識者で構成される運営委員会を年2回開催し、EPO・ESD業務についての検討、協議、評価を行っています。


また、運営委員が提案する協働取組や、各地域で実施すべき協働取組を、EPO中部の機能を使って実施するスキームとなっています。

※第5期（2020年度）までは「EPO中部運営会議」「中部地方ESD活動支援センター企画運営会議」をそれぞれ設置していました。

EPO中部・中部地方ESD活動支援センター運営委員（氏名五十音順、敬称略）

- 伊藤 恭彦（名古屋市立大学 副学長）【委員長】
- 加藤 隆弘（金沢大学人間社会研究域学校教育系 准教授）
- 加藤 義人（岐阜大学 客員教授，名古屋都市センター 特任アドバイザー）
- 堺 勇人（一般社団法人環境市民プラットフォームとやま 常務理事／事務局長）
- 田辺 友也（認定NPO法人まちづくりスポット 専務理事／事務局長）
- 濱田 一多朗（尾鷲市商工観光課 課長）
- 水上 聡子（アルマス・バイオコスモス研究所 代表）
- 水谷 瑞希（信州大学教育学部附属志賀自然教育研究施設 准教授）

設置要領


 [第7期 EPO中部・中部ESD支援センター運営委員会 設置要領](#)


第6期（2023年度／令和5年度）以前の設置要領等

議事録

第7期

【2024（令和6）年度】

 [2024年度（令和6年度）第2回EPO中部・中部地方ESD活動支援センター運営委員会 議事録](#)

 [2024年度（令和6年度）第1回EPO中部・中部地方ESD活動支援センター運営委員会 議事録](#)

第6期以前に実施した会議の議事録

3 EPO 中部・中部地方 ESD 活動支援センターの基本業務

(1) 情報の収集・蓄積・発信に関する業務

ア ホームページの更新及び維持管理

(ア) 更新・維持管理状況

- EPO 中部では、環境保全、協働の推進、ESD、SDGs 等に関わる情報を収集・整理・蓄積し、行政機関の動き、公募・助成金情報、イベント情報等の発信を行っている。
- 収集した情報は、EPO 中部及び中部地方 ESD 活動支援センターの各ウェブサイトにおいて、下表の通り、記事の投稿・掲載・更新を行った。

【EPO 中部 (<http://www.epo-chubu.jp>) 更新実施表】

月	更新回数・計	更新コンテンツ						
		EPO 中部のお知らせ	皆さんのお知らせ	スタッフのあれこれ	EPO 中部とは	EPO 中部がお手伝い	お役立ちツール	その他(メルマガ掲載等)
4月	86	2	79	1	1	1	1	1
5月	57	2	52	1	0	0	0	2
6月	76	2	69	1	3	0	0	1
7月	70	3	64	1	0	0	0	2
8月	47	3	42	1	0	0	0	1
9月	49	4	41	1	2	0	0	1
10月	53	2	49	1	0	0	0	1
11月	61	3	56	1	0	0	0	1
12月	45	8	34	1	0	1	0	1
1月	49	6	41	1	0	0	0	1
2月	65	2	55	1	2	1	3	1
3月	48	2	41	0	1	0	3	1
計	706	39	623	11	9	3	7	14

【中部地方 ESD 活動支援センター (<http://chubu.esdcenter.jp>) 更新実施表】

月	更新回数・計	更新コンテンツ					
		センター概要	事業報告	イベント&ニュース	コンテンツ紹介	地域 ESD 拠点トピック	その他
4月	26	0	0	22	1	3	0
5月	30	0	0	26	0	4	0
6月	44	2	0	39	0	3	0
7月	42	0	1	34	0	5	2
8月	19	1	0	13	0	3	2
9月	22	0	0	18	0	3	1
10月	19	0	0	15	0	3	1
11月	28	0	0	25	0	2	1
12月	23	1	0	19	0	1	2
1月	24	0	0	19	0	4	1
2月	24	0	1	20	0	2	1
3月	24	1	0	18	0	4	1
計	325	5	2	268	1	37	12

※ いずれも「3月」の数値は3月18日時点で集計を行った。

(イ) ウェブサイトのアクセス数（ページビュー数）

- EPO 中部及び中部地方ESD活動支援センターの各ウェブサイトのアクセス数（ページビュー数/Google アナリティクスにおける表示回数）は、下表の通りである。

【EPO 中部ウェブサイト】

※ 2020 年度に EPO 中部ウェブサイトをリニューアルした際、アクセス数の照会元を Google アナリティクスに移行したため、2021 年度以降は Google アナリティクスでアクセス数の把握を行っている。（従来の照会元であるサーバー会社によるアクセスレポートは特殊なシステムによるページビュー数集計を行っていたため、一般的なページビュー数を把握できる Google アナリティクスに変更した。）

照会元	Google アナリティクス				参考)2022 年度以前のサーバー会社のアクセスレポート				
	2024 年度	2023 年度	2022 年度	2021 年度	2022 年度	2021 年度	2020 年度	2019 年度	2018 年度
4 月	2,504	2,440	2,133	3,310	59,189	24,015	66,930	59,319	19,311
5 月	2,155	2,374	2,197	2,965	75,304	16,148	56,664	30,280	18,382
6 月	2,474	2,942	1,983	3,574	79,962	21,314	61,297	29,150	20,060
7 月	2,358	2,324	2,125	2,579	78,408	29,566	52,720	34,314	18,763
8 月	2,130	1,808	2,387	2,203	49,173	25,428	43,742	38,479	17,688
9 月	2,115	1,752	1,883	1,923	68,449	24,902	43,419	72,087	14,795
10 月	1,896	2,029	2,413	4,015	92,734	34,750	42,768	75,127	16,176
11 月	2,013	2,474	2,873	2,791	64,309	48,487	38,630	102,551	16,289
12 月	2,416	2,745	2,852	2,271	97,461	45,615	35,352	182,209	31,808
1 月	3,110	3,077	3,911	2,132	100,899	65,535	23,878	107,374	39,694
2 月	2,632	3,114	3,075	2,800	97,007	65,552	14,677	61,384	21,378
3 月	1,413	5,064	3,302	1,622	101,586	74,440	21,593	67,883	44,972
計	27,216	32,143	31,134	32,185	964,481	475,752	501,670	860,157	279,316

【中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイト】

照会元	Google アナリティクス						
	2024 年度	2023 年度	2022 年度	2021 年度	2020 年度	2019 年度	2018 年度
4 月	628	938	1,057	1,115	1,165	618	595
5 月	614	997	1,030	1,368	648	828	857
6 月	703	890	1,026	1,324	1,620	955	1,301
7 月	824	1,184	1,025	1,272	1,164	832	795
8 月	708	1,326	1,331	811	827	1,111	1,144
9 月	654	1,149	963	872	797	1,232	818
10 月	579	902	775	1,463	1,179	1,192	904
11 月	849	997	949	1,240	950	1,064	1,085
12 月	668	606	761	1,302	1,420	1,139	879
1 月	564	724	623	1,052	1,183	841	841
2 月	547	1,034	861	1,025	1,080	1,181	641
3 月	455	1,200	547	731	1,099	1,258	752
計	7,793	11,947	10,948	13,575	13,132	12,251	10,612

※ いずれも《2024 年度の「3 月」》は 3 月 18 日時点のデータで集計を行った数値である。
（ほかの年度の 3 月は、3 月末日時点の集計値。）

イ 収集した情報の整理・蓄積・発信（メールマガジン発行）

- 収集した公募・助成金情報、イベント情報等を整理し、毎月第2火曜日発行のメールマガジンに掲載し、次の通り、定期配信を行った。
- なお、発行済みメールマガジンのバックナンバーを、EPO 中部ウェブサイトにてアーカイブ掲載し、公開している。<https://www.epo-chubu.jp/mail-magazine>

月	号	発行日	発行数	記事数・計	掲載記事数				
					冒頭部	イベント 関連	ツール・コン テンツ	助成金・ 表彰等	その他
4月	178号	4/9	721部	30	4	10	8	5	3
5月	179号	5/14	615部	39	0	14	9	10	6
6月	180号	6/11	614部	39	4	15	2	15	3
7月	181号	7/9	617部	43	2	21	0	16	4
8月	182号	8/13	616部	33	2	9	2	20	0
9月	183号	9/10	615部	32	3	16	2	9	2
10月	184号	10/8	619部	40	3	21	3	12	1
11月	185号	11/12	619部	39	1	24	3	9	2
12月	186号	12/10	618部	32	0	17	4	9	2
1月	187号	1/14	619部	38	6	22	2	6	2
2月	188号	2/11	619部	50	4	30	3	11	2
3月	189号	3/11	617部	45	0	21	4	18	2
計				460	29	220	42	140	29

※ 「冒頭部」の記事は、中部地方環境事務所及び EPO 中部の主催イベント等お知らせ記事となっている。

ウ リーフレットの配布

- EPO 中部／中部地方 ESD 活動支援センターのリーフレットについて、第6期に作成した原稿をもとに、第7期の目標・役割を掲載する改訂を行った（2024年9月発行と記載）。
- 9月に300部を印刷し、主催イベント参加者や打合せ相手などへの配布を行い、2月末までに計160部を配布した。改訂前までに配布した約300部と合わせて計460部を配布した。

第7期の目標・役割を掲載

The collage features several key elements:

- Map of Chubu Region:** Shows the geographical scope of EPO Chubu, covering parts of Aichi, Gifu, and Shizuoka Prefectures.
- ESD Framework Infographic:** A central diagram titled '持続可能な地域づくり' (Sustainable Community Building) showing the integration of '経済' (Economy), '社会' (Society), and '環境' (Environment) through '協働' (Collaboration) and 'SDGs' (Sustainable Development Goals). It lists various stakeholders like '企業' (Business), '学校' (School), 'NPO等' (NPOs), and '市民' (Citizens).
- Office Location Map:** A detailed map of the EPO Chubu office building, including contact information and a QR code.
- Office Flyer:** A colorful flyer for the '環境省 中部環境パートナーシップオフィス (EPO中部) 中部地方ESD活動支援センター' (Ministry of Environment, Chubu Environmental Partnership Office (EPO Chubu) Chubu Regional ESD Activity Support Center). It provides contact details and a QR code.

(2) 相談対応・対話の場づくり

- EPO 中部もしくは中部地方 ESD 活動支援センターへの相談に対し、面談打合せや資料・情報収集、マッチング作業、連絡・調整などの対応を行った。その照会・相談等の案件数は、次表の通りである。

※ 以降の「3月」の件数は、いずれも3月18日時点で集計を行った数値である。

【照会・相談・打合せ対応件数】

区分	ア 照会・相談対応等						イ 対話の体制の構築		ア+イ 対応件数 総計
	①相談に対し支援対応等を行った案件の事例件数※ ₁	照会・相談対応等の延べ件数 (左記①案件事例への対応延べ件数も含む)	来館件数 延べ件数※ ₂	②相談・照会、資料配架依頼等	会議利用	③メール・電話による相談(広報依頼等)延べ件数※ ₂	ア)会議・セミナー等地域活動への招聘	イ)その他打合せや地域主体との意見交換等	
4月	7	36	16	10	6	20	3	10	49
5月	4	21	8	4	4	13	0	13	34
6月	2	19	5	2	3	14	2	13	34
7月	4	37	8	5	3	29	3	13	53
8月	6	25	4	3	1	21	4	18	47
9月	4	8	3	2	1	5	0	12	20
10月	5	16	4	2	2	12	0	7	23
11月	2	7	1	0	0	6	1	11	19
12月	3	14	5	3	2	9	2	9	25
1月	0	14	3	2	1	11	3	11	28
2月	3	10	6	5	1	4	0	9	19
3月	4	9	3	2	1	6	0	10	19
計	44	216	66	40	25	150	18	136	370

※1) 事例件数:最初の連絡から対応終了までの(その間の連絡・打合せ等を含めた)案件ごとにカウントした数となっている。

※2) 延べ件数:同じ案件・用件であっても、来館、メール・電話等の接触回数等を個別にカウントした数となっている。

(ア) 照会・相談対応

①相談に対し(広報協力以外の)支援対応等を行った事例件数

- 相談に対し、EPO 中部/中部地方 ESD 活動支援センターが支援対応等を行った事例件数は下記の通りである。
- また、EPO が対応した照会、相談、支援等の内容については、「相談対応票」に記録し、月次で中部地方環境事務所へ提出・報告を行った。

【相談件数の合計、相談方法別件数】

	相談件数・計	相談方法			
		電話	メール	来所	その他
4月	7	2	2	3	0
5月	4	1	2	1	0
6月	2	0	0	0	2
7月	4	0	3	1	0
8月	6	2	4	0	0
9月	4	1	2	1	0
10月	5	0	2	0	3
11月	2	1	1	0	0

	相談件数・計	相談方法			
		電話	メール	来所	その他
12月	3	1	0	0	2
1月	0	0	0	0	0
2月	3	1	0	1	1
3月	4	1	1	0	2
計	44	10	17	7	10

【相談主体別の相談件数】

	相談主体の分類								
	学校・教育機関	大学関係	企業	自治体	NPO・NGO	その他事業主体	その他行政機関	業界団体等	その他
4月	1	0	1	2	1	0	0	1	1
5月	1	0	0	2	1	0	0	0	0
6月	0	1	1	0	0	0	0	0	0
7月	0	0	0	0	1	3	0	0	0
8月	1	1	0	0	0	3	0	1	0
9月	0	0	0	0	1	2	1	0	0
10月	0	2	0	0	3	0	0	0	0
11月	0	1	0	0	1	0	0	0	0
12月	0	1	0	0	1	1	0	0	0
1月	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2月	0	0	1	1	0	1	0	0	0
3月	0	2	1	0	0	1	0	0	0
計	3	8	4	5	9	11	1	2	1

【相談に対し EPO が行った支援内容の件数】

	EPO による支援内容分類									
	EPO スタッフの登壇・招聘	講師等人材紹介(EPO スタッフ以外)	活動団体等の照会・マッチング	教材・ツールの紹介・提供等	環境省事業・EPO 業務の情報提供	SDGs の情報提供	その他の情報提供	イベント等の事業企画運営	後援等名義使用	その他
4月	4	0	0	1	0	0	0	2	0	0
5月	1	0	0	1	0	0	0	0	0	2
6月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
7月	0	0	1	0	1	0	1	1	0	0
8月	2	1	0	0	0	0	1	0	0	2
9月	0	1	0	0	0	0	2	0	0	1
10月	3	0	0	0	0	0	1	1	0	0
11月	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0
12月	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0
1月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2月	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0
3月	0	0	0	1	0	0	0	2	1	0
計	12	2	3	3	1	2	6	7	1	7

【相談対応票；具体の相談内容と EPO による対応内容等の記録】

No.	受付日	相談者区分	相談内容	対応内容	事後報告
1	4月2日	その他	全国センター発行『2023年度レポート』を見てESDワークブックのことがあった。勉強会で使用したく冊子の送付は可能か。	・4/2: Web ページで内容を公開していること及び申込により単ページ・記入用ファイルを提供していることをご案内した。4/5 開催の勉強会での冊子使用を希望され着払いで送付した(本冊・記入用シートを各 15 部)。	
2	4月10日	自治体	昨年度依頼していたプロポーザル審査員について、書面審査するのをお願いしたい。	・対応を了承。 ・応募資料を送付いただき、書面審査を 23 日までにを行うこととする。	
3	4月11日	業界団体等	脱炭素経営の普及啓発事業を推進中で協力いただけないか	・電子チラシ等のツールが掲載される Web ページリンク、セミナー開催案内などの周知協力など対応できる旨を伝える。 ・必要な URL 情報の連絡を後日もらうこととする。	
4	4月15日	NPO・NGO	環境教育インストラクタ応募資格取得セミナーの講師をお願いできないか。	・8/3～4 に開催されるセミナーの講師への職員派遣を了承。詳細については別途協議	
5	4月17日	学校・教育機関	全校生徒に脱温暖化に関する授業をしてほしい	・対応を了承。 ・実施日は 6/10 ・事前打合せを 5/2 に実施、依頼内容確認と意見交換 ・5/31 来所、事前調整	
6	4月22日	企業	アサヒ飲料主催の「SDGs 将来世代創造フォーラム」の出展等協力依頼	・一度来所して説明をしたいとのこと、日程調整。 ・5/13 来所、例年同様ブース出展協力、講評登壇了承を回答。 ・来場者増加の工夫についての意見交換。 ・後援依頼について対応。 ・8/21 イベント開催・ブース出展実施。	
7	4月23日	自治体	市の環境審議会の委員に就任してほしい。	・3 月に就任以来があり、EPO 運營業務の受託後に承諾の回答を連絡 ・4/23 に第 1 回審議会の日程調整のメール連絡があり回答。 ・4/24 に第 1 回審議会の 9/10 開催とのメール連絡あり。 ・5/15 承諾書を提出。 ・7/2EPO 中部としてではなく、受託先(一般社団法人環境創造研究センター)として委員を引き受けることを連絡、了解いただく。 ・以後、環境創造研究センター職員として対応。	・就任スタッフが、9 月の第 1 回審議会、11 月の第 2 回審議会に出席。
8	5月22日	NPO・NGO	高校生インターンの受入を依頼したい。	・5/22 に電話、メールで依頼あり。受け入れ方法について電話等で打合せを実施。 ・6/24 に高校側も受け入れ方法について承知の連絡があり、実施要項案をメールで送付いただいた。 ・7/9NPO 側が来館して、関係資料・書類を確認。受け入れ方法の変更点などを確認。 ・8/20 インターン高校生が来館してオリエンテーションを実施。 ・8/21 アサヒ飲料主催 SDGs フォーラムの出展の手伝い、ほかの学生ブースの取材を実施。 ・8/22 内勤で、SDGs フォーラムの取材記事作成。 ・8/23ESD 学び合いの場①(愛知教育大学)に参加。	・終了後、依頼主体の NPO より御礼連絡と今後の要変更点についてのヒアリングがあった。 ・10/10NPO の訪問があり、インターン生それぞれからのお礼状をいただいた。

No.	受付日	相談者区分	相談内容	対応内容	事後報告
9	5月23日	学校・教育機関	環境教育学会中部支部大会で発表した実践内容について助言が欲しい。	<ul style="list-style-type: none"> ・5/23 受領のメールに添付されていた発表スライドについて所見を記載したメールを返信。 ・5/28 まで4回に渡りコメントを交換。 	
10	5月29日	自治体	あいちサステイナ研究所の基礎講座で心理的側面を含めた環境コミュニケーションの講義をお願いしたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・対応を了承。6/30PMもしくは7/7AMでスケジュールを調整。 ・7/7AMで確定(6/14調整)。 	
11	5月30日	自治体	県民(大人)向けに環境教育関連のデジタルブックを作成しようと思っているが、他県で作成しているところ等を教えていただけないか。	<ul style="list-style-type: none"> ・5/30に問合あり。オフィス内スタッフにきいて回答差し上げると回答。 ・6/3に自治体作成の環境関連デジタルブックと大人向けを含む環境教育情報収集サイトをリスト化したものをメールにて送付し電話でその旨を連絡。 	
12	6月26日	企業	北陸のESD推進支援の情報が欲しい	<ul style="list-style-type: none"> ・北陸ESD推進コンソーシアムを紹介 ・登録Webページを紹介、団体でも個人でも登録できること、必要があれば関係者を紹介する旨助言。 	
13	6月27日	大学関係	ゼミの学生にミステリーワークショップを紹介してほしい	<ul style="list-style-type: none"> ・ミステリーワークショップに詳しい職員を派遣。 ・ゼミで体験する日程を調整。7/11に実施。 	
14	7月2日	その他事業主体	地域循環共生圏について勉強したい。	<ul style="list-style-type: none"> ・7/2電話で昨年度のシンポジウムに引き続き、地域循環共生圏について学びたいため、まずは打合せをしたいとの連絡あり。 ・7/8来館し、地域の状況、実施したいことなどをお聞きしたうえで、地域循環共生圏づくり事業について情報交換を実施。 	
15	7月12日	NPO・NGO	中部地方での学校教育現場のESDニーズを紹介してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ・高校へのヒアリング結果を中心にメールで返信。 	
16	7月19日	その他事業主体	佐渡のトキ保全団体が能登地方のトキ放鳥に関する情報を求めている。協力願えないか。	<ul style="list-style-type: none"> ・電話で調整、関係者の話を聞くためオンライン意見交換会を7/23に設定。 ・オンライン相談、能登地方のトキ放鳥については石川県に能登地域トキ放鳥受け入れ推進協議会があり県が運営している。ここを拠点にNPOが連携するのであればよいのではないか。 ・現在は震災でなかなか情報が入りにくい。今後情報が入れれば共有する。 	
17	7月19日	その他事業主体	ESDCでイベント出展(SDGsクイズなどで世界の現状を知り自分事にする)際のアンケート設計について助言がほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ・7/22に電話で接触、詳細についてはオンラインで意見交換することとし、7/23に設定。 ・オンラインで打合せ意見交換、展示会のブース出展のアンケートにユネスコ8つのコンピテンシーのうち⑦自己認識コンピテンシーを紐付けることを提案。 ・展示会の主催者など「仕掛ける側」のアンケートをとることを提案。 ・出展内容のクイズなどにナッジの活用を提案。一般社団法人環境創造研究センター作成のナッジガイドを紹介。 	<ul style="list-style-type: none"> ・11/29アンケート結果の連絡あり。 ・コンピテンシー7「自己認識」の自己評価が高くなったこと、体験ブースが増えるにつれ、その傾向が大きくなる結果が表れた。
18	8月2日	その他事業主体	長久手市の脱炭素チャレンジカップ応募にあたり、応援メッセージを出したいので内容を助言してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ・長久手市職員の交通行動変容を「見せる化」することは非常に特色があるので、それを焦点に応援メッセージ作成を助言。 	

No.	受付日	相談者区分	相談内容	対応内容	事後報告
19	8月2日	大学関係	7/11のWSを踏まえ、学生を入れた地理総合授業ESDパッケージ検討勉強会のファシリをお願いできないか。	・対応を了承。 ・調整の結果8/16に実施。 ・教職課程を含む学生4名とともに検討勉強会に参加、ファシリテーターを担う。	
20	8月13日	その他事業主体	北陸ESD推進連絡協議会委員を依頼したい。年3回程度のオンライン会議に出席してほしい。	・中部地方ESD活動支援センターで対応する旨了解。	
21	8月21日	学校・教育機関	ESDの職員研修で講師を紹介してほしい。	・どのようなニーズなのかをヒアリングするためオンライン打合せを設定。 ・8/27オンライン打合せ。教科とSDGsとのつながりが、紐付けるだけでなく、全体的にみることで、つながりの内容を考える、授業展開につながるきっかけ作りが必要。 ・ニーズにマッチしたESD有識者を紹介し、日程を調整。結果1月30日に職員研修を設定し、講師と直接やりとりをすることとなる。	
22	8月28日	業界団体等	学校で行われている気候変動教育の事例について紹介してほしい。	・福井県坂井市環境政策課、岐阜県地球温暖化防止活動推進センター、愛知県地球温暖化対策課の事例について紹介。	
23	8月30日	その他事業主体	大学研究室の脱炭素チャレンジカップ応募にあたり、応援メッセージを出したいので内容を助言してほしい。	・活動内容であるトランプカードへの行動変容内容のデザイン挿入についてその特性を指摘しつつ、簡易にツール利用が可能な拡張性を中心に応援メッセージを作成することを助言。	
24	9月11日	NPO・NGO	(1)川などで清掃活動を行っている団体、(2)環境分野で積極的に活動を行っている名古屋の団体について情報を得たい。	・9/11に照会のメールあり。 ・9/13に回答。(1)については、環境ボランティアサークル 亀の子隊及び中部整備局主催「川と海のクリーン大作戦」を紹介した。(2)については、「なごや環境大学」及びボラみみより情報局を紹介し、各webページのイベント一覧や検索ページの活用により、活動・運営団体の情報が得られる旨申し添えた(同日、お礼のメールを受信)。	
25	9月14日	その他事業主体	・中学校の脱炭素チャレンジカップ応募にあたり、応援メッセージを出したいので内容を助言してほしい。	・海の吸収源を保全するという、中学校生徒の活動では例のない珍しい取組であることを指摘するとともに、ウニの餌を育てる過程で緑のカーテンによる空調負荷低減や、地元供給によるフードマイレージ減少なども入れた応援メッセージを作成することを助言。	
26	9月20日	その他事業主体	助成金情報を収集したい(できればハードルの低いもの。地球環境基金や環境省の地域循環共生圏事業はハードルが高い)	・現在チラシ配架中の助成金リーフレットを提供(イオン、セブンイレブン)。 ・EPO中部のメールマガジンで毎月1回助成金情報を掲載していること及び登録方法、過去のアーカイブ(webサイト)を紹介した。	
27	9月24日	NPO・NGO	・地域循環共生圏について事業を考えたいのでご相談したい。	・10/4に面談することとする。 ・面談では森林保全や耕作放棄地問題などへの取組など地域循環共生圏を目指した活動を始めたが、どのように活性化したらいいかとの相談を受ける。 ・環境基金に応募するのはいかがとのアドバイス。ちょうど10月18日に説明会があるので、是非視聴することを紹介。 ・また10月25日にセミナーを開くに当たって地域循環共生圏の話のできる講師を紹介してほしいとの依頼について、講師を紹介。	

No.	受付日	相談者区分	相談内容	対応内容	事後報告
28	10月8日	大学関係	・前回学生サミットの発表後具体化した学生グループのESD活動でイベントを企画、内容についてアドバイスがほしい。	・メール送付されたイベント企画書等の資料を確認後、オンラインでのミーティングを提案、日程を調整。 ・10/17日の18:30よりオンラインミーティングを設定。 ・オンラインミーティングでは、学生グループが企画している飯田市の動物園、及びゼロカーボン推進課との連携した、ワークショップについて検討、目的の設定や方法論についてアドバイス。 ・2/1の学生サミット情報の案内を実施。	
29	10月17日	大学関係	・自治体職員向けに実施予定の研修会にミステリーワークショップを導入したい。についてはファシリテーターを依頼できないか。	・日程が12/13で対応可能なため、依頼について承諾。 ・11/14と12/5にオンライン打合せ	
30	10月21日	NPO・NGO	・NPO活動の広がりや市民の方との連帯についてヒントがほしい。	・地球環境基金に問い合わせたところ、EPOを紹介されたとして10/21にメールで相談連絡があった。 ・10/22に、イベントでの企画側の仲間の増やし方、広報協力をEPOも行うこと、類似の活動を行っている協働コーディネーターの所属先との意見・情報交換の提案などをメールで返信した。	
31	10月28日	NPO・NGO	・温セ中部ブロックの会合でディスカッションのサポーターを頼めないか。	・対応を了承。 ・11/6の会合ディスカッションに参加。サポーターを務める。	
32	10月28日	NPO・NGO	・愛知県温セが1/23開催する気候危機対策交流フォーラムのトークセッションコーディネートを頼めないか。	・対応を了承 ・11/21に事前打ち合わせ ・11/25に基調講演講師とオンライン顔合わせ ・12/8に関連話題で環境共生学会と打合せ ・1/23フォーラムのトークセッションでコーディネートを実施	
33	11月6日	NPO・NGO	・地域循環共生圏の取組方法について助言がほしい。	・11/14に電話で意見交換。具体的に地域で行われている環境保全活動に協働することから始めたかどうか、とアドバイス	
34	11月25日	大学関係	・組織のニューズレターのために活動内容の取材をたく対応をお願いしたい。	・取材を了承、オンラインミーティングとメールで「学び合いプロジェクト」について説明、原稿案について了解した。	
35	12月5日	大学関係	・飯田市のイベントでブース出展するに当たり知恵を借りたい。	・12/25にオンライン打合せ、ブース内で簡単なワークショップを実施する提案を行った。 ・1月25日のイベント当日にワークショップコーディネートを依頼され了承した。	
36	12月9日	NPO・NGO	・藤前干潟に関係しているNPOを教えてください	・以前講師の依頼があった、NPO法人藤前干潟を守る会を紹介した。	
37	12月25日	その他事業主体	・東京湾流域のイベントで水辺に関連するNPO等を紹介してほしい。	・関東EPOESDCに電話で紹介し相談いただいた。 ・有望な団体を紹介されたとのこと。	
38	2月10日	企業	・SDGsロゴの商用利用の許可申請方法について教えてください。	・商用利用のコンサルタントを紹介してほしいとのことだったが、紹介が難しいと回答した。また、商品のパッケージへの掲載といった商用利用の許可を取ることは一般的に難しいと言われていることをお伝えした。	

No.	受付日	相談者区分	相談内容	対応内容	事後報告
39	2月12日	自治体	・SDGs 地域づくり委託事業のプロポーザルの審査委員をお願いしたい	・環境省に確認をとってお返事したい。 ・環境省の確認が取れたので引き受けることとする。 ・委託仕様書と評価項目の内容についていくつか指摘した。	
40	2月13日	その他事業主体	・環境イベントの実行委員会による審議に参加してほしい。	・4/14 実施の実行委員会の開催案内文が郵送で到着。事前に電話連絡等いただき、了解の返信済みである。4月上旬にも改めて連絡・案内をいただけるとのこと。	
41	3月3日	その他事業主体	・事業者の出前授業支援のためにオンライン会議室を使わせてほしい。	・3/14、21 のオンライン会合での ZOOM アカウントの活用を了解。	
42	3月4日	企業	・2024年8月のイベントレビュー説明と来年度開催についての意見交換を行いたい。	・3/17 に来所いただくこととする。 ・3/17 担当者来所、イベント全体の成果報告をいただく。 ・3年間続けたが次年度については、AichiSDGsExpo に参画するため単独での展示会開催は終了すること。 ・3年間の取組み成果の評価を提案。価値基準となる3つの分野の6つの資本についての議論を中間支援セミナー(1/27)を例に紹介。	
43	3月6日	大学関係	・万博関連イベントの後援又は協力者として、EPO 中部の名義使用を依頼したい。	・3/6 依頼者、中部事務所と確認をとり、名義使用可能と回答した。また、すぐにチラシ等への掲載も可能と回答。 ・中部地方 ESD 活動支援センターの名義使用についても勧めたが、先方事情により急ぎの案件となっていたため、全国センターへの申請手続きの時間がなく、センターの名義使用はしないことになった。	
44	3月13日	大学関係	・来年度高校生の探求をサポートする「高校ESD 塾」を立ち上げる。その事前企画会合にオブザーバー参加してほしい。	・依頼を了承。オンラインでオブザーバー参加することになった。	

②来館による相談・照会、資料配架依頼等

月	件数	相談・問合せ内容
4月	10件	<ul style="list-style-type: none"> ・EPO 中部担当者の異動あいさつ ・EPO 中部の前担当者の立寄訪問 ・自治体からプロポーザル審査の依頼 ・公益社団法人から脱炭素事業に関する相談及び広報協力依頼 ・環境カウンセラーから講師依頼の相談 ・中部事務所訪問前に来館立寄 ・全国センター来館、業務説明 ・GEOC 来館 ・情報収集と待合せ ・自治体の方が資料持参
5月	4件	<ul style="list-style-type: none"> ・企業から SDGs 関連催事への出展・後援依頼 ・情報収集 (2件) ・自治体から環境コミュニケーションに関する講演依頼の相談
6月	2件	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集 (2件)
7月	5件	<ul style="list-style-type: none"> ・環境カウンセラーから地域循環共生圏づくりに関する相談 ・NPO と高校生インターン受入に関する打合せ ・情報収集 (2件) ・防火防災点検
8月	3件	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集 ・インターンシップ受入 (2件)
9月	2件	<ul style="list-style-type: none"> ・施設見学と情報収集 ・助成金情報の収集
10月	2件	<ul style="list-style-type: none"> ・インターン受入御礼挨拶 ・元 EPO 受託団体の方が立寄
11月	0件	—
12月	3件	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO がご挨拶、自然関連イベント・活動等について情報収集 ・事業者が年末挨拶と意見交換 ・商工会議所がチラシ配架依頼
1月	2件	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集 ・配架資料見学
2月	5件	<ul style="list-style-type: none"> ・環境業務の実施で利用 ・退職の挨拶 ・自治体とプロポーザル委員依頼相談 ・情報収集 (2件)
3月	2件	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集 ・企業と SDGs 関連催事に関する相談
計	40件	

③メール・電話による相談、問合せ、広報依頼等

月	件数	相談・問合せ内容
4月	20件	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体から環境イベント実行委員会開催についてのメール ・ESD 拠点団体からワークブック送付について照会の電話 ・一般の方から能登半島地震に関連した警備要請の電話 ・企業から自然共生サイト関連イベントについて参加募集案内のメール ・一般の方から放射能被害の相談についての電話 ・NPO 団体から打合せスペースの利用予約に関する電話 ・自治体から環境イベント会議資料配付にかかるメール ・NPO 団体から公募中の助成事業について周知協力のメール ・花粉や花粉の飛散状況について問合せの電話 ・環境カウンセラーから地域循環共生圏について問合せの電話 ・自治体からユネスコスクール支援会議の委員依頼の電話 ・環境カウンセラーから研修の広報協力依頼についてメール ・GEOC から能登震災復興シンポジウムについてのお知らせメール ・GEOC から EPO と ESD センター業務についての問合せ電話 ・自治体から環境審議会の日程調整についてのメール ・公益財団法人から環境保全関連助成金の広報協力依頼のメール

月	件数	相談・問合せ内容
		<ul style="list-style-type: none"> ・自治体から環境審議会の日程の連絡メール ・自治体から SDGs 関連事業への後援名義依頼のメール ・自治体から高大連携事業に関する電話 ・一般の方から高校生のいじめに関する電話
5月	13件	<ul style="list-style-type: none"> ・誤配の書類について問合せと依頼の電話 ・自治体から環境事業の広報協力の依頼の電話 ・環境教育コーディネートの打合せによる EPO 施設利用の問合せの電話 ・自治体から SDGs 学生サミットに関する問合せの電話 ・企業から後援名義使用についての問合せメール ・NPO 法人から助成事業の広報協力依頼のメール ・公益信託から自然環境助成事業について広報協力依頼のメール ・一般社団法人から講座の広報協力依頼のメール ・NPO 法人から高校生インターンシップ受入についての電話 (2件) ・自治体から環境イベント委員にかかる問合せの電話 (2件) ・自治体から環境関係デジタルブックについて問合せの電話
6月	14件	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体から県民向け教材の情報提供に対するお礼等のメール ・公益社団法人から環境イベントにかかるメルマガ掲載依頼のメール ・NPO から高校生インターン受入方法についての問合せ ・公益社団法人から環境イベントにかかる WEB/SNS 掲載依頼のメール ・教育機関から昨年度開催イベントの参加人数について問合せのメール ・NPO から助成事業について周知協力依頼のメール ・マンション施工会社から鳥の巣に関する問合せの電話 ・財団から表彰事業について web 掲載依頼のメール ・自治体から催事広報にかかるお願いのメール ・教育関係者から探求学習授業の講師紹介の可否の問合せ電話 ・一般社団の方から環境省事業関連の募集広報の協力依頼の電話・メール ・NPO から高校生インターンの受入プログラム・実施要項について電話・メール (2件) ・家電ゴミを引き取ってほしいという問い合わせの電話
7月	29件	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO から高校生インターンにかかる打合日程・巡回日調整等の電話・メール (2件) ・環境カウンセラーから地域循環共生圏について学びたい旨の電話 ・自治体から環境審議会の日程調整・開催日程に関するメール (2件) ・環境カウンセラーから来館希望メール ・他 EPO から求人への広報協力依頼のメール ・種名調べ支援事業にかかる広報協力依頼のメール ・一般の方からホームページ修正依頼のメールと電話 ・NPO から高校生インターン受入に関する書類・問合せの電話 (3件) ・企業から広報画像の提供に関するメール ・高校生 (インターン) 代表生徒から挨拶の電話 ・NPO から依頼している研修資料に関する電話 ・公益社団法人から掲載済の記事について修正依頼のメール ・企業から出展イベントの広報データ提供のメール ・顕彰事業及びシンポジウムの広報協力依頼のメール ・企業から web 掲載内容について確認のメール ・企業から出展催事のレイアウト及び手引きの修正について連絡のメール (3件) ・ほかの地方 ESD センターからアンケート手法について相談メールと電話 (2件) ・ほかの地方 ESD センターから能登の活動主体の紹介依頼メール ・企業から出展会場下見と出展者証の管理について電話 ・大学生から水素社会に関する研究活動への協力依頼のメール (2件) ・NPO からインターンシップ受入に関する個人情報の取扱いについてのメール
8月	21件	<ul style="list-style-type: none"> ・環境学習施設 (自治体) からオンライン講座の広報協力依頼のメール ・NPO から助成事業の広報協力依頼のメール ・企業から催事搬入時の書類に関する連絡のメール ・NPO からインターンシップ受入時の PC 及び巡回担当者について連絡の電話 ・全国センターから掲載済の記事について画像差替依頼のメール ・全国 ESD センターから ESD ワークブックについて問合せの電話 ・企業から EPO 催事について問合せの電話 ・企業から出展催事にかかる事前登録依頼のメール ・インターンシップ参加学生から事前課題提出のメール (4件) ・NPO 法人からインターンシップ巡回について問合せの電話 ・一般社団法人から主催催事の広報協力依頼のメール

月	件数	相談・問合せ内容
		<ul style="list-style-type: none"> ・自治体から環境イベントについて案内のメール ・大学からプロジェクトの広報協力依頼のメール ・小学校から ESD 講師派遣依頼の電話 ・自治体から SDGs 関連事業について web 掲載依頼のメール ・NPO からインターン制度について問合せの電話 ・企業から出展イベント備品代負担にかかる連絡のメール ・環境省の補助事業について広報協力依頼の電話とメール
9月	5件	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO から環境分野/清掃活動団体について照会のメール ・NPO から環境講座について広報依頼のメール ・環境省事業（受託事務局）から広報協力のメール ・公益財団法人から研修会広報のお礼・参加ご案内のメール ・独立行政法人からリーフレット配架依頼のメール
10月	12件	<ul style="list-style-type: none"> ・一般社団法人から脱炭素セミナーについて広報協力依頼の電話とメール ・前受託団体スタッフについて問合せの電話 ・行政機関からメルマガ配信に関する照会の電話 ・NPO 法人から礼状持参（来館）希望の電話 ・環境事務所職員募集情報について周知依頼のメール ・主催説明会の申込確認・案内メールについて問合せの電話（2件） ・協働コーディネーターから事務所開設とイベント案内のメール ・NPO 法人からコンポスト利用と市民連携について相談のメール ・催事参加者から資料提供についてのメール ・全国 EPO 連絡会②エクスカッションについての問合せの電 ・自治体から出展イベントについて問合せの電話
11月	6件	<ul style="list-style-type: none"> ・環境カウンセラーから地域循環共生圏について教授要望のメール ・公益財団法人から助成金広報依頼のメール ・環境活動団体から外来魚情報交換会の案内メール ・自治体が後援イベントの広報協力の依頼メール ・一般市民からリサイクル品の輸出入の方法についての相談の電話 ・公財法人からイベントの広報協力の依頼メール
12月	9件	<ul style="list-style-type: none"> ・一般財団法人から助成事業について案内メール ・新聞社から SDGs 表彰事業の周知協力のメール ・一般の方（ボランティア）から落ち葉等を入れる袋の配布について問合せの電話 ・環境省から職員募集についてメルマガ掲載依頼のメール ・外来魚関連シンポジウムについて案内のメール ・独立行政法人から研修事業の広報協力メール ・NPO から広報協力メール ・他 EPO から事業に関する問い合わせの電話 ・一般社団法人からバイオマス関連セミナーについて web 掲載依頼のメール
1月	11件	<ul style="list-style-type: none"> ・一般社団法人から助成金公募の案内メール ・自治体から ICT 活用講座について案内のメール ・催事申込者から問合せのメール ・自治体から催事の広報依頼についての電話とメール ・任意団体から外来魚情報交換会に関する追加情報提供のメール ・催事申込者から出欠変更の電話 ・公益財団法人からイベントの広報協力依頼メール ・他 ESD センターから催事広報協力依頼のメール（3件） ・作業部会②参加の大学教授からのご挨拶メール
2月	4件	<ul style="list-style-type: none"> ・協働コーディネーターから SDGs ロゴ使用申請について問合せの電話（2件） ・ほか地方 EPO から地域循環共生圏事業に関わる問合せ電話 ・イベントの広報協力依頼メール
3月	6件	<ul style="list-style-type: none"> ・企業から SDGs 関連催事についての相談日程について照会のメール ・ESD 拠点団体から後援名義使用にかかる問合せと依頼の電話 ・NPO 法人から地域循環共生圏づくり支援体制構築事業にかかる経費変更について相談のメール ・公益財団法人からメルマガ掲載確認と御礼のメール ・全国センターから関係団体の広報協力依頼メール ・中部事務所からの広報協力依頼メール・電話
計	150件	

(イ) 会議・セミナー等地域活動への招聘

- EPO 中部／中部地方 ESD 活動支援センターが自治体・団体等から招聘された会議等は次表の通りである。
- 会議出席のほか、講師としての登壇など、関係主体の依頼に対し適宜対応した。
- これらの会議等への出席対応を通じて、地域での協働体制の構築及びノウハウの蓄積を行うとともに、構築したネットワークをEPO業務にも活かしている。

No.	県区分	開催日	依頼主体等	依頼事業等の名称	依頼内容	方法	謝金
1	愛知	4月10日	名古屋市環境企画課	環境デーなごや実行委員会	委員	対面	あり
2	福井	4月20日	日本環境教育学会中部支部	中部支部大会	学び合いプロジェクト発表	対面	なし
3	愛知	4月23日	名古屋市環境局環境企画課	SDGsまちづくり事業プロポーザル	審査員(書面審査)	その他	あり
4	愛知	6月10日	名古屋私立山守中学校	「気候変動と脱炭素」講座	講師	対面	あり
5	愛知	6月12日	愛知県教育委員会	ユネスコスクール支援会議	委員	対面	あり
6	愛知	7月7日	愛知県環境政策課	あいちサステナ研究所基礎講座	講師	対面	あり
7	その他	7月11日	ミステリーワークショップ体験ゼミ	都留文科大学田開研究室	話題提供者	対面	なし
8	中部	7月19日	全国地球温暖化防止活動推進センター	中部ブロック会議	話題提供者	対面	なし
9	愛知	8月3日	愛知県環境カウンセラー協会	環境教育インストラクターセミナー	講師	対面	あり
10	その他	8月16日	地理総合授業 ESD パッケージ検討勉強会	都留文科大学田開研究室	ファシリテーター	対面	なし
11	愛知	8月21日	アサヒ飲料株式会社	SDGs 将来世代想像フォーラム 2024	ブース出展	対面	なし
12	長野	8月30日	信州 ESD コンソーシアム	信州 ESD コンソーシアム通常総会	構成団体	オンライン	なし
13	愛知	11月6日	愛知県地球温暖化防止活動推進センター	中部ブロック会議	ディスカッションのサポーター	対面	なし
14	愛知	12月17日	愛知県教育委員会	ユネスコスクール支援会議	委員	対面	あり
15	愛知	12月18日	全国地球温暖化防止活動推進センター	デコ活応援団地域交流会 中部ブロック	招待参加	対面	なし
16	愛知	1月23日	愛知県地球温暖化防止活動推進センター	気候危機対策交流フォーラム	トークセッションコーディネーター	対面	なし
17	長野	1月25日	中部大学、都留文化大学	学輪IIAブース出展	ワークショップコーディネーター	対面	なし
18	その他	1月29日	北陸ESD推進コンソーシアム	北陸ESD推進連絡協議会	協議会メンバー	オンライン	なし

(ウ) そのほか打合せや地域主体との意見交換会等の実施

- 本業務に関連する地域の会合や地域活動等への参加・出席、業務協力者等との打合せを次表の通り行った。
- 地域を訪問した際には、できるだけ関係自治体や関係団体等も訪問するなどして、意見交換・情報交換や相談対応等もあわせて実施した。

No.	県区分	実施日	打合せ主体(担当組織・部署)	方法	実施内容
1	中部	4月9日	環境教育学会中部支部定例研究会	オンライン	研究会に参加、中部地方事例取材
2	愛知	4月10日	名古屋市環境局環境企画課	面談	SDGsまちづくり事業プロポーザルについての審査依頼
3	その他	4月11日	日本青年会議所GX推進委員会	面談	脱炭素経営普及啓発協力依頼
4	その他	4月16日	ESD活動支援センター	面談	年度初めの情報交換
5	その他	4月17日	GEOC	面談	年度初めの情報交換
6	愛知	4月18日	中部大学古澤先生	面談	有識者検討会への参加依頼
7	福井	4月20日	水上氏、坂井市関係者	面談	学び合いプロジェクトについての説明と依頼
8	長野	4月23日	長野県NPOセンター、芋井地区住民自治協議会	面談	地域循環共生圏事業支援についての打合せヒアリング
9	愛知	4月25日	(仮)半田市地域循環共生圏推進協議会、半田市	面談	地域循環共生圏事業支援についての打合せヒアリング
10	福井	4月26日	エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま、合同会社ローカルSDクリエイション	面談	地域循環共生圏事業支援についての打合せヒアリング

No.	県区分	実施日	打合せ主体(担当組織・部署)	方法	実施内容
11	中部	5月1日	EPO中部ESDC有識者検討会メンバー	オンライン	第1回検討会の事前説明
12	愛知	5月2日	名古屋市立守山中学校	面談	授業実施の事前意見交換
13	その他	5月9日	環境教育学会気候変動教育研究会	オンライン	研究会成果の共有と意見交換
14	愛知	5月13日	アサヒ飲料	面談	SDGsフォーラム出展に関する意見交換
15	愛知	5月16日	愛知教育大学	面談	学び合いPワークショップについての意見交換
16	愛知	5月17日	半田市地域循環共生圏推進協議会、半田市	面談	地域循環共生圏事業支援についての打合せ
17	福井	5月21日	エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま、合同会社ローカルSDクリエイション	面談	地域循環共生圏事業支援についての打合せ
18	長野	5月22日	長野県NPOセンター、芋井地区住民自治協議会	面談	地域循環共生圏事業支援についての打合せ
19	中部	5月22日	運営委員・伊藤座長	オンライン	運営委員会の座長レク打合せ
20	富山	5月24日	PECとやま	オンライン	全国EPO連絡会富山開催の打合せ、地域循環共生圏フォーラムについて企画打合せ
21	富山	5月24日	株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズ	その他	地域循環共生圏フォーラムについて電話打合せ
22	愛知	5月29日	愛知県環境政策課	面談	あいちサステイナ研究所の講義依頼
23	愛知	5月31日	守山中学校	面談	授業実施の事前確認
24	岐阜	6月4日	飛騨高山ジオパーク推進協会	面談	ESDダイアログ協力打診
25	岐阜	6月4日	高山市環境政策課	面談	ESDダイアログ協力打診
26	岐阜	6月4日	高山市総合政策課	面談	学生サミット協力打診
27	福井	6月6日	坂井市環境課、教育委員会	面談	学び合いP実践セミナー開催依頼
28	愛知	6月7日	中部大学国際GISセンター	面談	GIS活用の情報収集
29	富山	6月7日	PECとやま、株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズ	オンライン	全国EPO連絡会富山開催についての打合せ
30	富山	6月7日	NPOまちづくりスポットとやま	オンライン	全国EPO連絡会富山開催についての打合せ
31	岐阜	6月11日	高山市教育委員会	面談	ESDダイアログ協力打診
32	岐阜	6月11日	高山市環境政策課	面談	ESDダイアログ協力打診
33	岐阜	6月11日	高山市総合政策課	面談	学生サミット協力打診
34	岐阜	6月11日	飛騨高山大学連携センター	面談	地域フォーラム登壇依頼
35	その他	6月13日	白梅学園大学	面談	地域フォーラム登壇依頼と打合せ
36	愛知	6月25日	愛知教育大学	面談	学び合いの場①事前打ち合わせ
37	富山	7月4日	PECとやま、株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズ、NPOまちづくりスポットとやま	オンライン	全国EPO連絡会富山開催エクスカーションについての打合せ
38	愛知	7月9日	NPOアスクネット	面談	高校生インターン受け入れの打合せ
39	その他	7月10日	早稲田大学研究チーム赤尾先生班	オンライン	地域循環共生圏事例尾鷲ヒアリング調査事前打ち合わせ
40	福井	7月10日	越前市環境政策課	オンライン	白書を読む会の打合せ
41	長野	7月16日	長野県NPOセンター	面談	地域循環共生圏事業支援についての打合せ
42	長野	7月16日	アソビバ、長野県NPOセンター	面談	地域循環共生圏事業支援・中間共有会の会場打合せ
43	その他	7月19日	全国EPO連絡会②四者会議	オンライン	全国EPO連絡会②富山開催についての打合せ
44	その他	7月23日	四国ESDセンター相談対応	オンライン	ESDイベント(展示会形式)に関わるアンケート実施方法についての情報交換
45	その他	7月23日	関東ESDセンター相談対応	オンライン	佐渡のトキの保全団体からの能登でのトキ放鳥への協力のマッチングの可能性について意見交換
46	富山	7月26日	富山市、NPOまちづくりスポット	面談	全国EPO連絡会②富山開催についての協力依頼打合せ
47	富山	7月26日	南砺市、PECとやま	面談	全国EPO連絡会②富山開催についての協力依頼打合せ
48	長野	7月30日	早稲田大学研究チーム、小布施町、勝亦先生	面談	GEOC、早稲田大学北信スマートテロワールヒアリング対応
49	長野	7月31日	早稲田大学研究チーム、食の未来会議、勝亦先生	面談	GEOC、早稲田大学北信スマートテロワールヒアリング対応
50	富山	8月1日	PECとやま、株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズ	面談	地域循環共生圏フォーラムについての打合せ
51	岐阜	8月7日	高山市教育委員会	面談	ESDダイアログの打合せ

No.	県区分	実施日	打合せ主体(担当組織・部署)	方法	実施内容
52	三重	8月8日	早稲田大学研究チーム、尾鷲市役所	面談	GEOC、早稲田大学 尾鷲市役所 SEAモデル担当ヒアリング対応
53	三重	8月8日	早稲田大学研究チーム、中部電力	面談	GEOC、早稲田大学 中部電力ヒアリング対応
54	三重	8月8日	早稲田大学研究チーム、尾鷲商工会議所副会頭	面談	GEOC、早稲田大学 尾鷲商工会議所副会頭ヒアリング対応
55	三重	8月9日	早稲田大学研究チーム、尾鷲市長	面談	GEOC、早稲田大学 尾鷲市長ヒアリング対応
56	三重	8月9日	早稲田大学研究チーム、尾鷲商工会議所	面談	GEOC、早稲田大学 尾鷲商工会議所ヒアリング対応
57	三重	8月9日	早稲田大学研究チーム、尾鷲物産	面談	GEOC、早稲田大学 尾鷲物産ヒアリング対応
58	三重	8月9日	早稲田大学研究チーム、尾鷲商工会議所	面談	GEOC、早稲田大学 尾鷲市役所ゼロカーボン担当ヒアリング対応
59	福井	8月19日	ローカル SD クリエーション	面談	地域循環共生圏事業意見交換
60	愛知	8月20日	インターン南山女子高校	面談	インターン高校生受入対応
61	愛知	8月21日	インターン南山女子高校	面談	インターン高校生受入対応
62	愛知	8月22日	インターン南山女子高校	面談	インターン高校生受入対応
63	愛知	8月23日	インターン南山女子高校	面談	インターン高校生受入対応
64	愛知	8月26日	半田市環境課	面談	地域循環共生圏事業意見交換
65	その他	8月26日	WoW キツネザルさん事務所	オンライン	SDGs あいちエキスポ 10/10 ステージ企画登壇者との打合せ
66	愛知	8月27日	基目寺小学校	オンライン	職員研修講師マッチング打合せ
67	その他	8月27日	全国 EPO 連絡会②四者会議	オンライン	全国 EPO 連絡会②富山開催についての打合せ
68	その他	9月1日	環境教育学会気候変動研究会	オンライン	自主課題研究:気候変動教育を進めるための教育のプログラムとシステムを考える Zoom ミーティング参加
69	岐阜	9月3日	奥飛騨ビジターセンター	オンライン	ESD ダイアログ実施要領打合せ
70	福井	9月12日	越前市環境政策課	面談	白書を読む会の会場確認打合せ
71	福井	9月12日	仁愛大学・西出教授	面談	白書を読む会への学生参加の協力依頼打合せ
72	福井	9月12日	ほたるの里丁有機農法研究会	面談	白書を読む会の登壇打合せ
73	その他	9月12日	WoW キツネザルさん事務所	オンライン	SDGs あいちエキスポ 10/10 ステージ企画登壇者との打合せ
74	その他	9月15日	日本環境共生学会	オンライン	評価手法検討 WKG 内容オンライン発表
75	三重	9月18日	鳥羽市環境課	オンライン	SH 連携:鳥羽会合企画の打合せ
76	岐阜	9月20日	奥飛騨ビジターセンター	オンライン	ESD ダイアログエクスカージョン打合せ
77	富山	9月26日	協働コーディネーター:堺氏・茶木氏	面談	ハッピー上市会でのWSの事前打合せ、
78	富山	9月26日	上市町副町長、協働コーディネーター:堺氏・茶木氏	面談	地域循環共生圏フォーラム in 上市の協力依頼のご挨拶
79	富山	9月26日	ハッピー上市会、協働コーディネーター:堺氏・茶木氏	面談	地域循環共生圏フォーラム in 上市の企画検討打合せ
80	愛知	10月12日	リデザインプロジェクト:加藤氏	面談	サーキュラーエコノミー鶴舞講演イベントワークショップ打合せ
81	福井	10月15日	学び合いP有識者:古澤先生・水上氏	オンライン	学び合いプロジェクト実践セミナー打合せ
82	富山	10月15日	PECとやま、株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズ	オンライン	地域循環共生圏フォーラムin上市の企画検討打合せ
83	長野	10月17日	松本大学学生	オンライン	学生ESD活動アドバイス、意見交換
84	その他	10月21日	東京都市大学	オンライン	ローカルSDGs活動評価意見交換
85	その他	10月22日	中部地方環境事務所	面談	EPO業務の展開についての意見交換
86	愛知	10月28日	中部大学福井先生、古澤先生	面談	地域づくり人づくりと環境政策に関する意見交換
87	富山	11月1日	PECとやま、株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズ	面談	地域循環共生圏フォーラムin上市の運営打合せ
88	富山	11月1日	上市町町長・副町長、株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズ	面談	地域循環共生圏フォーラムin上市の協力依頼のご挨拶
89	愛知	11月13日	中部大学国際ESD・SDGsセンター	オンライン	中部大学ESD・SDGs研究・活動発表会参加
90	岐阜	11月14日	岐阜市教育委員会、学校教諭、NPO	オンライン	ESDダイアログ登壇者顔合わせ、打合せ
91	岐阜	11月14日	信州大学	オンライン	ESDダイアログ登壇者顔合わせ、打合せ
92	岐阜	11月14日	一般社団法人 ふるさと体験飛騨高山	オンライン	ESDダイアログ登壇者顔合わせ、打合せ

No.	県区分	実施日	打合せ主体(担当組織・部署)	方法	実施内容
93	長野	11月14日	飯田市役所、中部大学	オンライン	飯田市職員GIS活用研修打合せ
94	三重	11月20日	鳥羽市環境課、観光商工課	オンライン	SH連携:鳥羽会合企画の打合せ
95	愛知	11月21日	愛知県環境調査センター、トークセッション登壇者	面談	気候危機対策交流フォーラム登壇者、トークセッションの打合せ
96	愛知	11月25日	愛知県環境調査センター、基調講演依頼者	オンライン	気候危機対策交流フォーラム基調講演、トークセッションの打合せ
97	富山	11月25日	PECとやま、株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズ	オンライン	地域循環共生圏フォーラムin上市の運営打合せ
98	富山	12月3日	イナミライデザイン	オンライン	学生サミット登壇、活動見える化プログラム分析打合せ
99	愛知	12月6日	愛知学院大学、中部大学	面談	連携の可能性の打合せ
100	その他	12月6日	各地方EPO	オンライン	地域循環共生圏事業プロジェクトチーム打合せ
101	富山	12月9日	イナミライデザイン	オンライン	学生サミット活動見える化プログラム分析打合せ
102	愛知	12月10日	半田市地域循環共生圏推進協議会、半田市	面談	地域循環共生圏事業支援についての打合せ
103	福井	12月12日	エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま、合同会社ローカルSDクリエーション	面談	地域循環共生圏事業支援についての打合せ
104	長野	12月13日	長野県NPOセンター、芋井地区住民自治協議会	面談	地域循環共生圏事業支援についての打合せ
105	長野	12月18日	松本大学田開研究室	オンライン	SDGs学生サミット事前会合
106	愛知	12月18日	中部大学ESDエコマネージャーチーム	オンライン	SDGs学生サミット事前会合
107	愛知	12月25日	中部ESD拠点協議会事務局長	面談	関東地方の水辺活動団体のマッチング
108	愛知	12月25日	中部大学国際GISセンター、都留文科大	オンライン	1月25日開催学輪IDAのブース出展に関する打合せ
109	石川	1月6日	金沢星稜大学新ゼミ	オンライン	SDGs学生サミット事前会合
110	中部	1月8日	学生サミットファシリテーター	オンライン	学生サミットディスカッション打合せ
111	中部	1月8日	1/27セミナーパネリスト	オンライン	1/27セミナートークセッション打合せ
112	富山	1月9日	富山大学	オンライン	学生サミット事前会合:富山大学
113	富山	1月10日	第一学院高校富山キャンパス	オンライン	学生サミット事前会合:第一学院高校富山キャンパス
114	その他	1月14日	中部地方環境事務所	面談	適応業務関連打合せ
115	富山	1月20日	PECとやま、株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズ	オンライン	地域循環共生圏フォーラムin上市の運営打合せ
116	愛知	1月22日	北名古屋環境課	面談	廃棄物政策に関わる意見交換
117	愛知	1月24日	中部大学国際GISセンター	面談	SDGs学生サミットハブ会場の打合せ
118	長野	1月25日	環境教育専門家	面談	ESDIに関するヒアリング
119	愛知	1月30日	あま市小学校教諭	面談	ESDIに関するヒアリング
120	長野	2月1日	長野県NPOセンター、芋井地区住民自治協議会	オンライン	SHミーティング
121	中部	2月3日	運営委員・伊藤座長	オンライン	運営委員会の座長レク打合せ
122	中部	2月5日	中部共進化座談会登壇者	オンライン	座談会打合せ
123	愛知	2月7日	半田市地域循環共生圏推進協議会、半田市	面談	SHミーティング
124	福井	2月12日	エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま、合同会社ローカルSDクリエーション	オンライン	SHミーティング
125	富山	2月17日	PECとやま、株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズ	オンライン	地域循環共生圏フォーラムin上市の運営打合せ
126	愛知	2月20日	株式会社スズマサ	面談	ESD・DGsヒアリング
127	愛知	2月20日	こいけやクリエイト	面談	ESD・DGsヒアリング
128	愛知	2月20日	豊田市環境政策課	面談	自然資本関係施設公園についてヒアリング
129	愛知	3月3日	中部圏社会経済研究所	面談	中部共進化座談会打合せ
130	富山	3月5日	PECとやま	オンライン	行動変容ヒアリング
131	愛知	3月5日	名古屋市立大学	面談	中部共進化座談会打合せ
132	愛知	3月5日	東海学園大学	面談	中部共進化座談会打合せ
133	岐阜	3月6日	高山市役所環境政策課	その他	行動変容ヒアリング(ESD ダイアログ)
134	福井	3月6日	坂井市役所環境推進課	その他	行動変容ヒアリング(学び合いP実践セミナー)


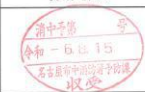
No.	県区分	実施日	打合せ主体(担当組織・部署)	方法	実施内容
135	長野	3月7日	松本大学	その他	行動変容ヒアリング(SDGs 学生サミット)
136	愛知	3月8日	名古屋市立大学、名古屋市立高校の高校生	面談	探究学習の実情や成果に関する情報収集
137	富山	3月10日	株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズ	オンライン	行動変容ヒアリング
138	愛知	3月17日	アサヒ飲料	面談	8/21 イベント成果報告、意見交換

(3) 施設の維持・管理

(ア) オフィスの防火・防災管理及び解錠・施錠管理

- 防火・防災管理については、消防法に則り、EPO 中部の常勤スタッフが 2018 年度に「防火・防災管理者」講習を受講した上で消防計画書等を作成、管轄消防署への届出を行った。また、防火・防災管理者講習から 5 年度目にあたる 2023 年度に、名古屋市の防火・防災管理再講習を同スタッフが受講し、今年度も継続して防火・防災管理者を務めている。
- 入居ビル管理会社が実施する消防訓練の第 1 回目の訓練が 6 月 25 日に実施され、EPO 中部スタッフ 1 名が参加した。また、第 2 回目の総合防災訓練が 11 月 21 日に実施され、EPO 中部スタッフ 2 名が参加した。
- このほか、日常的な防火・防災対応として、身のまわりの防火・防災に関わるチェックを定期的に（週 2 回程度）実施し、関係書類等を「防火管理台帳」で保管している。
- ビル内全テナントを対象にした防火・防災検査が 7 月 23 日に実施され、消防署に提出した防火・防災点検結果報告書を中部地方環境事務所とも共有した。

【防火・防災管理点検結果報告書】

<p>別記様式第1 防火対象物点検結果報告書 令和 6 年 8 月 15 日 名古屋市 中消防署長 殿 管理棟原者 住 所 名古屋市中区二の丸2-5-2 中部地方環境事務所 氏 名 総務課長 内田 正明 電話番号 052-955-2130</p> <p>下記のとおり防火対象物の点検を実施したので、消防法第8条の2の2第1項の規定に基づき報告します。</p> <p>記</p>		<p>別記様式第1 防災管理点検結果報告書 令和 6 年 8 月 15 日 名古屋市 中消防署長 殿 管理棟原者 住 所 名古屋市中区三の丸2-5-2 中部地方環境事務所 氏 名 総務課長 内田 正明 電話番号 052-955-2130</p> <p>下記のとおり防災管理対象物の点検を実施したので、消防法第36条第1項において準用する同法第8条の2の2の第1項の規定に基づき報告します。</p> <p>記</p>	
防 火 対 象 物	所在地 名古屋市中区錦二丁目4番3号 名 称 錦パークビル 階数棟原の場合に管理棟原に属する部分の名称 4階 環境省中部環境パートナーシップオフィス 用途※1 事務所 令別表第一(15項) 構造・規模 耐火 造 地上 22 階 地下 4 階 床面積 3,335.78 ㎡ 延べ面積 27,227.54 ㎡	防 災 管 理 対 象 物	所在地 名古屋市中区錦二丁目4番3号 名 称 錦パークビル 階数棟原の場合に管理棟原に属する部分の名称 4階 環境省中部環境パートナーシップオフィス 用途※1 事務所 令別表第一(15項) 構造・規模 耐火 造 地上 22 階 地下 4 階 PH 2 階 床面積 3,335.78 ㎡ 延べ面積 27,227.54 ㎡
点 検 実 施 日	令和 6 年 7 月 23 日	点 検 実 施 日	令和 6 年 7 月 23 日
消防法施行規則第4条の2の6第2項の適用	<input type="checkbox"/> 第1号 <input type="checkbox"/> 第2号 <input type="checkbox"/> 第3号	消防法施行規則第4条の2の6第2項の適用	<input type="checkbox"/> 第1号 <input type="checkbox"/> 第2号 <input type="checkbox"/> 第3号
住 所	名古屋市中区錦二丁目90番地 電話番号 052-589-3249	住 所	名古屋市中区錦二丁目90番地 電話番号 052-589-3249
氏 名	渡邊 岳成 (能美防災株式会社 中部支社)	氏 名	渡邊 岳成 (能美防災株式会社 中部支社)
講習機関名	免状交付年月日 免状交付番号 有効期限	講習機関名	免状交付年月日 免状交付番号 有効期限
免 状	(財)日本消防協会 令和5年12月13日 第441600203号 令和11年3月31日	免 状	(財)日本消防協会 令和6年6月19日 第642101532号 令和12年3月31日
受付欄※2	経過欄※2	備考※2	
			
<p>備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。2 ※1欄は、複数棟原の場合にあっては管理棟原に属する部分の情報を記入すること。3 ※2欄は、記入しないこと。</p>		<p>備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。2 ※1欄は、複数棟原の場合にあっては管理棟原に属する部分の情報を記入すること。3 ※2欄は、記入しないこと。</p>	

(イ) 施設・設備の維持管理

- 来館者が快適に利用できるよう、オフィス内を常に整頓・整理し、施設・設備の維持管理を行った。

(ウ) その他オフィス運営に係る事務等

- オフィスの運営に必要な機材等を揃え、その使用料の支払等の維持管理に必要な事務を行った。

2024年11月に、中部地方環境事務所から貸与されているパソコン7台のうち6台について、Windows10サポート終了に伴い、廃棄処分を行うため、年度末までに事務所側へ返却するための手続きを行った（残りの貸与パソコン1台はWindows11であるため継続して使用）。

4 協働取組の促進のための業務

(1) 自治体・協働コーディネーターのネットワークを活用した環境教育の推進

ア 中間支援をテーマにしたセミナーの開催

① イベント名

- 地域循環共生圏づくり支援セミナー2024
「環境とともに地域の経済(なりわい)・社会(人々の暮らし)をつなぐ地域循環共生圏づくりとは」

② 日時

- 2025年1月27日(月) 13:45~16:15

③ 会場

- ウィンクあいち 会議室 1308(愛知県名古屋市)

④ 参加者

- 参加 37名(登壇者 5名、zoom参加 4名、YouTubeライブ配信視聴者 28名)

⑤ プログラム

- あいさつ/地域循環共生圏とは 環境省中部地方環境事務所
- 基調講演「地域循環共生圏づくりにおいて大切なこと」
NPO 持続可能な社会をつくる元気ネット理事長 鬼沢 良子
- 講演/情報提供 地域経済循環分析について～地域循環共生圏づくりに向けて～
株式会社 価値総合研究所 ポリシーエンジニアリング事業部長 佐原 あきほ
- トークセッション「“地域循環共生圏になっている”とはどういうことか？」
パネリスト
NPO 持続可能な社会をつくる元気ネット理事長 鬼沢 良子
株式会社 価値総合研究所 ポリシーエンジニアリング事業部長 佐原 あきほ
一般社団法人環境市民プラットフォームとやま 常務理事/事務局長 堺 勇人
中部大学国際ESD・SDGsセンター 准教授 古澤 礼太
アルマス・バイオコスモス研究所 代表 水上 聡子
コーディネーター: EPO 中部 原 理史



イ 協働コーディネーターによる意見交換会の開催

①日時

- 2024年8月28日（水）13:20～16:20

②会場

- ウィンクあいち 会議室 1306（愛知県名古屋市中区）

③出席者

- 協働コーディネーター7名

茶木 勝	株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズ 代表取締役
塚 勇人	一般社団法人環境市民プラットフォームとやま常務理事/事務局長
中里 茂	環境カウンセラー
三田村 佳政	合同会社ローカルSDクリエイション 社長
山田 勇	特定非営利活動法人わおん
吉田 喜美夫	特定非営利活動法人長野県NPOセンター コーディネーター
寺田 卓二	一般社団法人ネクストステップ研究会 代表

- オブザーバー、事務局等9名

猪岡 貴光	環境省 中部地方環境事務所 環境対策課長
縄野 正衡	環境省 中部地方環境事務所 環境対策課長補佐
野田 武志	オブザーバー、一般財団法人セブン-イレブン記念財団
武内 淳久	オブザーバー、一般財団法人セブン-イレブン記念財団
尾山 優子	オブザーバー、地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）
鈴木 良壽	オブザーバー、地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）
清本 三郎	中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）
原 理史	中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）
富田 夏子	中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）

④協議項目

- 自己紹介と近況報告
- 話題提供1：中部地方環境事務所からの情報提供・共有等
- 話題提供2：協働コーディネーターから話題提供
- 話題提供3：EPO 中部から話題提供
- 質問タイム及び意見交換



参考) 協働コーディネーター意見交換会で提示された主な意見等

地域循環共生圏づくりと中間支援

- 地域循環共生圏づくりにおける中間支援の重要性を本会合で再確認できた。中間支援主体の育成に向けた取組が必要とされている。
- 中間支援者／コーディネーターの活動は収益確保が難しく、自身も事業を展開しなくてはならないのが実情である。
- 地域づくりの中間支援は、住民の幸せ度を上げることを目指し、共感を形にする必要がある。

放置竹林の活用(※放置竹林の整備・活用等に取り組むコーディネーターが複数名いる)

- 地元産業の活性化には、地元資源の活用が重要である。
- 特に、竹は、持続可能な資源であり、プラスチックの代替品として有望であることから、竹の利用促進を図ることで、地元産業の活性化にも寄与する可能性を有しているのでは。

地域(活動)における課題等

- 地域活動や環境活動においても、経済性を考慮したソーシャルビジネス化が重要となっており、その勉強会等をEPOで開催してほしい。
- 地方では、就労の場不足等の問題と共に、交通手段・二次交通の問題が地域活性化の大きな障害となっている。また、地域の少子高齢化対策には移住政策と共に、地域住民が住み続けたいと思えるような、地域の活力向上策の両展開が必要である。

そのほか

- 協働コーディネーターを新たに育成する必要がある。

13

(2) 自治体・協働コーディネーターとの連携による実践的な取組（地域循環共生圏フォーラムの開催）

ア 企画段階の協働プロセス

- 富山県でそれぞれ活動している2名の協働コーディネーターに、本業務の富山県内での開催への協力を依頼し、6月7日にオンライン打合せを実施し、富山県上市町で全2回の「地域循環共生圏フォーラム」を開催した。
- 8月1日に会場確認を行いつつ、協力いただける協働コーディネーターと企画内容の詳細について協議した。また、上市町の事業者を中心とした有志で構成されるハッピー上市会の協力を得て開催することが決定した。
- 9月26日に上市町役場を訪問するとともに、ハッピー上市会の9月会合に参加し、地域循環共生圏の概説とフォーラム企画内容の説明を行い、フォーラムへの協力・参画等を呼びかけた。
- 11月1日に、上市町在住の協働コーディネーターと共に町役場を再度訪問し、地域循環共生圏や本フォーラムについて説明し、副町長とハッピー上市会による挨拶登壇の依頼などを行った。
- このほか、フォーラム開催までのプロセスの中で、中間支援の立場で参画する協働コーディネーター2名により、町やハッピー上市会との接見、打合せ等を行ったほか、第2回フォーラムに登壇する地域住民4名（第1回フォーラムのグループディスカッションで提案されたローカルSDGs事業のアイデアを第2回フォーラムで発表する「チーム上市」メンバー）との打合せなどが地域側で自主的に行われた。

イ 第1回 地域循環共生圏フォーラムの開催

①イベント名

- 地域循環共生圏フォーラム in 上市町「みんなで描く! “つながる” “めぐる” 上市町」
第1回 ワークショップ編：上市の “つながる” “めぐる” をみんなで描く！

②日時

- 2024年12月7日（土）13：30～16：00

③会場

- カミール大ホール（富山県上市町）

④主催等

- 主催：環境省中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）
- 後援：上市町、上市町商工会
- 協力：ハッピー上市会
- EPO 中部・協働コーディネーター：株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズ／一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま（PEC とやま）

⑤参加者

- 28名

⑥プログラム

- あいさつ 上市町 ハッピー上市会
- チェックイン 趣旨説明、自己紹介
- はじめに 環境省中部地方環境事務所課長補佐 縄野 正衡
- 問題提起「 “つながる” “めぐる” はなぜ必要？」 PEC とやま常務理事／事務局長 堺 勇人 氏
- 上市町における構想(案)事例
「地域の未利用材や地域課題を地域資源に転換する/つなげることから地域循環共生圏づくりへ」
株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズ代表取締役 茶木 勝 氏
- グループ・ワークショップ
「上市の “つながる” “めぐる” アイデアを考えてみよう！」
ファシリテーター：PEC とやま常務理事／事務局長 堺 勇人 氏



⑦開催案内チラシ

地域循環共生圏フォーラム in 上市町

参加無料

**みんなで描く！
「つながる、めぐる」
上市町**

地域も、自然も、人々も、末長く豊かでいられる
「つながり、やめぐる」のある地域に。
上市町でもそのような地域の未来像をみんなで描きたい。
そんなフォーラム（全2回）を開催いたします。

[第1回] **12月7日 土**
2024年 **13:30~16:00**

**上市町まちなか交流プラザ 4階
カミールホール**

富山県上市町西中町11 <http://www.comeal.com/access/>

※第2回は、2025年2月22日（土）開催予定です。

**第1回
ワークショップ編**

**「上市の「つながる、めぐる」を
みんなで描く！」**

- ごあいさつ** 上市町
ハッピー上市会
環境省 中部地方環境事務所
- 上市の「つながる、めぐる」事例の紹介**
[問題提起] 「つながる、めぐる」はなぜ必要？
堺 勇人氏 PEC とやま常務理事 / 事務局長
[上市町における
構想（案）事例] 地域の未利用材や地域課題を地域資源に転換する
／つなげることから地域循環共生圏づくりへ
茶木 勝氏 株式会社ティール・ツリー・コミュニケーションズ代表取締役
- グループ・ワークショップ**
上市の「つながる、めぐる」アイデアを考えてみよう！
ファシリテーター：堺 勇人氏 PEC とやま常務理事 / 事務局長

参加申込フォーム（※第1回のみ）
<https://forms.gle/YTBroEA69XITWez7>

 **WEB** [epo-chubu.jp](http://www.epo-chubu.jp)
<http://www.epo-chubu.jp>
 @EPOchubu

★ 2025年2月22日（土）開催の
「第2回フォーラム」については、
裏面をご参照ください。

EPO中部
Environmental Partnership Office Chubu
環境省中部環境パートナーシップオフィス

主催：環境省 中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）
後援：上市町 / 上市町商工会
協力：ハッピー上市会
EPO 中部・協働コーディネーター：株式会社ティール・ツリー・コミュニケーションズ / 一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま（PEC とやま）

みんなで描く！
つながる、めぐる、
上市町

第2回 発表&ディスカッション編

つながる、めぐる、

地域循環共生圏を上市で考える！

日時：2025年2月22日（土）13:30～16:00

会場：上市町まちなか交流プラザ 4階・カミールホール

申込方法：第1回フォーラム開催日から参加申込を受付開始予定です。

プログラム（予定）

- **ごあいさつ** 上市町
ハッピー上市会
環境省 中部地方環境事務所
- **事例紹介**
 - ① **他地域の実践事例**
「北信スマートテロワール～自立（律）分散型の地域循環共生圏づくりの試み」
勝亦 達夫 氏 信州大学キャリア教育・サポートセンター講師
 - ② **上市で検討したアイデア**
第1回フォーラムでのワークショップ結果をご紹介
チーム上市（第1回フォーラム参加者より）
 - ③ **上市での構想（案）事例**
（株）ティー・ツリー・コミュニケーションズによる
地域循環共生圏につながる取組から（仮）
茶木 勝 氏 株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズ代表取締役
- **パネルディスカッション**
「みんなで描く！ 〰つながる、〰めぐる、地域循環共生圏」
ナビゲーター：堺 勇人 氏 PEC とやま常務理事 / 事務局長

.....

映画「夢みる給食」の上映会を、第2回フォーラムと同時開催予定です！

ウ 第2回 地域循環共生圏フォーラムの開催

①イベント名

- 地域循環共生圏フォーラム in 上市町「みんなで描く! “つながる” “めぐる” 上市町」
第2回 発表&ディスカッション編：住みつづけられる地域のあり方を “つながる” “めぐる” から考える!

②日時

- 2025年2月22日(土) 13:30~16:00

③会場

- カミール大ホール (富山県上市町)

④主催等

- 主催：環境省中部環境パートナーシップオフィス (EPO 中部)
- 後援：上市町、上市町商工会
- 協力：ハッピー上市会
- EPO 中部・協働コーディネーター：株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズ／一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま (PEC とやま)

⑤参加者

- 34名

⑥プログラム

- あいさつ 上市町 ハッピー上市会
- はじめに/地域循環共生圏とは 環境省中部地方環境事務所 課長補佐 縄野 正衡
- 【①他地域の実践事例紹介】北信スマートテロワール～自立(律)分散型の地域循環共生圏づくりの試み
勝亦達夫氏 信州大学キャリア教育・サポートセンター講師
- 【②上市での構想(案)事例】上市アグリパーク構想(仮称)で地域循環共生圏を描く
茶木勝氏 (株)ティー・ツリー・コミュニケーションズ代表取締役
- 【③上市で検討したアイデア】
 1. 背景説明：PEC とやま常務理事/事務局長 塚勇人氏
 2. グループ発表：チーム上市
- ディスカッション「みんなで描く “つながる” “めぐる” 地域循環共生圏」
ナビゲーター：PEC とやま 塚氏
- クロージング① EPO 中部から「上市ローカル SDGs への期待」
- クロージング② 講評・感想



⑦開催案内チラシ

地域循環共生圏フォーラム in 上市町

参加無料

みんなで描く！
つながる、めぐる、
上市町

地域も、自然も、人々も、末長く豊かでいられる
`つながり、や `めぐり、のある地域に。
上市町でもそのような地域の未来像をみんなで描きたい。
第2回フォーラムにぜひご参加ください。

[第2回] 2025年 2月22日 土
13:30~16:00
カミール4階 カミール大ホール
富山県上市町西中町11 <http://www.comeal.com/access/>

第2回
発表 &
ディスカッション編

「住みつづけられる 地域のあり方を `つながる、`めぐる、から考える！」

- **ごあいさつ** 上市町
ハッピー上市会
環境省 中部地方環境事務所
- **事例紹介**
 - ① 他地域の
実践事例 [北信スマートテロワール ~ 自立(律)分散型の地域循環共生圏づくりの試み]
勝亦 達夫 氏 信州大学キャリア教育・サポートセンター講師
 - ② 上市で検討した
アイデア 第1回フォーラムでのワークショップ結果をご紹介します
チーム上市 (第1回フォーラム参加者より)
 - ③ 上市での
構想(案)事例 上市アグリパーク構想(仮称)で地域循環共生圏を描く
茶木 勝 氏 EPO 中部・協働コーディネーター
／(株)ティー・ツリー・コミュニケーションズ代表取締役
- **ディスカッション** 「みんなで描く `つながる、`めぐる、地域循環共生圏」
ナビゲーター：堺 勇人 氏 PECとやま常務理事/事務局長

参加申込フォーム
<https://forms.gle/YTBroEA69XiTTwez7>



映画「夢みる給食」
の上映会

主催：つなごはん
10:00上映開始 (開場・受付9:30~)
※上映会への入場は有料となります。

主 催：環境省 中部環境パートナーシップオフィス (EPO 中部)
後 援：上市町 / 上市町商工会
協 力：ハッピー上市会
EPO 中部・協働コーディネーター：株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズ / 一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま (PEC とやま)



(3) 自治体・協働コーディネーター間の情報・意見交換の促進、地域循環共生圏への貢献についてのフィードバック

ア 地域循環共生圏づくりの活動評価手法の検討

(ア) 第1回活動評価手法検討ワーキングの実施

①日時

- 2024年6月5日（水）13:00～15:30

②会場/設営方法

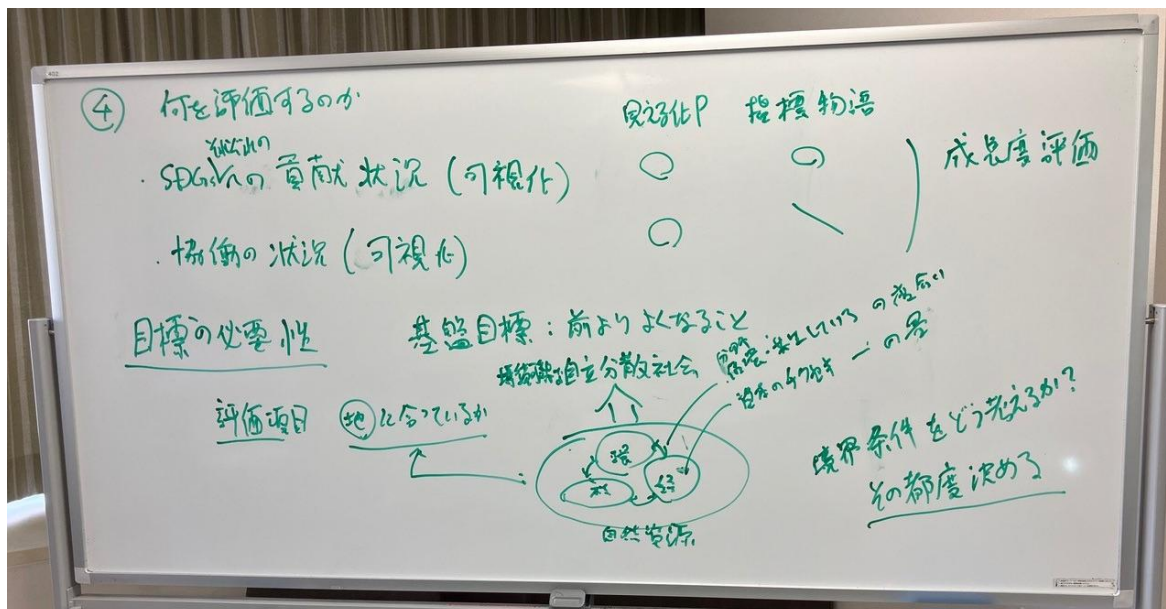
- 富山県民会館 402号室（富山県富山市内）
- オンライン：Webex ミーティング

③出席者

古澤 礼太	中部大学国際ESD/SDGsセンター准教授、中部ESD拠点協議会事務局長
水上 聡子	EPO中部運営委員、アルマス・バイオコスモス研究所代表
堺 勇人	EPO中部運営委員、一般社団法人環境市民プラットフォームとやま 事務局長
原 理史	中部地方ESD活動支援センター
縄野 正衡	オブザーバー、環境省中部地方環境事務所 環境対策課長補佐
清本 三郎	事務局 EPO中部統括

④協議項目

- 評価対象事例候補について参考インプット（地域循環共生圏など）
- 評価に用いるツール、これまで（第6期まで）の成果について
- 活動評価の枠組みについて



(ウ) 第3回活動評価手法検討ワーキングの実施

①日時

- 2024年11月12日(火) 13:00~15:30

②会場

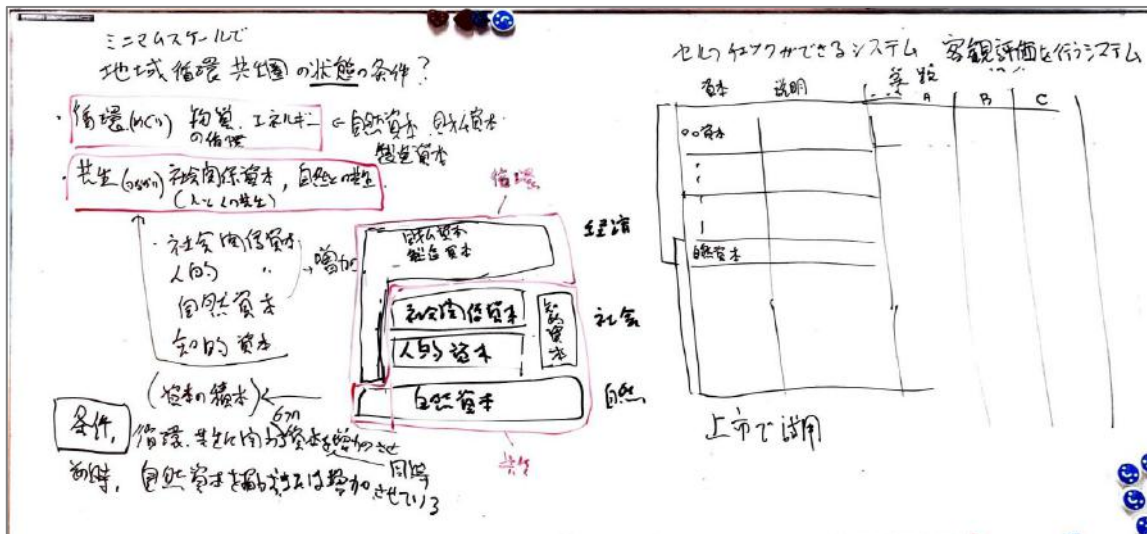
- 高棕東部コミュニティセンター(福井県坂井市)

③出席者

古澤 礼太	中部大学国際ESD/SDGsセンター准教授、中部ESD拠点協議会事務局長
水上 聡子	アルマス・バイオコスモス研究所代表
堺 勇人	一般社団法人環境市民プラットフォームとやま(PECとやま)事務局長
原 理史	中部地方ESD活動支援センター
清本 三郎	事務局 EPO 中部統括

④協議項目

- 活動評価の枠組みの整理について
- 評価方法の検討
- 評価に用いるツール活用について



イ 検討結果のフィードバック

- 活動評価手法検討ワーキングにおける検討結果として「活動評価チェックリスト」を作成し、協働コーディネーターの茶木氏（株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズ）の取組2件で試行し、そのアウトプットを茶木氏にフィードバックした。

①検討結果まとめ

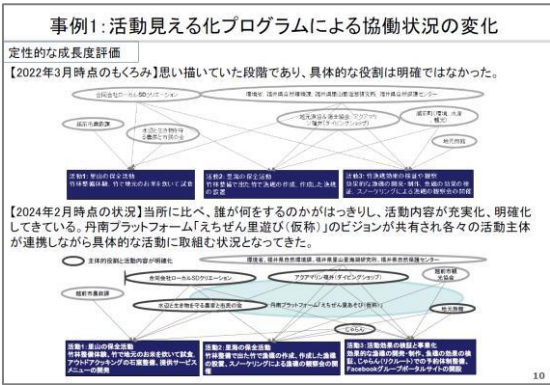
<p>環境省中部環境パートナーシップオフィス（EPO中部） 2024年度 活動評価手法検討WKG</p> <p>活動評価検討WKGの「検討結果のフィードバック」</p>	<p>環境省EPO中部 活動評価手法検討WKG</p> <p>古澤礼太 中部大学国際ESD・SDGsセンター准教授、中部ESD拠点協議会事務局長 水上聡子 EPO中部運営委員、アルマス・バイオコスモス研究所代表 堺 勇人 EPO中部運営委員、一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま（PECとやま）事務局長 原 理史 中部地方ESD活動支援センター、中部大学国際ESD/SDGsセンター研究員【オブザーバー】 環境省 中部地方環境事務所環境対策課【事務局】 清本三部 中部環境パートナーシップオフィス（EPO中部） 統括</p> <table border="1"> <tr> <td>富山</td> <td>6月5日</td> <td>第6期評価手法実績共有、第7期検討計画策定</td> </tr> <tr> <td>名古屋</td> <td>9月18日</td> <td>評価実績を活用した事例検討</td> </tr> <tr> <td>福井</td> <td>11月12日</td> <td>事例フィードバックの検討と課題抽出</td> </tr> </table> <p>有識者によるワーキンググループにより、地域循環共生圏づくりの活動の評価手法を検討する</p>	富山	6月5日	第6期評価手法実績共有、第7期検討計画策定	名古屋	9月18日	評価実績を活用した事例検討	福井	11月12日	事例フィードバックの検討と課題抽出							
富山	6月5日	第6期評価手法実績共有、第7期検討計画策定															
名古屋	9月18日	評価実績を活用した事例検討															
福井	11月12日	事例フィードバックの検討と課題抽出															
<p>第6期までの実績 評価のため活動内容の可視化ツールを開発</p> <p>活動見える化プログラム 協働取組と環境・社会・経済への貢献の状況をその時点で表す</p>  <p>SDGs指標物語 選択した指標がSDGsの達成においてどのような貢献を表しているかを言語化、可視化する</p>	<p>ローカルSDGs取組の評価「基準」</p>																
<p>ローカルSDGs取組の評価「基準」とは</p> <p>一般的な評価の意味</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ある基準に照らして物事の価値や成果を判断する行為を指す <p>ある基準とは？ 価値観を伴う・・・地域循環共生圏の場合</p> <p>ローカルSDGs活動の評価を行う場合</p> <p>目指すところの地域循環共生圏、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の価値観を基準とする</p> <p>環境、経済、社会の三側面の統合</p>	<p>評価のための価値基準</p> <p>ローカルSDGs活動の効果が環境、社会、経済の各分野に波及し、それにより三つの分野における共進化が進み、環境、社会本、経済のそれぞれに関わる分野の資本が蓄積されること</p> <p>*共進化：密接な関係をもつ複数の種が、互いに影響を及ぼし合いながら進化すること。出典（株）朝日新聞出版発行「知恵蔵」</p> <p>*第六次環境基本計画はじめに「「全員参加型」のパートナーシップの下、政府（国、地方公共団体等）、市場（企業等）、国民（市民社会、地域コミュニティを含む。）が、持続可能な社会を実現する方向での相互作用、すなわち共進化することを指す。</p> 																
<p>ローカルSDGs活動を念頭に置いた三つの評価方法の提案</p> <p>達成度評価・貢献度評価・成長度評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>達成度評価</td> <td>目標をどれだけ達成できたかを評価する。すなわち活動のアウトプット目標を具体的に設定し、それに対してどの程度達成できたかを評価する。</td> </tr> <tr> <td>貢献度評価</td> <td>ありたい姿にどれだけ貢献できたかを評価する。すなわち目標をありたい社会（ここでは地域循環共生圏）への貢献に置き、どのように貢献しているかを評価する。</td> </tr> <tr> <td>成長度評価</td> <td>取組がどれだけ成長、発展できたかを評価する。すなわち活動の成長を目標とし、成果の拡大や活動主体および関係者との協働連携が成長したかを評価する。</td> </tr> </tbody> </table> <p>WKG議論より（原、2024）</p> <p>価値基準「環境、社会、経済の各分野に波及、共進化」には貢献度評価が必要 活動主体の「動機づけ」のためにも成長度評価が必要</p>	分類	内容	達成度評価	目標をどれだけ達成できたかを評価する。すなわち活動のアウトプット目標を具体的に設定し、それに対してどの程度達成できたかを評価する。	貢献度評価	ありたい姿にどれだけ貢献できたかを評価する。すなわち目標をありたい社会（ここでは地域循環共生圏）への貢献に置き、どのように貢献しているかを評価する。	成長度評価	取組がどれだけ成長、発展できたかを評価する。すなわち活動の成長を目標とし、成果の拡大や活動主体および関係者との協働連携が成長したかを評価する。	<p>達成度評価・貢献度評価・成長度評価は実践されているか</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>実践</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>達成度評価</td> <td>KPIなど、事業評価でよく使われている</td> </tr> <tr> <td>貢献度評価</td> <td>定性的な文章で記述されることが多い？</td> </tr> <tr> <td>成長度評価</td> <td>トレンドを見て言及がある？</td> </tr> </tbody> </table> <p>ローカルSDGs活動において達成度評価の実践はある（地球環境基金や地域循環共生圏プラットフォーム事業など）</p> <p>貢献度評価・成長度評価についてもより実践を考える必要があるのではないかと</p>	分類	実践	達成度評価	KPIなど、事業評価でよく使われている	貢献度評価	定性的な文章で記述されることが多い？	成長度評価	トレンドを見て言及がある？
分類	内容																
達成度評価	目標をどれだけ達成できたかを評価する。すなわち活動のアウトプット目標を具体的に設定し、それに対してどの程度達成できたかを評価する。																
貢献度評価	ありたい姿にどれだけ貢献できたかを評価する。すなわち目標をありたい社会（ここでは地域循環共生圏）への貢献に置き、どのように貢献しているかを評価する。																
成長度評価	取組がどれだけ成長、発展できたかを評価する。すなわち活動の成長を目標とし、成果の拡大や活動主体および関係者との協働連携が成長したかを評価する。																
分類	実践																
達成度評価	KPIなど、事業評価でよく使われている																
貢献度評価	定性的な文章で記述されることが多い？																
成長度評価	トレンドを見て言及がある？																

三つの評価分類に対する評価ツールの位置づけ

達成度評価・貢献度評価・成長度評価

分類	内容	活動見える化プログラム	SDGs指標物語	選定指標
達成度評価	目標をどれだけ達成できたかを評価する	-	-	目標を定めた場合は、達成状況を定量的に評価
貢献度評価	ありたい姿にどれだけ貢献できたかを評価する	活動内容が社会、経済、環境のどの分野か、SDGsのどのゴールに貢献しているかを可視化して定性的に評価	選定指標がSDGsのどのグローバル指標、ターゲット、ゴールに貢献しているかを可視化して定性的に評価【事例2】	貢献しているグローバル指標、ターゲット、ゴールにおける成果を定量的に評価【事例2】
成長度評価	取組がどれだけ成長、発展してきたかを評価する	協働ネットワークが現状どのようにになっているかを可視化、複数の時点を比較して変化を示すことで成長度を定性的に評価【事例1】	-	複数の時点を比較して変化を示すことで成長度を定量的に評価【事例2】

(原、2024環境共生学会年次大会)



事例2: 選定指標とSDGs指標物語

定量的な貢献度評価、成長度評価

SDGs指標物語

選定指標	侵入竹林境界整備延長 (m)
指標	6.6.1、15.1.1
ターゲット	6.6、15.1
ゴール	G6、G15
基準2022年3月	0m
評価2024年2月	総延長120m

社会、経済、環境への「貢献度評価」の例(価値基準)

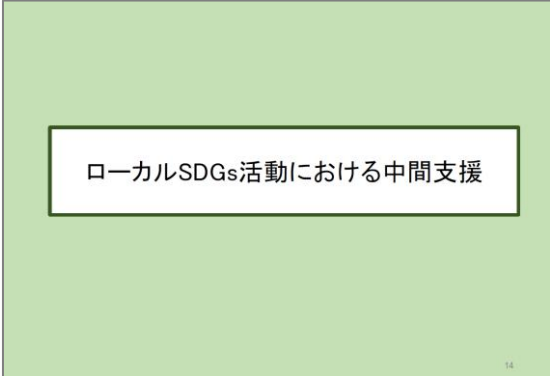
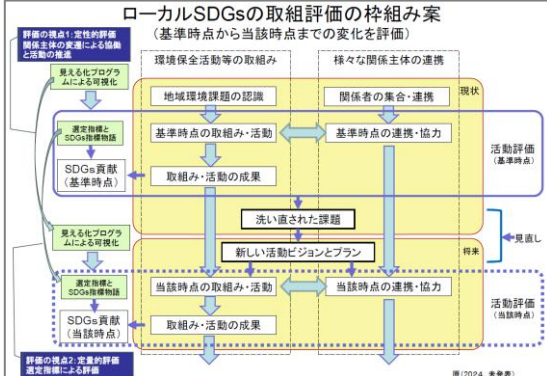
定性的な波及の評価

【活動見える化プログラム】の「地域循環共生圏貢献」

定量的な波及の評価

【SDGs指標物語】で説明したそれぞれの分野の「選定指標」

名称	活動1	活動2	活動3
貢献分野	環境	社会	経済
貢献指標	【環境】 侵入竹林境界整備延長(m)	【社会】 研修プログラムの参加者数(人)	【経済】 研修プログラムの売上高(円)
選定指標	6.6.1、15.1.1	8.8.1	8.8.1
ターゲット	6.6、15.1	G14	4.7
ゴール	G6、G15	G14	G8
基準2022年3月	0m	5基	0人
評価2024年2月	総延長120m	計23基(2022年度10基、2023年度13基)	計33人(2022年度15人、2023年度18人)



中間支援(例えば)

- 骨太の方針(共助)

寄附の促進等に加え、NPOの行う事業を支援する中間支援組織を通じた支援を含め、社会課題解決に取り組む民間主体への支援を強化し、ソーシャルセクターの発展に取り組む。

災害中間支援組織を含む被災者支援の担い手確保・育成、洪水・土砂災害・高潮の情報提供、要配慮避難者対策、地域の貴重な文化財を守る防災対策、気象防災アドバイザーや地域防災マネージャーの活用促進によるタイムライン防災、消防防備を含む消防防災力の充実強化に取り組む。

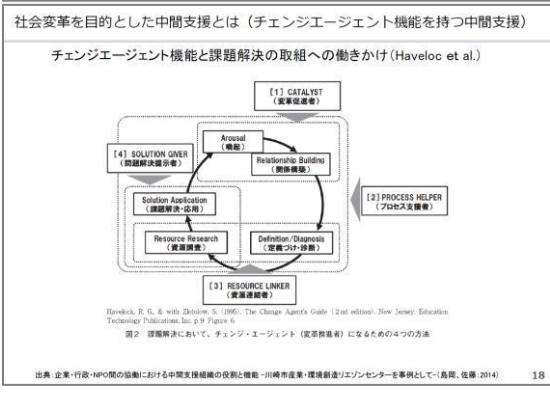
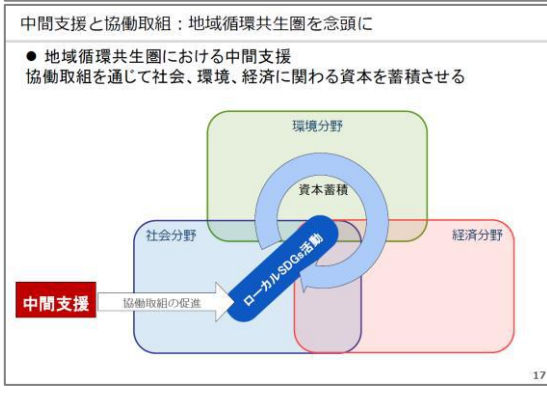
・トップダウンのつなぎとして考えられている
・チェンジエージェント機能は意識されていない

協働とは(EPO機能を念頭に)

- 環境教育促進法

「協働取組」とは、国民、民間団体等、国又は地方公共団体がそれぞれ適切に役割を分担しつつ対等の立場において相互に協力して行う環境保全活動、環境保全の意欲の増進、環境教育その他の環境の保全に関する取組をいう。

協働の意味: 例えば
社会関係資本を構築し運用すること



②活動主体へのフィードバック（試行した評価チェックリストのフィードバック）

その取組は地域循環共生圏に貢献する資本増加に繋がるのか、評価チェックリスト（試行） 作成 250221

テーマ	富山県上市町 里山の駅つぎの味蔵の純国産メンマプロジェクト	概要	竹林整備で発生した伸びたタケノコを活用したメンマの製造販売	
活動状況	放置竹林という地域課題への対応が可視化されることで関係者への説得力が増し、持続的に活動が進んでいる。純国産メンマのストーリー化とブランディング化により販売は順調で活動は拡大傾向にある。			
六つの資本	評価項目	チェック	チェックの判断理由	
1 財務資本 (地域循環 財務資本) 地域内での経済循環になっているか	●地域にお金を落とすようになっているか	○	里山の駅つぎの味蔵の重要商品として地域外貨を獲得	
	●地域への投資になっているか			
	その他(地域所得の増加に貢献している)	○	事業を通じて、地域で携わる従業員等の所得に貢献している	
2 製造資本 (地域循環 生産・製造資本) 地域資源・エネルギーが持続可能な形で使えるようになっているか	●地産地消を目指しているか			
	●資源循環を目指しているか	○	地域の竹林からの資源を有効活用している	
	●再生可能エネルギーを使おうとしているか			
	●防災・減災に役に立つか	○	竹林整備で山林の保数が図られる	
3 知的資本 (地域共生 知的資本): 地域の文化、知恵などが生かされているのか、水準の高い知見が用いられているか	その他()			
	●様々な場面での教育を進めようとしているか	○	伐採体験やメンマ製造見学など学校教育や社会教育のフィールドとして機能している。	
	●住民自治を取り入れようとしているか			
	●伝統的文化・知恵を活用しようとしているか	○	「国産」メンマの伝統文化を維持継承している	
	●高等知見の導入をしようとしているか	○	地域外の事例を参考に試行錯誤で製造法知見を蓄積してきている。	
	●IGT活用を進めようとしているか	○	オンライン販売を実施している	
4 人的資本 (地域共生 人的資本): 地域の多様な人々が共生できている	その他()			
	●主体的・意欲的な人がいるか	○	タケノコ取りやメンマ製造に積極的に関わる地域の人、従業員が増加している	
	●愛着・誇り・責任感のある人がいるか	○	タケノコ取りやメンマ製造に積極的に関わる地域の人、従業員が増加している	
	●包摂社会を目指しているか			
5 社会関係資本 (地域共生 社会関係資本): 地域の繋がり・コミュニティづくりにつながっているか	●対話型の議論・交流を作ろうとしているか	○	タケノコ取りやメンマ製造に積極的に関わる地域の人、従業員の交流が生まれている	
	●相互信頼を醸成しようとしているか	○	タケノコ取りやメンマ製造に積極的に関わる地域の人、従業員の交流が生まれている	
	●公正さに重きをおいているか			
	●共助を取り入れようとしているか			
	その他()			
6 自然資本 (地域循環共生 自然資本): 地域の自然・生物多様性が守られているか	●生物多様性を守ろうとしているか	○	竹林整備で山林の保数が図られる	
	●グリーンインフラ・景観の向上に配慮しているか			
	●脱炭素を進めようとしているか			
	●自然資源の保全活用を進めようとしているか	○	地域の竹林からの資源を有効活用している	
	●農地・漁場を持続可能な形で使おうとしているか			
その他()				
ローカル SDGs 活動としての総合評価	地域の課題解決の貢献し 6 つの資本すべてについて増加させる機能を果たしている。プロジェクトとして地域循環共生圏構築に貢献していると評価できる。			

その取組は地域循環共生圏に貢献する資本増加に繋がるのか、評価チェックリスト(試行) 作成 250224

テーマ	富山県上市町 メグスリノキのお茶、九宝茶の開発、販売	概要	大岩山日石寺で祈祷日に伝統的に振る舞われるメグスリノキのお茶を健康茶を地元産品として商品化、販売	
活動状況	商品開発とホテル・土産物店等の販路の確保に成功し、ストーリー化、ブランディング化による事業が持続的に行われている。当初もくろんでいた地元産原料による製造については困難が伴い断念。また事業への関係者の巻き込みは十分ではなく、一企業の製造販売事業として活動。			
六つの資本	評価項目	チェック	チェックの判断理由	
1財務資本 (地域循環 財務資本) 地域内での経済循環になっているか	●地域にお金を落とすようになっているか	○	富山市上市町に所在する製造販売企業の売り上げとして地元掲載に貢献	
	●地域への投資になっているか			
	その他(地域所得の増加に貢献している)	△	製造販売を地域外の依存する割合が高く、十分な貢献になっていない	
2製造資本 (地域循環 生産・製造資本) 地域資源・エネルギーが持続可能な形で使えるようになっているか	●地産地消を目指しているか	△	当初のもくろみと異なり地域外の原料に依存している	
	●資源循環を目指しているか	△	当初のもくろみと異なり地域外の原料に依存している	
	●再生可能エネルギーを使おうとしているか			
	●防災・減災に役に立つか			
	その他()			
3知的資本 (地域共生 知的資本):地域の文化、知恵などが生かされているのか、水準の高い知見が用いられているか	●様々な場面での教育を進めようとしているか			
	●住民自治を取り入れようとしているか			
	●伝統的文化・知恵を活用しようとしているか			
	●高等知見の導入をしようとしているか			
	●ICT活用を進めようとしているか	○	オンライン販売を実施している	
	その他()			
4人的資本 (地域共生 人的資本):地域の多様な人々が共生できている	●主体的・意欲的な人があるか			
	●愛着・誇り・責任感のある人があるか			
	●包摂社会を目指しているか			
	その他()			
5社会関係資本 (地域共生 社会関係資本):地域の繋がりが・コミュニティづくりにつながっているか	●対話型の議論・交流を作ろうとしているか			
	●相互信頼を醸成しようとしているか	△	当初のもくろみである、関係者の巻き込みを断念した。	
	●公正さに重きをおいているか			
	●共助を取り入れようとしているか			
	その他()			
6自然資本 (地域循環共生 自然資本):地域の自然・生物多様性が守られているか	●生物多様性を守ろうとしているか			
	●グリーンインフラ・景観の向上に配慮しているか			
	●脱炭素を進めようとしているか			
	●自然資源の保全活用を進めようとしているか	△	当初もくろんだ地域資源の製造を断念	
	●農地・漁場を持続可能な形で使おうとしているか			
その他()				
ローカル SDGs 活動としての総合評価	地域の財務資本増加には貢献しているものの、当初のもくろみから離れ地域外の製造資本を用いており、人的資本、社会資本、自然資本の貢献も見られない。ローカルSDGs 活動としては不十分と評価される。地域課題への対応との関連性を可視化できず、関係者の巻き込みがうまくいかなかったとの当事者見解が重要な要因と考えられる。			

ウ 成果まとめ冊子の作成

- 活動評価手法検討ワーキングの委員3名に、「(1) ア 中間支援をテーマにしたセミナーの開催」として実施した地域循環共生圏づくり支援セミナーのトークセッションに登壇いただき、それを記事として冊子にまとめた。冊子はEPO 中部ウェブサイトで公開した。
掲載 URL: <https://www.epo-chubu.jp/epo-news/27663.html>

【作製・公開した冊子原稿】



Environmental Partnership Office Chubu
EPO中部
環境省中部環境パートナーシップオフィス

中部環境パートナーシップオフィス (EPO中部)
〒460-0003 名古屋市中区津島三丁目1番1号114F
TEL: 052-218-8605 / FAX: 052-218-8606
<http://www.epo-chubu.jp/>
発行：2025年3月

地域循環共生圏づくり支援セミナー2024
「環境とともに地域の経済(せりあひ)・社会(ひとの暮らし)をつなぐ地域循環共生圏づくりとは」
トークセッションより

“地域循環共生圏になっている” とはどういうことか？



地域循環共生圏とは何か？ 5人のパネリストと探る持続可能な地域づくりのヒント

2025年1月、EPO中部は「地域循環共生圏づくり支援セミナー2024」をオンライン開催しました。
地域循環共生圏は地域の主体性を基本としつつ、地域資源を持続的に活用して環境・経済・社会の統合的な向上を目指す、自立・分散型社会実現に向けた重要な概念です。

しかし、実際に地域が「地域循環共生圏になっている」とはどういうことなのでしょうか。
本セミナーでは5人のパネリストをわかれ、地域循環共生圏が包含する多角的な側面を掘り下げながら議論するトークセッションを行いました。本誌はその内容をまとめています。

地域循環共生圏づくり支援セミナー2024について

地域循環共生圏づくり支援セミナー2024
環境とともに地域の経済(せりあひ)・社会(ひとの暮らし)をつなぐ地域循環共生圏づくりとは

- ・ライブ配信(録画)日：2025年1月27日
- ・セミナー録画をEPO中部ウェブサイトにて公開中 ※自由にご視聴できます。
<https://www.epo-chubu.jp/epo-news/27663.html>



■ プログラム/ご登壇者

1. ごあいさつ/地域循環共生圏とは
環境省中部地方環境事務所
2. 【基調講演】地域循環共生圏づくりにおいて大切なこと
鬼沢良子氏(NPO持続可能な社会をつくる元気ネット・理事長)
3. 【講演/情報提供】地域経済循環分析について～地域循環共生圏づくりに向けて～
佐原あきほ氏(株式会社価値総合研究所 ポリシーエンジニアリング事業部長)
4. 【トークセッション】“地域循環共生圏になっている”とはどういうことか？
パネリスト:
鬼沢良子氏(NPO持続可能な社会をつくる元気ネット・理事長)
佐原あきほ氏(株式会社価値総合研究所 ポリシーエンジニアリング事業部長)
橋本 人氏(一般社団法人環境市民プラットフォームと全ま 常務理事/事務局長)
古澤 礼太氏(中部大学国際ESD・SDGsセンター 准教授)
水上 聡子氏(アルマス・バイオコスモス研究所 代表)
コーディネーター:
原 理史(EPO中部)

次ページ以降に【トークセッション】のテキスト記事を掲載しています ※鬼沢氏の基調講演と、佐原氏による講演を含めたセミナー全体を録画した動画や、環境省中部地方環境事務所による地域循環共生圏の概説資料、ここに掲載したトークセッションのスタンプ資料をEPO中部ウェブサイトにて公開しています。それぞれご覧ください(本誌p1参照)。

トークセッション “地域循環共生圏になっている”とはどういうことか？

はじめに/ 今回の論点について

原 理史(以下、原) 皆さん、本日は「地域循環共生圏」となっているとはどういうことか？というテーマで、忌憚(きたん)なく議論していききたいと思います。

「地域循環共生圏」とは何か？

まず、地域循環共生圏の定義ですけれども、環境基本計画では「地域の主体性を基本として、地域資源を持続的に活用して環境・経済・社会を統合的に向上していく事業を生み出し続けることで、地域課題を解決し続ける『自立した地域』をつくる」とともに、それぞれの地域の個性を活かして地域同士が支え合うネットワークを形成する『自立・分散型社会』の実現を目指すもの」とされています。

これを分解すると、ひとつは、自立した地域をつくるために、地域資源を持続的に活用

1

2

地域循環共生圏づくり支援セミナー2024
 トークセッション
 「地域循環共生圏になっている」とはどういうことか？」

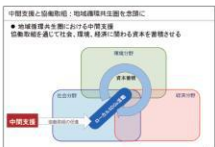
これに対して、IRCという国際組織のレポートに6つの資本という考え方があります。持続可能な社会を構築するためには、財務資本、製造資本、知的資本、人的資本、社会・関係資本、自然資本の6つの資本を使って活動し、それぞれの資本に対してその結果を蓄積していかなければいけません。そこで、ローカルSDGs活動においてもこのような価値基準を軸と考えています。



では、6つの資本をどのように積み上げるのかということですが、SDGsの重要な概念にウェディングケーキモデルというものがあります。それをふまえて、自然資本を一番下にして、その上その他の資本が載っているような構造が地域にあるようになってはならないと考えました。

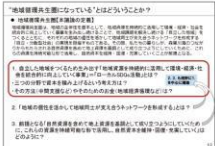
資本の種類	具体的な活動
財務資本	地域通貨の発行・利用、融資の提供
製造資本	地元産品の加工・販売、伝統工芸の継承
知的資本	地域課題の調査・研究、情報共有の場
人的資本	人材育成、ボランティア活動
社会・関係資本	地域コミュニティの形成、協働の推進
自然資本	自然環境の保全、持続可能な資源の利用

このような考え方のもと、6つの資本が増えていくような事業になっているかどうかを確認するチェックリストを、ローカルSDGs活動の評価ツールとして試作しました。



また、それぞれの資本の蓄積を促すのとして、中間支援による協働取組が行われる必要があると考えています。

ローカルSDGs活動とその評価



原 ここまでお話しした、ローカルSDGs活動は環境・社会・経済の3つの分野で資本を積み上げるという考え方やその評価方法、中間支援、地域経済循環はとうるべきかについてご意見をお聞かせください。

鬼沢良子 (以下、鬼沢) きまぎま視点から総合的に評価することは重要だと思います。数ヶ月程度の活動で自然資本がどう変化したかを評価するのは困難ですが、評価されることで次のステップに進む指標が得られます。

地域循環共生圏づくり支援セミナー2024
 トークセッション
 「地域循環共生圏になっている」とはどういうことか？」

佐原あきほ (以下、佐原) 環境を土台に社会・経済が成り立つという環境基本計画やSDGsの考え方に即した整理は、妥当だと思います。また、それら全体に通じるものとしてウェルビーイングという概念があります。地域循環共生圏で目指すのはそれぞれの地域が考えることになっていきますが、共通の考え方としてこのようなチェックリストがあるとよいと思います。

吉澤礼太 (以下、吉澤) 地域循環共生圏とはSDGsの達成を地域単位で考えていくことに近いと思いますが、その評価は難しいですね。私は森川海をキーワードとして、SDGsも含めた地域循環共生圏を実現するためのネットワークづくりに取り組んでいます。そのときに、それぞれの活動が何に資するかだけでなく、それが地域づくりにどうつながっていくかが重要ではないかと考えています。すると、活動だけでなく、成果に対する評価にもつながるのではないかと感じました。

堺勇人 (以下、堺) 地域循環共生圏では曼荼羅図のような最終的な姿は描かれていますが、そこに近づくために誰が何を基準にアクションを起こすのが重要で、ワークシートでは、そこに注目して6つの資本に分けて活動を評価する視点を整理しました。

水上聡子 (以下、水上) 活動を自己満足で終わらせないためにも、評価指標は重要です。アウトネットだけでなく、アウトカムも評価に加えることで成果の評価につながります。

中間支援の役割

原 SDGs活動を促進するためには、中間支援や協働が重要な役割を果たすと言われていますが、中間支援のあり方について、どのようにお考えですか。

堺 スタ트업フォームは複数あるのだと思います。環境分野に強いスタートフォーマーも人権や社会・経済にも関心を持ち、他の分野を得意とする団体と協力し合うことでよりバランスのとれた活動ができるようになると思っています。

鬼沢 関心はそれぞれ違うので、活動を促すためには自分ごと化するきっかけをいかに提供するかが重要になると思います。

水上 中間支援の立場から、各団体の強み・弱みを指摘することが重要です。環境活動では特に経済的な視点で取り落しがちです。

経済の視点

原 地域循環共生圏では経済的な視点が抜け落ちやすいという点についてどのようにお考えでしょうか。

佐原 地域資源を組み合わせながら最大限に活用し収益化できるようにしていく視点を持つと、環境・社会・経済に相乗的な効果が生まれるように思います。

吉澤 経済の視点は非常に重要です。特に地域に根ざした生業や経済がサステナブルな社会のキーになると感じています。

原 地域の生業が重要であるとのご指摘ですが、経済規模が大きい方が効率的であるように思いますが、いかがでしょうか。

佐原 環境基本計画には大量生産、大量消費、大量廃棄の社会経済システムからの脱却という考え方があります。そこを地域から変えていくという視点が地域循環共生圏に入っていると考えています。

地域循環共生圏づくり支援セミナー2024
 トークセッション
 「地域循環共生圏になっている」とはどういうことか？」

吉澤 地域循環共生圏においては、課題解決だけにとらわれず、ポジティブに生業や経済を意欲していくべきではないかと思っています。

水上 経済が変わらないと原因は進みませんがローカル経済の視点でもとても重要で、また、どのスケールの活動も大事なので内容によって選択し成果を出していけばよいと思います。しかし、ウェルビーイングは個人に関わるものであり、個人の視点は不可欠です。

ローカルSDGs活動とウェルビーイング

原 ローカルSDGs活動におけるウェルビーイングとはどのように捉えればよいでしょうか。

鬼沢 個人のウェルビーイングがとれてくればうれしかることはできないと思いますが、地域への愛着や誇り、責任感を持つ人が増えることが重要です。やりがいや地域への愛着はアンケートをすればわかります。

水上 坂井市の市民協働事業には8つのウェルビーイング指標があり、誇り、愛着、自己実現、安全安心、人権等を数値化しています。

堺 地域循環共生圏は人々が勝手に暮らせる地域を目指すものであり、それは一人ひとりのウェルビーイングの集積であって、中心は人であることを忘れてはいけません。

吉澤 流域治水のような地域のつながりのなかで信頼関係ができた、文化の共有によって愛着が生まれやすくなるのではないのでしょうか。そのためには、6つの資本のなかの社会・関係資本が重要になると思います。

地域内循環とネットワーク

原 地域循環共生圏の定義に「地域同士が支え合う」と書かれています。地域同士のネットワークと地域内の経済循環とのバランスについてはどのようにお考えでしょうか。

佐原 得意なところは自分たちでがんばり、不得意なところは外部に任せるという相互依存の関係を組み立てていくことが重要だと思います。そのバランスは試行錯誤で見つけていけばよいのではないのでしょうか。

鬼沢 課題解決に取り組んでいる地域が多いのですが、その際にそれを尊重とする人たちが補い合うための中間支援が必要です。

吉澤 マッチングをしておく際には、すぐに成果を求めないことも大切です。

鬼沢 ネットワークの重要性は、今まで出会ったことのない人たちの出会いによって新しいことが生まれるところにあります。

堺 異質なものと会ったことで新たな気づきを得、それが人生豊かにしてくれます。集う機会を提供することで気づきを得る人が増えれば、いろいろな方面に意識を向けられるようになり、結果として豊かな社会になっていくように思います。

水上 マッチングは必要ですが、その前に、それぞれの活動主体が自分の強みや弱みを認識することが重要です。

地域循環共生圏づくり支援セミナー2024
 トークセッション
 「地域循環共生圏になっている」とはどういうことか？」

まとめ

原 今日の話をまとめると、地域循環共生圏とはローカルSDGs活動が生み出され続けられるということであり、それは地域の生業、生きたりやウェルビーイングをもたらすものであるべきです。そして、それは6つの資本をベースに考えていく必要があること。やりたはいろいろあるけれども、自分たちがやりたいと思える動機が大切で、自分たちの良いところ、悪いところを認識し、評価した上で相互依存のネットワークを形成することが重要であること。また、そこには出会いの機会の提供という中間支援の重要な役割が求められることでした。自然資本を維持、回復、充実させていくという話への踏み込みが強かったかもしれませんが、示唆は出てきたのではないかと思います。これでセッションを終わりたいと思います。ありがとうございました。



地域循環共生圏は、持続可能な社会を実現するための重要な鍵となります。地域循環共生圏の考え方を地域で共有し、具体的な取組を協働して取り進むことにより、皆さまの地域で持続可能な地域づくりがめざされることを期待いたします。

5 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務

(1) 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業

ア 中間支援機能の担い手育成業務

(ア) 中間支援主体への支援

- 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業に選定された中部エリアの3地域・6団体に対し、中間支援主体を通して地域循環共生圏づくりに関わる活動の加速化のための助言等の支援を行った。

団体	丹南 (ローカル SD クリエーション/エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま)	長野 (長野県 NPO センター/芋井地区住民自治協議会)	半田 (半田市/半田市地域循環共生圏推進協議会)
4月	<ul style="list-style-type: none"> 4/11 着手時打合せ・ヒアリングの日程調整について連絡メールを6団体へ送付し、日程が確定しだい各団体と個別に連絡調整。 4/30 キックオフミーティングの日程調整メールを6団体へ送付。 4/26 に初回打合せ、中間支援主体ヒアリングを白山地区の公民館で実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 4/23 に初回打合せ、中間支援主体ヒアリングを中間支援団体事務所で実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 4/25 に初回打合せ、中間支援主体ヒアリングを市役所施設で実施。
5月	<ul style="list-style-type: none"> 5/7 キックオフミーティングの日程確定のメール連絡を6団体へ送付。発表資料の共通書式を添付。 5/21 活動団体の拠点予定施設で打合せ、関係施設の視察。 WEB、SNS に 5/21 打合せ時の様子の動画を投稿しつつ、団体の紹介記事を掲載。 活動団体から依頼のあった主催イベントの記事を SNS でシェアし、広報協力を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 5/22 活動団体の拠点施設で打合せ。 WEB、SNS に 5/22 打合せ時の様子の動画を投稿しつつ、団体の紹介記事を掲載。 	<ul style="list-style-type: none"> 5/17 打合せと関係視察見学を実施。 WEB、SNS に視察写真等を投稿しつつ、団体の紹介記事を掲載。
5/30 中間支援ギャザリング(全国)			
6月	<ul style="list-style-type: none"> 6/26 キックオフの開催案内を送付、出席者について確認・連絡調整。 5月分の月次報告の提出について、各中間支援団体からの相談・確認連絡に対応。 エコツアープログラムの予約受付開始について SNS でシェアして広報協力。 令和6年版白書に活動が掲載されたことを SNS で発信。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動団体からキックオフ発表資料を6/17に受け取り。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動団体からキックオフ発表資料を6/4に受け取り。
6/26 キックオフミーティング(中部ブロック)			
<ul style="list-style-type: none"> キックオフミーティング実施後、撮影画像を各団体に共有。SNSに開催の様子を投稿。 			
7月	<ul style="list-style-type: none"> 中間支援主体へ連絡:8月打合せの日程調整連絡。 	<ul style="list-style-type: none"> 中間支援主体及び10/23中間共有会の会場との打合せの日程調整。 7/16 中間支援主体と打合せ(キックオフの振り返りなど)。 同日に中間共有会の会場との打合せを実施、中間支援主体同席。 	<ul style="list-style-type: none"> 中間支援主体へ連絡:8月打合せの日程調整連絡。
8月	<ul style="list-style-type: none"> 中間支援主体が投稿したエコツアープログラム SNS 動画をシェア。 8/19 中間支援主体と打合せ(取組状況等の情報共有、広報手法の協議など)。 	<ul style="list-style-type: none"> 中間共有会のエクスカージョンについて中間支援主体と協議・確認のための連絡のやり取り。 	<ul style="list-style-type: none"> 8/26 中間支援主体と打合せ。学校、農業者との関係構築、液肥のPR方法や地域の認知度向上についてディスカッション。
<ul style="list-style-type: none"> 中間共有会の「開催案内」「参加者記入票」を送付。 			
9月	<ul style="list-style-type: none"> 中間共有会の出欠/送迎手配についてのメール打合せ。 白書を読む会の広報開始(会場:越前市、三田村氏登壇等)→しらやま Facebook グループに投稿。 	<ul style="list-style-type: none"> 中間共有会の出欠者の確認、進行方法・エクスカージョン行程のメール打合せ。 	<ul style="list-style-type: none"> 中間共有会の出欠者の確認、宿泊(夕食)に関する確認の連絡。

団体	丹南 (ローカル SD クリエーション/エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま)	長野 (長野県 NPO センター/芋井地区住民自治協議会)	半田 (半田市/半田市地域循環共生圏推進協議会)
10月	<ul style="list-style-type: none"> 中間共有会に関する確認連絡。 アウトドア関連企業との関係構築の相談。過去事業で接触のあった企業を紹介。関係構築依頼にあたり、詳細確認の必要を連絡。 	<ul style="list-style-type: none"> 中間共有会エクスクーショの調整・確認連絡等。 終了後に草刈りバスターズ動画の送付あり。⇒ほか2地域等へ EPO から共有、御礼メールを送信。 	<ul style="list-style-type: none"> 中間共有会の出欠・支払関係の確認連絡等。
10/23-24 中間共有会(中部ブロック)			
11月	<ul style="list-style-type: none"> 中間共有会の当日持参データを継続審査資料として送付依頼。 打合せの日程調整連絡。 	<ul style="list-style-type: none"> 打合せの日程調整連絡。 月次報告で、名刺に環境省事業選定と記載したい旨の相談があり、全国事務局に確認のうえ回答。 中間支援主体の名称変更(「認定」の追加)に関わる手続きの有無の問合せ連絡があり、全国事務局に確認のうえ回答。 	<ul style="list-style-type: none"> 打合せの日程調整連絡。 月次報告のファイルエラーを連絡して再提出を依頼。
12月	<ul style="list-style-type: none"> 12/12 打合せを実施。今年度の残りの活動、次年度以降の取組計画等を情報共有。 SH ミーティングの内容・実施方法について確認連絡。 アウトドア事業者との協力連携について、詳細を活動団体・中間支援主体で確認し、整理した内容で EPO へ連絡いただくことを電話打合せ。 	<ul style="list-style-type: none"> 12/13 打合せを実施。今年度の残りの活動、次年度以降の取組計画等を情報共有。 SHミーティングを2/1実施予定。内部会合で確定後、EPOへも連絡。 12/23SHミーティングの会合イベント(2/1 実施)について連絡。広報協力も実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 12/10 打合せを実施。今年度の残りの活動、次年度以降の取組計画等を情報共有。 SH ミーティングの内容について確認連絡。 活動見える化プログラム作成に協力依頼。入力方法、チャートの活用方法についてメールで連絡調整。
1月	<ul style="list-style-type: none"> SHミーティングの内容・日程について確認、連絡調整。 プラットフォームクローバーについて質問連絡に対し、登録・投稿方法について回答。 	<ul style="list-style-type: none"> 2/1 開催 SH ミーティングの案内連絡があり、EPO スタッフも参加を申込。 一般参加可能のため EPO の web サイト・SNS 等で広報協力。 	<ul style="list-style-type: none"> SH ミーティングについて開催日等の案内連絡に対し参加を返信。
2月	<ul style="list-style-type: none"> SH ミーティングの開催方法について電話打合せ、連絡調整。 2/12SHミーティングに EPO 担当者もオンライン参加。 	<ul style="list-style-type: none"> 2/1 開催 SH ミーティング(いもいりピンクラぼ会合)に EPO 担当者オンライン参加。 	<ul style="list-style-type: none"> 2/7SH ミーティングに EPO 担当者参加。 提出物(チェックリスト)の回答方法について問合せ、中間支援ギャザリングについて問合せに回答。
2/27-28 成果報告会:中間支援ギャザリング(全国)			

(イ) 年度当初打合せ

- 4月に3地域(6団体)の年間支援計画・活動等についての打合せを行い、地域循環共生圏づくり支援体制構築事業の年間計画、提出物等についての説明、今年度の活動内容・予定等についての確認を行った。
- あわせて、打合せでは、全国事務局から提示された設問項目をもとに、中間支援主体を対象にしたヒアリングも実施した。

選定団体名 ①:活動団体、②中間支援主体	実施日/場所	ヒアリング項目(共通設定項目)
①エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま、②合同社ローカルSDクリエイション	4月26日 越前市白山公民館	Q.0:基本事項/中間支援主体の体制、活動概要等の確認(①組織の人数、担当者の人数及び職位・年代等、②これまでにREO/EPOとの関わりの有無、③過去5年間に受けた補助金や助成金(名称と金額)、④活動テーマと活動地域、⑤活動発信web媒体)
①芋井地区住民自治協議会、②特定非営利活動法人長野県NPOセンター※ ¹	4月23日 長野県NPOセンター	Q.1:本事業を通じて、地域循環共生圏づくりの中間支援主体としてどうなりたいか? Q.2:この事業を通じて、共生圏づくりの中間支援主体としてレベルアップしたい点は?

参考2) 2021年度実施の七尾、郡上の例

① 準備すること
② 意思の疎通
③ 以上の1,2を具現化して考えたいこと

● 9月29日に(PFコンソーシアム設立を前に)、関係者が集まる「意見交換会」をハイブリッド開催で実施。EPO中部が企画・運営(ファシリテーション)を支援。

● コンソーシアム関係者が抱えている懸念・課題を明確化し、コンソーシアム設立(10月16日設立式)に向けて、協力・連携体制のさらなる強化を図った。

● 11月10日にSDG+実践意識を持つアウトドア事業者と採択団体による「意見交換会」を実施し、EPO中部が企画・運営(ファシリテーション)を支援。

● アウトドア事業者が目指している観光のあり方を明確化し、次ステップで「地域商社」設立について議論することになった。

中間支援主体ヒアリングの設問項目(全国共通)

Q.0: 基本事項/中間支援主体の体制、活動概要等の確認
 ① 組織の人数、担当者人数及び職位・年代等
 ② これまでにPEO/EPOとの関わり
 ③ 過去5年間に受けた補助金や助成金(名称と金額)
 ④ 活動テーマと活動地域
 ⑤ 活動発信web媒体

Q.1: 本事業を通じて、地域循環共生圏づくりの中間支援主体としてどうなりたいか?

Q.2: この事業を通じて、共生圏づくりの中間支援主体としてレベルアップしたい点は?

Q.3: 中間支援により、活動団体が1年後にどうなっていることを目指すか(=1年間の支援目標)と、そのための支援策とは?

Q.4: 活動団体に中間支援を行っていくにあたっての不要要素は?

Q.5: 地方支援事務局に希望・期待する支援は?

Q.6: その他

(ウ) ヒアリング結果シートの作成

- 年度当初打合せにおけるヒアリングの実施後、所定のヒアリングシート(GEOC提示のフォーマット)に聴取内容を整理・記入し、中部地方環境事務所と共有のうえ、GEOCに提出した。

(エ) 中間支援主体に対するフォローシートの作成・提出

- 地方環境事務所及び EPO による各選定団体への支援計画等を整理するフォローシート(GEOC提示のフォーマット)を作成し、4月~6月期シートを7月に、7月~9月期シートを10月に、10月~12月期シートを1月に、それぞれ全国事務局へ提出した。

(オ) ステークホルダーミーティングへの参加

- 3地域それぞれが実施したステークホルダーミーティングに下記の通り参加した。

選定団体名 ①:活動団体、②中間支援主体	実施日/場所	EPOスタッフ 参加方法	実施内容
①エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま、②合同会社ローカルSDクリエーション	2月12日 越前市白山公民館 (福井県越前市)	オンライン	越前市白山地区周辺における地域資源を活用した体験活動の取組の現状及び今後の連携構築に向けた意見交換(協議内容:体験アクティビティの企画運営にあたり、必要なプロモーション及び連携構築について)
①芋井地区住民自治協議会、②特定非営利活動法人長野県NPOセンター	2月1日 アソビーバ (長野県長野市芋井地区)	オンライン	「来て・知って・話して いもいりピンらぼ」 第1部 取組紹介 “やりたい”から、できたこと 第2部 事例研究 週一回ひらく小谷村の商店小網
①半田市地域循環共生圏推進協議会、②半田市	2月7日 半田市 リサイクルセンター (愛知県半田市)	会場参加	「地域内資源循環の拡大と地域課題の解決による持続可能な社会の形成」 ・イントロ:自己紹介、事例紹介(ソーラーシェアリング等) ・ワークショップ(「事業のタネ」のアイデア出し)



イ キックオフミーティングの開催

①日時

- 2024年6月26日（水）13:15～16:15

②会場・運営方法

- 会場：ウインクあいち 1307 会議室（愛知県名古屋市中区）
- オンライン：Webex ミーティング

③出席者

区分	氏名	所属先	備考
【丹南】活動団体	岡山 秀昭	エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま	
	森 和恵	エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま	
	上野 和美	エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま	
	橋本 君代	エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま	
	横山 幸子	エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま	
	恒本 ひとみ	エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま	
	塚崎 絹子	エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま	
	堀江 浩美	エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま	
【丹南】中間支援	三田村 佳政	合同会社ローカル SD クリエーション	
【長野】活動団体	羽田 一郎	芋井地区住民自治協議会	
	西澤 一幸	芋井地区住民自治協議会	
	山口 廣人	芋井地区住民自治協議会	
【長野】中間支援	吉田 喜美夫	特定非営利活動法人 長野県 NPO センター	
【半田】活動団体	市山 秀典	八洲建設株式会社	
	服部 亜紀	八洲建設株式会社	
	宮澤 賢治	半田・知多地域エネルギー株式会社	
	猪飼 幸輝	株式会社ピオクラシックス半田	
【半田】中間支援	山田 隆康	半田市市民経済部環境課	
	片山 高也	半田市市民経済部環境課	
環境省	佐々木 真二郎	環境省大臣官房地域政策課地域循環共生圏推進室	
	横山 皓己	環境省大臣官房地域政策課地域循環共生圏推進室	
	坪倉 陽平	環境省大臣官房地域政策課地域循環共生圏推進室	
	猪岡 貴光	環境省中部地方環境事務所環境対策課	
	縄野 正衛	環境省中部地方環境事務所環境対策課	
全国事務局	益田 大輔	環境再生保全機構地球環境基金部基金管理課	オンライン参加
	江口 健介	地球環境パートナーシッププラザ(GEOG)	オンライン参加
事務局	清本 三郎	中部環境パートナーシップオフィス(EPO 中部)	
	原 理史	中部環境パートナーシップオフィス(EPO 中部)	
	富田 夏子	中部環境パートナーシップオフィス(EPO 中部)	



④実施内容

地域循環共生圏づくりキックオフミーティング (中部ブロック2024)

● **開催日**: 2024年6月26日(水) 13:15～16:15頃

● **会場**: ウィンクあいち 13階・会議室1307

➢ 名古屋駅から徒歩5分 <https://www.winc-aichi.jp/access/>

➢ 〒450-0002愛知県名古屋市中村区名駅4丁目4-38

● 実施内容(プログラム)

1. ごあいさつ／地域循環共生圏とは(及び本事業について)
2. 参加団体による本事業の取組予定内容の発表 (15分×3地域=45分)
3. 質問&交流タイム&休憩
4. ワークショップ:ステークホルダーの紹介&巻き込みアイデア出し
ワーキング

1

プログラム/タイムスケジュール (予定)

	プログラム	時間	登壇者等
	13:15～16:15頃 キックオフミーティング		
1	ごあいさつ	5分	・ 環境省地域循環共生圏室
	地域循環共生圏とは(本事業の意義・期待について)	15分	・ 環境省中部地方環境事務所
2	参加団体による取組計画・内容の発表	45分 (3地域×15分)	・ 中間支援主体:地域・活動団体の前説等 ・ 活動団体:取組発表
3	質問タイム	10分	
	交流&休憩タイム	20分	
4	ワークショップ: ステークホルダーの紹介&巻き込みアイデア出し	85分 (残り時間で実施)	・ 各地域(参加団体)別のグループでステークホルダー図作成ワーキング ・ ファシリテーター:EPO中部
	16:15頃～16:45 (予備/撤収)		
	交流タイムのつづき/事務局は後片付け等(17時施錠厳守)		
	16:45頃には懇親会会場へ移動開始		
	17:00～19:00 (約120分) 懇親会		

2

ウ 中間共有会の開催

①会議名

- 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業
中部ブロック中間共有会 2024 in 長野・飯綱高原

②日時

- 中間共有会：2024年10月23日（水）13：15～16：15
- エクスカーション：2024年10月24日（木）9：00～14：30

③会場

- 中間共有会会場：アソビーバ 3階・会議室
- エクスカーション視察地：草刈りバスターズ現場、大谷地湿原、森の駅 Daizahoushi、いづなお山の発電所

④出席者

氏名	所属先	1日目 共有会	2日目 視察
橋本 弥登志	エコグリーンツーリズム水の里しらやま	参加	-
横山 幸子	エコグリーンツーリズム水の里しらやま	参加	-
恒本 ひとみ	エコグリーンツーリズム水の里しらやま	参加	-
堀江 浩美	エコグリーンツーリズム水の里しらやま	参加	-
三田村 佳政	合同会社ローカル SD クリエーション	参加	参加
西澤 一幸	芋井地区住民自治協議会	参加	参加
山口 廣人	芋井地区住民自治協議会	参加	-
中澤 敬雄	芋井地区住民自治協議会	参加	参加
羽田 一郎	芋井地区住民自治協議会	参加	参加
岸 豊	いもいりビングらぼ	参加	参加
村上 裕紀子	いもいりビングらぼ	参加	-
村田 江美子	いもいりビングらぼ	参加	参加
上島 ひとみ	いもいりビングらぼ	参加	参加
岡地 孝浩	地域おこし協力隊員	参加	参加
金箱 孝史	長野市芋井支所長	-	-
亀垣 嘉明	長野県 NPO センター	参加	参加
阿部 今日子	長野県 NPO センター	参加	参加
吉田 喜美夫	長野県 NPO センター	参加	参加
服部 亜紀	半田市地域循環共生圏推進協議会	参加	参加
白羽 佐千子	半田市地域循環共生圏推進協議会	参加	参加
片山 高也	愛知県半田市	参加	参加
勝亦 達夫	信州大学 キャリア教育・サポートセンター講師	参加	-
鬼沢 良子	NPO 持続可能な社会をつくる元気ネット 理事長	参加	-
坪倉 陽平	環境省地域政策課 地域循環共生圏推進室	参加	参加
清間 笑奈	環境省地域政策課 地域循環共生圏推進室	参加	参加
鈴木 祥之	信越自然環境事務所	参加	-
秋本 紘子	信越自然環境事務所 戸隠自然保護官事務所	参加	湿原同行
井川 洋	信越自然環境事務所 戸隠自然保護官事務所	参加	湿原同行
縄野 正衡	中部地方環境事務所	参加	参加
大庭 みゆき	中部地方環境事務所	参加	参加
比留間 美帆	GEOC	参加	参加

氏名	所属先	1日目 共有会	2日目 視察
益田 大輔	ERCA	参加	参加
永井 亮	ERCA	参加	参加
清本 三郎	EPO 中部	参加	参加
原 理史	EPO 中部	参加	参加
富田 夏子	EPO 中部	参加	参加

⑤実施内容

1日目・中間共有会のプログラム

日時:10月23日(水)13:15~16:15 + エクスカーションの説明終了16:35頃

会場:アソビーバ 3階・会議室

プログラム

1. ごあいさつ (10分)
2. 3地域の取組状況・今後の展開予定等の報告・発表 (3地域×20分=60分)
3. 先輩団体による取組紹介 (15分)
 - 北信スマートテロワール:勝亦 達夫 氏(信州大学 キャリア教育・サポートセンター 講師)
4. 休憩&交流タイム (20分)
5. ディスカッション (75分)

(終了後)翌日のエクスカーション／草刈りバスターズの説明・注意等 (20分)

16:35~17:00 宿泊者はチェックイン

懇親会

日時:10月23日(水)17:00~19:00

会場:アソビーバ 本館2階・れんげの間

2



⑥ エクスカーション

2日目・エクスカーションの行程

日時: 2024年10月24日(木)09:00~14:30頃

予定時刻	行程	
09:00	アソビーバ 正面入り口前・駐車場 集合・出発	
	🚗約5分	
09:05~10:40	草刈りバスターズ現場 ➤ プログラム体験	
	🚗約5分	
10:45~11:15	大谷地(おおやち)湿原(草刈りバスターズの実施対象現場の一つ) ➤ 見学・散策	
	🚗約5分	
11:20~12:20	森の駅 Daizahoushi ➤ 視察車に合流してお弁当を受け取り(視察車内で食べてもOK) ➤ 昼食・休憩・周辺散策など	
	🚗約15分	
12:35~13:45	いいづなお山の発電所(長野森林資源利用事業協同組合) ➤ バイオマス発電施設等見学	
	🚗約30分	🚗(長野県NPOセンターの車で)約15分
14:30までに	長野駅 東口 到着・解散	アソビーバ 到着 自家用車での来場者は解散

4



エ GEOC が主催する事業関連会議等への参加

- 環境省、GEOC が主催する地域循環共生圏づくり支援体制構築事業に関連する会議・会合等に、次表の通り、出席した。
- 中間支援ギャザリング（第1回、第2回ともに）では、第1回では中部エリアの3中間支援主体によるブレイクアウトルーム（振り返りディスカッション）のファシリテーターを、第2回では計4回のグループディスカッションのファシリテーターをEPOが務めた。

※ 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業の関連会議以外の会合については、「7(2)全国ネットワークの活用及び連携の確保・強化」に掲載。

区分	開催日	開催方法	会場	実施内容等（次第等から抜粋）
(中間支援主体対象キックオフM) 第1回中間支援ギャザリング	5月30日 ～31日	オンライン	—	<ul style="list-style-type: none"> ● 中間支援主体の自己紹介 ● 【インプット①】地域循環共生圏の考え方と本事業の目的 ● 【インプット②】協働ガバナンスと中間支援機能 ● 振り返りディスカッション ● 中間支援主体の活動紹介
作業部会	第1回 9月4日	リアル	GEOC (東京)	<ul style="list-style-type: none"> ● 4～8月までの振り返り、全国支援事務局視点の課題感の共有 ● グループワーク:3 地方で1つのグループをつくり情報を整理する ● 継続の可否を判断するための視点説明 ● 次年度以降の業務運営改善ポイントについて意見交換 ● 今後の会議について
	第2回 1月30日	ハイブリッド	GEOC (東京)	<ul style="list-style-type: none"> ● 全国26案件の現状(開始当初からの変化など)について ● 中間支援ギャザリングの企画ブラッシュアップについて ● 次年度フォーマットについて
EPO等共有会	5月15日	オンライン	—	<ul style="list-style-type: none"> ● 【議題1】共生圏づくり支援体制構築事業の全体像 ● 【議題2】採択事業の情報共有 ● 【議題3】審査プロセス振り返り ● 【議題4】今後の予定
事業検討会議	12月18日	ハイブリッド	GEOC (東京)	<ul style="list-style-type: none"> ● 【議題1】本事業として目指す姿 ● 【議題2】次年度の実施内容(参加団体向け) ● 【議題3】次年度の実施内容(EPO等向け) ● 【議題4】今年度中の予定
(成果共有会) 第2回中間支援ギャザリング	2月27日 ～28日	リアル	TKP 新橋 カンファレンスセンター (東京)	<p>1日目:1年間の取組(中間支援)を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ● オリエンテーション(導入) ● 1年間の活動、中間支援主体としての取組発表 ● 意見交換 ● テーマ別交流 <p>2日目:今後の地域づくりのために必要な中間支援機能を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ● オリエンテーション ● 今後に向けたディスカッション ● 今後、取り組みたいこと宣言!! ● 有識者からのコメント

オ 卒業団体のフォローアップ調査

- 12月24日にPF尾鷲（おわせSEAモデル協議会）を対象にしたオンラインヒアリングによるフォローアップ調査を実施した。
- ヒアリング結果をヒアリングシート（共通フォーマットあり）に整理・記入し、GEOCへ提出した。

(2) 身近な自然資本活用に関する意見交換会等の開催

ア 「SDGs AICHI EXPO 2024」ステージイベントとブース出展

①日時

- ステージ企画：2024年10月10日（木）10：15～11：45
- ブース出展：2024年10月10日（木）・11日（金）・12日（土）10：00～17：00

②会場

- 愛知県国際展示場「Aichi Sky Expo」（愛知県常滑市）

③ステージ企画（中部地方環境事務所主催企画）での実施内容

- 「地球を救うアカデミー」WoW キツネザル
- 「ネイチャーポジティブの取り組み」
亀山市産業環境部 生物多様性・獣害対策室 上野 篤史
三栄林産株式会社 代表取締役社長 坂 成哉
愛知県環境局環境政策部 自然環境課 大島 孝士
加山興業株式会社 経営企画室 マネージャー 井上 智博
環境省中部地方環境事務所 野村 環
司会：EPO 中部 富田 夏子

④出展ブースでの実施内容

- 中部地方環境事務所の出展ブースにおいて、ネイチャーポジティブが温暖化対策と同様に重要であることを来場者に説明するとともに、生物多様性を向上させる活動の結果として生産される食品などを私たちが選択（購入）することで、ネイチャーポジティブに貢献できることを伝える展示販売を行った。3日間で計86品が購入された。



【展示販売商品一覧】

	地域	内容、商品名	内容	提供元	数量	価格
01	愛知県岡崎市	自然共生サイト「鳥川ホテルの里」で生態系を保全する農法で栽培「鳥川ホテルの米」	米	片岡喜幸	300g パック 40 袋	350
02	愛知県美浜町	砂浜の生態系を構成し、潮干狩りの重要な資源でもあるアサリを捕食してしまうツメタガイを使ったカレー「海音貝（うんね）カレー」	カレーの缶詰	美浜町地域ブランド化推進協議会	缶詰 48 個	760
03	福井県越前市	コウノトリを呼び戻すために、田んぼの生態系を保全する無農薬農法米を栽培し、それを酒米にした純米吟醸の酒粕 無農薬純米吟醸「かたかた」の酒粕	酒粕	まっきーの杜（農事組合 法人） 森	パック詰め 6 個	550
04	富山県上市町	放置竹林の幼竹を使って生態系の保全に貢献する国産メンマ「つるぎ竹菜」メンマ	メンマ	株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズ	50 個	500

	地域	内容、商品名	内容	提供元	数量	価格
05	三重県 亀山市	山林と同じく地域の大切な資源である田んぼを守る活動から生まれたお米 低農薬・低化学肥料の特別栽培米 ※かめやま生物多様性共生区域認定「かぶとのおこめ」	米	三栄林産(株)かぶとの森テラス	300g/パック 22 個	500
06	三重県 亀山市	低農薬、有機肥料で栽培 水生生物を育み、自然体験を通じて小さな子どもから大人までが、地域コミュニティの場として活用している ※かめやま生物多様性共生区域認定 里のにぎわい「大地のおへそ」でとれたお米	米	里のにぎわい『大地のおへそ』	300g/パック 30 個	500

イ 白山エリアの交流人口増加を考えるシンポジウムの開催

①イベント名

- 白山エリアの交流人口増加を考えるシンポジウム
～白山の魅力を伝えるインタープリテーションを語る～

②日時

- 2025年2月9日（日）13:30～16:00

③会場

- 野々市市交遊舎(石川県野々市市)

④主催等

- 主催：環境省白山自然保護官事務所、中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）
- 共催：白山手取川ジオパーク推進協議会、白山ユネスコエコパーク協議会
- 後援：石川県、白山市、野々市市

⑤参加者

- 41名

⑥プログラム

- 開会挨拶 中部地方環境事務所
- 「白山国立公園の魅力」 白山自然保護官事務所 自然保護官 綾部 芳秀
- 「白山手取川ユネスコ世界ジオパークの資源」
白山手取川ジオパーク推進協議会 専門員 日比野 剛
- 基調講演「インタープリテーションは何の役に立つのか」
金沢大学 融合研究域 准教授 山田 菜緒子
- 話題提供
「国内のインタープリテーション事例」 株式会社自然教育研究センター 村上 友和
「アメリカの国立公園とインタープリテーション」 獨協大学 講師 増田 由香子
- パネルディスカッション「インタープリテーションの白山エリアへの活用方法、課題」



⑦開催案内チラシ



白山エリアの 交流人口増加を考える シンポジウム



～白山の魅力を伝えるインタープリテーションを語る～

2025年2月9日(日)
13:30～16:00
受付開始 13:00

会場：野々市市交遊舎
石川県野々市市二日市1丁目2-2
参加無料・定員80名[先着]

野々市市交遊舎の交通アクセス → 
<https://www.city.nonoichi.lg.jp/soshiki/31/764.html>

プログラム

- 開会挨拶 中部地方環境事務所
- はじめに 白山国立公園の魅力 綾部 芳秀 氏 白山自然保護官事務所自然保護官
白山手取川ユネスコ世界ジオパークの資源 日比野 剛 氏 白山手取川ジオパーク推進協議会専門員
- 基調講演 インタープリテーションは何の役に立つのか 山田 菜緒子 氏 金沢大学融合研究域准教授
- 話題提供 国内のインタープリテーション事例 村上 友和 氏 株式会社自然教育研究センター
アメリカの国立公園とインタープリテーション 増田 由香子 氏 獨協大学講師
- パネルディスカッション
「インタープリテーションの白山エリアへの活用方法、課題」

参加申込方法

参加申込・お問合せはこちらから
<https://forms.gle/VVB27GshrHpmMvFA>



詳細はEPO中部の
ホームページへ

 [epo-chubu.jp](http://www.epo-chubu.jp)
<http://www.epo-chubu.jp>

主催：環境省白山自然保護官事務所、中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部)
共催：白山手取川ジオパーク推進協議会、白山ユネスコエコパーク協議会
後援(申請中)：石川県、白山市、野々市市 背景写真：白山国立公園 油坂 秋9月(白山自然保護官事務所)

(3) グリーン社会実現に向けたステークホルダー連携促進事業

ア 愛知県環境局主催「Let's エコアクション in AICHI」ブース出展

①日時

- 2024年11月2日(土) 10:00~16:00

②会場

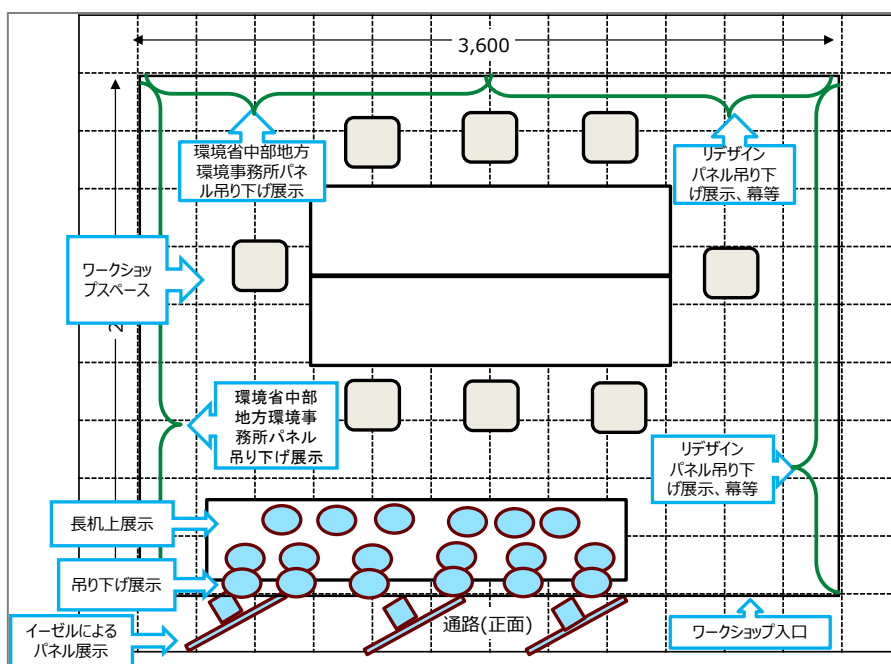
- 鶴舞公園(名古屋市昭和区)

③参加者

- (ワークショップ参加者) 42名

④実施内容

- 一般社団法人リデザインプロジェクトと協力し、端布によるリース作成ワークショップを中部地方環境事務所のブース内にて実施した。
- 同時にプロジェクトで制作した作品、活動紹介パネル及び資源循環に関する啓発パネルを展示するなどにより来場者にサーキュラーエコノミーの普及啓発を行った。



イ 環境へのアプローチを活かした鳥羽エリア創発ミーティングの開催

①催事名

- 環境へのアプローチを活かした鳥羽エリア創発ミーティング
「鳥羽エリアの未来を彩る私たちの環境アクション for2050 を考える」

②日時

- 2025年1月15日（水）13：30～16：00

③会場

- 鳥羽商工会議所 かもめホール（三重県鳥羽市）

④主催等

- 主催：環境省 中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）
- 協力：鳥羽市

⑤出席者

氏名	所属先等
上村 渡	鳥羽市環境課
大串 浩暉	鳥羽市農林水産課
岡田 彩瞳	鳥羽市企画財政課
小久保 怜美	鳥羽市農林水産課
後藤 洸	鳥羽市観光商工課
榊原 友喜	鳥羽市農林水産課
勢力 正太	鳥羽市観光商工課
恒吉 美智子	海島遊民くらぶ
中井 理江	鳥羽市環境課
中村 成太	鳥羽市環境課
村田 直	鳥羽市企画財政課
山田 純也	鳥羽市農林水産課
佐藤 大知	映像ディレクター
中村 欣一郎	鳥羽市長
縄野 正衡	環境省 中部地方環境事務所 課長補佐
山内 正照	環境省 中部地方環境事務所 環境影響審査調査官
小泉 大樹	環境省 中部地方環境事務所 資源循環課
柘植 規江	伊勢志摩国立公園管理事務所
朝緑 高太	株式会社ピリカ
小浦 嘉門	22世紀奈佐の浜プロジェクト
岩尾 豊紀	鳥羽市水産研究所
清本 三郎	EPO 中部
富田 夏子	EPO 中部

⑥実施内容

- あいさつ 鳥羽市長 中村 欣一郎
- あいさつ/本日の趣旨 環境省 中部地方環境事務所
- 環境省/国立公園の取組 伊勢志摩国立公園における「ゼロカーボンパーク」の取組について 伊勢志摩国立公園管理事務所
- 地域の取組事例
 海洋プラスチック問題解決に向けた取組 株式会社ピリカ 朝緑 高太
 鳥羽市における海ゴミ問題について 22世紀奈佐の浜プロジェクト 代表 小浦 嘉門
 鳥羽市のブルーカーボン(藻場再生)の取組について 鳥羽市水産研究所 岩尾 豊紀
- グループ・ディスカッション
 鳥羽エリアの「環境アクション for2050」を考えてみる！



⑦開催案内資料

<p>環境へのアプローチを活かした鳥羽エリア創発ミーティング2024</p> <h3>鳥羽エリアの未来を彩る 私たちの環境アクション for2050を考える</h3> <p>開催案内</p> <p>2025年1月15日(水) 13:30~16:00</p>	<p>開催の趣旨</p> <p>2024年1月に実施した鳥羽エリアのリスレインパブリックワークショップに引き続き、今年度も鳥羽エリアにおける環境問題への関心を高め、市民一人ひとりができる取組や行動方法を促進するアイデアを出し合う機会を開催します。</p> <p>本「環境アクション」では鳥羽エリアの自然環境、歴史・観光を共有し、2050年に向けた鳥羽の取組について参加者の皆さんと一緒に考えます。</p>	<p>開催概要</p> <p>日時 2025年1月15日(水) 13時30分～16時00分</p> <p>会場 鳥羽商工会議所 3階・かもめホール (三重県鳥羽市大明東町1-7) https://goo.gl/maps/ormwNGErlqA5WIL66Z</p> <p>主催等 主催：環境省 中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部) 協力：鳥羽市</p>
<p>プログラム</p> <ol style="list-style-type: none"> はじめに <ul style="list-style-type: none"> ■ あいさつ 鳥羽市長 中村 欣一郎氏 ■ あいさつ/本日の趣旨 環境省 中部地方環境事務所 環境省/国立公園の取組 (10分) <ul style="list-style-type: none"> ■ 伊勢志摩国立公園における「ゼロカーボンパーク」の取組について 伊勢志摩国立公園管理事務所 地域の取組事例 (60分) <ul style="list-style-type: none"> ■ 海洋プラスチック問題解決に向けた取組 株式会社ピリカ 朝緑 高太氏 ■ 鳥羽市における海ゴミ問題について 22世紀奈佐の浜プロジェクト 代表 小浦 嘉門氏 ■ 鳥羽市のブルーカーボン(藻場再生)の取組について 鳥羽市水産研究所 岩尾 豊紀氏 グループ・ディスカッション (60分) <ul style="list-style-type: none"> ■ 鳥羽エリアの「環境アクションfor2050」を考えてみる！ 	<p>参加方法</p> <p>参加申込フォームから https://forms.gle/6wsGARHA21221CVA</p>  <p>問合せ先/連絡先</p> <p>環境省 中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部) TEL: 052-218-8605 / E-mail: info@epo-chubu.jp https://www.epo-chubu.jp</p> <p>鳥羽市 環境課 環境保全係 TEL: 0599-25-1147</p>	

ウ 地域脱炭素の実現に向けた事業者・金融機関向けセミナーの開催

①イベント名

- 地域脱炭素の実現に向けた事業者・金融機関向けセミナー in 北陸

②日時

- 2025年1月29日(水) 13:30~16:30

③会場・運営方法

- 会場：福井銀行本店ビル2階ホール(福井県福井市)
- オンライン：webex ミーティング

④主催等

- 主催：環境省中部地方環境事務所、経済産業省近畿経済産業局、財務省北陸財務局、中部環境パートナーシップオフィス(EPO 中部)、株式会社福井銀行、株式会社福邦銀行
- 共催：福井県

⑤参加者

- 228名(会場参加88名、Webex 140名)

⑥プログラム

- 開会挨拶 環境省中部地方環境事務所、財務省北陸財務局福井財務事務所
- 第一部 施策紹介等
経済産業省近畿経済産業局
環境省中部地方環境事務所
福井県
株式会社福井銀行
- 第二部 取組紹介
「地域脱炭素に向けた再エネ事業と人づくり」井上小水力発電株式会社
「自社およびサプライチェーンにおける脱炭素の取組み」福井鋳螺株式会社
「脱炭素先行地域事業における地域課題解決事例」敦賀市
「重点対策加速化事業における地域課題解決事例」越前市
- 第三部 パネルディスカッション テーマ「北陸における地域脱炭素の実現に向けて」
パネリスト：井上小水力発電株式会社
福井鋳螺株式会社
敦賀市
越前市
株式会社福井銀行
環境省中部地方環境事務所
ファシリテーター：福井県
- 閉会挨拶 環境省中部地方環境事務所



⑦開催案内チラシ

地域からのグリーン社会の実現に向けたステークホルダー連携促進事業

地域脱炭素の実現に向けた 事業者・金融機関向けセミナー

地域脱炭素と地域課題の同時解決の実現に向けて、事業者や事業者への
支援を担う金融機関を対象にしたセミナーを開催いたします。



2025年 1月29日(水) 13:30~16:30

プログラム

- 開会** ご挨拶 …… 環境省中部地方環境事務所、財務省北陸財務局福井財務事務所
- 第一部 施策紹介等**
- 施策紹介等情報提供 …… 経済産業省近畿経済産業局
 - 施策紹介等情報提供 …… 環境省中部地方環境事務所
 - 施策紹介等情報提供 …… 福井県
 - 施策紹介等情報提供 …… 株式会社福井銀行
- 第二部 取組紹介**
- 地域脱炭素に向けた再エネ事業と人づくり …… 井上小水力発電株式会社
 - 自社およびサプライチェーンにおける脱炭素の取組み …… 福井鋸螺株式会社
 - 脱炭素先行地域事業における地域課題解決事例 …… 敦賀市
 - 重点対策加速化事業における地域課題解決事例 …… 越前市
- 第三部 パネルディスカッション**
- テーマ「北陸における地域脱炭素の実現に向けて」
- パネリスト 井上小水力発電株式会社
福井鋸螺株式会社
敦賀市
越前市
株式会社福井銀行
環境省中部地方環境事務所
- ファシリテーター 福井県
- 閉会** ご挨拶 …… 環境省中部地方環境事務所

参加方法

- 会場参加
- オンライン参加も可能です。

参加申込フォームの中で
選択してください。
<https://forms.gle/nquGgKMA5Qq7VUip6>



- 会場参加：福井銀行本店ビル 2階ホールへ当日お越しください。
福井市順化1丁目1番1号 JR福井駅から徒歩約10分
Googleマップ：<https://maps.app.goo.gl/kpXreJXzEUZNwg4r6>



- オンライン
参加URLについては、開催日前日までにお送りします。

主 催：環境省中部地方環境事務所・経済産業省近畿経済産業局・財務省北陸財務局・
中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部)・株式会社福井銀行・株式会社福邦銀行
共 催：福井県

エ 中部共進化座談会の開催

①会議名

- 中部共進化座談会「中部からはじめる『共進化』の動きに向けて」

②日時

- 2025年3月7日（金）13：30～16：40

③会場

- ウィンクあいち 1304 会議室（愛知県名古屋市）



④出席者

○総括コメンテーター

- 中部大学副学長 中部高等学術研究所長 国際GISセンター長 教授 福井弘道

○話題提供・ディスカッション

<1>環境を起点とする地域政策、地域経済社会の活性化の取組について

- 中部大学 国際ESD・SDGsセンター准教授 中部ESD拠点事務局長 古澤礼太
- 愛知学院大学教授 日本環境共生学会副会長・常務理事 森下英治
- 名古屋大学教授 日本環境共生学会常務理事 林希一郎
- 名古屋大学 附属持続的共発展教育研究センター教授 高野雅夫
- 名古屋大学大学院環境学研究科特任教授 東海学園大学教授 杉山範子

<2>経済成長・経済発展、ビジネス、イノベーションの取組と環境課題の解決について

- 名古屋市立大学大学院経済学研究科・経済学部教授 地域活性学会 鶴飼宏成
- 中部圏社会経済研究所 企画調査部長 松田直己

⑤主催、事務局

- 環境省中部地方環境事務所、中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）

⑥実施内容

開会趣旨説明	環境省中部地方環境事務所
環境政策の動向と「地域×共進化」	中部地方環境事務所 所長 小森 繁
話題提供①	●論点説明 進行：中部大学副学長 福井弘道
話題提供(5 題)と質疑応答	●話題提供 テーマ：環境を起点とする地域政策、地域経済社会の活性化 ・持続可能な地域のための人づくり：中部大学 古澤礼太 ・持続可能な社会づくりへの合意形成：愛知学院大学 森下英治 ・生態系サービスへの理解醸成：名古屋大学 林希一郎 ・再生可能エネルギー、持続可能な地域：名古屋大学 高野雅夫 ・自治体の取組支援：東海学園大学 杉山範子 ●質疑応答、その他補足的話題の提供
話題提供とディスカッション②	●話題提供 進行：中部大学副学長 福井弘道
話題提供(2 題)とディスカッション	テーマ：経済成長・経済発展、ビジネス、イノベーションの取組と環境課題の解決について ・脱炭素社会のアントレプレナーシップ教育：名古屋市立大学 鶴飼宏成 ・地域経済と環境エネルギー課題：中部圏社会経済研究所 松田直己 ●座談形式によるディスカッション 司会：中部大学副学長 福井弘道
とりまとめ	「中部地域における共進化推進の今後の方向性について」の確認・共有
講評・終了挨拶	

(4) 地域循環共生圏創造事業の担い手の把握（地域循環共生圏づくり支援体制構築事業の選定団体について）

(ア) 丹南

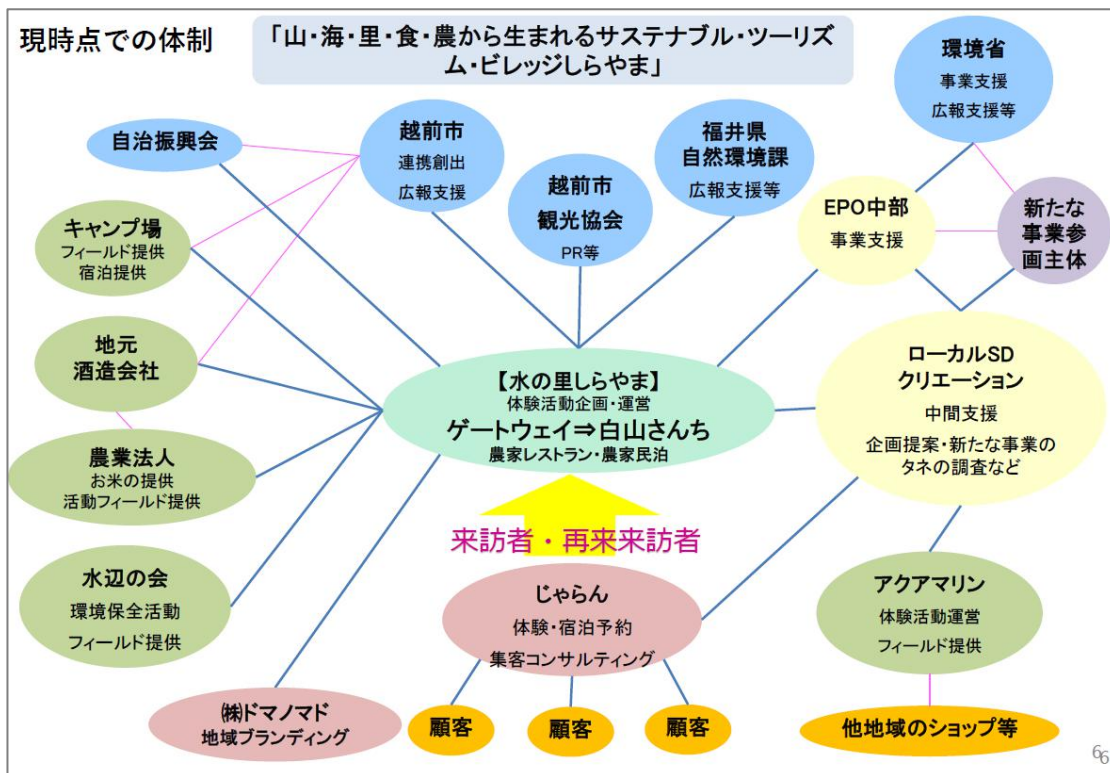
① 中間支援主体：合同会社ローカル SD クリエーション

団体名	合同会社ローカル SD クリエーション
所在地	福井県越前市南小山町 5-19
活動地域	福井県全域
設立	令和 2 年 4 月 24 日
団体の目的	自然環境を基軸に多様な地域資源を発掘・創造・活用することで地域内外の人と人をつなぎ、地域の持続的発展を創造する多様な事業を展開し、持続可能な開発目標（SDGs）の実現を目指す。

② 活動団体：エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま

活動団体名	エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま
所在地	福井県越前市安養寺町 5-3 越前市みどりと自然の村
活動地域	福井県丹南地域（越前市、鯖江市、越前町、南越前町）
設立	平成 27 年 3 月 8 日
団体の目的	白山地区内に存在する美しい自然、伝統文化、伝統産業や多様な農林業生産活動を活かした農山村滞在型余暇活動の推進を通して、地域の農林業や伝統産業の振興と活性化を図ることを目的とする。

③ 目指す“地域プラットフォーム”のイメージ



(イ) 長野

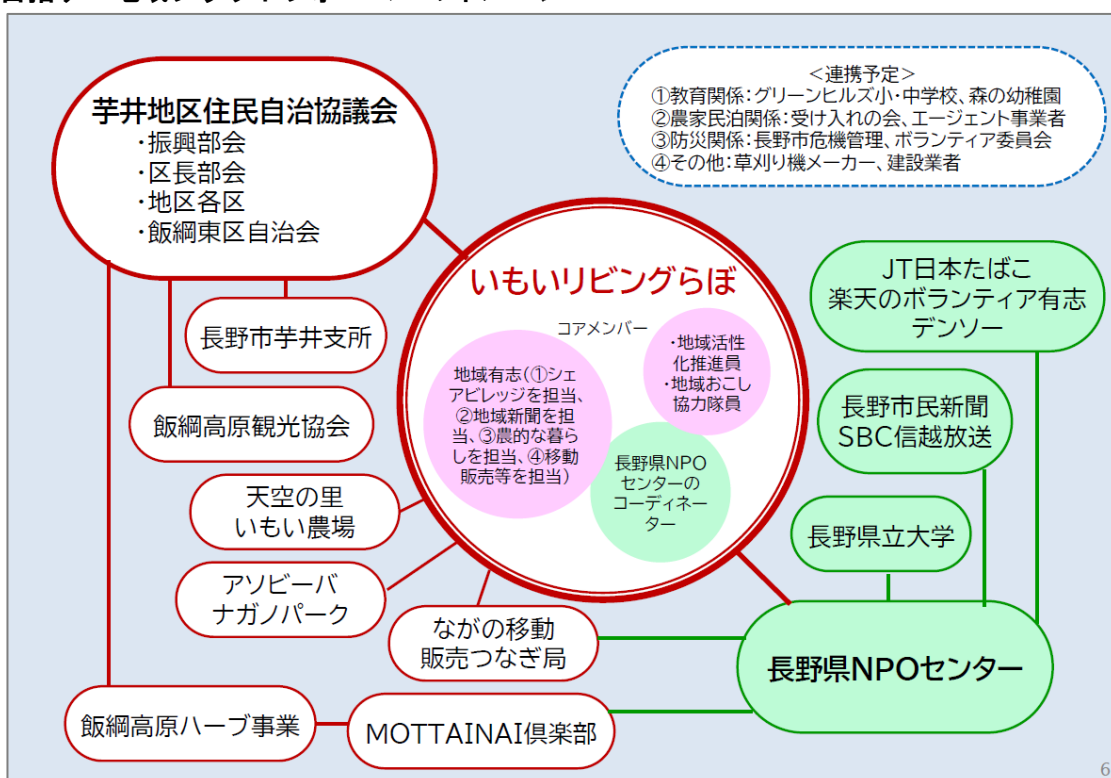
①中間支援主体：認定特定非営利活動法人長野県 NPO センター

団体名	認定特定非営利活動法人長野県 NPO センター
所在地	長野県長野市大字高田 1029-1
活動地域	長野県全域
設立	平成 11 年 4 月 22 日
団体の目的	(定款より) この法人は、長野県における市民社会の発展を目指し、民間非営利組織が地域や分野を越え幅広く活動するための基盤づくりを進めるとともに、企業や行政等多様な主体とのパートナーシップの形成促進と持続可能な地域づくりの推進を目的とする。

②活動団体：芋井地区住民自治協議会

活動団体名	芋井地区住民自治協議会
所在地	長野市大字桜 824 番地 3(仮設庁舎：大字桜 600 番地 6)
活動地域	長野市芋井地区 ※「過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法」(令和 3 年法律第 19 号)に基づく過疎地域(第 2 条、第 3 条、第 41 条～第 43 条に規定する過疎地域)に該当
設立	平成 20 年 3 月 15 日
団体の目的	芋井地区の住民相互の交流と親睦を図り、共通の利益の増進、生活環境の保持・改善に努力し、文化・福祉の向上と豊かで住みやすい地域づくりに寄与することを目的とする。

③目指す“地域プラットフォーム”のイメージ



(ウ) 半田

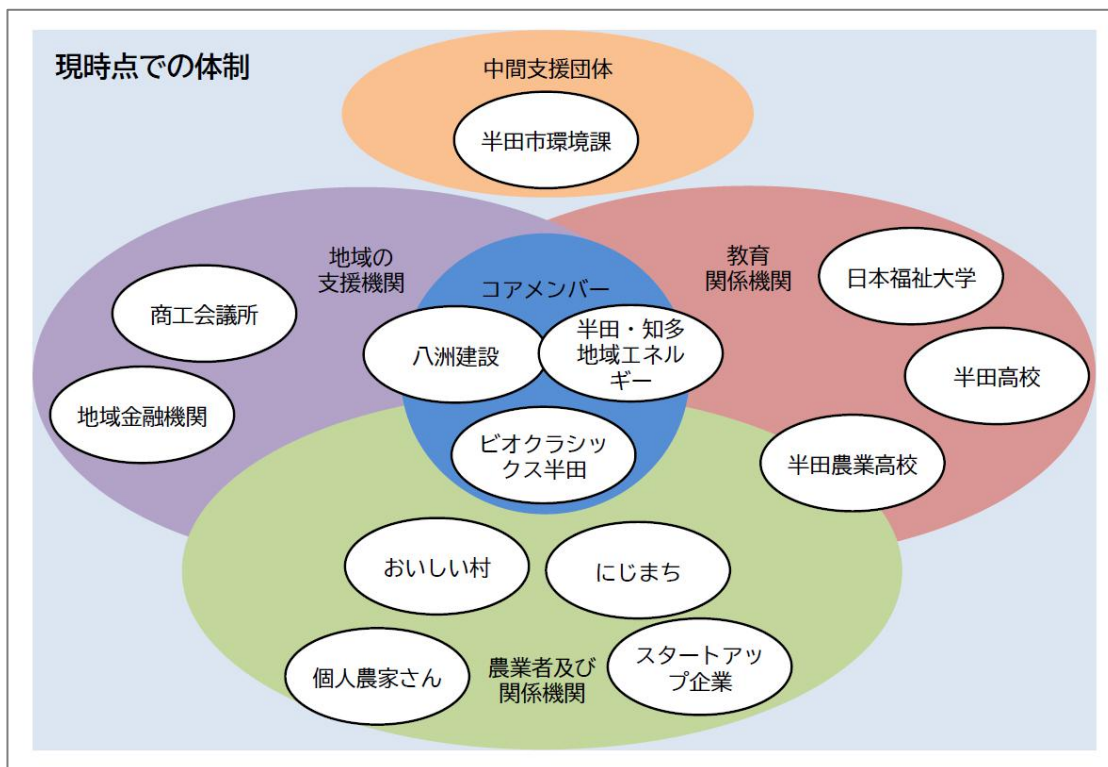
① 中間支援主体：半田市

団体名	愛知県半田市
所在地	半田市東洋町 2 丁目 1 番地
活動地域	愛知県半田市
設立	昭和 12 年 10 月 1 日

② 活動団体：半田市地域循環共生圏推進協議会

活動団体名	半田市地域循環共生圏推進協議会
所在地	愛知県半田市吉田町 1 丁目 60 番地
活動地域	愛知県半田市及びその周辺地域
設立	令和 6 年 5 月 17 日
団体の目的	半田市及び周辺地域における人材、資源・エネルギー、資金の地域内循環の拡大と同時に地域課題の解決を図り、持続可能な社会を形成する。

③ 目指す“地域プラットフォーム”のイメージ



6 中部地方 ESD 活動支援センター業務

(1) 自然資本等の活用による ESD 促進 (ESD ダイアログの開催)

① イベント名

- ESD ダイアログ 2024 「山と水と人間と～飛騨高山からの ESD 発信～」

② 日時

- 1 日目 ESD ダイアログ：2024 年 11 月 22 日（金）10：30～15：15
- 2 日目 エクスカーション：2024 年 11 月 23 日（土）8：30～15：30

③ 会場等

- 1 日目会場：飛騨高山まちの博物館 研修室（岐阜県高山市）
- 2 日目視察地：中部山岳国立公園の見学

④ 主催等

- 主催：中部地方 ESD 活動支援センター（環境省 EPO 中部）
- 後援：高山市 高山市教育委員会

⑤ 参加者

- 1 日目 ESD ダイアログ：32 名、2 日目 エクスカーション：8 名

⑥ プログラム

1 日目 ESD ダイアログ

○あいさつ 高山市 教育長 見山 政克、環境省中部地方環境事務所 課長補佐 縄野 正衡

○第一部 自然資産と ESD

基調講演 ①「中部山岳国立公園 ～自然の保全と活用～」

環境省平湯管理官事務所 国立公園管理官 島 充明

話題提供 一般財団法人飛騨山脈ジオパーク推進協会 常務理事 田中 裕

NPO 法人飛騨高山わらべうたの会 理事長 岩塚 久案子

一般社団法人ふるさと体験飛騨高山 事務局長 鈴木 仁孝

基調講演 ②「自然資源を活かした ESD と地域づくり」

信州大学教育学部 准教授 水谷 瑞希

○第二部 ESD 活動報告

高山市立三枝小学校 4 年生のみなさん

高山市立朝日中学校 1 年生のみなさん

岐阜県立高山工業高等学校 建築インテリア工学科主任 梶井 真也

○第三部 パネルディスカッション

パネリスト：高山市教育委員会 安井 慶一

環境省平湯管理官事務所 国立公園管理官 島 充明

一般財団法人飛騨山脈ジオパーク推進協会 常務理事 田中 裕

NPO 法人飛騨高山わらべうたの会 理事長 岩塚 久案子

一般社団法人ふるさと体験飛騨高山 事務局長 鈴木 仁孝

コメンテーター：信州大学教育学部 准教授 水谷 瑞希

コーディネーター：中部地方 ESD 活動支援センター 原 理史



⑦ エクスカーション

2日目 エクスカーション		11月23日(土) 8:30~15:30 中部山岳国立公園の見学	
《行程》			
8:30	○	高山駅西口ロータリー発 集合 / 出発
	○	中部山岳国立公園 奥飛騨ビジターセンター 奥飛騨ビジターセンター、中部山岳国立公園の解説 映像視聴 自由見学など
	○	昼食 昼食は事前予約(実費負担)
	○	平湯大滝 散策・見学(解説) ※ 雨天時は中止
	○	中尾地熱発電所 発電所の見学
15:30	○	高山駅西口ロータリー着 解散



⑧開催案内チラシ

ESDダイアログ 2024

山と水と人間と

～ 飛騨高山からのESD発信～

2024年11月22日(金)～23日(土) @ 飛騨高山

豊かな自然や景観など自然資産を活用したESD(持続可能な開発のための教育)ダイアログを開催します。自然保全活動、観察会、観光などESD活動や環境学習活動の人づくり・地域づくりの学び合いの場に参加しませんか。様々なESD学習活動に携わる皆様はもちろん、自然やSDGsにご興味のある方、参加をお待ちしています。

1日目 ESDダイアログ

日時 11月22日(金) 10:30-15:15

会場 飛騨高山まちの博物館 研修室
岐阜県高山市上一之町75番地

2日目 エクスカーション

日時 11月23日(土) 8:30-15:30

場所 中部山岳国立公園の見学
出発・解散：高山駅西ロータリー

〈 ESDダイアログのプログラム及びエクスカーションの行程は、裏面をご覧ください 〉

参加申込方法

- **申込方法** 参加申込フォームからお申し込みください。
<https://forms.gle/rUCBjP6h9ubG3j3q8>

ウェブサイトからも申込できます。

中部 ESD センター

申込締切：11月19日(火)必着
※ 1日目または2日目のみの参加も可能です。

- **参加費** 参加は無料です。
※ 宿泊は各自で手配願います。
※ 2日目の昼食は実費となります。

- **お問合せ** 中部地方ESD活動支援センター(環境省EPO中部)
E-mail: office@chubuesdcenter.jp



参加申込フォーム



写真「飛騨高山の古い町並」
提供：(社)飛騨高山観光コンベンション協会

背景写真「鏡池より」提供：中部山岳国立公園 奥飛騨ビジターセンター

主催：中部地方ESD活動支援センター(環境省EPO中部)
後援：高山市 高山市教育委員会

ESDダイアログ 2024
山と水と人間と ～飛騨高山からのESD発信～

1日目 ESDダイアログ | 11月22日(金)10:30～15:15 飛騨高山まちの博物館* 研修室

* 岐阜県高山市上一之町75番地 (JR高山駅東口より徒歩約20分) <https://www.city.takayama.lg.jp/machihaku/1001018.html>

《プログラム》

挨拶 見山 政克氏 高山市教育長
挨拶 環境省中部地方環境事務所

第1部 自然資産とESD

基調講演① 「中部山岳国立公園 ～自然の保全と活用～」

島 充明氏 環境省平湯管理官事務所 国立公園管理官

話題提供 田中 裕氏 一般財団法人 飛騨山脈ジオパーク推進協会 常務理事

岩塚 久案子氏 NPO法人 飛騨高山わらべうたの会 理事長

鈴村 仁孝氏 一般社団法人 ふるさと体験飛騨高山 事務局長

基調講演② 「自然資源を活かしたESDと地域づくり」 水谷 瑞希氏 信州大学教育学部 准教授

…… 昼休憩 ……

第2部 ESD活動報告

高山市立三枝小学校 4年生のみなさん

高山市立朝日中学校 1年生のみなさん

岐阜県立高山工業高等学校 建築インテリア工学科主任 梶井 真也 教諭

第3部 パネルディスカッション

パネリスト(予定) 安井 慶一氏 高山市教育委員会

島 充明氏 環境省平湯管理官事務所 国立公園管理官

田中 裕氏 一般財団法人 飛騨山脈ジオパーク推進協会 常務理事

岩塚 久案子氏 NPO法人 飛騨高山わらべうたの会 理事長

鈴村 仁孝氏 一般社団法人 ふるさと体験飛騨高山 事務局長

コメンテーター 水谷 瑞希氏 信州大学教育学部 准教授

コーディネーター 原 理史 中部地方ESD活動支援センター

2日目 エクスカーション | 11月23日(土) 8:30～15:30 中部山岳国立公園の見学

マイクロバスで移動。
自家用車の利用も可能です。

《行程》

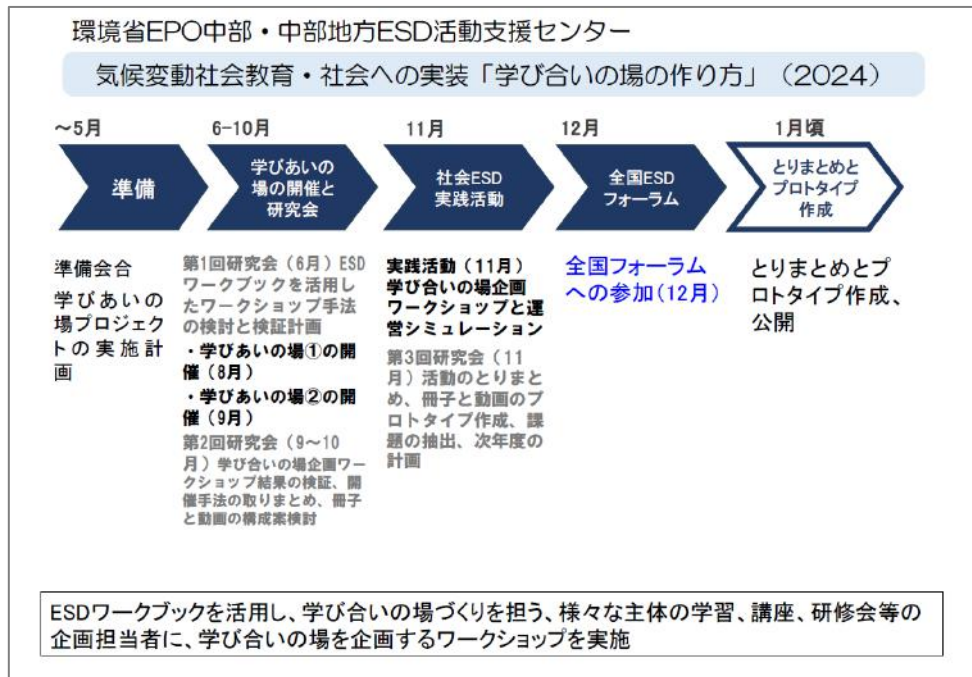
- 8:30 ○ 高山駅西口ロータリー発 …… 集合 / 出発
- 中部山岳国立公園 …… 奥飛騨ビジターセンター、中部山岳国立公園の解説
- 奥飛騨ビジターセンター …… 映像視聴
自由見学など
- 昼食 …… 昼食は事前予約(実費負担)
- 平湯大滝 …… 散策・見学(解説) ※ 雨天時は中止
- 中尾地熱発電所 …… 発電所の見学
- 15:30 ○ 高山駅西口ロータリー着 …… 解散

(2) 多様な主体の連携促進、交流機会の提供（学び合いプロジェクト）

ア 活動計画の作成

- 中部エリアの「ESD for 2030 学び合いプロジェクト」の今年度の企画資料として、学び合いプロジェクト有識者検討会（全3回）、学び合いの場（全2回）、実践活動（全1回）を実施するための活動計画を作成した。
- 活動計画は、有識者検討会で協議を行ったうえで確定とした。

【作成した活動計画】



学び合いプロジェクト有識者検討会	
<p>学び合いプロジェクト有識者検討会 古澤礼太 中部大学国際ESD・SDGsセンター准教授、中部ESD拠点協議会事務局長 水上聡子 EPO中部運営委員、アルマス・バイオコスモス研究所代表 堺 勇人 EPO中部運営委員、一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま（PECとやま）事務局長 原 理史 中部地方ESD活動支援センター、中部大学国際ESD/SDGsセンター研究員【オブザーバー】環境省 中部地方環境事務所環境対策課【事務局】 清本三郎 EPO中部統括</p>	
富山	6/5 ESDワークブックを活用したワークショップ手法の検討と検証計画
福井	9～10月 学び合いの場企画ワークショップ結果の検証、開催手法の取りまとめ、冊子と動画の構成案検討
名古屋	11月 活動のとりまとめ、冊子と動画のプロトタイプ作成 課題の抽出、次年度の計画

学び合いの場①②と実践活動	
<p>学び合いの場①②</p> <p>・学び合いの場① 2024年8月 大学ゼミと連携した学生向け、 学び合いの場企画ワークショップ <学び合い参加者> 愛知教育大学大鹿先生とそのゼミ生を想定 学び合いプロジェクト有識者検討会メンバー</p>	<p>目的:学び合いの場を企画するための方法の検証</p> <p>・学び合いの場② 2024年9月 地域温暖化防止活動推進センター(温セ)と連携した温セ職員・推進員向け、学び合いの場企画ワークショップ <学び合い参加者> 地域地球温暖化防止活動推進センター(中部ブロック)の合同研修 学び合いプロジェクト有識者検討会メンバー</p>
<p>実践活動 学び合いの場を企画、運営する活動の実装</p> <p>2024年11月 坂井市生活環境部環境推進課と連携した、学び合いの場企画ワークショップと運営シミュレーション <学び合い参加者> 社会教育主事や指導的な市民を対象に想定 学び合いプロジェクト有識者検討会メンバー</p>	

学び合いの場づくりワークショップの構成（たたき台）

時間	項目	内容	備考
20～40分	インプット 学び合いの場の重要性	・ESDは人づくり＝地域づくり ・社会教育としての役割 ・ローカルSDGs実現に必要なこと	講演形式
30～60分	ワークショップ1	ベルソナワークショップ 立場の違いから「学び合いの場」の役割を考える。	グループワークショップ
30～60分	ワークショップ2	「学び合いの場づくり」ワークショップシートを用いて「学び合いの場」を企画する。	グループワークショップ
10～30分	共有と相互評価	作業結果を発表し相互評価を行う	

○我が事化するための構成上の留意点
・「学び合いの場」のテーマを絞る。
・ベルソナの役割を参加者が想像できるように配慮する（身近にいる人など）
○時間配分の留意点
・ワークショップ1, 2は同時進行をすることの検討する。

イ ノウハウ共有と推進に関する方策の検討

- 学び合いプロジェクトにおけるノウハウ共有と推進に関する方策を検討する場として、全国センターが開催する次表の会合に出席した。

区分	開催日	開催方法	会場	実施内容等
作業部会	第1回 7月25日	リアル	青山ブックセンター (東京)	<ul style="list-style-type: none"> ● 話題提供:気候変動教育に関する最新動向(白井先生) ● 話題提供:気候変動教育に関する最新動向(遠藤先生) ● 学び合いプロジェクト説明 ● 意見交換:R6、R7 学び合いプロジェクトの成果のまとめ方について
	第2回 2月25日	ハイブリッド	GEOC (東京)	<ul style="list-style-type: none"> ● 第2回作業部会のスケジュール等の説明 ● 学び合いプロジェクトの説明 ● 意見交換:学び合いプロジェクトの今後の進め方について

ウ 学び合い（勉強会・意見交換会、ワークショップ等）の実施

(ア) 第1回 学び合いプロジェクト有識者検討会

①日時

- 2024年6月5日(水) 15:30~17:00

②会場

- 富山県民会館 402号室(富山県富山市)

③出席者

古澤 礼太	中部大学国際ESD/SDGsセンター准教授、中部ESD拠点協議会事務局長
水上 聡子	EPO中部運営委員、アルマス・バイオコスモス研究所代表
堺 勇人	EPO中部運営委員、一般社団法人環境市民プラットフォームとやま 事務局長
原 理史	中部地方ESD活動支援センター
縄野 正衡	オブザーバー、環境省中部地方環境事務所 環境対策課長補佐
清本 三郎	事務局 EPO中部統括

④協議項目

- 学び合いプロジェクト計画について
- 学び合いの場づくりワークショップの構成について



(ウ) 第3回 学び合いプロジェクト有識者検討会

①日時

- 2024年 11月 12日 (火) 10:00~12:00

②会場

- 高棟東部コミュニティセンター (福井県坂井市)

③出席者

古澤 礼太	中部大学国際ESD/SDGsセンター准教授、中部ESD拠点協議会事務局長
水上 聡子	アルマス・バイオコスモス研究所代表
堺 勇人	一般社団法人環境市民プラットフォームとやま (PEC とやま) 事務局長
原 理史	中部地方ESD活動支援センター
清本 三郎	事務局 EPO 中部統括

④協議項目

- 学び合いの場②、実践セミナーについての報告
- 学び合いの場づくりワークショップのブラッシュアップ
- 学び合いの場づくりワークショップの手引き案の作成について

① 学び合いP ~ R7 糖子
Project 数倍 R7 高校の企業へ
気候変動教育... R6から仕込み 8
学び合いP

② ワークシートについて
企業名 → 左側化
ワークシートの必要性... 企業名
人知見... 均等
参加スペースを確保
プログラムの種の人せかしは
(副席?) 因能
ワークシートの役割... パネルや動画

③ 時間配分 全体時間
90分 + 90分
(12分) (1分) + (1分) → 全4分
← アイテム → 弁慶

④ ワークシートの役割分担
サブアミー ×
1ページ
メインアミー
+ グループアミー
多岐沢方式
ワークシートの活用方法
例を挙げて

① for SDGs の作り方をどうするか
企業(人) Start. SDGsを念頭(条件) and SDGs check ← アドバイス
SDGs 個人 → 関係性
SDGs 社会
SDGs 個人 → 関係性
SDGs 社会

IDモデル
[学びの場] インポート
場構築 マットアット
個別内容 マットアウト
増設機が要
SDGs 個人 → 関係性
SDGs 社会

② 課題と対応
for SDGs の作り方をどうするか
企業(人) Start. SDGsを念頭(条件) and SDGs check ← アドバイス
SDGs 個人 → 関係性
SDGs 社会

③ 時間配分
90分 + 90分
(12分) (1分) + (1分) → 全4分
← アイテム → 弁慶

④ ワークシートの役割分担
サブアミー ×
1ページ
メインアミー
+ グループアミー
多岐沢方式
ワークシートの活用方法
例を挙げて

(エ) 学び合いの場①の開催

①イベント名

- 地域づくりのための気候変動社会教育 ～学び合いの場①

②日時

- 2024年8月23日（金）14:00～15:30

③会場

- 愛知教育大学 116 サイエンスアクティビティルーム（愛知県刈谷市）

④参加者

- 18名（愛知教育大学大鹿ゼミ生16名、EPO 中部のインターン高校生2名）

⑤プログラム

- ごあいさつ
- インプット「ESDは人づくり、学び合いの場を創る」
- ワークショップ① 立場の違いから「学び合いの場」の役割を考える
- ワークショップ② ワークシートを用いて「学び合いの場」を企画する
- 成果共有と相互評価
- 事後アンケート
- 振り返りディスカッション



(オ) 学び合いの場②の開催

① イベント名

- 環境省 EPO 中部・中部地方 ESD 活動支援センター連携講座 ～学び合いの場②
(※地球温暖化防止活動推進センター中部ブロック合同検討会内で実施)

② 日時

- 2024 年 11 月 7 日 (木) 10 : 10～12 : 00

③ 会場

- ウィンクあいち 1303 会議室(愛知県名古屋市)

④ 参加者

- 24 名 (中部各県の地球温暖化防止活動推進センター職員、推進員)

⑤ プログラム

- 開会・導入
- 学び合いの場の企画づくり
- 発表
- まとめ



エ 実践活動（実践セミナーの開催）

①イベント名

- 実践セミナー「学び合いの場づくり」実務者研修

②日時

- 2024年11月11日（月）15:00～16:30

③会場

- 坂井市役所 3F 大ホール(福井県坂井市)

④参加者

- 39名（坂井市職員等、EPO・環境省除く）

⑤プログラム

- ESD for SDGsとしての「学び合いの場」づくりについて
- ディスカッション 企画づくりテーマ設定
- 企画づくりワークショップ（企画した学び合いの場についての SDGs チェック、学び合いの場の企画づくり、ペルソナワークショップによる企画のブラッシュアップ）
- 議論した内容を発表



⑥開催案内資料（水上氏・坂井市が作成）

2024 ESD for SDGs 実践セミナー「学び合いの場づくり」実務者研修

※ESDとは：持続可能な開発のための教育（2002年国連総会で採択）

発行：2023年12月

目的：身近なテーマでSDGsを実現するための「学び合いの場」づくり手法を学ぶ
対象：市役所職員、コミュニティセンター職員、中学校教員
日時：2024年11月11日（月）15:00-16:30（90分）
会場：坂井市役所 3階大ホール
講師：中部地方ESD活動支援センター（環境省中部環境パートナーシップオフィス=EPO中部）

坂井市では、各種事業や学校教育を通して、様々な学び合いの場をつくり、「対話の文化」を育てています。例えば、ストップ地球温暖化対策推進・ゼロカーボン市民ワークショップ（環境推進課）、まちづくりカレッジ・幸福実現まち未来トーク・自治会ワークショップ（市民協働課）、ふるさと学習（教育委員会）など様々な学び合いです。坂井市総合計画の将来像は、「輝く未来へ…… みんなで創る希望のまち～子どもたちの夢を育むふるさと」を目指して～」。市民一人一人の力を生かすこの将来像を実現するために、行政と市民が一緒に、楽しく対話の場をつくる方法を学んでみませんか？

●プログラム●
ESD for SDGs 解説 10分
企画づくりワーク 30分
ペルソナワーク 20分
（企画のブラッシュアップ）
全体シェア 15分
ふりかえり 15分

ESD 「学び合いの場」を作ろう！

「学び合いの場」づくりとは、SDGsの目標達成に向けて、地域住民や行政、企業、学校などが互いに学び合い、協力して課題を解決していくことです。この取り組みを通じて、地域社会の持続可能な発展を実現していきます。

①for 坂井市職員(10名)
それぞれの部署で、SDGsの視点から施策にアプローチし、市民と協働で実現するために、どんな学び合いの場づくりができるか、企画の立て方、協働の仕方などのノウハウが学べます。R7年度の予算編成と連携させながら、地域に根差した事業展開のヒントが得られます。
問合せ：環境推進課

②for コミュニティセンター職員(10名)
まちづくり協議会や地域住民の皆さんと、SDGsを地域で進めるための学び合いの場づくりを展開するために、テーマ、企画、プログラムのつくり方などのノウハウが学べます。「2024未来トーク」から見てきた、課題解決のためのヒントが得られます。
問合せ：市民協働課

③for 中学校教員(10名)
探究学習の中で、地域や行政と連携しながらSDGsの学びを深めていくために、身近な地域課題の見つけ方、深掘りの仕方、地域や行政とのつながり方などのノウハウが学べます。ふるさと学習と課題解決型授業、シティズンシップ教育に使えるヒントが得られます。
問合せ：学校教育課

オ 冊子・動画の作成・公表・配布（ESD ワークブックの活用方法のとりまとめ）

- 有識者検討会では、学び合いの場①②、実践活動の実施結果等をもとに、第6期に作成した「現場から学ぶ ESD 学びの場づくりワークブック」の活用方法についてとりまとめた。
- また、その活用方法の周知・普及を目的に、冊子（ワークショップ用ツール資料）と動画を作成し、中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイトで公開するとともに、関係者への配布等を行った。


冊子・動画等の掲載 URL : <https://www.epo-chubu.jp/tool/esdworkbook>

①作成した冊子（ワークショップ用ツール資料）

セミナーなどの企画運営者を育てる！

気候変動教育～
ESD学び合いの場づくり企画ワークショップ
【やり方と解説】

「ESD学び合いの場づくりワークブック」
を使って…




環境省EPO中部・中部地方ESD活動支援センター
学び合いプロジェクト有識者検討会（2025年3月）

ESD学び合いの場づくり企画ワークショップ

- 企画運営者のESDスキルアップを図ります
地球温暖化防止活動などの普及啓発や出前授業などで、気候変動教育としての機会を充実させるため、様々なESDとしての学び合いの場の企画運営スキルの向上を目指す。

ワークショップのミッション：気候変動教育の場の企画書を作る



- ・最終的に左の用紙に記入したり付箋を貼ったりしてESDの場の企画書案を作成します。
- ・全部で120分程度の時間枠を想定しています。
- ・4～5人のグループいくつかで行うことを想定しています。
- ・左の用紙は個人で書き込めるA3程度でも良いですが、グループメンバーみんなで話し合えるように、できるだけ大きなものを使いましょう。
- ・中部地方ESD活動支援センターが作成した「ESD学び合いの場づくりワークブック」を教材として使います。

ワークショップのプログラム

時間配分の例

10分	【アイスブレイク】自己紹介とリーダー選び	グループでの作業を円滑に進めるためにお互いを知り、リーダーを選びます。
20分	【インプット】ESDとしての「学び合いの場」づくりについて	ワークショップの目的と意義について説明します。企画運営者のESDスキルアップを図る重要性を理解してもらいます。
25分	【ディスカッション1】SDGs学習も考慮したテーマの設定	グループごとに企画する「学び合いの場」のテーマをSDGsも考慮して決めます。普段からやりたいと思っているテーマがよいでしょう。
15分	【ディスカッション2】学び合いの場の形式検討	セミナーなのかワークショップなのか、どのように形式で「学び合いの場」を作るのか検討します
10分	<休憩>	必ず休憩を入れましょう
20分	【ワーク1】学び合いの場の企画づくり	グループごとに話合って実際の企画を考えていきます。その内容を用紙に貼ったり、記入します
10分	【ワーク2】企画内容のSDGsチェック	記入した企画がSDGsの学びに貢献するかをチェックします
20分	【ワーク3】企画のブラッシュアップ	考えた企画でいいかどうかを検討します。別人になりますと忌憚のない議論ができます。
10分	【プレゼン】議論した内容を発表	議論の内容を共有しましょう

【アイスブレイク】 自己紹介とリーダー選び

【アイスブレイク】ではグループでの作業を円滑に進めるためにお互いを知り、リーダーを選びます。

例えば民主的にリーダーを決めるために…

- ①各自1分間の自己紹介
- ②それぞれの人柄がわかったところでリーダーを各自心の中で決める
- ③全員目を閉じて心の内に決めたリーダーを指し示す
- ④合図とともに目を開けると指し示した人数の一番多い人がリーダー！（同数の場合はじゃんけん）

【インプット】 ESDとしての「学び合いの場」づくりについて

【インプット】ではワークショップの目的と意義について説明します。企画運営者のESDスキルアップを図る重要性を理解してもらいます。


例として…
「ESD学び合いの場づくりワークブック」とともに、以下の12枚のスライドを使ってESDの重要性と企画の着眼点について説明します

ESD学び合いの場づくりに役立つワークブック

気候変動教育・学び合いの場づくりのために
企画運営力を伸ばすための虎の巻

地域づくりは人づくりから始まります。そのとき大切なキーワードが「ESD」と「SDGs」。「なんか巷ではやっているSDGs。関係あるのかなあ。勉強会が必要かなあ。なんか教育現場でESDとも言っているなあ」—そんなとき、このワークブックはきっと役に立ちます。
ESDってなんだろう？
SDGsのための人づくりってなんだろう？

そんな基本的なことから、何を目標にするんだ？
どんな分野があるんだ？
どんなやり方があるんだ？
どんな人を呼べばいいんだ？
実際に何をすればいい？
それで役に立つのか？
といった実践的なことまで、考えるヒントが満載です。



【ディスカッション2】 学び合いの場の形式検討

セミナーなのかワークショップなのか、どのように形式で「学び合いの場」を作るのか検討します

学び合いの場の形式検討

学び合いの場で行う方法の大枠を考えます。

単独でも、組み合わせても

- ・ 講演
- ・ ワークショップ
- ・ 野外体験・視察
- ・ パネルディスカッション
- ・ フロアディスカッション
- ・ 座談
- ・ ブース展示

その他いろいろ

学び合い形式 考えられる形 式にできるだ け	<input type="checkbox"/> 講演 <input type="checkbox"/> 発表会 <input type="checkbox"/> パネルディスカッション <input type="checkbox"/> グループディスカッション <input type="checkbox"/> ゲーム <input type="checkbox"/> 試食 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 個人ワーク <input type="checkbox"/> 視察・観察会 <input type="checkbox"/> 屋外ワーク <input type="checkbox"/> 展示・ブース <input type="checkbox"/> その他()
---------------------------------	---

【ワーク1】 学び合いの場の企画づくり

グループごとに話合って実際の企画を考えていきます。その内容を用紙に貼ったり、記入します

企画ワークシート用紙に内容を添付したり記入していきましょう①

日時・場所、プログラム

●企画内容 日時・場所 (人) (こと) (金) など	●必要なもの、考慮すべきこと (人) (こと) (金) など
プログラム (人) (こと) (金) など	(人) (こと) (金) など

●企画内容
日時・場所
 (人) (こと) (金) など

●必要なもの、考慮すべきこと
 (人) (こと) (金) など

もの) 場所は室内か、室外か、広さの規模もイメージしよう。こと) 他のイベントとの連携、時期やタイミングも考えよう。金) 会場費のことも頭の隅に置いておこう。

人) 誰にお願いすればよいか。登壇者の人選から企画が始まることもある。こと) 時間枠や全体の流れをイメージしてみよう。もの) しつらえやワークショップの道具もアイデアがあれば考えておこう。金) 登壇者が遠方の方だったり、有名人だったりだとするとお金がかかる。ある程度考えておこう。

どんな時期がよいか、週末か平日か、場所のイメージは。

どんな分野のどんな内容で行うか、具体的な内容を考えよう。
 講演?
 話題提供?
 ディスカッション?
 ワークショップ?
 組み合わせも重要。併せて登壇者もイメージしよう。

企画ワークシート用紙に内容を添付したり記入していきましょう②

主催と協力者の確認、どうやって人集めをするか

●企画内容 主催と協力者 (共催・後援)	●必要なもの、考慮すべきこと (人) (金) など
人あつめ (参加者)	(人) (こと) (金) など

単独で開催するのか、協働して行うのか、協力者はあるのかなどを考えておこう。

人) 協力してもらえる組織はどこか? 誰か相談できる人はいるか? 思いついたらメモ。金) ただでは協力してもらえないこともある。

人) 学校や町内会など、募集であてになる組織はあるか。こと) チラシを作ったり、Webに載せたりと、方法もいろいろ。金) メディアにうまく取材してもらえばお金もかからない。

どんな方法で参加者を募るか、イメージをもとう。

記入、添付するとこんな感じ

(注: 旧バージョンの用紙で作っています)

【ワーク2】 企画した学び合いの場についての SDGsチェック

記入した企画がSDGsの学びに貢献するかをチェックします

確認しよう! 考えた企画はSDGsとどのように関連しているか

1. 中央に企画内容を記入
2. どのSDGsとどんな関連があるかを線で結んで記入
3. 書いた内容を共有してお互いに修正

【ワーク3】 企画のブラッシュアップ

考えた企画でいいかどうかを検討します。別人になりすますと忌憚のない議論ができます。

例) ペルソナワークショップ
選んだペルソナになりきって企画を見直す！
①企画者、②企画者の上司、③財政担当、④一般市民

ブラッシュアップの議論 例) ペルソナワークショップ

選んだペルソナになりきって以下の手順で企画を見直す！
例) ①企画者、②上司、③財政担当、④一般市民

1. シート記入内容のうち、「見直した時の課題点」をグループ内で共有
2. 「企画の課題を解決するには」のメモなども元に議論
3. 企画内容を修正、ブラッシュアップ

ペルソナワークショップ用ワークシートの例

ペルソナ概要	(○をつける) ①企画者、②上司、③財政担当、④一般市民
名前(仮名) どんな視点でクリティカルに見るか	
見直した時の課題点	
課題を解決するには	

【プレゼン】 議論した内容を発表

議論の内容を共有しましょう
それぞれの発表は簡潔に
時間を区切って余所のグループを見て回る
方法もあります

②作成動画とその公開

公開した動画の URL : <https://www.youtube.com/watch?v=NQapUI4dz7M>

ESDワークブックを活用して企画運営するために！


ESDを実施する企画運営者スキルアップのためのワークショップパッケージ(試案)を公開・解説しています

URLはこちら⇒ <https://www.epo-chubu.jp/tool/esdworkbook>


ESDワークブック



ワークショップパッケージ(試案)スライド




ESD学び合いの場づくり企画ワークシート (Vr.2)



ワークショップパッケージ説明動画

<https://youtu.be/NQapUI4dz7M>



【ワークショップパッケージスライドと動画をウェブサイト上で公開】

ESD学び合いの場づくりワークブック

ESDワークブックを活用して企画運営するために
～パッケージスライドと説明動画をご活用ください！～


ESDを実施する企画運営者スキルアップのための《ワークショップパッケージスライド》と《ワークショップパッケージ説明動画》を公開しています。是非ご活用ください。

ESD学び合いの場企画ワークショップパッケージスライド (3,698KB)

セミナーなどの企画運営者を育てる！

気候変動教育～
ESD学び合いの場づくり企画ワークショップ
【やり方と解説】

「ESD学び合いの場づくりワークブック」
を使って・・・



環境省EPO中部・中部地方ESD活動支援センター
学び合いプロジェクト有識者検討会 (2025年3月)

ワークショップパッケージ説明動画はこちらから

いろんな場面で使えます。学びの目的は何でしょう？
ワークショップパッケージ説明動画

気候変動・気候変動とは、化石燃料の燃焼をはじめとした人間の活動による...

企業でも 学ばせよう！

自治会でも 学ばせよう！

もちろん学校でも 学ばせよう！

持続可能な社会のための「学び合いの場」が大切！

見る YouTube

地域づくり・生涯学習・企業研修の企画に！
ESD学び合いの場づくりワークブック

地域づくりは人づくり、学びから未来へ
ESD「学び合いの場」を企画運営する方は是非ご参照ください。

ESD学び合いの場づくりワークブック《見開きPDF/1,946KB》

地球市民へ！

地域づくりは人づくり、
学びから未来へ

ESD for SDGs

現場から学ぶ！
学び合いの場づくり
ワークブック

学ばせよう！ 学ばせよう！ 学ばせよう！

中部地方ESD活動支援センター
SDG-社会教育研究会WG

あとがき

本参考情報一覧(2023年12月現在)

ESD学び合いの場づくりワークブック

カ 報告（全国フォーラムでの活動結果報告）

- 12月1日開催「ESD推進ネットワーク全国フォーラム2024」に、中部地方ESD活動支援センターによる学び合いプロジェクトの有識者検討会メンバーである水上氏とともに参加し、会場内の出展ブースで、今年度実施した学び合いプロジェクトについて報告・紹介した。



【作成した全国フォーラム掲示資料】

学生向け、学び合いの場企画ワークショップ

開催 2024年8月23日(金)14:00~15:30(90分)

場所 愛知教育大学116サイエンスアクティビティルーム

目的 ESDワークブックを用いた「学び合いの場づくり」実施者研修用プログラムの試行

内容 大学ゼミと連携した学生向け、学び合いの場企画ワークショップ

イベントスケジュール

13:30 集合、準備

14:00~15:30 ワークショップ開催

15:30~ 振り返りディスカッション

16:00 解散

<参加者>

愛知教育大学大鹿研究室学生12名

インターン南山女子校1年4名



福井県坂井市職員向け、学び合いの場企画ワークショップ

開催 :2024年11月11日(月)15:00~16:30 坂井市役所 3F大ホール

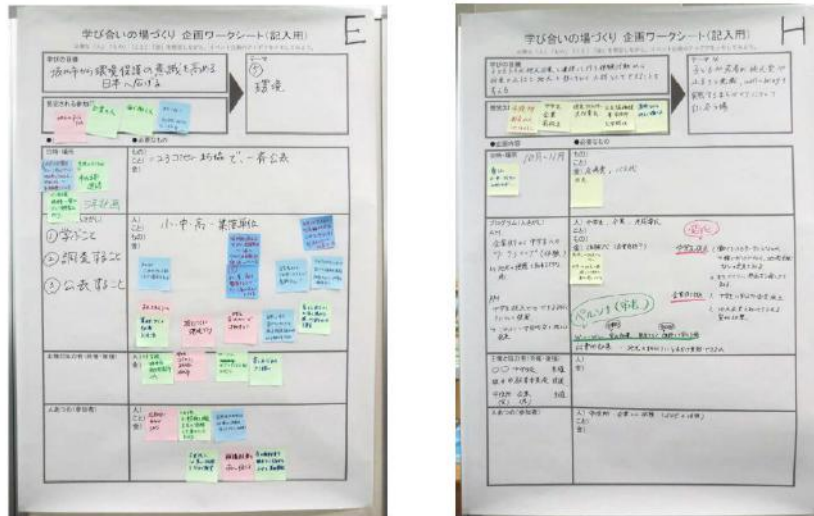
タイトル:2024 ESD for SDGs実践セミナー「学び合いの場づくり」実務者研修

目的 :ESDを推進する立場となる、自治体の職員、コミュニティセンター職員、中学校教員等を対象に、身近なテーマでSDGsを実現するための「学び合いの場」づくりの手法を学ぶワークショップを実施



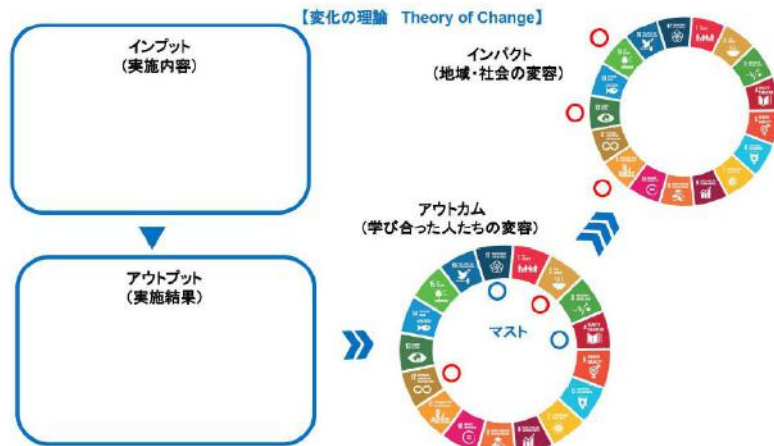
企画の内容がSDGsにどのように関係しているかをチェックします

学び合いの場づくりワークショップ成果（ワークシートの企画案）



有識者検討会議の議論：SDGsのための学びを促進するために

企画案を検討する時のSDGsチェックシート改善の検討
 :ロジックモデルを意識した「学び合いの場」の企画のためのツールの案



(3) ESDに関するネットワークの構築、地域ESD拠点への支援

ア ESD推進ネットワーク地域フォーラムの開催

①イベント名

中部地方ESD推進ネットワーク地域フォーラム「ESD：地域・学校と大学連携」

②日時

- 2024年9月19日（木）13：00～16：30

③会場・設営方法

- 会場：ウインクあいち 907 会議室（愛知県名古屋市）
※登壇者、地域ESD拠点登録団体のみ
- オンライン：zoom ※一般参加はzoom参加のみ

④主催等

- 主催：中部地方ESD活動支援センター

⑤参加者

- 27名（地域ESD拠点：会場参加4名、一般・地域ESD拠点等オンライン参加23名）

⑥プログラム

挨拶・趣旨説明

第1部

- 基調講演「地域・学校・大学でESDインフラを創る」
白梅学園大学特任教授 朝岡 幸彦 氏
- 話題提供「学輪 IIDA による大学連携について」
飯田市企画部大学誘致連携推進室室長 原 勝美 氏
- 話題提供「飛騨高山における大学連携の取組」
飛騨高山大学連携センター長 六角 裕治 氏

第2部

- 地域ESD拠点活動紹介
- 交流ディスカッション
コーディネーター：
中部大学国際ESD・SDGsセンター准教授、中部ESD拠点事務局長 古澤 礼太 氏
- 総括 金沢大学人間社会研究域学校教育系准教授 加藤 隆弘 氏



中部地方ESD推進ネットワーク地域フォーラム

ESD:地域・学校と 大学連携

2024年9月19日(木) 13:00~15:50

オンライン開催・参加無料

【プログラム】

- ▶ 挨拶・趣旨説明
- ▶ 第1部
 - 基調講演「地域・学校・大学でESDインフラを創る」
白梅学園大学特任教授 朝岡 幸彦 氏
 - 話題提供「学輪IIDAによる大学連携について」
飯田市企画部大学誘致連携推進室室長 原 勝美 氏
 - 「飛騨高山における大学連携の取組」
飛騨高山大学連携センター長 六角 裕治 氏
- ▶ 第2部
 - 地域ESD拠点活動紹介
 - 交流ディスカッション
コーディネーター：中部大学国際ESD・SDGsセンター准教授、中部ESD拠点事務局長 古澤 礼太 氏
 - 総 括
金沢大学人間社会研究域学校教育系准教授 加藤 隆弘 氏

申込 方法

QRコードから申し込みサイトにアクセスしてください。➡

参加登録すると、@zoom.us または @chubuesdcenter.jp のアドレスから登録されたメールアドレス宛に招待メールが自動送信されます。



<https://us02web.zoom.us/j/zoom/1270000xpr12evr4dd542zjjs1krlr9xsc11g>

中部ESDセンター 検索

主催事務局 / 問合せ先 中部地方ESD活動支援センター(環境省EPO中部)
E-mail : office@chubuesdcenter.jp



中部地方ESD活動支援センター
Education for Sustainable Development

イ 地域ESD拠点等のESD活動の支援

(ア) 地域ESD拠点登録団体への広報協力

- 拠点登録団体が主催するイベント等について、中部地方ESD活動支援センターウェブサイト等で下記の通り、広報協力を行った。

地域ESD拠点トピック	イベント&ニュース 地域ESD拠点トピック
 <p>2025.03.17 イベント&ニュース 地域ESD拠点トピック SDGsカードゲームセミナーを開催 日程：2025年4月23日(水)、4月26日(土)、5月24日(土)、5月28日(水)</p>	 <p>2024.11.05 イベント&ニュース 地域ESD拠点トピック 【こども自然探検隊】星山たんけんを開催 日時：2024年11月23日(土) 10:00~12:00 講師：【一社】ネクストステップ研究会</p>
 <p>2025.03.17 イベント&ニュース 地域ESD拠点トピック NEXT NEWS 2024-2025を発行! 2024~2025年度の活動をまとめた「NEXT NEWS 2024-2025」を発行しました!</p>	 <p>2024.10.24 イベント&ニュース 地域ESD拠点トピック 生ごみ減量手法マッチングセミナーを開催 日程：11月12日(火)、12月1日(日)、2月23日(日) 講師：一般社団法人ネクストステップ研究会</p>
 <p>2025.03.06 イベント&ニュース 地域ESD拠点トピック 「PECとやまのSDGsカフェ」をお聴きください! 富山シティエフエムの「PECとやまのSDGsカフェ」、1月から新店长として、PECとやま 事務局長の皆さんがナビゲートしています!</p>	 <p>2024.10.02 イベント&ニュース 地域ESD拠点トピック 特別公開講座「ミューニバリズムと持続可能な地域」を開催 開催日時：2024年10月22日(火) 19:00~20:55 申込締切：2024年10月14日(月・祝)</p>
 <p>2025.03.06 イベント&ニュース 地域ESD拠点トピック NPOのSDGs全国調査プロジェクト2年次フォーラム「人口減少社会を超えるへ地域の連携で描くSDGsの未来」を開催 日時：2025年3月14日(金) 14:00~16:30 場所：人権ライブラリー多目的スペース※オンラインあり 共催：PECとやま他</p>	 <p>2024.10.02 イベント&ニュース 地域ESD拠点トピック ESDユネスコ世界会議+10Yearsフォーラムへあいち・なごやから世界へへを開催 開催日時：2024年10月12日(土) 10:00~12:30 開催場所：愛知県国際展示場 SDGs Aichi EXPO (イベントステージ)</p>
 <p>2025.02.20 イベント&ニュース 地域ESD拠点トピック エコバルなごや30周年&なごや環境大学20周年記念事業「エコバル水素ひろば」を開催 開催日時：2025年3月14日(金) 9:30~17:00 水素について学べるイベントです。</p>	 <p>2024.09.26 イベント&ニュース 地域ESD拠点トピック 「めざせ!水の環境活一活してみよう、水のこころ 鶴舞公園の歴史と水循環」を開催 開催日時：2024年11月13日(水) 10:00~12:00 申込締切：2024年10月30日(水) 必着</p>
 <p>2025.02.20 イベント&ニュース 地域ESD拠点トピック 片平学区環境学習会を開催 日時：2025年3月8日(土) 13:30~16:00 場所：千鳥丘中学校体育館(名古屋緑区)</p>	 <p>2024.09.24 イベント&ニュース 地域ESD拠点トピック 「体験の機会と連携した教職員等環境教育リーダー養成研修～「農業物アート制作を通して考える」～」を開催 環境省は「体験の機会と」に認定されている市田ブランド及びKAYAMAファーム(運営：加山興業株式会社)と連携した研修を愛知県豊川市で10月26日(土)に開催します。</p>
 <p>2025.01.28 イベント&ニュース 地域ESD拠点トピック ネイチャーポジティブの推進に向けて「なごやのまちどグリーンインフラ」を開催 日時：2025年2月21日(金) 13:30~16:40</p>	 <p>2024.09.12 イベント&ニュース 地域ESD拠点トピック 名古屋のごみ、どう減らす!この秋、お店のブラ調査に参加しよう! 日程：10月5日(土)・11月30日(土)・1月25日(土) ★3回の講座と店頭ブラ調査を実施します!</p>
 <p>2025.01.23 イベント&ニュース 地域ESD拠点トピック なごや環境大学SDGsアソシエイト企画講座を開催 小学生と保護者を対象とした春休み特別講座です。 日程：2025年3月15日(土)・3月22日(土) 申込：2025年3月7日(金)まで</p>	 <p>2024.08.21 イベント&ニュース 地域ESD拠点トピック 「アサリが育つ四日市の星海づくり～伊勢湾の環境を考える～」を開催 開催日程：10月5日(土)・10月19日(土)【全2回】 申込締切：9月25日(水)</p>
 <p>2025.01.17 イベント&ニュース 地域ESD拠点トピック いのちをつなぐ水と流域・地球市民フォーラム in Tokyo 2025を開催 日時：2025年2月22日(土) 10:20~18:10 締切：2025年2月17日(月) ※定員になり次第、受付終了</p>	 <p>2024.08.05 イベント&ニュース 地域ESD拠点トピック なごやSDGsスタディツアー2024を実施 名古屋市内でSDGsに取り組む企業等と名古屋市内の小・中学校が出会い、持続可能な社会をつくる主人公、SDGsを達成する当事者としての学びあいの場をつくりまします。</p>
 <p>2025.01.17 イベント&ニュース 地域ESD拠点トピック 「SDGs大学生サミット2025～グローバル社会のローカルSDGs～」を開催 日時：2025年1月25日(土) 13:00~16:45 場所：愛知県国際交流協会アイリスルーム(名古屋市)</p>	 <p>2024.08.05 イベント&ニュース 地域ESD拠点トピック 令和5年度信州ESD/SDGsユネスコスクール実践事例集を発行 令和5年度「成果発表&交流会」の発表から、全国各地のユネスコエコパークを活用したESD/SDGsの実践事例を紹介しています。</p>
 <p>2024.12.06 イベント&ニュース 地域ESD拠点トピック 《脱炭素を考える》基礎講座 次世代エネルギーワークショップを開催 開催日程～連続受講が必須です～ 2月27日(木) 9:00~17:00 2月28日(金) 9:00~16:00</p>	 <p>2024.07.30 イベント&ニュース 地域ESD拠点トピック 白山ユネスコエコパーク リレーションポジウム in 勝山「気候変動トクショー「地球温暖化がもたらしている変化と私たちの暮らし」」を開催 日時：2024年8月18日(日) 13:30~16:30 場所：白山平泉寺歴史博物館まほろば(勝山市)</p>
 <p>2024.11.12 イベント&ニュース 地域ESD拠点トピック なごや環境大学ガイドブック2025年度前期表紙デザインコンペティションを実施 開学から現在までのなごや環境大学20年間の活動をイメージして自由に表現してください! 募集締切：2025年1月6日(月)</p>	 <p>2024.07.30 イベント&ニュース 地域ESD拠点トピック 第72回学生ユネスコ弁論大会を開催 開催日程：2024年9月28日(土) 申込締切：2024年9月9日(月) 厳守</p>

2024.07.17 イベント&ニュース 地域ESD拠点トピック
豆体み子ども教室-鶴舞の湧き水とめぐる水-を開催
開催日時: 2024年8月8日(木) 14:00-15:30
募集締切: 2024年7月25日(木) 必着・応募多数の場合は抽選

2024.07.05 イベント&ニュース 地域ESD拠点トピック
今年も『なごやSDGsスタンプラリー』を開催します!
開催期間: 2024年7月20日(土) - 9月1日(日)
SDGsフィールドをめぐるSDGsの取組を学びます。スタンプを集めると景品をゲットできます。

2024.07.05 イベント&ニュース 地域ESD拠点トピック
大台町わくわくサマーキャンプを開催
開催日程: 2024年8月20日(火) - 8月23日(金)
申込締切: 2024年7月15日(月祝) 17時必着

2024.06.25 イベント&ニュース 地域ESD拠点トピック
愛知学院大学×中部大学×なごや環境大学「SDGs普及啓発教育プログラム」受講生を募集
応募締切: 2024年9月3日(火) 必着

2024.06.17 イベント&ニュース 地域ESD拠点トピック
SDGsセミナー「SDGsの今、そしてこれから」と交流会
「2030年へ向けてさらにつながろう!」を開催
開催日時: 2024年6月29日(土)
セミナー/14:30-16:00、交流会/16:15-17:30

2024.06.13 イベント&ニュース 地域ESD拠点トピック
あつまれねばの森 in アンフォーレ2024を開催
開催日時: 2024年6月22日(土) 10:00-17:00
森や水の大切さについて様々なコンテンツを通して楽しく学びます。

2024.05.23 イベント&ニュース 地域ESD拠点トピック
中部サステナ政策塾(第9期/2024年度)塾生を募集
SDGs達成に向けた人材育成プログラムを実施します。
応募締切: 2024年6月17日(月)

2024.05.21 イベント&ニュース 地域ESD拠点トピック
映画「夢みる給食」キャラバン上映会 in アースデイとやま2024
開催日時: 2024年6月9日(日) 13:00-15:30(開場12:30)

2024.05.20 イベント&ニュース 地域ESD拠点トピック
講座「四日市の海でアザリを育てよう」を開催
開催日程: 6月8日(土)・7月6日(土) 10:00-12:00
申込締切: 5月31日(金) 必着

2024.05.16 イベント&ニュース 地域ESD拠点トピック
【参加者募集】フィールド体験&NPO・企業・行政×あなたのSDGs企画大会!
開催日程: 6/1, 7/6, 8/28, 10/20
受講対象: 大人・中・高校生・大学生

2024.04.09 イベント&ニュース 地域ESD拠点トピック
2024年度自然体験プログラムの申込受付がはじまりました
年間を通して様々な自然体験プログラムを開催。
2024年度のプログラムの申込受付がはじまりました。

2024.04.08 イベント&ニュース 地域ESD拠点トピック
企業事例から学ぶ!サーキュラーエコノミー(循環経済)の動向を開催
サーキュラーエコノミーって何?
企業の取組からその動向を講演形式で学びます(全4回)

2024.04.08 イベント&ニュース 地域ESD拠点トピック
SDGsオンラインセミナー「地域企業が守り育てる生物多様性」を開催
日程: 5月31日(金)、6月21日(金)、7月19日(金)、8月23日(金)

(イ) 拠点登録申請対応・後援申請対応

- 地域 ESD 拠点登録団体や、ESD 活動支援主体が主催するイベントについて、次表の後援申請があり、主催からの後援依頼や問合せへの対応、全国センターからの照会対応などを行った。
- 地域 ESD 拠点登録の今年度の新規申請はなかった。

【後援申請】

申請主体	承認日	申請行事		
		名称	開催日	場所/方法
名古屋市環境局環境企画課	5月2日	SDGs まちづくり事業	2024年6月1日～ 2025年3月31日	名古屋市内/対 面・オンライン
公益財団法人子ども教育支援財団※	5月8日	第16回環境教育ポスターコンクール	2024年8月20日 ～2025年3月31 日	東京都内他
アサヒ飲料株式会社 中部北陸本部	5月16日	SDGs 将来世代創造フォーラム 2024	2024年8月21日	名古屋市内 (吹上ホール)
東北地方 ESD 活動支援センター※	9月10日	東北 ESDSDGs フォーラム 2024in 福島只見	2024年11月14日 ～11月15日	季の郷湯ら里他 /ハイブリッド
信州 ESD コンソーシアム	10月2日	令和6年度信州 ESD/SDGs 成果発表 & 交流会	2025年2月2日～ 2月3日	オンライン
北陸 ESD 推進コンソーシアム	11月12日	2024年度北陸ユネスコスクール教育実践交流会	2024年12月7日	対面・オンライン 併用
北陸 ESD 推進コンソーシアム	12月5日	北陸 SDGs 未来都市人材育成・教育フォーラム 2025	2025年1月25日	オンライン
北陸 ESD 推進コンソーシアム	12月23日	2024年度北陸 ESD 推進コンソーシアム成果報告会	2025年2月1日	対面・オンライン 併用

※: 全ての地方センターに後援申請があった催事

(4) SDGs 学生サミットの開催

① イベント名

- SDGs 学生サミット

② 日時

- 2025 年 2 月 1 日（土）13：00～17：30

③ 開催方法

- 登壇者：会場または zoom 登壇
- 一般参加（視聴）：YouTube を自由視聴（ライブ配信、アーカイブ配信）

④ 主催等

- 主催：中部地方 ESD 活動支援センター（環境省 EPO 中部）
- 協力：中部大学中部高等学術研究所、国際 GIS センター問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点

⑤ 参加者

- 111 名（登壇大学生・高校生 23 名、その他登壇者等 14 名、開催日の視聴者 74 名）

⑥ プログラム

○ あいさつ

環境省中部地方環境事務所

名古屋市立大学副学長 伊藤 恭彦

○ 団体発表「ユースと地域が連携するローカル SDGs」

金沢星稜大学、中部大学 ESD エコマネーチーム、富山大学、松本大学
第一学院高等学校 富山キャンパス

○ 話題提供「地域の SDGs の取組～地域社会における SDGs の取組～」

岐阜県高山市 総合政策課、八洲グループ代表企業 八洲建設株式会社、
NPO 法人イナミライデザイン

○ ディスカッション

「ローカル SDGs のために。連携して協働取組を進めよう！」

進行：原 理史（中部地方 ESD 活動支援センター）

総括：伊藤 恭彦（名古屋市立大学副学長）



⑦開催案内



SDGs 学生サミット

2025年2月1日(土)
13:00~17:30・オンライン

中部地方の大学生・高校生グループが「ユースと地域が連携するローカルSDGs」をテーマにオンラインで取組を発表します。

発表団体 (予定)

- ▶ 金沢星稜大学
- ▶ 中部大学ESDエコマネーチーム
- ▶ 富山大学
- ▶ 松本大学
- ▶ 第一学院高等学校富山キャンパス

一般参加 申込不要

- ▶ 当日YouTubeライブ配信を視聴できます。
- ▶ 視聴URLはwebページに掲載します。



ハブとなる中部大学中部高等学術研究所
デジタルアースルーム

プログラム

- 第1部 団体発表
「ユースと地域が連携するローカルSDGs」
▶ SDGsの取組について、地域と連携して活動している大学生・高校生グループが取組について発表を行います。
- 第2部 話題提供
地域のSDGsの取組～地域社会におけるSDGsの取組～
▶ 中部地方のSDGsの取組をしている自治体・企業・団体から、施策や取組をご紹介します。
○ 岐阜県高山市総合政策課《SDGs未来都市2021年度選定》
○ 八洲グループ代表企業 八洲建設株式会社
○ NPO法人イナミライデザイン
- 第3部 ディスカッション
ローカルSDGsのために。連携して協働取組を進めよう！
進行：原 理史（中部地方ESD活動支援センター）
総括：伊藤 恭彦氏（名古屋市立大学副学長、EPO中部・中部ESD支援センター運営委員会 座長）

Webページ
はこちら▶



主催 ▶ 中部地方ESD活動支援センター（環境省EPO中部）
協力 ▶ 中部大学中部高等学術研究所、国際GISセンター問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点

 中部地方ESD活動支援センター
Education for Sustainable Development

(5) 全国センターとの連携協力推進等

(ア) 全国センター主催会議等への出席

- 全国 ESD センターから招聘された全ての会議等へ出席し、資料提供などを行った。
- 中部センターのスタッフは、全国センターの企画運営委員に地方センター代表として選任されており、企画運営委員会会議（計2回）にも出席した。

区分	回/開催日	開催方法	会場	実施内容(次第等から抜粋)
作業部会 (再掲)	第1回 7月25日	ハイブリッド	青山ブックセンター (東京)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ R6 作業部会のスケジュール及びねらいの説明及び質疑応答 ▪ 話題提供: 気候変動教育に関する最新動向 ▪ 話題提供: 気候変動教育に関する最新動向 ▪ 学び合いプロジェクト説明 ▪ 意見交換: R6 及び R7 学び合いプロジェクトの成果まとめ方について
	第2回 2月25日	ハイブリッド	GEOC (東京)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 第2回作業部会のスケジュール等の説明 ▪ 学び合いプロジェクトの説明 ▪ 意見交換: 学び合いプロジェクトの今後の進め方について
全国・地方 連絡会	第1回 6月27日	ハイブリッド	GEOC (東京)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ ESDに関する最新動向(文科省) ▪ ESDに関する最新動向(環境省) ▪ R6 全国センター活動内容説明 ▪ 地方センター活動内容説明 ▪ 行政レビューに対する進捗・結果報告及び意見交換 ▪ ふりかえり・まとめ
	第2回 1月17日	ハイブリッド	GEOC (東京)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 令和6年度全国センター活動報告 ▪ 令和6年度地方センター活動報告① ▪ 令和6年度地方センター活動報告② ▪ 令和7年度 ESD 活動支援センター新規事業についての説明及び意見交換 ▪ ESD 活動支援センターにおける評価指標の説明及び意見交換 ▪ ふりかえり・まとめ
全国 協力団体 意見交換 会	第1回 7月24日	リアル	ビジョンセンター 東京日本橋 (東京)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ ESD に関する最新動向(奈良教育大学 教育連携講座/ESD・SDGs センター 准教授 及川幸彦さん) ▪ ESD 活動支援センターの紹介 ▪ 全国協力団体から最新の取り組み紹介 ▪ ネットワーキング・名刺交換タイム
	第2回 12月1日 兼催	ハイブリッド	国立オリンピック記念 青少年総合センター (東京)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 環境教育・ESD 実践動画 100 選認定証授与式 ▪ ポスターセッション
全国 フォーラム	12月1日			<ul style="list-style-type: none"> ▪ 基調講演: 堅達京子(NHK エンタープライズ エグゼクティブ・プロデューサー) ▪ パネルディスカッション
企画運営 委員会	第1回 6月27日	ハイブリッド	GEOC (東京)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 運営委員自己紹介 ▪ 令和5年度地域 ESD 拠点年次アンケート結果報告及び意見交換 ▪ 令和6年度全国センター活動内容の説明及び意見交換 ▪ 行政事業レビュー結果報告及び意見交換
	第2回 2月28日	ハイブリッド	GEOC (東京)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 令和6年度 ESD 活動支援センター活動報告、質疑応答・意見交換 ▪ 令和7年度 ESD 活動支援センター活動計画、質疑応答・意見交換
行政レ ビュー意 見交換会	7月25日	ハイブリッド	青山ブックセンター (東京)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 各センター発表 ▪ フィードバック

(イ) ESD 推進ネットワークの活動状況調査等への協力・対応

- 全国センターが地域 ESD 拠点を対象に実施した年次アンケートについて、協力の呼びかけ等を中部エリアの地域 ESD 拠点団体に対して行った。

(6) ESD 推進のための教育現場等の実態把握と連携強化

(ア) 専門家への包括ヒアリング

ヒアリング対象	白梅学園大学 朝岡幸彦 特任教授
実施日	2025 年 1 月 25 日 9:00~11:00

○専門領域における現在の ESD/SDGs の取組について

- 専門は環境教育と言って良い。元々北海道大学で社会教育の特に農民教育の研究をしていた。1995 年に東京農工大に着任し環境教育の専門課程の研究を担当することになった。
- 環境教育は 1990 年代に飛躍的に発展している。環境教育学会が 1990 年に設立されたのがその大きな原動力となった。その発展の過程において環境教育の研究を行ってきた。
- 最近では長野県飯田市遠山郷における実践研究がそれに当たる。今年度から来年度にかけては新しく高校生 ESD 塾の運営に関わっている。
- ESD の概念自体は特別なものではなく、日本で言うなら例えば環境教育の他に、平和教育、民主化教育、公害教育、農村教育などは概念的に ESD の要素を含んでいる。
- 環境教育の発展は、地球環境問題の深刻さについて日本の政府や自治体、各地の実践者が重要性を認識したことによっており、これらの間でのパートナーシップを促進した側面がある。また 1992 年の地球サミットで環境教育に ESD (Education for Sustainable Development) という概念が導入されたことは、その後の環境教育と ESD に大きな影響を与えた。
- 2002 年ヨハネスブルグ・サミットにおいて、我が国より ESD の 10 年が提案され、持続可能な開発に関する世界首脳会議実施計画に盛り込まれた。このような過程の中で環境教育の視点から ESD がより広範囲に影響を与えており、環境教育が ESD の一翼を大きく担っているという認識でいる。

○ESDfor2030 と「実施計画（第 2 期 ESD 国内実施計画）（案）」についてのお考え

- 国内実施計画に関しては、策定された時点ではその通りだと思うし、それなりに適切な計画だったと思う。
- ただ 2025 年現段階においては、コロナパンデミックの影響と社会の急激な変化、そしてトランプ政権の復活による世界的な政策の SDGs との矛盾が世界に及ぼす影響、などについての対応が、あたりまえだが、取り入れられていない。
- すなわち以前からの気候変動等に加えて、ここ数年の世界情勢の変化も加えて地球文明のリスクが高くなってきており、ESD もこれらに対応しなければならない。
- これらの要素が計画に反映されていないことから、ESD の実施や実践のあり方を見直す必要があると言える。これらの変化に対応し、前向きに取り組むことが新しい ESD の課題であると考えられる。
- また、ESD の国民への定着状況が問題だと感じている。例えば SDGs の認識はゴール個別バラバラで、統合的につながりを整理して課題を可視化するような視点での記述が必要なのかもしれない。

○学習指導要領における ESD とその推進についてのお考え

- 学習指導要領には持続可能性に言及はあるが ESD は実はちゃんと記載されていない。これは大きな問題だと考えている。これでは現場での ESD への対応は現実的には促進しない。
- 具体的な指導資料の整備が必要である。例えば環境教育指導資料のような具体的なガイドラインが ESD の実践に不可欠で、その際にそれぞれの地域に根ざしたアプローチが重要と考える。

- 飯田市での ESD 塾の取組はその一つの例で、地域の特性を生かした教育の実践が ESD 促進の可能性を示唆していると考える。

○我が国の ESD 推進全般についての現状の課題と将来についての考え

- コロナ渦で実は社会は劇的に変化した。例えば学校にはタブレット端末が一人一台整備された訳だが、通常ではあり得ない整備速度と言って良い。つまり大きな社会影響は教育現場にその転換を促進する効果があると言える。
- そうした意味では教育現場を ESD に向けて推進する重要な社会的影響が二つ考えられる。それは気候変動影響と南海トラフ地震の社会リスクの増大である。
- これらのリスクによる地域の課題解決について議論し、気候変動や災害の教育を入口とした ESD の推進を図ることは、地域の持続可能性と強靭性を高めるためにも重要と考える。
- 地域特有の状況を考慮しながら、避難所の運営シミュレーションや地域のリスクマップ作成など、具体的な防災活動の教育は社会の関連性、将来予測、計画性、コミュニケーションなどを学ぶ機会として ESD の推進の契機になるのではないかと考える。
- 例えば避難所を使うということはどういうことなのか。その災害の種類による使い方や地域での課題を学ぶというのはまさに ESD であり、避難所を実際に見ながら学べるということでは ESD インフラと位置づけてもいいのではないかと考える。
- ある意味で地域の課題として身近な、これらのわかりやすく問題が限定されている課題からアプローチすることがこれまでの ESD の弱点を補うことになるかと考える。
- ESD というとグローバルな問題が提示されて上から降りてくるという、やらされ感があると思うのだが、そうではなくて地域の課題を模索する学びを行うことが結果的にグローバルな課題に繋がるという形で ESD を推進することが有効なのではないかと考えている。

○環境省 EPO 中部・中部地方 ESD 活動支援センターなど中間支援組織への期待

- 中部地方は東海側と北陸側とでは地域の認識に大きな差があるかもしれない。気候変動の影響一つとっても東海地域は暑熱や台風、北陸側では大雪の影響が気になるだろう。
- また名古屋市のような都市部とそれこそ飯田市遠山郷のような中山間地では、まったく地域社会の課題が違う。こうした多様な地域特性を踏まえて ESD 支援を行うことが重要だと考えられる。
- 特に東海地方の地域にとって、暑熱異常や、豪雨災害、南海トラフなど実感がわくので、中部地方 ESD 活動支援センターには防災など地域特性からのアプローチを期待している。

(イ) 教育部局、教育委員会、現場の教員等を対象にしたヒアリング①

ヒアリング対象	富山県立上市高校 石黒友一 教諭（農業科）
実施日	2025 年 2 月 22 日 11:00~13:00

○学校の特色と担当内容

- 富山県立上市高校は総合科として教育を行っており、多様な進路に対応するため進路学習を重視し、植物バイオテクノロジー、簿記、スポーツⅣ（ダンス）、ペン習字、生活と福祉など、多彩な科目を開設している。資格に直結する実技系の科目や進学に対応する演習は、5~20名と少人数による学習できめこまやかな指導が行われている。
- 自分は農業科目が専門で、前任校では農産物パッケージ開発にも携わってきた。当校に赴任してからは単元「農業と環境」を担当し授業を実施している。

○SDGs 教育（ESD）について

- 以前から国土交通省のボランティアプログラムを活用した河川敷の外来種駆除活動を行っ

てきた。関連して環境教育として河川生物や河川水の調査を行ってきた。

- 学校レベルのESDということでは学習内容について2年生学年全体でSDGsとの紐づけを行っている。
- 担当する授業から発生した環境教育的な生徒の活動として、グリーン同好会がある。生徒を公募して、特産の里芋やキャベツなどの農業に関する研究、トマトの病気の要因にカビの成分が効果があるとの研究、竹林の有効活用としてのチップを活用したキノコ作りなどの研究を行ってきた。これらは地域と連携しなければならずまた地球環境を見据えて行うという意味でもESDと言える。
- こうした活動は同好会であるため、その継続は教員の資質による。活動が好きな先生がいれば続いていくが、そうでなければ難しい。

○学習指導要領について

- 持続可能性の重要性などは、農業科目ではある意味当たり前で、学習指導要領が後から乗ってきたという印象。

○地域との連携

- 学校レベルとしての地域との連携ではキャリアという枠組みがある。これは社会と連携したキャリア教育としての要素が強く、学校のマッチングで生徒が様々な地元企業にアルバイトしに行くことで研鑽を積むものとなっている。意識はしていないが地域と連携したESDと言えなくもない。

○今後の課題

- 生徒たちが自分事になりにくいことが問題と感じている。地球環境問題を深刻に捉えることが難しい。例えば畜産のCO2排出量を取り上げたりしているが、だからといってCO2排出量の多い牛肉パテのハンバーガーをやめて鶏肉の唐揚げにしようという話にはならない。
- 様々な産業の関連性で循環することが本当に良いのかということについて、多面的に見て教育しているか疑問なところもある。例えばオーガニックが良いというのはどうなのか、牛糞をリサイクルして作物を育てる場合、その畜牛は抗生物質は使われていないのか、安全性は担保されているのかまで考えられる必要があるのではないのか。

○中間支援組織に期待されること

- 補助金など様々な支援を使って課外活動を行っている。これらの支援制度は学校で使えるものもたくさんあるのだが、なかなか使われていない。チラシなどを各校に配布してアピールするだけでも違うのではないのか。
- 実業系の科目のある高校は実技が伴う部分でいつもお金に困っている。少額でも良いので申請が簡単で成果を求めすぎない学校向けの支援制度があるとありがたい。

(ウ) 教育部局、教育委員会、現場の教員等を対象にしたヒアリング②

ヒアリング対象	愛知県A市立B小学校 校長、教諭 (ESD担当)
実施日	2025年1月30日 13:00~15:00

○学校の特徴

- 本市は人権教育が盛んで、研究会やその成果としての市教委による冊子の作成など、特徴ある地域教育が行われてきた。
- 小学校としての教育目標は「善く生きる子」であり、総合的な学習ではそのために地域との連携や、特色ある学校づくりを大切に、例えば3年生「わたしたちのまちをまもるた

めに」、4年生「未来の環境を考えよう」、5年生「暮らしを支える産業」、6年生「20年後もすみたいまち」をテーマとして学習活動を行っている。

- これらの総合的な学習はふるさと学習であると同時に、ESDとして位置づけられており、相手を思いやるソーシャルスキルの習得を目的としている。

○SDGs教育（ESD）について

- ESDはSDGsを達成するための教育と認識している。全学年でESDの要素を取り入れている。学習計画の中にESDカレンダーを取り入れたり、学習成果の進捗を廊下に掲示するESDすごろくに取り組むなどしている。
- 当校では平成29、30年度に地方教育事務協議会の委嘱でESD実践研究を行ってきており、ユネスコスクールにも登録した（令和6年度時点では登録解除している）。
- この研究活動は当時としては先進的であり、例えば一年生の道徳の授業でも「つながりを尊重する態度」を養うための授業研究が行われている。

○学習指導要領について

- 現場レベルではESDについて学習指導要領を十分読み込んで反映させているとは必ずしも言えない。

○地域との連携

- ふるさと学習の一環でJAや病院関係者の出張授業をお願いしたり、お寺や商店街などを探索するなどの地域と連携した学習を行っている。
- 地元特産の野菜の栽培から、地域に広めるためにマルシェやスーパーマーケットに出荷する活動なども行っている。
- その他消防活動や伝統産業など、地域社会と繋がった学習活動を実施している。

○今後の課題

- かつてのESD研究成果が根付いているかとなると疑問が残る。どうすればその成果を継続定着できるかを問題意識として持っている。
- 様々な行事がESDとして取り込まれてきていたが、現在は行事そのものが目的化して形骸化してきている。学習計画として記載できても行事をなぞっているだけになっているのではと心配している。
- ESDの研修会を行って先生方に気をつけてもらってはいるが、プログラムをなぞっている状態で魂が込められていないのではないかと。実際にはプログラムや行事を行うのが精一杯な状態なので、いかに先生方の納得と理解が得られるかが問題となる。
- これらの行事で子供たちのモチベーションが上がってくるのかが気になるところである。
- 地域とのつながり方にも問題がある。地域のニーズに合わなくなっている。カウンターパートの高齢化で、前例踏襲では難しくなっている面もある。またつながり方が担当の先生によって違う。共有する方法が必要。
- やはり先生方が忙しすぎる。保護者対応の時間も多く、教師に欠員が出ても迅速な補充とはいかない。講師に手伝ってもらっているが、常にぎりぎりな状況にある。

○中間支援組織に期待されること

- 地域と学校の連携の様々な事例の紹介があるとありがたい。
- 教員は異動があり、学校レベルでの取組の継承の仕組みが必要と考えられる。そのためのツールや仕組みがあるとよい。
- 例えばESD専門のアドバイザーに継続的に見てもらい、取り組んでいるESDが適切かのチェックや相談をできるとありがたい。

(エ) 中小企業経営者等を対象にしたヒアリング①

ヒアリング対象	株式会社こいけやクリエイト（「とよた SDGs パートナー」登録団体） 代表取締役 西村新
実施日	2025 年 2 月 20 日 13 : 00~15 : 00

○現在の SDGs の取組について

- 学生時代から情報発信に興味があり、2011 年に今の会社を立ち上げた。もともとの本業はベースデザイン、グラフィックデザイン、Web デザインの会社。情報発信を生業としている。その中で持続可能な社会に役立つ地域情報が重要だと感じ、CSR 的に「耕 Life」という地域情報イベント発信のフリーペーパーを作成配布する活動をしており、それが SDGs の取組と言える。
- この取組は地域の置いてくれる事業者の広告料でまかなわれており、年 4 回の季刊発行で 50 号を超える実績がある。すべての号一セット全部ほしいという方もいる。
- 養蜂家の記事の作成の過程、自分で興味を持ち、現在養蜂事業を行い蜂蜜の販売も行っている。
- 様々な取材やお付き合いの中でつながりが形成され、イベントで出会った男女がこの価値観に共感して結婚し U ターン、I ターンの田舎暮らしを求めて地域に定着した例もある。
- 豊田市の地域支援課とも連携しており、フリーペーパーの設置箇所の協力や、豊田市博物館のカフェの指定管理を引き受けるなどの協働も生まれている。
- もともと「耕 Life」の発行や千年委員会の活動など、個人的には持続可能社会について前から活動していたところに、後から SDGs といういい言葉ができたと思っている。「とよた SDGs パートナー」への登録もその流れで行ったもので、特別に SDGs のための取組を行っているという意識ではない。言われれば SDGs かなというところ。
- 直接的な営業をしている訳ではなく、波風立てず自然体で仲間作りをしているのが無理しない活動に繋がっている。これらの活動で生産と消費が直につながったり、地域の有り様を可視化できているというところがフリーペーパーの特徴で、地域での様々な種まきを担っていると考えている。

○SDGs を推進するにあたっての ESD について

- 毎号の「耕 Life」の目次のページに、持続可能性のコンセプトが示されており、それに沿った記事が掲載されている。それが対外的な ESD と言えるかもしれない。（以下引用）
- （～前略）自分の生活の周りで起きていること、成り立ちにちょっと目を向ける、そんなことから自分の人生を耕すことは始まっていくと思います。読者のみなさんと共に「食」・「農」・「暮らし」・「環境」・「文化」について考え学んでいきたいと思います。「耕 Life」では地域に根ざした食や農、暮らしや環境、文化に関するイベントや様々な取り組みをしている方々の情報を発信していきます。この「耕 Life」をきっかけに、皆さんのライフスタイルが、人生を育てる『耕』に取り入れられますように・・・
- 読者のお便りもよくいただくが、一方向でないこうしたやりとりは教育的と思える。
- またこのコンセプトを始終目にしている社員は自然とそのような発想をするようになっていく。
- 子供たちの職場体験も積極的に受け入れており、そうした場所として ESD の場となっていると言える。

○SDGs/ESD の取組の課題

- あまり課題として深刻に考えていない。できる範囲で豊田市外にも広げており、ニーズがあれば外部でのことに手伝うことも考えたい。バランスが大事だと思う。
- (お金ではなくて) 豊かさとは何かということを考えながらの取組が大切だと思う。Wellbeing はその結果として評価されるべきものかもしれない。

○SDGs/ESD の取組の支援

- 補助金とか、人の手当てとかはもちろんあるが、個人的にはプラットフォームを維持することが大切だと考えている。例えばみんなで職場体験などのネットワークができればいい。

(オ) 中小企業経営者等を対象にしたヒアリング②

ヒアリング対象	株式会社スズマサ (「とよた SDGs パートナー」登録団体) 代表取締役 鈴木崇義
実施日	2025 年 2 月 20 日 10:00~12:00

○現在の SDGs の取組について

- 本業は土木業と不動産業で、土地を通して地域づくりを行っている。とよた SDGs パートナー登録、愛知県の SDGs 登録など世の流れで行っている。
- SDGs の取組として、特別なこととしては豊田環境ビジョン協議会という関係業者 13 社の地域の土木組合があり、災害倉庫の設置などを行っている。
- SDGs の取組というのは何かを新しく行うというよりは、社会の一員としてやってはいけないことをやらない、ということではないかと考えている。例えば悪いことをしない、地域社会で必要なことはやるということではないか。
- 逆に言うと今の仕事はすべて SDGs に繋がっている。地面を扱っているので、人が暮らしやすい土地づくりを目指している。困っている人の相談を受けて、地域にお金が残るように、その人たちが暮らしやすいようにという活動は SDGs ではないか。

○SDGs 取組のきっかけについて

- 岐阜県の三承工業株式会社の社長さんの講演を聴いたのがきっかけ。講演の中で外国人に不動産を借りてもらった時にすごく感謝されたという話が出てきた。彼らはコンビニでたむろしていたり、野外パーティで迷惑がられているが、好きでそこでたむろしている訳ではない。そういう場を借りられず、用意することができなかったからだ、との話を聞いてすごく刺激になった。世のため人のための仕事の仕方が SDGs かと納得した。
- 外国人にも目を向けなければと、ネパールの人を社員として入れてみた。ただその人はとてもシャイで営業がまったくできず、うちのような小さな会社に向いていなかった。今は大きな企業で働いている。

○SDGs を推進するにあたって、社内教育 (ESD) や外部への発信について

- 社内教育の必要性はよくわかっているが十分勉強しているとは言えない。現在は社長個人のラインでの情報発信程度。
- ただ地域のお祭りに参画している関係で、社員が一人入ってくれて頑張っている。地域の祭りは住民だけでは維持できず地元企業の参加が不可欠な状況になっている。豊田青年会議所の後輩たちにも声をかけている。
- こうした地域貢献の様々なつながりは、いろいろなところに波及している。そうしたことが SDGs の学び (ESD) と言えるかもしれない。
- 経営としてのメリットは大きくない。けれど人の縁は大きい。いろいろなつながりが最後

にはもどってくるのではないか。社会活動すなわち人の縁すなわち SDGs の学び (ESD) の取組と言える。

○SDGs/ESD の取組の課題

- 教育ということ言えば、その陰の部分を見るべき。例えばいじめとか、不登校とか、引きこもりとか。その一部でも社会にちゃんと参加したら重要なプレイヤーになるはず。
- 例えば教育の委員会に参加しているが、報告を見るといじめ問題は必ず解決されるということになっている。「そんなことあるかい」と常識的には思える。きれい事にして隠されていることは大きな問題なのではないか。

○課題の解決に向けて、SDGs/ESD の取組の支援の方法

- 人の縁をつなぐ人、相談できる人、そういうところに手当することが少ないのではないか。
- 社会活動、スポーツや文化や環境などの分野では「縁」が大切だが、こうしたつながりを作る仕事が評価されていない。必要などころには投資を行い、できる人がその場所で働ける仕組みを作ることが重要なのではないか。

○SDGs/ESD の取組の今後の期待

- 弱者に対する愛がほしい。稼いでいる企業ほど SDGs の思想が足りない。正直者が馬鹿を見る構造になっている。
- SDGs が選ばれる社会になってほしい。そのためには消費者へのうまい発信の仕方が必要。一つ間違うと SDGs の偽善者 (SDGs ウォッシュ) になる。

○その他

- 気候変動は身近な問題になっている。特に屋外での仕事が多いので熱中症問題に関心をもっている。

(7) ESD/EPO の行事等を通じた意識や行動の変容の把握

1	行事名	2025年1月15日開催 環境へのアプローチを活かした鳥羽創発ミーティング	
	対象	鳥羽市環境課 中井氏	
	方法	メールヒアリング	
	ヒアリング	内容・結果	<ul style="list-style-type: none"> ご参加いただいた皆様には、とても楽しい時間を過ごしていただいたのではないかと。 今回のミーティングを開催し、鳥羽市の環境問題について皆で考えるよい機会となった。とりわけ、この鳥羽の美しい海を豊かな海とすべく、子ども達に託せるよう、自分たちの身近なことから行動をおこしていきたいと考えようになった。 来年度も実施できることを期待したい。
2	行事名	2024年12月7日、2025年2月22日開催 地域循環共生圏フォーラム in 上市町（全2回）	
	対象	一般社団法人環境市民プラットフォームとやま（PEC とやま） 塚氏 ※EPO 中部・協働コーディネーター	
	方法	オンラインヒアリング	
	ヒアリング	内容・結果	<ul style="list-style-type: none"> 富山県上市町で2回開催した「地域循環共生圏フォーラム in 上市」において、参加者から「ここで終わらせずにしっかりやっていきたい」という声があった。具体的には、ハーブの提案をした古野さんは具体化するためのイメージができていた様子であった。 柿のプロジェクトも、アイデアベースであってもフォーラムの中でしっかり考えたことで、単に柿が余っていてもったいない、あるいは、クマの被害が出るから伐採すればよいといった短絡的でない発想が得られたという変容があった。 上市高校との関係構築もできた。上市高校の職員研修への協力を依頼されており、今回のフォーラムにより、SDGs や循環・共生といった概念を教師へ浸透させる必要があるという高校側の気づきにつながったようだ。 フォーラムで茶木さんの取組を上市の人たちに伝えることができた意義も大きい。茶木さんのところでキャリア・バイトをしていた高校生は、高校で竹の循環プロジェクトに取り組んでいるが、今回のフォーラムによって、竹の循環のみならず、経済循環や人のつながりについても考える必要があることへの理解につながっていた。 今年度のフォーラムで種まきはきちんとできたのではないかと感じている。今後の展開について、個人的なアイデアはあるが、ハッピー上市会で地域づくりに取り組んでいる人のところを上市会の人々が相互訪問を行ったり、学生が訪問するなどのエクスカージョン（視察旅行）を実施してもよいのでは。 具体的には PEC とやまが毎年請け負っている大学のフィールドワークを、次年度は上市町で実施するというアイデアもある。若者、学生たちが上市町を訪問することで、地域の人々を勇気づけ、マスコミの注目も集められる可能性がある。

3	行事名	2024年12月7日、2025年2月22日開催 地域循環共生圏フォーラム in 上市町（全2回）	
	対象	株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズ 茶木氏 ※EPO 中部・協働コーディネーター	
	方法	オンラインヒアリング	
	内容・結果	<ul style="list-style-type: none"> フォーラムに参加して「自分にも何かできるのではないかと考えて自社(店舗)を訪問してくださった方や、発表したローカル SDGs アイデアの具体化の相談などが寄せられており、フォーラム開催によってこんなに人が動いてくれるのかと大変驚いた。 今後の活動として、フォーラムで発表されたアイデア実現に向けて進めていきたい。具体的には、地域の方々や若い世代を巻き込んだプラットフォームか同好会、協議会などのグループ立ち上げが必要と考えている。 まずは緩やかなつながりで、組織や会合を発足させた上でローカル SDGs アイデアを実現していく方法を、集まったメンバーで考えていきたい。また、自社では特産品づくりを行っているため、それに関連する部分でお手伝いできることがあれば協力していきたい。 フォーラムで出たローカル SDGs 事業のアイデアを具体的に準備・企画等して進めていくことは、地域側の役割と考えている。また、EPO 中部とも連携し、フォーラムで生まれたアイデアを形にするために、先進事例情報の提供やスタートアップ・イベント等の開催など、何らかの形で協力も期待したい。 	
4	行事名	2024年11月22日、23日開催 自然資産を活かした地域・人づくり ESD ダイアログ 山と水と人間と ESD ダイアログ 2024～飛騨高山からの ESD 発信	
	対象	岐阜県高山市 環境政策課長 清水氏	
	方法	電話によるヒアリング	
	内容・結果	<ul style="list-style-type: none"> 高山市の環境政策課が所管する「乗鞍山麓 五色ヶ原の森案内センター」の案内人がダイアログに参加しており、大きな刺激を受けたとのこと。 五色ヶ原の地域は散策道が設けられ市外からの来訪者に対する案内を行っていたが、ESD・環境教育の観点での話も重要であることが理解でき、そのような話し方をしていこうと考えている。 市外からだけでなく市内の住民に対してのアピールも重要で、ふるさと教育としての意義が大きいので積極的にシビックプライド醸成のために活動したいとのこと。 	
5	行事名	2024年11月11日開催 学び合いプロジェクト実践活動 2024 ESD for SDGs 実践セミナー「学び合いの場づくり」実務者研修	
	対象	富山県坂井市役所 環境推進課長 北川氏	
	方法	電話によるヒアリング	
	内容・結果	<ul style="list-style-type: none"> 参加者の内、環境推進課の職員については、「学び合いの場」の実際の企画の議論を行う過程で、様々な施策アイデアが出てきており、他の担当の各部署にアイデアを提供している。例えば脱炭素を進めるために木質バイオマスを使うにしても域外から導入するのではなく、県内産で薪ボイラーを使えないか森林担当部局に提案するなどの波及効果が出ている。 市民協働課の参加者が、各地区で幸福実感ワークショップ「まち未来トーク」を並行して開催しており、企画ノウハウの習得のモチベーションも高く、本イベントでの気づきやノウハウを以降のワークショップに反映している。 	

6	行事名	2025年2月1日開催 2024年度SDGs学生サミット
	対象	都留文科大学准教授 田開先生（前 松本大学専任講師）
	方法	電話によるヒアリング
	内容・結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ エントリーした松本大学の田開ゼミの学生は前年度の同イベントで構想段階の活動発表を行った後、本イベントでの発表も目標にして活動してきた、という意味で非常に大きな学びと行動変容があったと考えている。 ・ 特に活動において行政やフィールドとした動物園との連携に齟齬が生じた段階で、中部地方 ESD 活動支援センターにオンライン相談ができたことは非常に大きな助けになったと考えられる。 ・ 本イベントでの活動発表に向けて活動を取りまとめ、報告書にも反映できるという点でも効果的で、オンラインプラットフォームとしてゼミ学生の ESD に大いに役立った。

7 関係主体との連携及び協働に関する業務

(1) 中部地方環境事務所との情報共有及び意見交換

ア 定期的な打合せと日々の業務報告の提出

(ア) 定期打合せ

- 中部地方環境事務所の担当官との定期的な打合せを月1回頻度で実施し、業務の進捗状況、方向性などについて協議を行った。9月以降はオンライン打合せを週1回程度行った。

	実施日等	主な打合せ協議事項
第1回	4月5日	1. 「第7期業務事業計画」「令和6年度業務実施計画」案について 2. 地域循環共生圏事業の採択団体への連絡(業務着手)について 3. ESD/EPO 運営委員会について
第2回	4月17日	1. 「令和6年度業務実施計画」案について 2. 地域循環共生圏事業の参加団体との打合せヒアリングの日程調整について 3. ESD/EPO 運営委員会について
第3回	5月14日	1. ESD/EPO 運営委員会について 2. イベント/会合業務について 3. 地域循環共生圏事業支援について
第4回	6月19日	1. イベント/会合業務について 2. 地域循環共生圏事業支援について
第5回	7月10日	1. イベント/会合業務について 2. 地域循環共生圏事業について 3. 第1四半期報告書について 4. その他(高校生インターン、アサヒ飲料主催 SDGs フォーラム出展について等)
第6回	8月26日	1. イベント/会合業務について 2. 地域循環共生圏事業について 3. 三つ折りリーフレットの改訂について
第7回	9月2日 オンライン	1. イベント/会合業務について 2. 地域循環共生圏事業について 3. その他(三つ折りリーフレット、高校生インターンについて等)
第8回	9月9日 オンライン	1. イベント/会合業務について 2. 地域循環共生圏事業について
第9回	9月17日 オンライン	1. イベント/会合業務について 2. 地域循環共生圏事業について
第10回	9月24日 オンライン	1. イベント/会合業務について 2. 地域循環共生圏事業について
第11回	10月8日	1. イベント/会合業務について 2. 地域循環共生圏事業について 3. 第2四半期報告書について
第12回	10月16日 オンライン	1. イベント/会合業務について 2. 地域循環共生圏事業について 3. 第2四半期報告書について
第13回	10月21日 オンライン	1. イベント/会合業務について 2. 地域循環共生圏事業について
第14回	11月5日 オンライン	1. イベント/会合業務について 2. 地域循環共生圏事業について
第15回	11月18日 オンライン	1. イベント/会合業務について 2. 地域循環共生圏事業について 3. 第2回運営委員会について
第16回	11月25日 オンライン	1. イベント/会合業務について 2. 地域循環共生圏事業について 3. 外部評価対応について 4. 12/22 ユース大会について
第17回	12月2日 オンライン	1. イベント/会合業務について 2. 地域循環共生圏事業について 3. 外部評価対応について 4. その他(12/22 ユース大会等)
第18回	12月16日 オンライン	1. イベント/会合業務について 2. 地域循環共生圏事業について 3. 外部評価対応について 4. 第2回運営委員会について

	実施日等	主な打合せ協議事項
第 19 回	12 月 23 日 オンライン	1. イベント/会合業務について 2. 地域循環共生圏事業について 3. 第2回運営委員会について
第 20 回	1 月 6 日 オンライン	1. 業務全体の実施状況の確認 2. イベント/会合業務について 3. 地域循環共生圏事業について 4. 第2回運営委員会について
第 21 回	1 月 20 日 オンライン	1. イベント/会合業務について 2. 地域循環共生圏事業について 3. 第2回運営委員会について 4. 第3四半期報告書について
第 22 回	2 月 3 日 オンライン	1. 業務実施状況の確認 2. イベント/会合業務について 3. 地域循環共生圏事業について 4. 第2回運営委員会 2/12 について 5. 外部評価 3/4 について 6. 年間報告書について
第 23 回	2 月 10 日 オンライン	1. イベント/会合業務について 2. 地域循環共生圏事業について 3. 第2回運営委員会 2/12 について 4. 外部評価 3/4 について 5. 年間報告書について
第 24 回	2 月 17 日 オンライン	1. イベント/会合業務について 2. 地域循環共生圏事業について 3. 外部評価 3/4 について 4. その他業務について業務実施状況表で確認
第 25 回	3 月 12 日	1. 残り業務の実施状況の確認 2. 年間報告書原稿案の確認

(イ) 日々の業務報告提出

- 日々の業務についての「月次報告書」を作成し、業務内容等を記入したものを毎月（月初めに）、中部地方環境事務所へ提出した。
- 施設の運営・利用状況（次表）、相談対応票、EPO 中部が関わった審議会・委員会・検討会・会議等（他団体主催のもの）について、月次で報告資料を作成、提出した。（※：本報告書該当ページへリンクあり。）
- EPO 中部施設の運営状況（業務実施日数・開館日数）、来館件数とメール・電話による問合せ件数等は、次の通りであった。

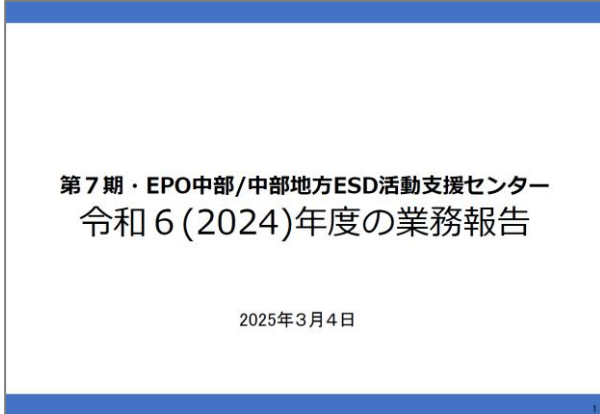
【施設の運用状況・使用状況等】

	業務実施日数・計(日)	開館日数・計(日)	来館者数・計(人)		来館件数・計		メール・電話による問合せ件数(件)		スタッフ体制・計	
			日平均(人/日)	日平均(人/日)	日平均(人/日)	日平均(件/日)	日平均(人/日)			
4 月	22	21	29	1.4	16	0.8	20	1.0	67	3.0
5 月	21	21	12	0.6	8	0.4	13	0.6	67	3.2
6 月	20	20	7	0.4	5	0.3	3	0.2	64	3.2
7 月	23	22	12	0.5	8	0.4	29	1.3	67	2.9
8 月	17	16	10	0.6	4	0.3	21	1.4	56	3.3
9 月	20	19	8	0.4	3	0.2	5	0.3	63	3.2
10 月	24	22	7	0.3	4	0.2	12	0.5	85	3.5
11 月	23	20	1	0.1	1	0.1	6	0.3	73	3.2
12 月	21	19	10	0.5	5	0.3	9	0.5	56	2.7
1 月	20	19	6	0.3	3	0.2	11	0.6	62	3.1
2 月	21	18	7	0.4	6	0.3	4	0.2	72	3.4
3 月	13	11	4	0.4	3	0.3	6	0.5	41	3.2
計	245	228	113	0.5	66	0.3	139	0.6	773	3.4

イ 中部地方環境事務所が主催する会議（外部評価委員会）への対応

- 中部地方環境事務所が実施した外部評価委員会に提示する資料として、自己評価シート、令和6年度（2024年度）の業務実施報告資料を作成し、中部地方環境事務所へ提出した。
- 3月4日に実施された外部評価委員会にEPO中部も出席し、資料説明等を行った。

【作成・提出した業務実施報告資料】



実施地	開催時期	参加者	テーマ/内容等	連携先/関係者/登壇者等
① 中間支援セミナー	1月27日	27人	地域循環共生圏づくり支援セミナー(2024年度・入門編)	・地域循環共生圏づくりとは～NPO持続可能な社会をつくる元気ネット・鬼沢先生 ・地域経済循環分析・指標分析ツール～価値総研 ・主催者によるWKGメンバーによるトークセッション～後援者
② 地域主体共催フォーラム(2回)	12月7日 2月22日	28人 34人	地域循環共生圏フォーラムin上市町 みななで描く! つながる。"めぐる。" 上市町(全2回)	・富山県の協働コーディネーターお二人による連携企画 ・ 塚氏(PEOとやま)、茶木氏(株式会社ティーツリー・コミュニケーションズ) ・ 第1回:ワークショップ編、第2回:発表&ディスカッション編
③ 協働コーディネート交流会	8月28日	9人	地域循環共生圏づくりにおける「中間支援」機能とは? 活動現場の課題と向き合う	・ 既存の協働コーディネーター ・ 協働提供 中部事務局、(共生圏事業) 丹南、長野、(EPO共生圏事業) 富山県ネットワーカー等による勉強会 など
④ 活動評価手法検討WG	9月18日	※2	第3期評価手法実践共有、第7期検討計画策定	※2: 検討会設置(メンバー: 古澤氏、水上氏、塚氏)
⑤ キックオフ会	6月20日	19人	地域循環共生圏事業の「活動団体」を対象にした中部ブロックのキックオフミーティング	・ 活動団体による活動計画等の発表 ・ 参加者によるワークショップ
⑥ 中間報告会	10月24日	25人	地域循環共生圏事業の「活動団体」を対象にした中部ブロックのキックオフミーティング	・ 活動団体による中間報告発表、先輩団体(小布施)の取組紹介 ・ 参加者によるワークショップ ・ 長野市や井地区の活動関連施設等の視察エクスカーション
⑦ 全国ESD総会	10月18-19日	closed	EPO中部が企画・運営: 10/2発表、午後: エクスカーション①② 10/3全日: エクスカーション③	・ 企画: 協働コーディネーター企画の上市町食材のオリジナル弁当 ・ エクスカーション①: 運営委員会企画による「プラとやま」 ・ エクスカーション②: 協働コーディネーター企画「案内で南越前視察

地域循環共生圏づくり支援セミナー（2024年度：入門編）

- 1月27日にオンラインセミナー「地域循環共生圏づくり支援セミナー2024」を開催・配信。
- 前半プログラムは、NPO持続可能な社会をつくる元気ネット・鬼沢良子先生（地域循環共生圏事業有識者会議議長）の講演。現場者が公開している地域経済循環分析・指標分析ツールの紹介（価値総研）。後半プログラムは、前半講師と4活動評価手法検討WGメンバーによるトークセッションを実施。
- ライブ配信での参加者は、zoom参加・YouTube自由視聴合わせて27人。
- 動画はアーカイブ公開中 <https://www.chukyo-npo.or.jp/2024/01/27/>、さらに後半「トークセッション」は冊子にし、取組主体に活用いただく「ツール」として公開予定。
- 2024年度は「地域循環共生圏づくり入門編(仮)」と位置づけており、次年度以降は下記コンセプトのセミナー展開を想定。
 - 2025年度: 中間支援に焦点をあてた中級編(仮)
 - 2026年度: 総括編(仮)

地域循環共生圏フォーラムin上市町（全2回）

- 富山県上市町で、12月7日に第1回、2月22日に第2回「地域循環共生圏フォーラムin上市町」を開催。
- 企画・運営に、富山県の協働コーディネーターであるPEOとやま・塚氏と、(株)ティーツリー・コミュニケーションズ・茶木氏が協力。
- 第1回はワークショップ編として、塚氏によるファシリテーションでローカルSDGs事業のアイデア出しを実施。上市町の地域づくり会合「ハッピー上市会」を中心とする参加者28人が参加。
- 第2回の発表編には34人が参加。第1回で提案されたローカルSDGsアイデアを実際の参加者が発表した。

4班/4テーマにわかれて地域をつなぐローカルSDGsのアイデアをディスカッション
→画像はハーピー班の発表内容

協働コーディネーター意見交換会

- 8月28日に、EPO中部・協働コーディネーター6名（及び、オブザーバーとしてセブンイレブン財団2名）が出席して意見交換会を開催。
- 近況報告のほか、それぞれの地域活動の取組状況と課題を共有したうえで、地域循環共生圏づくりに取り組むうえで地域側の課題感、中間支援の必要性、難しさ等について意見・情報交換を行うことができた。

プログラム	議題
13:30-14:00	自己紹介と近況報告
14:00-14:30	1 長野県中野市から 古田さんのご紹介
14:30-15:00	2 【話題提供】中部地方環境事務所からの情報提供・共有等
15:00-15:30	3 【話題提供】EPO中部から
15:30-16:00	4 【話題提供】EPO中部から
16:00-16:30	5 自由時間の質疑応答及び意見交換

2. 中部事務所企画による連携イベント/会合

区分	エリア	施設	時期	参加	テーマ/内容等	連携先/関係者/登壇者等
⑧身近な自然資本の活用に関する意見交換会等	愛知県名古屋市	出張	10月10-12日(8日発表)	—	SDGs愛知エスポの中部事務所出展ブースの運営(3日間)、中部事務所主催ステージ企画の協力(1日間)	Wovキョネザルさんによるステージイベント、自然共生サイト等生物多様性保全の取組紹介 ブース出展: 生物多様性取組商品6種(EPO入れ物)の販売 中部事務所提供ポスター掲示、巻くま(ポニー)実施 など
⑨グリーン社会実現に向けたステークホルダー連携促進業務	愛知県名古屋市	出張	11月2日	41人	自然のメッセージを伝えるインタープリテーションによる白山エリアの自然・景観資源の活用と地域交流フェスティバル実施	有識者によるインタープリテーションの概説、事例紹介 地元活動主体によるインタープリテーションの取組紹介 登壇者: 関係者によるパネルディスカッション
⑩白山エリアの交流人口増加を考えるシンポジウムを開催	石川県白山市	出張	11月29日	17人	環境へのアプローチを活かした鳥羽エリア開発ミーティング(鳥羽エリアの未来を彩る私たちの環境アクションfor2050を考える)	協力: 一般社団法人リデザインプロジェクト ブース出展: 環境によるリソース活用ワークショップを実施、関連作品「活動紹介」パネル、資源管理型ポスターの展示 等
⑪環境脱炭素の実現に向けた事業者・金融機関向けセミナー	北陸県白山市	出張	11月29日	140人	地域脱炭素の実現に向けた事業者・金融機関向けセミナー	協力: 鳥羽市/参加者: 農工連携、産学協同組合など 取組発表: 2024年度後のプロジェクト、鳥羽市のブローカー(産場再生)の取組 グループディスカッション: 鳥羽エリアにおける2050に向けた環境アクションのアイデアを考える
⑫環境脱炭素の実現に向けた事業者・金融機関向けセミナー	北陸県白山市	出張	11月29日	140人	地域脱炭素の実現に向けた事業者・金融機関向けセミナー	※前年度に中止となった企画を再開等として開催予定 主役: 財務省北陸財務局、経済産業省近畿経済産業局、環境省中部地方環境事務所、EPO中部/共催: 株式会社福井銀行
⑬環境脱炭素の実現に向けた事業者・金融機関向けセミナー	北陸県白山市	出張	11月29日	140人	地域脱炭素の実現に向けた事業者・金融機関向けセミナー	7名の外部有識者とともに、地域循環共生圏を基盤とした地域共進化について議論する座談会を実施
⑭環境脱炭素の実現に向けた事業者・金融機関向けセミナー	北陸県白山市	出張	11月29日	140人	地域脱炭素の実現に向けた事業者・金融機関向けセミナー	企業: 中部地方環境事務所 白書掲載: 一本岩合資会社等各種 白書掲載の事例: 取組の紹介・ローカルSDクエスチョン登場

身近な自然資本の活用に関する意見交換会等

【SDGs愛知expoの出展ブース運営】

- 10月10-12日にかけて、愛知県常滑市で開催されたSDGs愛知expoにて、中部地方環境事務所出展ブースの運営(3日間)、中部事務所主催ステージ企画の協力(1日間)を実施。
- ブースでは生物多様性に配慮して生産されたお米などの商品6品を展示販売。計86品を売り上げた。

【白山エリアの交流人口増加を考えるシンポジウムを開催】

- 2月9日に、石川県野々市市で、「白山エリアの交流人口増加を考えるシンポジウム ～白山の魅力伝えるインタープリテーションを語る～」を開催。
- インタープリテーションとは何かについて専門家による概説と地域活動者を交えたパネルディスカッションを実施し、白山国立公園・ジオパーク・ユネスコエコパークの関係者等の参加者41人が聴講した。



グリーン社会実現に向けたステークホルダー連携促進業務 1/2

【Let'sエコアクションinAICHIにブース出展・ワークショップを実施】

- 11月2日に、Let'sエコアクションin AICHIにブース出展し、未利用繊維を用いた作品展示、端布を利用したリース制作ワークショップを実施し、42人が参加。
- SDGsのG12「つくる責任つかう責任」、サーキュエコミーの普及啓発を行った。

【環境へのアプローチを活かした鳥羽エリア開発ミーティング開催】

- 2023年度に続き、鳥羽市で「環境へのアプローチを活かした鳥羽エリア開発ミーティング」を1月15日に会場、鳥羽工会議所で開催し、市環境課、企画財政課、農林水産課、観光商工課の職員、計17名が参加。
- 「鳥羽エリアの未来を彩る私たちの環境アクションfor2050を考える」をテーマに、鳥羽市及びその周辺エリアのカーボンニュートラル実現に向けて必要なアクションとは何かをグループワークと共にディスカッションを実施。




グリーン社会実現に向けたステークホルダー連携促進業務 2/2

【地域脱炭素の実現に向けた事業者・金融機関向けセミナー北陸の開催】

- 昨年度に能登半島地震のため開催延期となったセミナーを改めて企画調整を行い、1月29日に開催。
- 会場となった福井銀行(本店)の協力もあり、北陸地域の金融機関・事業者・行政機関等から、会場参加88人、webex参加140人と多数の参加があった。

【中部共進化座談会の開催】

- 地域循環共生圏を基盤とした地域共進化による社会再形成について議論する「地域共進化」の座談会を3月7日に名古屋市内で開催。
- 地域共進化推進の事業コンセプトを描くことを目標に、令和7年度に検討する地域循環共生圏形成のための政策提言のキックオフと位置づけ実施予定。



3. 中部地方ESD活動支援センター主催イベント/会合

区分	エリア	施設	時期	参加	テーマ/内容等	連携先/関係者/登壇者等
ESD/SDGs推進NW地域フォーラム	名古屋	出張	9月19日	27名	第7期共通テーマ「山と水と人間と」2024年度テーマ「飛騨高山からのESD発信」1日目のダイアログ	基礎産業 朝日新聞産生(白梅学園大学教授、東京農大名誉教授、飯田市で活動中) 地域交流拠点など、学び合いプロジェクト推進事務局メンバー 経産局: 飯田市の学識経験者、飛騨高山大学連携センター コーディネーター: 加藤隆弘先生(金沢大学)、フジリ 吉美先生(中関大)
SDGs学生サミット	名古屋	出張	9月19日	27名	ESD推進ネットワークの活動とESDの場の設定 学生、生徒の取組発表、参加者の意見交換 交流ディスカッション	SDGs推進活動 飛騨高山、高松市、岐阜市、岐阜県、岐阜県立総合教育センター、岐阜県立総合教育センター、岐阜県立総合教育センター、岐阜県立総合教育センター、岐阜県立総合教育センター
自然資産を活かしたESDダイアログ	飛騨高山	出張	11月22-23日	27名	第7期共通テーマ「山と水と人間と」2024年度テーマ「飛騨高山からのESD発信」2日目のダイアログ	飛騨高山ジオパーク推進協議会 高山市、おひろ山山岳のユネスコスクール 岐阜県立飛騨高山高等学校 講師: 水谷博典先生(信州大学ESDと自然資源)とESDのレポート
学び合いの場(座談会)	名古屋	出張	9月17日	17名	ESD推進ネットワークの活動とESDの場の設定 学生、生徒の取組発表、参加者の意見交換 交流ディスカッション	愛知教育大学大谷先生との対生 学び合いプロジェクト推進事務局 地域交流拠点など、学び合いプロジェクト推進事務局メンバー
実践活動	名古屋	出張	9月17日	17名	ESD推進ネットワークの活動とESDの場の設定 学生、生徒の取組発表、参加者の意見交換 交流ディスカッション	社会教育主事や市民団体を対象 学び合いプロジェクト推進事務局メンバー
有識者検討会	名古屋	出張	9月17日	17名	ESD推進ネットワークの活動とESDの場の設定 学生、生徒の取組発表、参加者の意見交換 交流ディスカッション	中部大学RCRセンター・古澤礼太、RCRと「学」・「産」・「学」・「産」の連携 ESD推進ネットワーク・登壇者、地域ESD拠点団体による意見交換 コーディネーター 古澤礼太 中部大学国際ESD・SDGsセンター准教授

ESD推進ネットワーク地域フォーラム (9/19)

●テーマ: ESD: 地域・学校と大学連携
●目的: ESD活動の情報共有と意見交換
●時期: 2024年9月19日(木) 13:00~15:40
●対象: 一般参加者、中部地方ESD拠点、関係ステークホルダー
●開催方法: ワインかいち907会議室、ハイブリッド


ESD: 地域・学校と大学連携
2024年9月19日(木) 13:00-15:50
オンライン開催、参加無料

第1部オープニング開催
○基調講演 地域・学校・大学でESDインフラを創る 朝岡 幸彦 白梅学園大学特任教授
○話題提供 ①学輸IDDAの取組とESD 飯田市企画部 大学連携推進推進室 ②飛騨高山における大学連携の取組 飛騨高山大学連携センター

第2部オープニング開催
○地域ESD拠点による事例報告(2題程度)
○交流ディスカッション
コーディネーター 古澤礼太 中部大学国際ESD・SDGsセンター准教授
○総括 加藤隆弘 金沢大学准教授

第3部クロージング開催
○ふりかえり交流
ESD推進ネットワーク 登壇者、地域ESD拠点団体による意見交換
コーディネーター 古澤礼太 中部大学国際ESD・SDGsセンター准教授

参加者 27名(地域ESD拠点 会場参加4名、一般・地域ESD拠点等 オンライン参加23名)



SDGs学生サミット (2月1日)

●テーマ: ESD: 地域・学校と大学連携
●目的: SDGs活動の発表と議論
●時期: 2025年2月1日(土) 13:00~17:30
●コア参加
●SDGs関連活動に取り組む大学生、高校生、地域連携など
●基礎自治体、企業、NPO等のSDGs取組
●一般対象: ユース(大学生、高校生など)、一般市民
●開催方法: オンライン(ライブ/中部大学DEレーム)

参加者 学生、高校生: 23名
その他関係者: 14名

主催: 中部地方ESD活動支援センター(連携先EPO中部) 協力: 中部大学国際ESD推進ネットワーク、国際ESDセンター 開催団体対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点



自然資産を活かした地域・人づくりESDダイアログ (11月22、23日)

第7期(令和6年度~8年度)共通テーマ: 山と水と人間と
主催: 中部地方ESD活動支援センター

<ESDダイアログの概要>
2024年度テーマ「飛騨高山からのESD発信」
場所: 飛騨高山まちの博物館研修室、中部山岳国立公園奥飛騨ビジターセンターなど
対象: 自然保護関係者・ガイド、教育関係者・学生、生徒、市民、観光関係者等

1日目ESDダイアログ
2日目エクスカーション
・飛騨・北アルプス自然文化センター(平湯ビジターセンター) など

参加者
1日目 ESDダイアログ: 32名
2日目 エクスカーション: 8名



地域循環共生圏づくりの支援 (環境省事業の選定団体への支援等)

15

4. 地域循環共生圏づくりの支援業務とその対象

<p>a) 環境省事業(共生圏事業)の選定団体</p> <p>※①:中間支援主体、②:活動団体</p> <ul style="list-style-type: none"> ● PF丹南(福井県丹南エリア):①ローカルSDクリエーション、②エコグリーンツーリズム水の中しりやま ● PF長野(長野県長野市平井地区):①長野県NPOセンター、②平井地区住民自治協議会 ● PF半田(愛知県半田市):①半田市、②半田市地域循環共生圏推進協議会 <p>【選定団体への支援に加えて】</p> <ol style="list-style-type: none"> 6月に、中部ブロックのキックオフ会を開催 10月に、中間共有会(取組報告会)を開催 適年度採択団体の取組状況の把握(ヒアリング実施) 	<p>b) 自治体及び協働コーディネーターとの連携事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域循環共生圏づくり支援セミナー等の開催(1回) ● 富山県内の協働コーディネーター2名との連携による「地域循環共生圏フォーラム」を富山県上市町で開催(計2回) <ul style="list-style-type: none"> ➢ 連携コーディネーター(株)ティーツリー・コミュニケーションズの茶木氏、PEOとやまの原氏 ● 協働コーディネーターとの意見交換会の実施(1回) ● 地域循環共生圏づくりの活動評価手法の検討:有識者による検討WGの実施(計3回) <ul style="list-style-type: none"> ➢ 成果冊子とりまとめ 	<p>c) その他/企画:中部事務所、運営:EPO</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 身近な自然資本活用に関する意見交換会等の実施(計2回) <ul style="list-style-type: none"> ➢ 自然資本を基盤とする地域づくりに関するパートナーシップ促進のための意見交換会やワークショップ等の開催 ● グリーン社会実現に向けたステークホルダー連携促進会の実施(計4回) <ul style="list-style-type: none"> ➢ ヒト・モノ・カネ・情報をつなぐ場の開催と、地域内の対話の促進により、地域循環共生圏のドミノを地域に波及させる意見交換会やワークショップ等の開催
--	--	--

16

地域循環共生圏事業選定団体への支援:キックオフ会開催

- 6月26日に地域循環共生圏事業に選定された3地域・6団体の19人が集い、キックオフミーティングを実施。
- 前半に、各地域・団体の取組予定内容を発表してもらい、後半に地域ごとのグループで、ステークホルダーの紹介＆巻き込みアイデア出しを行うワークショップを実施。

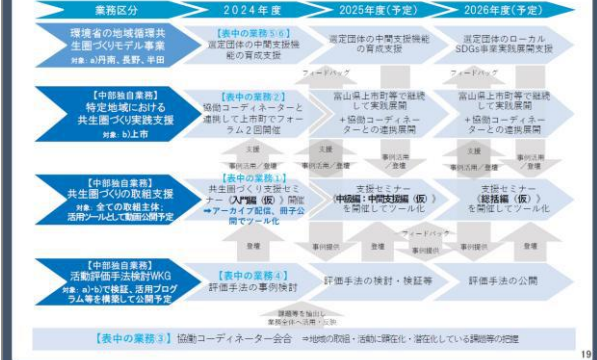
17

地域循環共生圏事業選定団体への支援:中間共有会

- 10月23-24日に、地域循環共生圏事業の中部ブロック中間共有会を長野県長野市平井地区で開催。3地域6団体から25名が出席。
- 3地域6団体による取組報告のほか、「誓い詰め(誓め合い)ワークショップ」を実施。
- 2日目はエクスカージョンとして、半井地区住民自治協議会(いもいりビレッジらば)主宰の「草刈りバスターズ」体験のほか、協議会の活動関連施設等の見学・視察を実施。

18

EPO業務の第7期3年間での展開展開について(2024年1月時点の想定)



独自プログラムの作成・活用① 2024年度学び合いプロジェクト 気候変動社会教育・社会への実装「学び合いの場の作り方」

20

5. 学び合いプロジェクト

学び合いプロジェクト有識者検討会
古澤礼太 中部大学国際ESD・SDGsセンター准教授、中部ESD拠点協議会事務局長
水上聡子 EPO中部運営委員、アルマス、バイオコストス研究代表
増原 勇人 EPO中部運営委員、一般社団法人環境市民プラットフォームとやま(PECとやま) 事務局長
原 理史 中部地方ESD活動支援センター、中部大学国際ESD/SDGsセンター研究員
【アドバイザー】 環境省 中部地方環境事務所環境対策課
【事務局】 清水三郎 EPO中部統括

気候変動社会教育・社会への実装「学び合いの場の作り方」(2024)

準備	6-10月	11月	12月	1月頃
準備会合	第1回研究会(6/5) ESDワークブックを活用したワークショップ手法の実施計画	第2回研究会(9/18) 学び合いの場企画ワークショップ結果の検証、開催年度の取りまとめ、冊子と動画の構成案検討	第3回研究会(11/12) 活動のとりまとめ、冊子と動画のプロタイプ作成、最終の抽出、次年度の計画	とりまとめとプロタイプ作成、公開
学び合いの場づくりの実施計画	第1回研究会(6/5) ESDワークブックを活用したワークショップ手法の実施計画	第2回研究会(9/18) 学び合いの場企画ワークショップ結果の検証、開催年度の取りまとめ、冊子と動画の構成案検討	第3回研究会(11/12) 活動のとりまとめ、冊子と動画のプロタイプ作成、最終の抽出、次年度の計画	とりまとめとプロタイプ作成、公開

21

ワークショップの試行と実践活動

学び合いの場①学生向けワークショップ 参加者18名
開催 2024年8月23日(金)14:00~15:30(90分)
場所 愛知教育大学116サイエンスアクティビティルーム
目的 ESDワークブックを用いた「学び合いの場づくり」実施者研修プログラムの試行
内容 大学ゼミと連携した学生向け、学び合いの場企画ワークショップ
学び合いの場②推進員向けワークショップ 参加者25名
開催 :2024年11月7日(木)10:10~12:00 ウィンクあいち 1303会議室
気候変動教育における中間支援~学び合いの場づくり企画ワークショップ【学び合いの場②】
【環境省EPO中部・中部地方ESD活動支援センター連携講座】(選定中部ブロック合同検討会11月6~7日)
地域温暖化防止活動推進センター(温セ)と連携した温セ職員・推進員向け、学び合いの場企画ワークショップ
実践活動:福井県坂井市職員向けワークショップ 参加者39名
開催 :2024年11月11日(月)15:00~16:30 坂井市役所 3F大ホール
2024 ESD for SDGs実践セミナー「学び合いの場づくり」実施者研修
【解説】ESD for SDGsとして「学び合いの場づくり」について
【ディスカッション】企画づくりテーマ設定
【ワーク】企画した学び合いの場についてのSDGsチェック
【ワーク】学び合いの場の企画づくり
【ワーク】ベスリナワークショップによる企画のブラッシュアップ
【プレゼン】議論した内容を発表

22

ウ 環境白書を読む会への企画・運営支援

①イベント名

- 令和6年版環境白書を読む会「それぞれの地域でそれぞれの活動」

②日時

- 2024年9月25日（水）18:00～20:00

③会場・運営方法

- 会場：越前市生涯学習センター e ホール（福井県越前市）
- オンライン：webex ミーティング

④主催等

- 主催：環境省中部地方環境事務所
- 共催：越前市

⑤参加者

- 57名（会場参加18名、webex参加39名）

⑥プログラム

第1部 環境本省から、白書の概要説明

- 環境白書… 環境省 大臣官房総合政策課 環境計画室
- 循環型社会白書… 環境省 環境再生・資源循環局総務課 循環型社会推進室
- 生物多様性白書… 環境省 自然環境局自然環境計画課 生物多様性戦略推進室
- 質疑応答

第2部 地域の団体等からの活動紹介

- 合同会社 ローカルSD クリエーション 代表 三田村 佳政 氏
- NPO 法人 日本ホテル再生ねっと 理事 松田 元栄 氏
- 越前市 環境農林部環境政策課
- 意見交換



参加無料

令和6年版
環境白書を
読む会



それぞれの地域で
それぞれの活動

日時

9月25日 水 18:00~20:00

会場

越前市生涯学習センター eホール 定員 50名

<https://www.city.echizen.lg.jp/office/090/070/index.html>

または

オンライン参加 (webex) 定員 120名

プログラム

第1部 環境本省から、白書の概要説明

- 環境白書 …………… 環境省 大臣官房総合政策課 環境計画室
- 循環型社会白書 ……… 環境省 環境再生・資源循環局総務課 循環型社会推進室
- 生物多様性白書 …… 環境省 自然環境局自然環境計画課 生物多様性戦略推進室
- 質疑応答

第2部 地域の団体等からの活動紹介

- 合同会社 ローカルSDクリエイション 代表 三田村 佳政 氏
- NPO法人 日本ホテル再生ねっと 理事 松田 元栄 氏
- 越前市 環境農林部環境政策課
- 意見交換：「地域での取組、個人の取組」

申込方法

*会場参加はこちら
申込フォーム ▶

<https://forms.gle/2hAbdsM1blyFeY9z6>



*オンライン参加はこちら
webex登録 ▶

<https://kankyosozokenkyucenter.mywebex.com/weblink/register/re1d30e20cb41fa6bc84a20396011796b>



•「@webex.com」または「@epo-chubu.jp」のアドレスから登録されたメールアドレス宛に招待メールが自動送信されます。

主催：環境省中部地方環境事務所 / 共催：越前市

エ 全国ユース環境活動発表大会への参加・協力

①審査委員の推薦

- 全国ユース環境活動発表大会実行委員会（環境省／独立行政法人環境再生保全機構／国連大学サステナビリティ高等研究所）が主催する「全国ユース環境活動発表大会」中部大会の審査委員として、EPO 中部から、特定非営利活動法人長野県 NPO センター・事務局長の阿部今日子氏を推薦した。

②中部大会への参加

- 12月22日に開催された中部大会に、EPO 中部スタッフがオブザーバー参加し、出場校や関係者との情報収集・情報交換を行った。

③参加団体の情報発信

- 全国ユース環境活動発表大会の出場校の募集について、EPO 中部ウェブサイトで広報協力を行った。
- また、中部大会、全国大会の様子をEPO 中部ウェブサイトで紹介した。

掲載 URL : <https://www.epo-chubu.jp/epo-news/28140.html>

第10回 全国ユース環境活動発表大会《全国大会・地方大会》について
2024.02.27

第10回 全国ユース環境活動発表大会～全国大会～

定員から約147校の応募があり、2024年12月に全国8地方で開催された地方大会において選抜された約16団体が、「全国ユース環境活動発表大会（全国大会）」において、目覚めから熱心に取り組んでいる環境活動やSDGs活動の発表を行いました。中部地方から出場した愛知県立伊勢湾高等学校（松元健太郎氏）を、長野県下伊那農業高等学校（長谷川真由美氏）を推薦しました。（参考）環境省（報道発表）は [こちら](https://www.earth.go.jp/) です。

＜大会概要＞

- 日程 令和7（2025）年2月2日（日）
- 会場 国連大学 ユニタット国際会議場（東京都渋谷区神宮寺5-53-70）
- 主催 全国ユース環境活動発表大会実行委員会（環境省／独立行政法人環境再生保全機構／国連大学サステナビリティ高等研究所）
- 後援 読売新聞社
- 協力 地方環境パートナーシップオフィス（EPO）、地球環境パートナーシッププラザ（GEPC）、ESD協賛実践センター
- 協賛 キリンホールディングス株式会社、協栄産業株式会社、SGホールディングス株式会社、株式会社タニタ、東京エレクトロニクス株式会社

＜結果＞

- 環境大臣賞
- 愛知県立小坂高等学校
- 環境共生青年地球賞委員会
- 長野県立高等学校
- 国連大学サステナビリティ高等研究所賞
- 長野県立伊勢湾高等学校
- 松本市立特別賞
- 愛知県立豊田高等学校
- 五木が星特別賞
- 群馬県立沼田高等学校
- 山梨県立中央高等学校
- 山梨県立特別賞
- 愛知県立豊田高等学校
- SDGs活動特別賞
- 長野県立伊勢湾高等学校
- 審査員賞

北海道美幌高等学校、山梨県立沼田高等学校、長野県下伊那農業高等学校、愛知県立豊田高等学校、広島県立世羅高等学校、ノートルダム心身障害心女子高等学校、愛知県立伊勢湾高等学校、長野県立中央高等学校

第10回 全国ユース環境活動発表大会～中部地方大会～

全国ユース環境活動発表大会（中部地方大会）に応募した13チームが出場し、活動発表を行いました。愛知県立伊勢湾高等学校と長野県下伊那農業高等学校の2チームが全国大会への出場を決めました。

＜大会概要＞

- 日程 令和6（2024）年12月22日（日）
- 会場 TKPガーデンシティ PREMIUM名鉄西口（名古屋市中区）
- 結果
- 地方大会最優秀賞
- 愛知県立伊勢湾高等学校 作庭チームSAKURU
- 【発表タイトル】遠征の方で地方創生！～地元資源と地場産業に活路を～
- 高校主が選ぶ特別賞
- 長野県下伊那農業高等学校 チーム3A・3D
- 【発表タイトル】下伊那に「カッキー」を！～市田町の持続可能産産をめざして～



Instagramでもっと見る

「いいね！」 20件
erca.klim

■全国ユース環境活動発表大会【第7弾報告：中部地方大会開催報告】

全国ユース環境活動発表大会 中部地方大会が、12月22日（日）に開催されました。中部大会に出場を決めた2校を紹介します！

地方大会最優秀賞
愛知県立伊勢湾高等学校 作庭チームSAKURU
【発表タイトル】遠征の方で地方創生！～地元資源と地場産業に活路を～

高校主が選ぶ特別賞
長野県下伊那農業高等学校 チーム3A・3D
【発表タイトル】下伊那に「カッキー」を！～市田町の持続可能産産をめざして～

第10回 全国ユース環境活動発表大会 開催報告についてはこちら
→<https://www.erca.go.jp/yga/youthyou2024/index.html>

#地球環境賞 #全国ユース環境活動発表大会 #環境保全活動 #SDGs #高校生 #中部

コメントを返信...

第10回 全国ユース環境活動発表大会～募集・実施について～

＜募集概要＞

- 対象 高校生等による環境活動
- 内容 地球温暖化対策、防災、生物多様性の保全、自然共生、資源循環など「環境」に関わる活動、「持続可能な開発目標（SDGs）」の目標達成に資する活動
- 期間 令和6（2024）年9月1日（火）～11月5日（火）18：00

（参考）環境省（報道発表）は [こちら](https://www.earth.go.jp/) です。

(2) 全国ネットワークの活用及び連携の確保・強化

- 全国の地方 EPO・GEOC・ESD 活動支援センター等のネットワーク活用と連携の確保・強化を図るため、GEOC 等が実施する会議に出席した。

① 検討会議・全国 EPO 連絡会等への出席

- 第2回全国 EPO 連絡会は中部での開催となったため、中部地方環境事務所と協議のうえ、富山県富山市で開催することが決定し、本会議の会場の確保、会議終了後のエクスカージョン実施など、開催・運営のための支援を行った。
- エクスカージョンについては、富山県の2名の協働コーディネーターと、運営委員の協力を得て、地域側の受け入れ等について協議・調整等を行った。

※ 地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業に関連する会合、及び ESD 業務の関連会合は、各該当章に記載。

区分	開催日	開催方法	場所	実施内容等(次第等から抜粋)
協働取組の効果最大化に関する検討会議 EPO のミッション捉え直しタスクフォース	9月20日	ハイブリッド	GEOC (東京)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域での協働のプロセス実践とその伴走支援について ■ 地域での協働のプロセス実践の共有ネットワークについて ■ ディスカッション
全国 EPO 連絡会議	第1回 6月12日-13日	ハイブリッド	GEOC (東京)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 【議題 1】改訂された促進法の基本方針に則った今年度の EPO 事業の概要 ■ 【議題 2】SH 連携促進事業の今年度の方向性 ■ 【議題 3】自然資本活用に関する意見交換会の今年度の方向性 ■ 【議題 4】地球環境基金との連携に関する今年度見直し
	第2回 10月1日-3日	ハイブリッド	富山県民会館 (富山県富山市)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 【議題 1】地域における活動主体と EPO の協働について ■ 【議題 2】地方における地方事務所と EPO 受託団体の協働について ■ 【議題 3】地球環境基金との連携における EPO の活用について ■ EPO 受託者会議 <p>※エクスカージョン: EPO 中部による開催支援で実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ エクスカージョン①: 協働コーディネーターによる昼食弁当提供、プラとやま ■ エクスカージョン②: 南砺市井波地区、南砺市エコビレッジ推進事業関連施設の視察エクスカージョン
	第3回 1月16日-17日	ハイブリッド	GEOC (東京)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 【議題 1】今年度の議論まとめと事務所内での協働取組事例の共有 ■ 【議題 2】令和7年度に向けた各事業の確認 ■ 【議題 3】令和7年度に向けた基金連携の確認 ■ EPO 受託者会議

② EPO ネットワーク強化等に関するミーティングへの参加

区分	開催日	開催方法	場所	実施内容等(次第等から抜粋)
EPO ネットワーク勉強会 情報交換会	12月20日	ハイブリッド	GEOC (東京)	<ul style="list-style-type: none"> ● 話題提供①「静動脈連携」: 見山 謙一郎(昭和女子大学 人間社会学部 現代教養学科 教授) ● 話題提供②「ネイチャーポジティブ-生物多様性保全を巡る議論の軌跡-」: 橋本 禪(東京大学大学院農学生命科学研究科 准教授) ● 意見交換・質疑応答

③その他会合／催事等の出席・協力等

区分	開催日	開催方法	場所	実施内容等(次第等から抜粋)
ERCA 連絡会議	7月22日	ハイブリッド	ERCA (神奈川県川崎市)	<ul style="list-style-type: none"> 2025年度地球環境基金募集案内及び地域課題調査等のパイロット事業について 2025年度地球環境基金助成金の募集、説明会実施概要について
地域脱炭素ネットワークイベント	8月30日	リアル	東京国際フォーラム (東京)	<p>※マッチングの場のファシリテーターとして協力</p> <ul style="list-style-type: none"> イベントのグランドルール説明 地方公共団体プレゼンテーション 地方公共団体と企業のマッチング 名刺交換等交流会・企業によるピッチ/ブース出展

【第2回全国EPO連絡会の終了後に実施した富山開催エクスカーション】

※EPO中部が企画・運営

全国EPO連絡会@富山開催

- 10月1日・2日に開催された全国EPO連絡会の地方開催が、今年では中部開催となり、富山市で開催。
- 10月2日・3日にEPO中部が視察エクスカーションを企画することになり、運営委員・田辺氏、協働コーディネーター・堺氏、茶木氏の協力を得て、富山県上市町の食材の弁当提供、富山市内散策「ブラとやま」、南砺市の井波地区とエコビレッジ構想関係施設の見学を実施。

行程	時間・集合場所等	実施内容・訪問先等 ※一部変更の可能性あります。
10月1日(火)	懇親会 19:00~21:00 富核 富山駅前店	富山駅南口から徒歩約5分/富山県民会館から徒歩約5分 お店のwebサイト: https://tomisakura-tovamaekimae.owst.jp/map
10月2日(水)	昼食 12:15~13:15 富山県民会館701号室	樹ティー・ツリー・コミュニケーションズの未利用材活用等の取組紹介 &富山県上市町(かみいちまち)の食材によるオリジナル弁当で昼食
	① エクスカーション 13:30 富山県民会館701号室 集合・出発 15:30頃 富山市役所展望塔 (富山県民会館の東隣) で解散	NPOまちづくりスポットとやまによる「ブラとやま」 (2時間)徒歩散策 【立寄りスポット】 ①富山城址、②総曲輪レガートスクエア、③平和通り、④松川と助作川(サンシップとやま、敷高地の自然堤防)、⑤常夜灯、⑥富山市役所展望塔 ※⑥富山市役所展望塔で、ガイドさんによる案内後15:30頃に流れ解散の予定です。 講師→富山大都市デザイン学部 安江健一先生 案内→立山黒部ジオパーク協会、まちづくりスポット、富山市(②説明)
10月3日(木)	② エクスカーション 09:00 富山駅 北口駅前広場 集合・出発 (バスで移動) ※富山駅~南砺市間は、車で片道約1時間弱 16:00頃 富山駅 着・解散	(一社)環境市民プラットフォームとやま(PEGとやま)による「南砺市の井波地区のまちづくり&エコビレッジ構想」視察(約7時間)バス移動 【訪問先】※次頁に行程表あり <午前>南砺市井波地区…木彫りのまち井波の持続可能なまちづくりの視察 <午後>南砺市エコビレッジ構想の関連施設の見学 昼食:合掌ゲストハウス かずら 案内→南砺市エコビレッジ推進課、NPO法人イナミライデザイン など



8 外部資金を活用した事業

(1) 環境再生保全機構への協力

- 年間予算：329,532円

①地球環境基金 EPO 連絡会への出席

- 第1回全国EPO連絡会（6月12日・13日開催）において、環境再生保全機構及び全国の地方EPOを交えた今年度の業務についての協議・確認を行う会合が併催され、EPO中部も出席した。
- 7月22日に開催された環境再生保全機構・EPO連絡会議に出席し、機構とEPOの今後の連携展開について協議を行った。

②地球環境基金の次年度募集に関わる説明会等の開催

- 来期（2025年度）募集分の地球環境基金の中部説明会を、主催：環境再生保全機構、協力：EPO中部により10月18日に開催した。
- 説明会の開催後、実施報告書を作成し、環境再生保全機構へ提出した。

【提出した地球環境基金説明会の実施報告書】

<h3>実施報告書</h3> <p>令和6年11月29日</p> <p>独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金部長 様</p> <p>一般社団法人 環境創造研究センター 理事長 福井 弘道 名古屋市中区東桜二丁目5番11号 シュネルビル6階 TEL:052-934-7295 FAX:052-932-7296</p> <p>下記の行事について、実施報告を致します。</p> <p>記</p> <p>1 行事の名称 2025年度地球環境基金助成金説明会 IN 中部</p> <p>2 行事の趣旨、目的 中部エリアにおいて、2025年度地球環境基金助成金に係る説明会を開催し、地球環境基金助成に係る周知・広報の強化を図ることを目的とする。</p> <p>3 周知方法 ホームページ、メールニュース、チラシ（別紙2「広報用チラシ」参照）、SNS等での情報発信を行った。</p> <p>4 行事の実施日時 令和6年10月18日（金）19:00～20:30</p> <p>5 行事の概要 開会・挨拶 [19:00～] 第1部 セミナーと地域の活動事例紹介 (1) テーマ別セミナー ○ローカルSDGs活動の評価について考える 講師：原 理史（はら まさし）氏 中部大学中部高等学術研究所</p>	<p>(2) 中部地域における助成団体の活動事例紹介 [2024年度つづける助成（継続3年目）] OSDGsをテーマとした探究型学習プログラムの開発と実践・普及活動 講師：伊藤 弘晃（いとう ひろあき）氏 教育旅行ふくい 第2部 地球環境基金助成金の募集について [19:50～] (1) 地球環境基金助成金について (2) 要望書の書き方講座 (3) 質疑応答</p> <p>6 行事の実施場所（実施方法） オンライン開催（zoom）</p> <p>7 参加者 29名（登壇者・事務局を含む）※参加申込者20名</p> <p>8 主催 独立行政法人 環境再生保全機構 地球環境基金部</p> <p>9 協力 環境省中部環境パートナーシップオフィス（EPO中部）</p> <p>10 その他特記事項 下記資料を別紙の通り添付いたします。 ・別紙1 2025年度地球環境基金助成金説明会（2024年度開催）概要 ・別紙2 広報用チラシ ・別紙3 アンケート結果（※入力データは地球環境基金から提供）</p>
--	--

別紙1	
2025年度地球環境基金助成金説明会(2024年度開催)	
概 要	
行 事 名	地球環境基金助成金説明会 IN 中部
日 時	2024年10月18日(金)19:00~20:30
実施方法	オンライン開催(ZOOM)
参 加 者	29名(登録者・事務局を含む)
内 容	<p>挨拶 永井 亮 氏(独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金部)</p> <p>第1部 セミナーと地域の活動事例紹介</p> <p>(1) テーマ別セミナー【テーマ: ローカルSDGs活動の評価について考える】</p> <p>ローカルSDGs活動の評価について考える</p> <p>講師: 原 理史 氏(中部大学中部高等学術研究所)</p> <p>一助成金申請における活動評価の説明責任が重要であることを踏まえ、ローカルSDGs活動の評価目的・方法について、EPO中部で検討を重ねた議論や評価分類(達成度・貢献度・成長度)について、EPO中部で開発した評価ツールと併せて紹介した。</p> <p>(2) 中部地域における助成先団体の活動事例紹介</p> <p>[2024年度つづける助成(継続3年目)]</p> <p>OSDGsをテーマとした探究型学習プログラムの開発と実践・普及活動</p> <p>講師: 伊藤 弘晃 氏(教育旅行ふくい)</p> <p>一教育旅行ふくいが開発した、福井県の地域資源を活かしたSDGsをテーマとした探究型学習プログラムの内容と年度ごとの活動実績を紹介した。また、地球環境基金の助成活動で達成できたこと、今後の展望について語っていただいた。</p> <p>第2部 2025年度地球環境基金助成金の説明</p> <p>説明: 沼尻 菜央 氏(独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金部)</p> <p>(1) 地球環境基金助成金について</p> <p>一2025年度から新たな事業方針のもと新たな助成内容で募集が行われるため、助成メニューの変更点と新設される助成メニューの内容を中心に説明した。また、中部地域の探検団体の活動事例についても紹介した。</p> <p>(2) 要望書の書き方講座</p> <p>一要望書の書き方について、審査の際に重要なログブックモデルの構成、組み立て方、確認の仕方を中心に説明した。また、NGO・NPO向けの助成制度一覧(地球環境基金webページに掲載)についても紹介した。</p> <p>(3) 質疑応答(地球環境基金 永井 亮 氏・沼尻 菜央 氏から回答)</p> <p>質問①「戦略プロジェクトの対象はNPO団体のみか(参加者から)」</p> <p>一(回答)NPOのほか一般社団・一般財団法人なども対象となる。</p> <p>質問②「現在NPO法人の申請手続中であるが、申請後にNPO法人となっても問題ないか(事前質問)」</p> <p>一(回答)問題ない。任意団体であっても要件の対象になる。</p> <p>質問③「外部委託費について、調査やイベント委託は対象になるか(参加者から)」</p> <p>一(回答)要望額の50%以内で申請可能。企業への委託も差し支えない。</p> <p>○最後に、個別相談会の日程・申込について再度ご案内し、アンケートへの協力を依頼した。</p>
1	

別紙2	
【説明会の様子】	
	◆テーマ別セミナー 「ローカルSDGs活動の評価について考える」
	◆中部地域助成先団体の活動事例紹介 「SDGsをテーマとした探究型学習プログラムの開発と実践・普及活動」
	◆地球環境基金助成金について ◆要望書の書き方講座
	◆個別相談会の再案内及びアンケートの協力依頼
2	

【地球環境基金説明会の開催案内チラシ】

2025年度 地球環境基金 助成金説明会 IN 中部

日時 10月18日(金)
19:00~20:30・オンライン

中部地域以外の方もご参加いただけます。
地球環境基金Webページから動画を事前視聴のうえ
ご参加ください。

内容 19:00~

第1部 ▶ セミナーと地域の活動事例紹介

① テーマ別セミナー
「ローカルSDGs活動の評価について考える」
講師: 原 理史 氏(中部大学中部高等学術研究所)

② 中部地域における助成先団体の活動事例紹介
[2024年度つづける助成(継続3年目)]
「SDGsをテーマとした探究型学習プログラムの開発と実践・普及活動」
講師: 伊藤 弘晃 氏(教育旅行ふくい)

19:50~

第2部 ▶ 地球環境基金助成金の募集について

① 地球環境基金助成金について
…新助成メニューの概要について説明します。

② 要望書の書き方講座
…審査の際のポイントについて説明します。

③ 質疑応答
…申込時に受け付けた質問にお答えします。

個別
相談会

地球環境基金の担当者が **オンライン** で
ご相談を承ります(1団体15分以内)。

日程 10月2日(水)・10日(木)・18日(金)・
23日(水)・31日(木)・11月6日(水)・
7日(木)・8日(金)

時間 午前の部▶ 10:00~12:00
午後の部▶ 14:00~16:00
夜間の部▶ 18:00~20:00

申込 地球環境基金webページ内
個別相談会申込フォーム から

締切 各開催日の2営業日前まで

個別相談会の問合せ

独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金部
TEL: 044-520-9505
E-mail: kikin_youbou@erca.go.jp

助成金説明会の申込み&問合せ

詳細&説明会申込は **こちら**

申込締切: 10月16日(水)

EPO連携助成金説明会を全国8地域で開催します。各地域の開催
日程・参加申込は、地球環境基金webページをご覧ください。

環境省 中部環境パートナーシップオフィス (EPO中部)
TEL: 052-218-8605 (電話による申込は受け付けておりません)

主催: 独立行政法人 環境再生保全機構 地球環境基金部
協力: 環境省 中部環境パートナーシップオフィス (EPO中部)

地球環境基金

(2) 環境研究総合推進費委託事業への協力

- 支払額：現地調査先1か所につき200,000円（税抜）

①依頼内容

- 現地調査先及び研究チーム担当者との、現地ヒアリング日程調整及び場所の調整
- 現地ヒアリングへの同席（1か所あたり1回程度、2名）
- 現地ヒアリングに当たっての補足情報の提供（メール等）

②現地調査

- 一般社団法人スマート・テロワール協会：7月30日・31日実施
- おわせSEAモデル協議会：8月8日・9日実施

(3) 愛知県環境学習コーディネート業務

- 年間予算：668,800円
- 環境学習に関する愛知県内の学校・企業等からの相談、照会依頼に対し、相談業務6件、コーディネート業務10件を実施した。

No.	受付日	依頼先区分	分野	依頼内容	相談	コーディネート	
						実施日	参加人数
1	4月8日	行政	地球温暖化、消費生活・衣食住、ごみ・資源循環、3R	環境講座の講師の紹介。	①	— 5月11日 (中止)	—
2	4月16日	中学校	SDGs⑦(エネルギーをみんなに、そしてクリーンに)	環境講座の講師の紹介。	—	① 6月10日	745名
3	4月30日	民間	SDGs⑬(気候変動)	地球温暖化をテーマとする学習会(5回)の講師の紹介。	②	— 8~10月(5回) (中止)	—
4	5月2日	民間	ごみ、資源、リサイクル、環境全般、SDGs	環境講座の講師としての登録希望。	③	—	—
5	5月17日	行政	地球温暖化・エネルギー・自然への愛着	緑のカーテン教室の講師の紹介。	—	② 6月3日・11日	210名
6	6月3日	民間	SDGs⑦(エネルギーをみんなにそしてクリーンに)、⑭(海の豊かさを守ろう)、⑮(陸の豊かさを守ろう)	環境学習の企画および講師の紹介。	—	③ 8月18日	30名
7	6月27日	民間	地球温暖化	温暖化による自然災害の学習会の講師の紹介。	—	④ 8月3日	15名
8	7月2日	行政	SDGs⑬(気候変動)	市職員を対象とする環境セミナーの講師の紹介。	—	⑤ 10月4日	50名
9	7月4日	民間	SDGs⑮(陸の豊かさを守ろう)、⑭(海の豊かさを守ろう)、⑬(気候変動)	環境教室の講師のサポート	—	⑥ 8月18日	92名
10	7月16日	小学校	干潟について	干潟や干潟に生きる生き物と、海のごみが生き物に与える影響について学ぶ授業の講師の紹介。	—	⑦ 9月17日	46名
11	7月26日	小学校	地球温暖化、ごみ問題	地球温暖化やごみ問題を学ぶ総合学習の講師の紹介。	—	⑧ 10月8日	80名
12	9月3日	民間	SDGs④(質の高い教育)、⑰(パートナーシップ)、⑬(気候変動)、⑭(海の豊かさ)、⑮(陸の豊かさ)	動物の専門学校における環境教育について検討する会議への参加。	④	—	—
13	9月5日	行政	環境、ごみ問題・4R	環境フェスティバルへの出展者の紹介。	⑤	—	—
14	9月12日	行政	SDGs⑫(つくる責任、つかう責任)、④(質の高い教育)、⑬(気候変動)	食品ロスをテーマとする環境講座の講師の紹介。	—	⑨ 2月9日	27名
15	10月28日	行政	川に親しみ、川を理解し、川を守り、川の水質を良くする	小学生を対象とする水生生物調査の講師の紹介。	⑥	— 令和7年 5月末~6月	—
16	12月20日	行政	ごみ処理・リサイクル、地球温暖化、自然	環境学習の企画内容と講師の紹介。	—	⑩ 3月1日	8名
合 計					6	10	1,303名

9 今後に向けて

ア 現状・課題の整理と今後の展開

(ア) 基本業務について

①現状・課題の整理

- EPO 中部への相談件数、来館者数、メール・電話での対応件数等は、ここ数年、微増減を繰り返しており、ほぼ横ばいに推移している。
- EPO 中部／中部地方 ESD 活動支援センターのリーフレットについて、第7期の目標・役割を掲載する改訂を行ったうえで印刷・配布し、2月末までに主催イベントや地域からの招聘イベントなどで計460部を配布した。そのほか、EPO 紹介スライドを用いて、イベント等ではEPOの紹介を行うようにしている。
- EPO を紹介した際の反応から、受け手の多くが初めて EPO について知ったと考えられることから、EPO 中部及びその役割については引き続き周知に努め、認知度向上が課題になっていると考えられる。
- EPO 中部による情報の受発信では、今年度新たに EPO 中部ウェブサイトの「お役立ちツール」コーナーにおいて、「地域の環境学習・環境イベントのお役立ちリンク集」ページと、EPO 中部のワークショップ・プログラムとして「環境アクション for2050 を考える」グループディスカッションのプログラム（及びツール）を新設した。また、「地域循環共生圏づくり支援セミナー」の動画と冊子も公開し、「地域循環共生圏」コーナーでも活用ツールとして紹介・掲載した。

②今後の展開

- ウェブサイトで新たに公開したページ、ツールの周知を図りつつ、EPO のほかの業務、地域からの招聘イベントなど、機会を得る都度に紹介、活用していく必要がある。
- 情報発信とその他イベント業務等を連動して展開し、EPO 中部の認知度向上と共に、EPO の役割として EPO が「できること／行っていること／支援すること」の内容について周知を図っていく必要がある。また、その際には EPO の役割が具体的に想起できるよう、公開したツールを紹介しつつ、その活用を呼びかける。
- 特に、今年度作成した「地域循環共生圏づくり支援セミナー冊子」や「活動評価チェックリスト」については、ほかの業務の事例等でも活用し、その試行・実践結果について公開しつつ、事例としての蓄積も行う。さらに、その事例に対する EPO による次の支援のあり方を検討・確認等するツールとしても活用することが可能である。

(イ) EPO 業務について

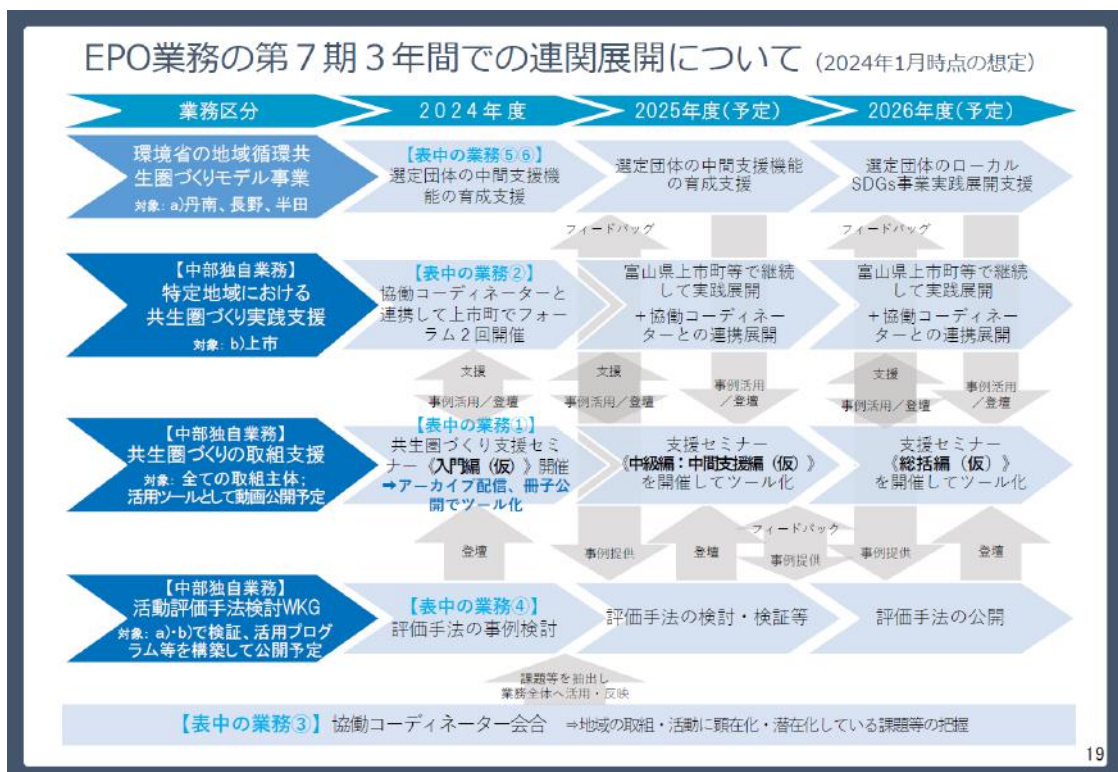
①現状・課題の整理

- 協働コーディネーターとの連携業務として、地域循環共生圏フォーラムを富山県上市町で開催し、富山県の協働コーディネーターである堺氏（PEC とやま）と茶木氏（（株）ティー・ツリー・コミュニケーションズ）の協力を得て、上市町における地域循環共生圏づくりの実践に向けた仕掛けづくりに取り組んだ。
- 協働コーディネーターとの意見交換会では、地域活動の課題感や、地域循環共生圏づくりにおける中間支援の重要性や課題についての意見交換を行い、ここで提示・抽出された地域実践者の声や地域活動における課題等を、EPO のほかの業務のイベント企画やワークショップ・プログラムの検討等において活用・反映することができた。

- 地域循環共生圏づくりの活動評価手法の検討業務では、有識者検討ワーキングを実施し、ワーキング委員に地域循環共生圏づくり支援セミナーに登壇いただくトークセッションを実施する連動企画とした。また、トークセッションの内容を記事にした成果冊子を作成し、セミナー動画と共に公開した。
- 富山県上市町でのフォーラム開催など、地域循環共生圏づくりの実践事例や案件創出を目指した取組支援を展開しているが、連携・支援先が特定地域のみを対象とならざるを得ない側面もあり、多様なイベントの企画・実施と、より幅広い主体との連携強化が重要となっている。

②今後の展開

- 地域循環共生圏づくり支援セミナー動画や冊子をツールとして活用を図る。地域循環共生圏づくり支援体制構築事業の選定団体をはじめとする地域づくり活動主体に活用されるよう紹介しつつ、EPO 自身の主催行事等でも活用・紹介する。
- 地域循環共生圏づくり支援セミナーの企画として、次年度以降においては、中間支援に焦点をあてるなど、3カ年度のシリーズ企画（ステップアップ企画）の展開を想定している。
- 富山県上市町における協働コーディネーターと連携した地域循環共生圏づくりの取組では、2024 年度開催フォーラムをうけて、具体のプラットフォーム（或いはローカル SDGs 実践グループ）を発足する機運・意向が地域側に生じていることから、中部エリアの新たな地域循環共生圏づくり事例創出に向けて、EPO としての適切な支援・協力展開が考えられる。
- また、上市における地域循環共生圏づくりの事例化、中間支援のあり方などについては、活動評価検討ワーキング等において実事例として検証対象とすることが可能であり（あわせて地域側へ検討結果のフィードバックも行う）、さらには協働コーディネーター等を介した他地域への横展開の可能性についても期待できる。
- 事例の横展開と合わせて、中間支援主体や機能の育成と、協働コーディネーターをはじめとする EPO と地域（地方）の現場をつなぐアンテナ機能を持った主体との新たな形のネットワーク構築にも取り組む必要がある。



(ウ) ESD 業務について

①現状・課題の整理

- 学び合いプロジェクトでは、昨年度作成した「中部版 ESD ワークブック」を活用した学び合いの場づくりを実践した。また、有識者検討会で「ESD ワークブック」の活用方法について検討し、ワークショップ用パッケージツールを作成した。
- 学び合いプロジェクトの成果であるワークブックの活用や、学び合いの場の企画運営において地域課題と SDGs を結びつける視点などを深化させるとともに、ESD の実践を創出し、広く普及していくことが重要となっている。
- ESD ダイアログなど主催イベントについては、地域との連携構築や参加者の裾野拡大とともに、その成果の発信方法をいかに行うかが課題となっている。

②今後の展開

- ESD ワークブックの活用方法を普及させるため、今年度作成したワークショップ用パッケージツールや動画について次年度業務で活用・検証することにより、より使いやすく効果的なパッケージの社会実装を目指す。
- 地域特性を踏まえた ESD の推進のため、GX も活用した SDGs 学生サミットなどの交流やイベントを通じて、地域の自然や文化、産業などを踏まえた効果的な ESD プログラムの開発や普及に取り組む。ESD ダイアログなどの地域的テーマを設定した ESD イベントでは、より地域に根ざしたテーマを設定し、地域住民や関係団体との連携を強化し、成果の発信とともに、継続的な ESD の取組へとつなげる支援のあり方を検討する。
- 気候変動教育に関する実践的な学びの機会創出を通じ、次年度以降に予定されている「地域脱炭素に資する ESD 推進事業の拡充」業務を踏まえ、高校における探究学習による自ら学ぶ能力の育成を目指した実証事業に参画する。

イ 主催イベントの参加者アンケート結果

- EPO 業務、ESD 業務の全ての主催イベントのうち、クローズ会合以外のイベントにおいては、参加者アンケートを実施しており、イベント終了後、アンケートの集計結果を中部地方環境事務所担当者へ報告、情報共有を行った。
- 全体的にアンケート回答数が少ないことから、本項では、共通設問を用いたアンケートの回答について、全イベントの回答をまとめて集計する全数での集計を行い、参考値として整理した。
- 「250222 上市フォーラム」（地域循環共生圏フォーラム in 上市）は、第1回と第2回の回答を合計して集計した数となっている。
- 学び合いプロジェクト関連イベントなどの一部イベントについては、アンケート結果を有識者ワーキングによる検討材料等として活用するため独自のアンケートを実施しており、本項の全数集計に含まれていない。
- 中部地方環境事務所が企画した「身近な自然資本活用に関する意見交換会」「グリーン社会実現に向けたステークホルダー連携促進事業」では、事務所の意向により独自の設問設定が行われたため、それらの設問は全数集計に含まれていない。

① イベントの評価について

		● 今回の催事はいかがでしたか(5段階評価)									
		たいへん良かった	良かった	ふつう	あまり良くなかった	良くなかった	無回答				
EPO 業務	240925白書を読む会 (n=4)		1		3	0	0	0	0		
	250127共生圏セミナー (n=3)		1		2	0	0	0	0		
	250207白山シンポジウム (n=30)		10		14		6	0	0		3
	250222上市フォーラム (n=8)		4		3		1	0	0		1
ESD 業務	240919NWフォーラム (n=9)		3		6	0	0	0	0	0	
	241122ESDダイアログ (n=6)		2		4	0	0	0	0	0	
EPO業務・計(n=49)			16		22		7	0	0		4
ESD業務・計(n=15)			5		10	0	0	0	0	0	
全体(n=64)			21		32		7	0	0		4

② 役立つ情報や事例の有無について

		● 今後のあなたの活動や取組で役立つ情報や事例などがありましたか			
		あった	なかった	どちらともいえない	無回答
EPO 業務	240925 白書を読む会 (n=4)	3	0	1	0
	250127 共生圏セミナー (n=3)	3	0	0	0
	250207 白山シンポジウム (n=30)	30	0	2	1
	250222 上市フォーラム (n=8)	6	1	2	0
ESD 業務	240919NWフォーラム (n=9)	6	1	2	0
	241122ESDダイアログ (n=6)	5	1	0	0
EPO業務・計(n=49)		42	1	5	1
ESD業務・計(n=15)		11	2	2	0
全体(n=64)		53	3	7	1

③ (※上の②で「あった」と回答した情報・事例の内容)

240925 白書 を読む会	循環白書でプラ新法等について有益な話が聞けました。
	大規模圃場整備を実施するにあたって、ビオトープにホテルを退避させて再生させるチャレンジ的な取り組みを聞くことができた。
250127 共生 圏セミナー	地域の会社や市が取り組んでいる、地域の状況に合わせた独創的な取り組み。特にローカル SD クリエーションさんの観光業と里山・里海の保全を両立に向けたコンソーシアムの構築は大変興味深かった。
	各団体・個人の得意と強みを持ち寄って集まる機会を作りたいと思いました 違う分野の人が交流すること
250207 白山 シンポジウ ム	・インタープリテーションの意味、役割(基本情報) ・「白山手取川ジオパーク」
	・ストーリーとその価値を共有する(知識、情報を伝えることではない) ・プログラム→教えるのではなく、ヒント、刺激を与え 考えてもらう、仕向けること 刺激、触発 ・お客様(体験者)のものである→例、公園、自然
	アメリカでここから音はだめ！という部分です。町中がさわがしすぎると思っています しかし、観光にいらした方が自分で自分から感じる様な雰囲気を作り、ガイドでしゃべりすぎないようにしたいと思いました。
	アメリカの国立公園の持ちよう、高尾山のビジターセンターについての情報
	インタープリターの役割、重要性、関わり方
	インタープリターのミッションについて
	インタープリテーション ガイドとはちがうかな
	インタープリテーションということ知らなかった！！非常におもしろかったです
	インタープリテーションについて。ガイドの育成プログラムに組み込んでほしい。
	インタープリテーションには、目的とする行動を誘導する手法がある。
	インタープリテーションの活用方法
	インタープリテーションの基調講演と話題提供
	インタープリテーションの考え方は、全てにつながる
	インタープリテーションの認識が変わった。
	インタープリテーションを初めて知りました。私自身も旅行をしてガイドさんの話に触発したことがあります。意図的に出来ることはもっと学びたいです。
ガイド等活動でのインタープリテーションの重要性	
ストーリー性	
まずはインタープリテーションとは何ぞや？という状態だったところが、少しずつですが理解が深まってきた感覚です。今後、白山手取川ジオパーク公認観光ガイドを目指すにあたり、その手法を十分に活用しながら行動していきたいと思います。	

	<p>気づきの大切さを知りました。</p> <p>具体的なツアー 体験活動の事例紹介。</p> <p>国内及びアメリカにおける具体的事例を知ることが出来た！今後、インタープリテーションの必要性、重要性を認識することが出来た！</p> <p>最後の体験型イベントにおいてその手法と目的をしっかりと学ぶことができた</p> <p>石川県にインタープリテーションが入ってきて 20 年くらいだと思います。現状や課題が何となくわかった気がしました。次のレベルに行けるか自分も含め考えたい</p> <p>知らない活動を知れた</p> <p>伝える事の大切さ</p> <p>伝える側の意識やしかけの重要性を再認識しました。</p> <p>白山(麓)で実際に実施しているガイドやインタープリテーション活動</p> <p>白山で活動されている方で今までご存知ない方を知った。</p>
250222 上市フォーラム	<p>まちづくりや地域貢献活動の考え方や継続のしかた。</p> <p>やりたい事柄の進め方</p> <p>勝亦先生の事例</p> <p>地元密着の情報</p> <p>米農家さんから出た籾殻や藁を有効活用する為に上市町の LINE を使って必要とする方に伝えて有効活用してもらおう。畑で使ってもらいまた野菜などの作物を作ってもらおう。</p> <p>朴葉の葉がアルミホイルの代わりにになるとグループで聞いた点</p>
240919NWフォーラム	<p>ESD インフラ、飯田市の大学連携の考え方や取組み</p> <p>ESD インフラという捉え方:これで問題の捉え方が変わるかをこれから考えてみようと思いました。また、飯田市、高山氏の具体的な事例からは、社会的共有資本としての地域の人間関係(文化)の今後の展開を再考してみたいと思いました。ありがとうございました。</p> <p>大学連携の事例、様々な角度からの地域活性化の方法</p> <p>朝岡先生のご講演:ESD インフラ概念の提案、ソーシャル・キャピタルとのつながり</p> <p>朝岡先生の講演「ESD インフラ」が素敵などとも興味深い概念です。社会関係資本と考える考え方が素晴らしいです。公民館、学校、給食センターのお話も石川でも考えたいことでした。ESD インフラとしての公民館・学校の重要性を感じました。新たな地域づくりの核になると思います。</p> <p>飯田市の公民館活動が ESD につながっていること</p> <p>飛騨高山大学連携センターの事例が参考になりました。他地域の大学を呼び込みさまざまな取組・連携をしていること。</p>
241122ESDダイアログ	<p>・高山～松本ビックブリッジ、ロングトレイル。・「間伐材」選ぶ→切り倒す→活用・工作の体験、子供たちの期待「木は活きている」「命かつるかってしょ」・都心部からの受入れ、体験学習、地域との交流→効果と考察</p> <p>国立公園の視点で広く捉えることができ参考になりました。特に松本高山 BigBridge 構想での動きが分かり嬉しく思います。今後も多くの人が知ってもらえる様 PR 願います。</p> <p>施設活用や他県の実践例</p> <p>小から中 中から高へと継続してつながり(かかわり)をもって教育していくことの重要性を再認識※ ESD の観点を大切に</p> <p>木育、グリーンツーリズム、ユネスコエコパーク、ユネスコスクール</p>

④ イベント参加による積極性の喚起について

		● 催事テーマに今後も積極的に取り組む必要があると感じさせる内容でしたか ※一部催事で設問設定なし					
		もっと積極的に取り組みたいと感じられる内容だった	これまでの取組で充分と思える内容だった	取り組む必要性を感じられない内容だった	よくわからない	設問なし※	無回答
EPO 業務	240925 白書を読む会 (n=4)	4	0	0	0	0	0
	250127 共生圏セミナー (n=3)	3	0	0	0	0	0
	250207 白山シンポジウム (n=30)	0	0	0	0	33	0
	250222 上市フォーラム (n=8)	8	0	0	0	0	1
ESD 業務	240919NWフォーラム (n=9)	0	0	0	0	9	0
	241122ESDダイアログ (n=6)	4	1	0	0	0	1
EPO業務・計(n=49)		15	0	0	0	33	1
ESD業務・計(n=15)		4	1	0	0	9	1
全体(n=64)		19	1	0	0	42	2

⑤ イベント開催のテーマや分野に対するニーズについて

240925 白書 を読む会	このように地域の具体的な取り組みについて理解できるセミナーを増やしていただきたいと感じた。 環境と教育・国民・消費者としての行動変容、自然への働きかけなど、個人に任せるだけではなく、教育としての取組みが必要ではないか 災害廃棄物に関するフォーラム	
250127 共生 圏セミナー	小さな集落単位で地域経済循環できている事例があれば知りたいです ESD 関連テーマ	
250207 白山 シンポジウ ム	・白山市の食文化セミナー・とっておきの白山市風景、写真セミナー、発信のやり方 TORE 手法について インタープリテーションを活用した観光ガイドの具体的な手法についてなど インタープリテーションの研修など シンポジウムが入口としたら、1泊2日くらいのワークショップを開催し、気付きや発表による内面的レベルアップも必要か 各団体の交流、総会、お互い似たことをして、似たことで悩みがあると思う 古道ツアー 身体の健康と文化・歴史 海外の人との合同ツアー 国立公園の利用(関わり)をテーマにしたセミナーやワークショップ 手取川扇状地の住民の伝統的暮らしや工夫、LIFESTYLE の理解 情報発信について 人材育成、ユース育成、教育観光と環境教育 世界の様々な先進的取組みの事例について知りたい。 石川の食文化、伝統の器などを紹介して欲しいです。(歴史も含めて。) 白山について 知りたい 米国パークレンジャー(ガイドではない)のあり方、すすめ方(ストーリー、考えさせること?)を考えること	
	250222 上市 フォーラム	まちづくりについてのワークショップ 耕作放棄地の活用の仕方、耕作の第一歩、上市にふさわしい農産物とは。 森づくり(竹林徐代・災害対策・特産物創出・獣害対策など)、空家活用
	240919NW フォーラム	環境教育を学校現場に普及させるには？環境問題か ESD を考えてもらう時に子どもたちに明るい未来を描いてもらうには？ 後半の初めの各拠点活動紹介で的確に時間内で説明できず、失礼しました。簡単なメモを先に提出するようにしてください。(石川ユネスコ協会)やはり交流ディスカッションが興味深かった。閉校寸前の学校のことや飯田モデルの背後のしくみなど。 集団(地域)としての課題解決能力の向上のために必要な仕掛け等 森林資源の保全を活用 生物多様性の確保、温暖化防止、サーキュラーエコノミーの連携への取組みについての紹介

241122ESD ダイアログ	サイクルツーリズム、ツアー(eバイク) 奥飛騨ビジターセンターの体験プロは魅力的、参加したい。木遊館で孫と遊びみたいです。
--------------------	--

⑥末尾・自由記入欄の感想等

240925 白書 を読む会	<p>WEB は地方に住む者にとってありがたいです。</p> <p>地域それぞれに特徴的な取り組みがあることを知ることができた。</p> <p>白書の話が大変大きな話だったので、一方で地域に根づいた活動がされていることに心強く感じた。</p> <p>漠然と環境省の仕事に興味があって参加したが、もっと具体的な仕事について知りたいと思った。環境政策という地域での個別具体的な対応が必要な問題に対し、環境省という大きな枠組みがどのような役割を果たしているのか、さらに深く理解したいと思う。</p>
250127 共生 圏セミナー	<p>WKG 議事資料のダウンロードを希望します</p> <p>カメラとマイクがよく配置できていて、映像も音声も鮮明に届いていると思いました</p>
250207 白山 シンポジウ ム	<p>”過去を知ることで未来を考える”という日比野さんの言葉が印象的で学びになりました。水の旅・石の旅や人や物とのつながりも面白かったです。インタープリテーションは学校以外でおこっているのも意外でした。講演時間は少し長いと思いました。</p> <p>・インタープリテーションの手法を深く学ぶ必要性を感じた、目的をもった手法を駆使できるようになりたい。 ・サンセットツアーや古道のトレッキングなど、白山ならではのアクティビティが興味深い・手軽に参加できるインタープリテーションを扱うプラットフォーム(ビジターセンターの役割か?)があると、自然に詳しくない人の入り口になる。(おもい立ったときに、そこにいけば、何かに参加できる※アメリカの国立公園のように。) (裏面記載分)金沢に観光に来る人と、白山に来る人は目的がちがってくるのではないかな。どちらかというと、白山郷や五箇山を訪れるインバウンドの方を誘致する意味があるのではないかな。昔の日本のくらしや信仰と密接にかかわる白山と共に知ることができる。ホワイトロードを介せば移動もしやすい。県を超えてはむずかしいか…</p> <p>アメリカでは自然の大切さをジュニア体験で多くしているはずなのに何故アメリカ人はトランプを選ぶ？ 話さないガイド 興味をストーリー性を持って伝える方法を考える必要性 知られていない白山の良さをいかに発信できるか？インターネットでの調査しやすすくない</p> <p>ありがとうございました、先日白峰雪だるままつりに行ったところだったのでお話が良く入ってきました。観光において、インタープリテーションが大事だという事を感じました。サムさんの本買ってみます！国立公園は行った事がないので行ってみたいになりました。参加してとても良かったです。</p> <p>いかに続けていくか 本音のつながりが大事</p> <p>インタープリテーションの場を具体的にもってつくる→自治体、民間団体？ ⇒ビジターセンター、展示館、スポットの説明書きなど ⇒プログラム、企画を多くすること ⇒どうして、企画、プログラムを伝えるのか(参加者をどう増やすか)</p> <p>インタープリテーションを軸にした構成でとても分かりやすかったです。仕事の仕方を改めて組み直そうと思いました</p> <p>とても興味深く楽しく聞かせていただきました。講演者の方々の話をもっと詳しく聞いてみたいと思いました。</p> <p>とても有意義でしたありがとうございました</p> <p>ビジターセンターの価値、活用 今昔体験で、心豊かな人間にと。地元、地域のこと知ること。</p> <p>もっと深い話まで入って行けるとよかったが時間の都合でしかたないかな でも参考になる話を多岐に渡って聞けたのがとてもよかった ふだん聞けない観点でのいくつもあってよかった ありがとうございました</p> <p>横文字が多く、理解度 50%以下でしたが、白山の魅力をしっかりと感じとりました。白山への見方が変わり、興味を持ちました。</p> <p>観光と教育のバランスや質、やり方など 持続可能な方法をもっと研さん研究する必要があるか？</p> <p>金沢へのインバウンドを「白山エリア」へについての意見 IR いしかわ線や北鉄石川線の各駅付近に「水、温泉、お酒、発酵食品、等々」の魅力的な誘引ポイント戦略的に配置する。「鉄道線の利用が有効」</p> <p>具体的な取組例をもっと詳しく知りたかった。</p> <p>交流人口の話は？ 発信を受ける情報がない 国立公園、ジオパーク、エコパーク、観光協会など情報がバラバラすぎて、欲しい情報にたどりつけない 総合サイト！ 小、中、高、地元教育が必須</p> <p>交流人口増加とインタープリテーションの関連性が全く話されなかった。</p> <p>石川県民にもっともっと白山に来てほしい 白山登山を県民にすすめてほしい(インタープリテーションしてほしい)</p> <p>白山手取川ジオパークの魅力を伝えていく上で、インタープリテーションの果たす役割の重要性を改めて考えるきっかけとなりました。</p> <p>話が高度すぎる 抽象的すぎる ディスカッションになっているのか？</p> <p>とても有意義なイベントでした。</p>

250222 上市フォーラム	自由に妄想できる事が楽しかった。色々な年代の方がいらして多様な意見が出て良い刺激になった。魅力ある上市の町作り、アグリパーク構想は更に進んでいくと思う。上市町の玄関である上市駅を竹や杉などの資材を使った建物にしてアグリパークの入口にしたら上市全体がアグリテーマパークのようになると思う。柿の収穫体験、里芋や季節の野菜の収穫体験などが上市町役場の LINE で予約できたら良い。手に入れた食材を手軽に自分で料理して食べられる町中キッチンを作る。 誰と誰がつながること意図しているのか？EPO はそれらのつながりにどのような支援を考えているのか。
240919NWフォーラム	もう少し交流ディスカッションの時間を増やして頂きたい。準備等が難しそうですが、うまく話し合えればとても為になります。ご検討ください。 可能でしたら本日の資料を共有いただきたいです。 新たな考え方や先進的取組を知ることができ、大変有益なフォーラムでした。ネットワークづくりにもなりました。ありがとうございました。 飯田市出身で名古屋在住ですが、SDGs・ESD 活動に数年前から興味を持って取組んでいます。学輪 IIDA にも2、3年前から参加しています。長野県の企業と名古屋の企業が SDGs パートナーシップで連携し地域課題を解決していくお手伝いをしています。飯田市の公民館活動について知っているようで知らないことを今日教えていただきました。中部大学の福井副学長殿。古澤先生殿には大変お世話になっています。これからも微力ながらお手伝いしていこうと思っています。 普段あまり意識していない問題に触れられて良かったです。
241122ESDダイアログ	・「ESD」に関わっていない、携わっていない人だとまず ESD って?? 意味・意義がわからない。SDGs とは違う・貴重な機会を企画、高山にて開催ありがとうございます・「山と小と」ジオが高山・飛驒の「礎」であることがもっと伝わると良いですね それぞれの立場で取り組んでみえる方との交流ができてよかったです。 午前の内容が盛りだくさん過ぎと感じた。焦点をしぼって発表の数を減らすことが大切。(※貴重講演はひとつでいいですね)子どもたちの発表をメインに、それが一番皆さんの心に伝わります。 三枝小と朝日中の子たちの発表に希望を感じました。ヒットネットで紹介して欲しい内容です。お願いします。理想のみでは受け入れてもらえない時流。着実な取組ありがとうございます。進めていきましょう。

⑦回答者の属性について

		●年齢 ※一部催事で設問設定なし								
		10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	設問なし※	不明
EPO 業務	240925白書を読む会 (n=4)	0	1	0	1	1	1	0	0	0
	250127共生圏セミナー (n=3)	0	0	0	0	1	2	0	0	0
	250207白山シンポジウム (n=30)	0	0	0	2	13	8	8	0	2
	250222上市フォーラム (n=8)	0	1	2	0	3	1	1	0	0
ESD 業務	240919NWフォーラム (n=9)	0	0	0	0	0	0	0	9	0
	241122ESDダイアログ (n=6)	0	0	0	0	2	3	1	0	0
EPO業務・計(n=49)		0	2	2	3	18	12	9	0	2
ESD業務・計(n=15)		0	0	0	0	2	3	1	9	0
全体(n=64)		0	2	2	3	20	15	10	9	2

		●所属先 ※一部催事で設問設定なし							
		NPO・NGO・任意団体	企業・事業者	行政機関	学校・教育関係	学生	その他	設問なし※	不明
EPO 業務	240925白書を読む会 (n=4)	0	2	1	0	1	0	0	0
	250127共生圏セミナー (n=3)	1	0	1	0	0	1	0	0
	250207白山シンポジウム (n=30)	4	4	6	3	0	14	0	2
	250222上市フォーラム (n=8)	2	2	1	0	0	4	0	0
ESD 業務	240919NWフォーラム (n=9)	0	0	0	0	0	0	9	0
	241122ESDダイアログ (n=6)	0	1	0	2	0	2	0	1
EPO業務・計(n=49)		7	8	9	3	1	19	0	2
ESD業務・計(n=15)		0	1	0	2	0	2	9	1
全体(n=64)		7	9	9	5	1	21	9	3

		●活動分野のSDGs ※一部催事で設問設定なし									
		1. 貧困をなくそう	2. 飢餓をゼロに	3. すべての人に健康と福祉を	4. 質の高い教育をみんなに	5. ジェンダー平等を実現しよう	6. 安全な水とトイレを世界中に	7. エネルギーをみんなに、そしてクリーンに	8. 働きがいも経済成長も	9. 産業と技術革新の基礎をつくらう	10. 人や国の不平等をなくそう
EPO 業務	240925白書を読む会 (n=4)	0	0	0	0	0	1	1	2	1	1
	250127共生圏セミナー (n=3)	0	0	1	0	1	0	0	1	0	1
	250207白山シンポジウム (n=30)	2	1	6	9	1	3	4	3	1	2
	250222上市フォーラム (n=8)	2	3	3	2	1	1	1	2	1	2
ESD 業務	240919NWフォーラム (n=9)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	241122ESDダイアログ (n=6)	0	0	1	3	2	0	1	1	0	1
EPO業務・計(n=49)		4	4	10	11	3	5	6	8	3	6
ESD業務・計(n=15)		0	0	1	3	2	0	1	1	0	1
全体(n=64)		4	4	11	14	5	5	7	9	3	7

		11. 住み続けられるまちづくりを	12. つくる責任、つかう責任	13. 気候変動に具体的な対策を	14. 海の豊かさを守ろう	15. 陸の豊かさを守ろう	16. 平和を公正をすべての人に	17. パートナーシップで目標を達成しよう	設問なし※	無回答
EPO 業務	240925白書を読む会 (n=4)	3	1	1	1	2	1	1	0	0
	250127共生圏セミナー (n=3)	1	2	1	0	1	1	1	0	1
	250207白山シンポジウム (n=30)	10	5	3	6	12	4	5	0	15
	250222上市フォーラム (n=8)	4	2	2	1	3	1	2	0	2
ESD 業務	240919NWフォーラム (n=9)	0	0	0	0	0	0	0	9	0
	241122ESDダイアログ (n=6)	2	1	0	0	1	2	1	0	1
EPO業務・計(n=49)		18	10	7	8	18	7	9	0	18
ESD業務・計(n=15)		2	1	0	0	1	2	1	9	1
全体(n=64)		20	11	7	8	19	9	10	9	19

令和6（2024）年度
中部環境パートナーシップオフィス運営業務
年間報告書

2025年3月

発行：環境省中部地方環境事務所

〒460-0001 名古屋市中区三の丸 2-5-2
TEL：052-955-2134／FAX：052-951-8889
URL：<http://chubu.env.go.jp>

作成：中部環境パートナーシップオフィス

（運営受託：一般社団法人環境創造研究センター）

〒460-0003 名古屋市中区錦 2-4-3 錦パークビル 4階
TEL：052-218-8605／FAX：052-218-8606
URL：<http://www.epo-chubu.jp>

この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準に従い、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料 [Aランク] のみを用いて作製しています。